

Y a m e
八女市内遺跡群 6

福岡県八女市国武所在遺跡の発掘調査報告書
(大坪遺跡2次調査・篠原遺跡)
八女市文化財調査報告書 第109集

2015

八女市教育委員会

Y a m e
八女市内遺跡群 6

福岡県八女市国武所在遺跡の発掘調査報告書

(大坪遺跡2次調査・篠原遺跡)

八女市文化財調査報告書 第109集

2015

八女市教育委員会

序

八女市の西南部において昭和50年代後半から始まった八女南部圃場整備事業を発端として、福岡県教育委員会・八女市教育委員会で実施した発掘調査では、弥生時代から中世にかけての多くの集落跡等の発掘調査が実施され、多くの埋蔵文化財が発見されています。

今回の報告は、その八女南部圃場整備事業に伴い、昭和63～平成元年に行われた発掘調査のうち、八女市国武所在の大坪遺跡第2次調査・篠原遺跡発掘調査に関し、調査で得られた成果を公表することを目的としています。

大坪遺跡第2次調査では、弥生時代後期・平安時代・中世の集落跡の他、縄文時代早期の押型文土器や集石遺構が大量に発見されました。特に、縄文時代早期の生活跡としては、現段階では南筑後地区でも発見されている数は希少であり、縄文時代早期の八女地方を考えるうえで、たいへん貴重な事例です。

篠原遺跡では、弥生時代後期の集落跡を発見し、建物跡等の遺構や、土器等の遺物が膨大な量で発見されました。篠原遺跡では、八女地方では珍しい形の土器も出土するなど、弥生時代の八女地方と他地域の交流等を考える上で重要な発見です。

その他、八女南部圃場整備事業では多くの遺跡が調査されており、今後も順次、成果を報告書として刊行する予定です。このたび発掘調査報告書を刊行するにあたり、本書が学術資料として活用されるのはもちろんのこと、文化財の保護や理解普及の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査や報告書作成にあたり、ご協力いただきました地元の方々、並びにご指導・ご助言いただきました方々に心より感謝の意を申し上げます。

併せて、今後も八女市の埋蔵文化財行政にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成27年3月31日

八女市教育委員会

教育長 西島 民生

目 次

本文目次

1	調査の経過	
A	調査に至る経緯	1
B	調査体制	1
2	調査地の位置と環境	1
3	調査の成果	4
A	発掘調査の概要	4
B	大坪遺跡第2次調査の発掘調査成果	4
1)	調査の概要	4
2)	弥生時代の遺構と遺物	6
3)	古代(平安時代)の遺構と遺物	24
4)	時期特定が困難な掘立柱建物跡	26
5)	縄文時代早期の遺構・遺物	35
6)	小結	39
C	篠原遺跡(1地点～4地点)の発掘調査成果	46
1)	調査の概要	46
2)	篠原遺跡1地点の調査成果	46
3)	篠原遺跡2地点の調査成果	47
4)	篠原遺跡3地点の調査成果	52
5)	篠原遺跡4地点の調査成果	97
6)	篠原遺跡の土坑・ピット出土遺物	109
7)	小結	111
D	まとめ	121

挿図目次

- | | |
|--|--------------------------------------|
| 第 1 図 大坪遺跡・篠原遺跡の位置 | 第 40 図 大坪 2 次 SK53 実測図 (S= 1/40) |
| 第 2 図 大坪遺跡・篠原遺跡周辺の遺跡 1 | 第 41 図 大坪 2 次 SB53 出土遺物 |
| 第 3 図 大坪遺跡・篠原遺跡周辺の遺跡 2 | 第 42 図 大坪 2 次 SB35・38 実測図 (S=1/60) |
| 第 4 図 大坪遺跡 2 次調査区実測図 | 第 43 図 大坪 2 次 SB39・40 実測図 (S=1/60) |
| 第 5 図 大坪 2 次 SB37 実測図 (S=1/60) | 第 44 図 大坪 2 次 SB47・52 実測図 (S=1/60) |
| 第 6 図 大坪 2 次 SB37 出土遺物 1 | 第 45 図 大坪 2 次 SB53・54 実測図 (S=1/60) |
| 第 7 図 大坪 2 次 SB37 出土遺物 2 | 第 46 図 大坪 2 次 SB58 実測図 (S=1/60) |
| 第 8 図 大坪 2 次 SB41 実測図 (S=1/60) | 第 47 図 大坪 2 次 SB59 実測図 (S=1/60) |
| 第 9 図 大坪 2 次 SB41 出土遺物 | 第 48 図 大坪 2 次 SB60 実測図 (S=1/60) |
| 第 10 図 大坪 2 次 SB42 実測図 (S=1/60) | 第 49 図 大坪 2 次溝・掘立柱建物跡出土遺物 |
| 第 11 図 大坪 2 次 SB42 出土遺物 1 | 第 50 図 大坪 2 次ピット出土遺物 |
| 第 12 図 大坪 2 次 SB42 出土遺物 2 | 第 51 図 大坪 2 次 S E 01 出土遺物 |
| 第 13 図 大坪 2 次 SB42 出土遺物 3 | 第 52 図 大坪 2 次鉄器実測図 |
| 第 14 図 大坪 2 次 SB43 実測図 (S=1/60) | 第 53 図 大坪 2 次押型文土器実測図 1 |
| 第 15 図 大坪 2 次 SB43 出土遺物 1 | 第 54 図 大坪 2 次押型文土器実測図 2 |
| 第 16 図 大坪 2 次 SB43 出土遺物 2 | 第 55 図 大坪 2 次押型文土器実測図 3 |
| 第 17 図 大坪 2 次 SB44 実測図 (S=1/60) | 第 56 図 篠原遺跡 1 地点調査区全体図 |
| 第 18 図 大坪 2 次 SB44 出土遺物 1 | 第 57 図 篠原遺跡 K - 1 実測図 |
| 第 19 図 大坪 2 次 SB44 出土遺物 2 | 第 58 図 篠原遺跡 K - 1 出土遺物 |
| 第 20 図 大坪 2 次 SB45・46 実測図 (S=1/60) | 第 59 図 篠原遺跡 2 地点調査区全体図 |
| 第 21 図 大坪 2 次 SB48 実測図 (S=1/60) | 第 60 図 篠原遺跡 SB02 実測図 (S=1/60) |
| 第 22 図 大坪 2 次 SB45 出土遺物 | 第 61 図 篠原遺跡 SB04 実測図 (S=1/60) |
| 第 23 図 大坪 2 次 SB46・48 出土遺物 | 第 62 図 篠原遺跡 SB02・SB04・SB05・SD01 出土遺物 |
| 第 24 図 大坪 2 次 SB49 実測図 (S=1/60) | 第 63 図 篠原遺跡 SB04 出土遺物 |
| 第 25 図 大坪 2 次 SB49 出土遺物 | 第 64 図 篠原遺跡 SB01 実測図および出土土器 |
| 第 26 図 大坪 2 次 SX04 実測図 (S= 1/40) | 第 65 図 篠原遺跡 SB03 実測図 (S=1/60) |
| 第 27 図 大坪 2 次 SX05 実測図 (S= 1/40) | 第 66 図 篠原遺跡 SB05 実測図 (S=1/60) |
| 第 28 図 大坪 2 次 SX06 実測図 (S= 1/40) | 第 67 図 篠原遺跡 SB06 実測図 (S=1/60) |
| 第 29 図 大坪 2 次 SX07 実測図 (S= 1/40) | 第 68 図 篠原遺跡 3 地点調査区 |
| 第 30 図 大坪 2 次 SK40・42・43 実測図 (S= 1/40) | 第 69 図 篠原遺跡 SB08 実測図 (S=1/60) |
| 第 31 図 大坪 2 次 SB43 出土遺物 | 第 70 図 篠原遺跡 SB09 実測図 (S=1/60) |
| 第 32 図 大坪 2 次 SD17・18 実測図 (S= 1/200) | 第 71 図 篠原遺跡 SB10 実測図 (S=1/60) |
| 第 33 図 大坪 2 次 SD21～25 実測図 (S= 1/200) | 第 72 図 篠原遺跡 SB09・SB10・SB12 出土遺物 |
| 第 34 図 大坪 2 次 SD26 実測図 (S= 1/200) | 第 73 図 篠原遺跡 SB11 実測図 (S=1/60) |
| 第 35 図 大坪 2 次 SB50・51 実測図 (S=1/60) | 第 74 図 篠原遺跡 SB12 実測図 (S=1/60) |
| 第 36 図 大坪 2 次 SB51 出土遺物 | 第 75 図 篠原遺跡 SB13 実測図 (S=1/60) |
| 第 37 図 大坪 2 次 SB56 実測図 (S=1/60) | 第 76 図 篠原遺跡 SB13 出土遺物 |
| 第 38 図 大坪 2 次 SB57 実測図 (S=1/60) | 第 77 図 篠原遺跡 SB17 実測図 (S=1/60) |
| 第 39 図 大坪 2 次 SK47・50 実測図 (S=1/40) | 第 78 図 篠原遺跡 SB17 出土遺物 1 |

- 第 79 図 篠原遺跡 SB17 出土遺物 2
- 第 80 図 篠原遺跡 SB18 実測図 (S=1/60)
- 第 81 図 篠原遺跡 SB19 実測図 (S=1/60)
- 第 82 図 篠原遺跡 SB18・19 出土遺物
- 第 83 図 篠原遺跡 SB22 実測図 (S=1/60)
- 第 84 図 篠原遺跡 SB21・22 出土遺物
- 第 85 図 篠原遺跡 SB23 実測図 (S=1/60)
- 第 86 図 篠原遺跡 SB23 出土遺物
- 第 87 図 篠原遺跡 SB24 実測図 (S=1/60)
- 第 88 図 篠原遺跡 SB24・25 出土土器 (S=1/60)
- 第 89 図 篠原遺跡 SB25 実測図 (S=1/60)
- 第 90 図 篠原遺跡 SB29 実測図 (S=1/60)
- 第 91 図 篠原遺跡 SB29 出土遺物
- 第 92 図 篠原遺跡 SB31 実測図 (S=1/60)
- 第 93 図 篠原遺跡 SB32・33 実測図 (S=1/60)
- 第 94 図 篠原遺跡 SB32 出土遺物
- 第 95 図 篠原遺跡 SB33 出土遺物
- 第 96 図 篠原遺跡 SB32・33 出土遺物
- 第 97 図 篠原遺跡 SB34 実測図 (S=1/60)
- 第 98 図 篠原遺跡 SB35 実測図 (S=1/60)
- 第 99 図 篠原遺跡 SB34・35 出土遺物
- 第 100 図 篠原遺跡 SB36 実測図 (S=1/60)
- 第 101 図 篠原遺跡 SB37 実測図 (S=1/60)
- 第 102 図 篠原遺跡 SB36 出土遺物
- 第 103 図 篠原遺跡 SB37・38 出土遺物
- 第 104 図 篠原遺跡 SB38 実測図 (S=1/60)
- 第 105 図 篠原遺跡 SB39 実測図 (S=1/60)
- 第 106 図 篠原遺跡 SB39 出土遺物
- 第 107 図 篠原遺跡 SB40 実測図 (S=1/60)
- 第 108 図 篠原遺跡 SB42 実測図 (S=1/60)
- 第 109 図 篠原遺跡 SB45 実測図 (S=1/60)
- 第 110 図 篠原遺跡 SB46 実測図 (S=1/60)
- 第 111 図 篠原遺跡 SB47 実測図 (S=1/60)
- 第 112 図 篠原遺跡 SB48 実測図 (S=1/60)
- 第 113 図 篠原遺跡 SB42・46・47 出土遺物
- 第 114 図 篠原遺跡 SB49・50 実測図 (S=1/60)
- 第 115 図 篠原遺跡 SB48・49・50 出土遺物
- 第 116 図 篠原遺跡 SB51 実測図 (S=1/60)
- 第 117 図 篠原遺跡 SB54 実測図 (S=1/60)
- 第 118 図 篠原遺跡 SB14 実測図 (S=1/60)
- 第 119 図 篠原遺跡 SB15 実測図 (S=1/60)
- 第 120 図 篠原遺跡 SB16 実測図 (S=1/60)
- 第 121 図 篠原遺跡 SB20 実測図 (S=1/60)
- 第 122 図 篠原遺跡 SB27・28 実測図 (S=1/60)
- 第 123 図 篠原遺跡 SB30 実測図 (S=1/60)
- 第 124 図 篠原遺跡 SB41 実測図 (S=1/60)
- 第 125 図 篠原遺跡 SB44 実測図 (S=1/60)
- 第 126 図 篠原遺跡 SB52 実測図 (S=1/60)
- 第 127 図 篠原遺跡 SB53 実測図 (S=1/60)
- 第 128 図 篠原遺跡 SX01 実測図 (S=1/60)
- 第 129 図 篠原遺跡 SX02 実測図 (S=1/60)
- 第 130 図 篠原遺跡 SD02 実測図 (S=1/100)
- 第 131 図 篠原遺跡 SD02 出土遺物 1
- 第 132 図 篠原遺跡 SD02 出土遺物 2
- 第 133 図 篠原遺跡 SD02 出土遺物 3
- 第 134 図 篠原遺跡 SD02 出土遺物 4
- 第 135 図 篠原遺跡 SD03 出土遺物
- 第 136 図 篠原遺跡 SD02 出土遺物 5
- 第 137 図 篠原遺跡 4 地点調査区全体図
- 第 138 図 篠原遺跡 SB55 実測図 (S=1/60)
- 第 139 図 篠原遺跡 SB58 実測図 (S=1/60)
- 第 140 図 篠原遺跡 SB59 実測図 (S=1/60)
- 第 141 図 篠原遺跡 SB60 実測図 (S=1/60)
- 第 142 図 篠原遺跡 SB63 実測図 (S=1/60)
- 第 143 図 篠原遺跡 SB64 実測図 (S=1/60)
- 第 144 図 篠原遺跡 SB65 実測図 (S=1/60)
- 第 145 図 篠原遺跡 SB67 実測図 (S=1/60)
- 第 146 図 篠原遺跡 SB54～67 出土遺物
- 第 147 図 篠原遺跡 SB68・69 出土遺物
- 第 148 図 篠原遺跡 SB71・72 出土遺物
- 第 149 図 篠原遺跡 SB75 出土遺物
- 第 150 図 篠原遺跡 SB72 実測図 (S=1/60)
- 第 151 図 篠原遺跡 SB78 実測図 (S=1/60)
- 第 152 図 篠原遺跡 SB79 実測図 (S=1/60)
- 第 153 図 篠原遺跡 SB80 実測図 (S=1/60)
- 第 154 図 篠原遺跡 SB78 出土遺物
- 第 155 図 篠原遺跡 SB80 出土遺物
- 第 156 図 篠原遺跡 SB76 実測図 (S=1/60)
- 第 157 図 篠原遺跡 SX04 実測図 (S=1/60)
- 第 158 図 篠原遺跡 SX05 実測図 (S=1/60)

第 159 図 篠原遺跡 SX03・04・05 出土遺物

第 160 図 篠原遺跡 SK 出土遺物 1

第 161 図 篠原遺跡 SK 出土遺物 2

第 162 図 篠原遺跡 SK 出土遺物 3

第 163 図 篠原遺跡 SK 出土遺物 4

第 164 図 篠原遺跡ピット出土遺物

第 165 図 篠原遺跡遺構外出土遺物

表目次

第 1 表 大坪遺跡 2 次調査出土押型文土器集計表

第 2 表 大坪遺跡 2 次調査出土土器観察表

第 3 表 大坪遺跡 2 次調査出土石器・鉄器観察表

第 4 表 篠原遺跡出土土器観察表

第 5 表 篠原遺跡出土石器観察表

図版目次

図版 1 大坪遺跡 2 次調査 1

図版 2 大坪遺跡 2 次調査 2

図版 3 大坪遺跡 2 次調査 3

図版 4 篠原遺跡 1

図版 5 篠原遺跡 2

図版 6 篠原遺跡 3

図版 7 篠原遺跡 4

図版 8 篠原遺跡 5

図版 9 篠原遺跡 6

例 言

- ・本書は八女市が国・県に補助を受けて実施した、八女市南部地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査の報告書である。本報告ではそのうち、平成元年から平成 2 年にかけて実施した、大坪遺跡第 2 次調査と篠原遺跡発掘調査（1 地点～4 地点）について報告する。
- ・本報告の発掘調査は八女市教育委員会が実施した。
- ・本書の遺構実測図で使用する方位は、磁北を基準とする。
- ・本書で使用した遺構実測図は、発掘調査実施時に現場担当者の指揮のもと、発掘調査参加者で作成している。なお、本報告書の一部の図面で、平成 26 年度本報告時に理解補助のため破線等を加筆追加した箇所がある。
- ・本書掲載の遺物実測図は、岩戸山歴史資料館において平成 2～5 年度に作成したものを、平成 26 年度の本報告作成時に再検討し、必要な個所に加筆等修正を加えて作成した。また、一部の未実測であった遺物も、必要と思われるものについて実測図作成を行い掲載した。大坪遺跡 2 次調査の縄文時代遺物については未整理かつ膨大な量であったので、復元作業ののち個数集計と一部の土器の実測作業を行なった。
- ・本書掲載の押型文土器復元に際しては、平成 26 年度に僅かな時間ではあるが下記八女市職員の方々に復元作業体験として作業にご協力頂いた。記して感謝申し上げたい。井上達郎・江田弘正・緒方朋子・栗山善和・田中敬・田中南・原茂樹・原千尋・平川達哉・平田麻也李・吉武慎平（敬称略）
- ・発掘調査時の現場図面・写真等の記録類および出土品等は八女市教育委員会で保管している。有効な活用を望む。
- ・本書の執筆および編集は檀が行なった。

1 調査の経過

A 調査に至る経緯

昭和 57 年度を初年度として八女南部地区では農地約 209ha を対象に、毎年 20ha 程度の圃場整備事業が実施された（八女南部地区県営圃場整備事業）。平成元年度には国武・緒玉地区が事業地となり、事業地内の一部で埋蔵文化財の包蔵が推測された。これを受けて、八女市教育委員会と八女南部土地改良区で協議を行い、八女市教育委員会による事前調査により、遺跡の範囲は広大に及ぶことが判明した。

そこで、圃場整備により削平を免れる箇所については遺跡保護の観点から現状保存とし、圃場整備により削平を受ける箇所に関しては、遺跡の記録保存を目的に発掘調査が実施された。

なお、発掘調査は国庫補助事業として実施されている。

B 調査体制

【昭和 63 年度】（現地調査時）

調査主体 八女市教育委員会
教 育 長 坂田 不二夫
社会教育課長 平島 敏章
同 課長補佐 杉山 信行
同 係員 梅野満、平田高義、平嶋芳子、
赤崎 敏男（調査担当）
同 嘱託 鹿田 昌宏（調査担当）

【平成元年度】（現地調査時）

調査主体 八女市教育委員会
教 育 長 坂田 不二夫
社会教育課長 平島 敏章
同 課長補佐 山下 節夫
同 係長 大月 重信
同 係員 梅野満、平田高義、平嶋芳子、
赤崎 敏男（調査担当）
同 嘱託 鹿田 昌宏（調査担当）

【平成 26 年度】（本報告刊行時）

調査主体 八女市教育委員会
教 育 長 西島 民生
教育部長 永松 二美
文化課長 井上 秀樹
同 課長補佐 月足 稔
同 参事補佐 北島 一雄
同 文化財係長 大塚 恵治
, (総括・別冊報告担当)
同 係員 永田 寧 (別冊報告担当)
同 係員 檀 佳克 (本報告担当)
同 係員 渡部 真弓

2 調査地の位置と環境（第 1・2・3 図）

八女市は福岡県南部に位置し、平成 18 年に上陽町、平成 22 年度に黒木町・立花町・星野村・矢部村と合併し、福岡県下 2 位の面積を有し、南を熊本県、東を大分県と接する自治体となっ



第 1 図 大坪遺跡・篠原遺跡の位置

(圃場整備後)

東蒲原 稲富 立野 篠原遺跡 国武 大坪遺跡 2次 打越遺跡 新替遺跡 新庄 上新庄 泉島 川犬 犬馬場 矢原 富島

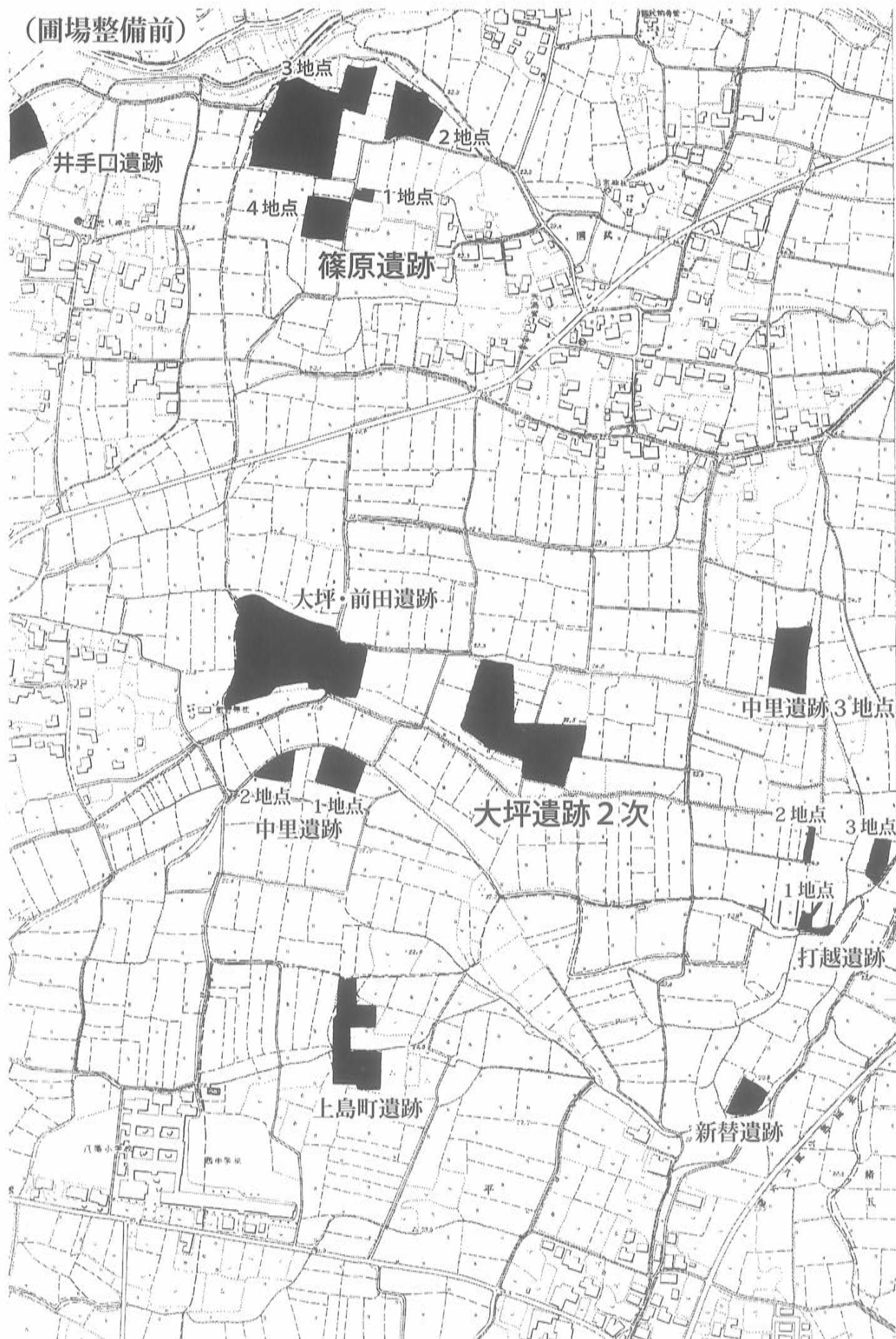
鶴池 西田 山 市 20.7 22.5 22.4 22.5 24 22.2

1地点 2地点 3地点 4地点 1地点 2地点 3地点 1地点 2地点 3地点

矢原町 新 緒玉 光 納

第2図 大坪遺跡・篠原遺跡周辺の遺跡1

(圃場整備前)



第3図 大坪遺跡・篠原遺跡周辺の遺跡 2

た。矢部川水系（星野川・矢部川ほか）に位置し、基幹産業は農業である。東の山間部では林業や茶の栽培、西側の平野部では稲作や果物・電照菊等が盛んに行われている。

本報告の遺跡は、旧八女市の西南部、八幡小学校区の国武地区に位置しており、八女市北側端の八女丘陵から旧八女市南端の矢部川に向かって広がる平野部に位置している。調査地周辺の現状と圃場整備前の調査地周辺の地形について、遺跡周辺図と本圃場整備事業により調査がなされた調査地と共に、第2図（圃場整備後）・第3図（圃場整備前：昭和40年八女市都市計画図より作図）を示す。

なお、周辺遺跡の詳細は、次項に示す概報や別報告（八女市文化財調査報告書第106集）を参照されたい。

3 調査の成果

A 発掘調査の概要

報告者が発掘調査者と異なるため、以下では、発掘調査者により作成された発掘調査概報（赤崎1990：以下では「概報」と記載）および調査時の記録類をもとに遺跡の概要を記す。

今回報告する大坪遺跡第2次調査・篠原遺跡発掘調査は、八女市南西部の国武地区に位置している。この2遺跡は、ともに当該地の小字名が遺跡名の由来である。発掘調査は八女市教育委員会により、平成元年4月25日から平成2年3月2日にかけて、中里遺跡・松本遺跡・袴田遺跡（同一事業に起因）と共に実施され、縄文時代早期・弥生時代・古代・中世の遺構・遺物が多く発見された。

参考文献

- ・赤崎敏男編 1990『八女市南部地区県営圃場整備事業地内発掘調査概報2』八女市文化財調査報告書第19集
八女市教育委員会

B 大坪遺跡第2次調査の発掘調査成果（第4図）

大坪遺跡は旧八女市西南部の、国武集落の南側に位置する。矢部川流域に広がる平野部中の、標高23m程度の微高地上に所在している。大坪遺跡第2次発掘調査は、平成元年4月25日から同10月24日にかけて実施された。調査対象となった面積は約6,000㎡である。

発掘調査では、弥生時代後期および古代（平安時代）の集落跡の他、縄文時代早期の押型文土器や集石遺構（概報では「石組炉」と記載）が発見され、各時代での人々の生活を知る資料が発見されている。

弥生時代では、弥生時代後期の竪穴式住居跡・掘立柱建物跡・土坑墓・土坑等が検出され、古代では平安時代と思われる竪穴式住居跡・掘立柱建物跡・土坑、中世の井戸が発見されている。

なお、大坪遺跡第2次調査の縄文時代早期の遺構・遺物は、調査区内の一部についてグリッド調査がなされているが、事業者との協議の結果、文化財保護の観点から全ての調査を実施せずに一部の調査に留め、土盛による遺跡現地保存の策が講じられている。したがって、大坪遺跡第2次調査区の大半の部分は縄文時代に関して未調査である。そのような部分的調査にも関わらず、膨大な数量の押型文土器・集石遺構が発見されていることから、今なお現地の地下には膨大な縄文時代早期の遺構・遺物が埋蔵されていることは想像に難くない。よって、今後も当該地における開発・掘削には細心の注意を要する。

以下、時代毎に大坪遺跡第2次発掘調査で検出された遺構・遺物について報告する。なお、出土遺物の詳細は観察表（第2表）を参照されたい。また、出土品および図面は八女市教育委員会にて保管しているので、有効な活用を望む。



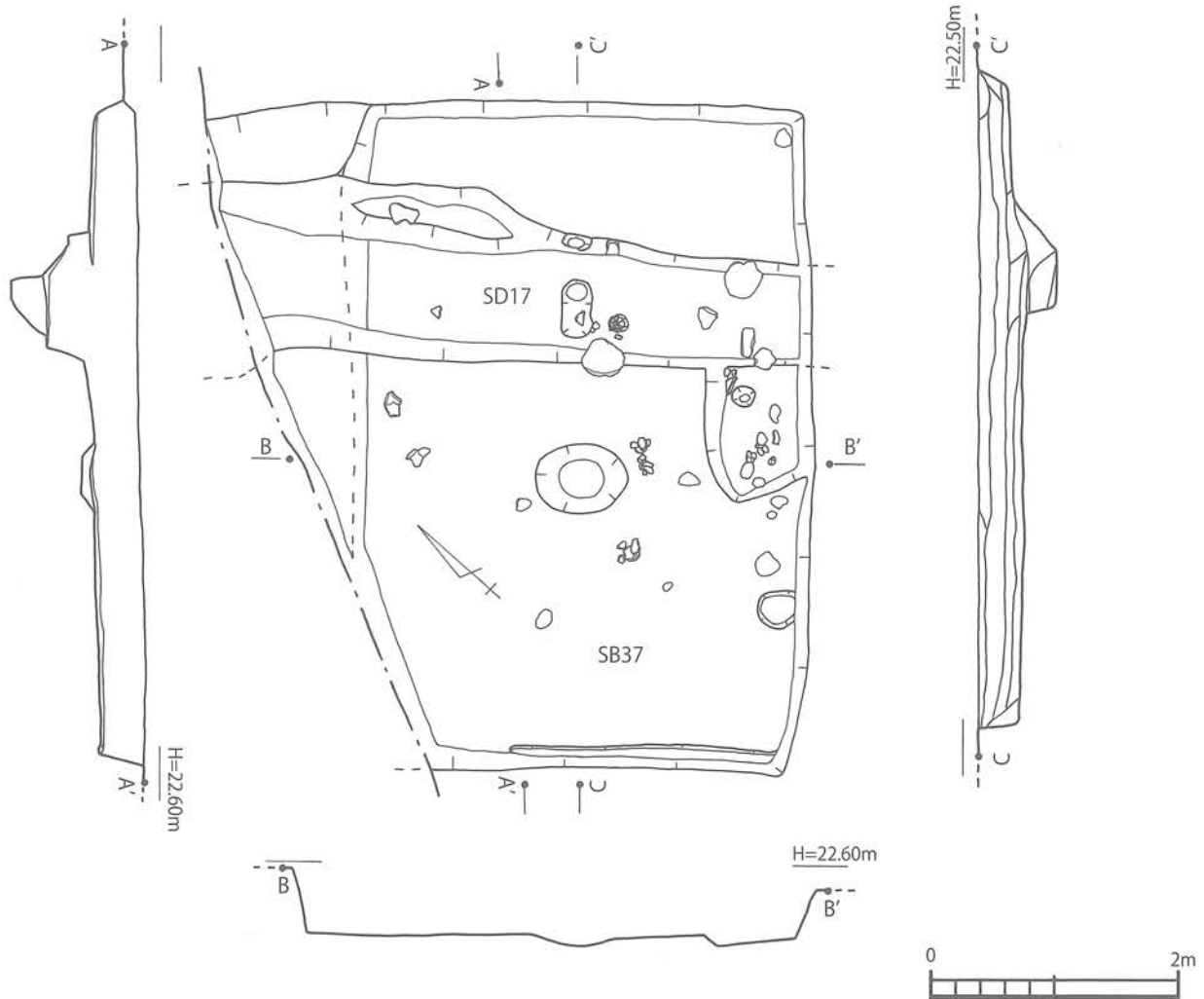
第4図 大坪遺跡2次調査区実測図

1) 弥生時代の遺構と遺物

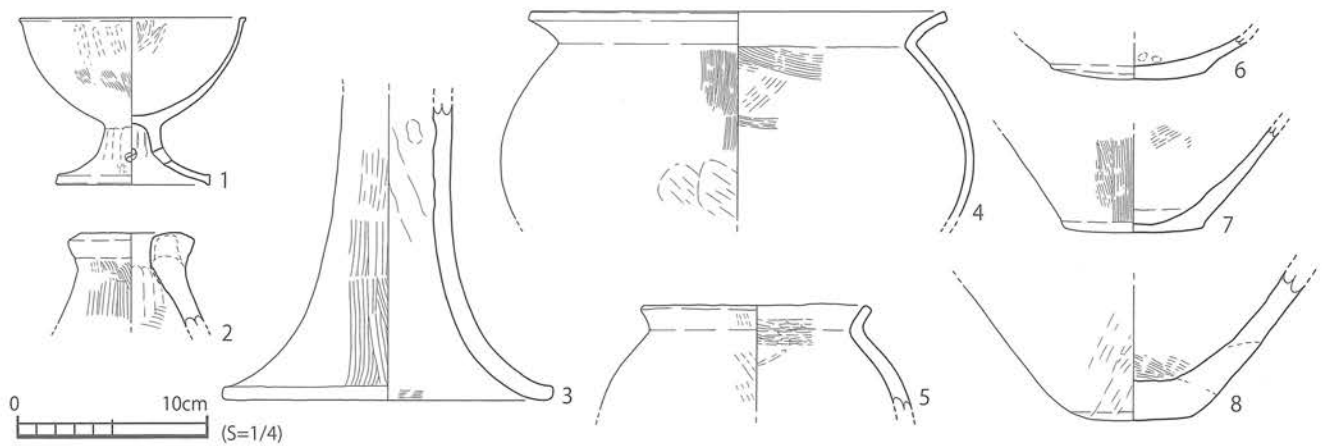
① 竪穴建物跡 (SB)

SB37 (第5・6・7図)

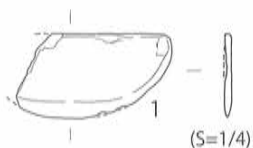
調査区西端で検出された竪穴建物跡であり、建物西半部は調査区外に延びるため未調査である。長軸を北西―南東方向に取る長方形2本柱の竪穴建物である。一部をSD17に切られている。



第5図 大坪2次 SB37 実測図 (S=1/60)



第6図 大坪2次 SB37 出土遺物1



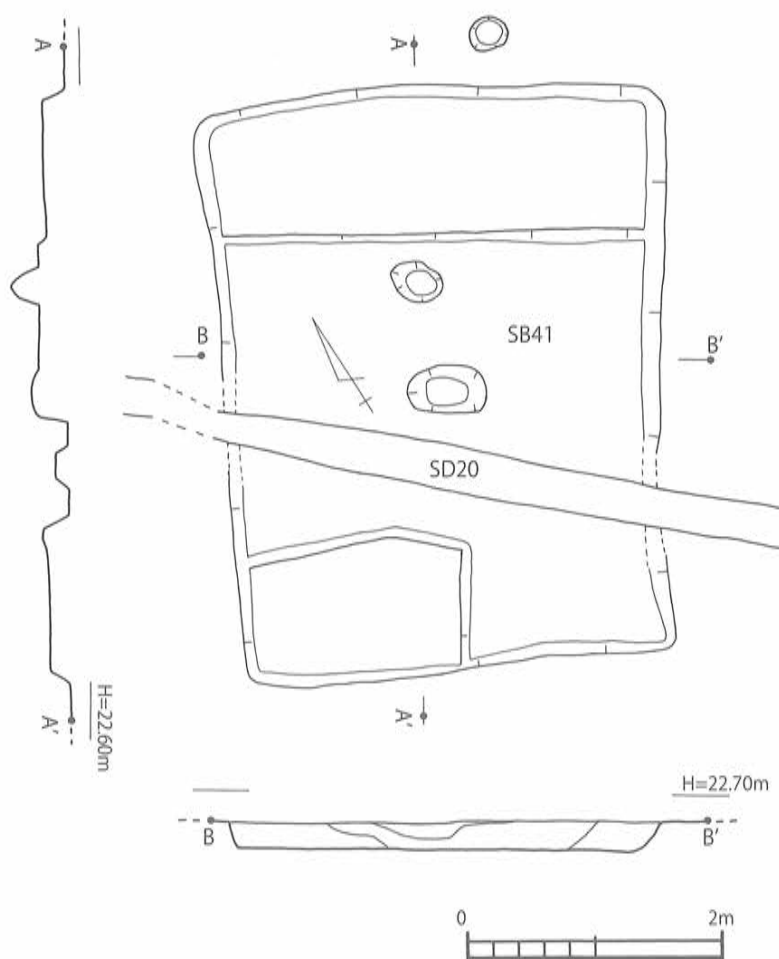
第7図 大坪2次 SB37
出土遺物2

S B 37 は建物北東にベッド状遺構を有する。調査範囲内で長辺4.8 m以上、短辺約 5.4 mである。

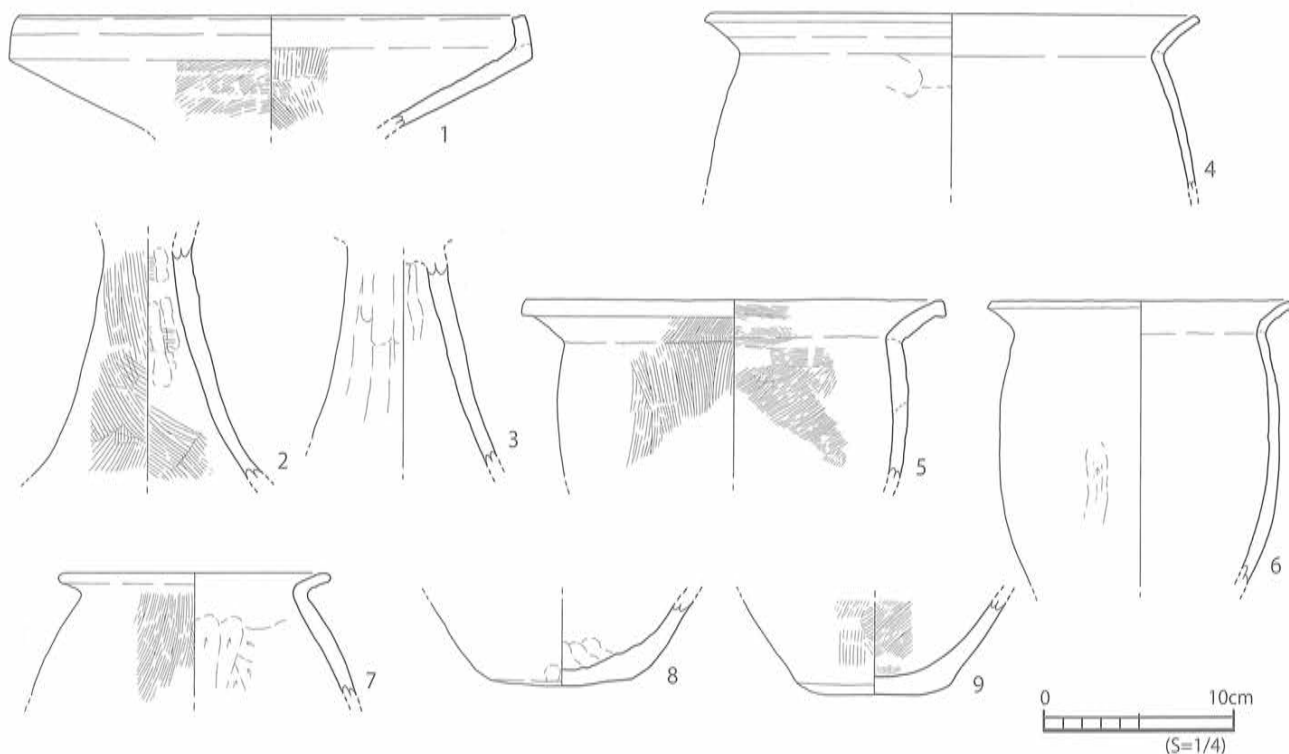
遺物は調査範囲内では、建物跡の南東壁付近より多く出土している。出土土器は、高坏・器台・甕があり、弥生時代後期に属する。

SB41(第8・9図)

調査区中央付近で検出した竪穴建物である。長軸を北東-南西方向にとり、北側壁と南側壁の西半部分に沿ってベッド状遺構を有している。SD20 の下位が未掘削のため、柱穴 1 基が存在するか不明で確証はないが、長方形 2 本支柱



第8図 大坪2次 SB41 実測図 (S=1/60)

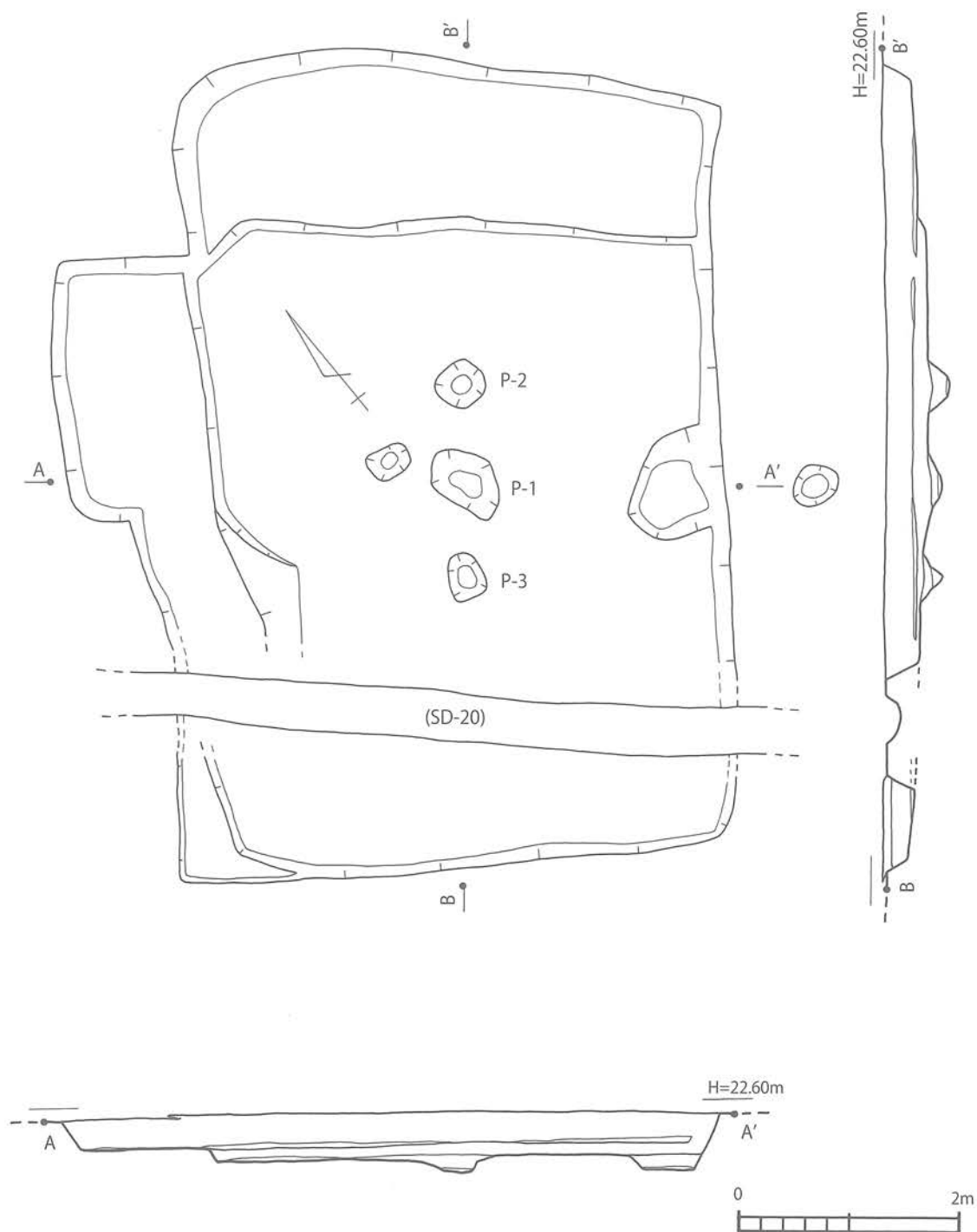


第9図 大坪2次 SB41 出土遺物

の建物である可能性が高い。建物の長辺は約 4.7 m、短辺約 3.5 mである。SD41 の遺物は建物跡北東側に集中して弥生式土器が出土しており、器形は甕と高坏がある。これらの土器より、建物の時期は弥生時代後期に属すると考えられる。

SB42 (第 10 ～ 13 図)

調査区中央付近で検出された竪穴建物跡である。SB43 は前述の SB41 と同様に、長軸を北東－南西方向にとる。平面形は長辺約 7.4m、短辺約 4.8 mである。北側と西側の壁にベッド状遺構を有し、西壁の一部に張り出し部分を有する。支柱穴は 2 本で、建物中央に火処と思われる土坑が確認されている。



第 10 図 大坪 2 次 SB42 実測図 (S=1/60)



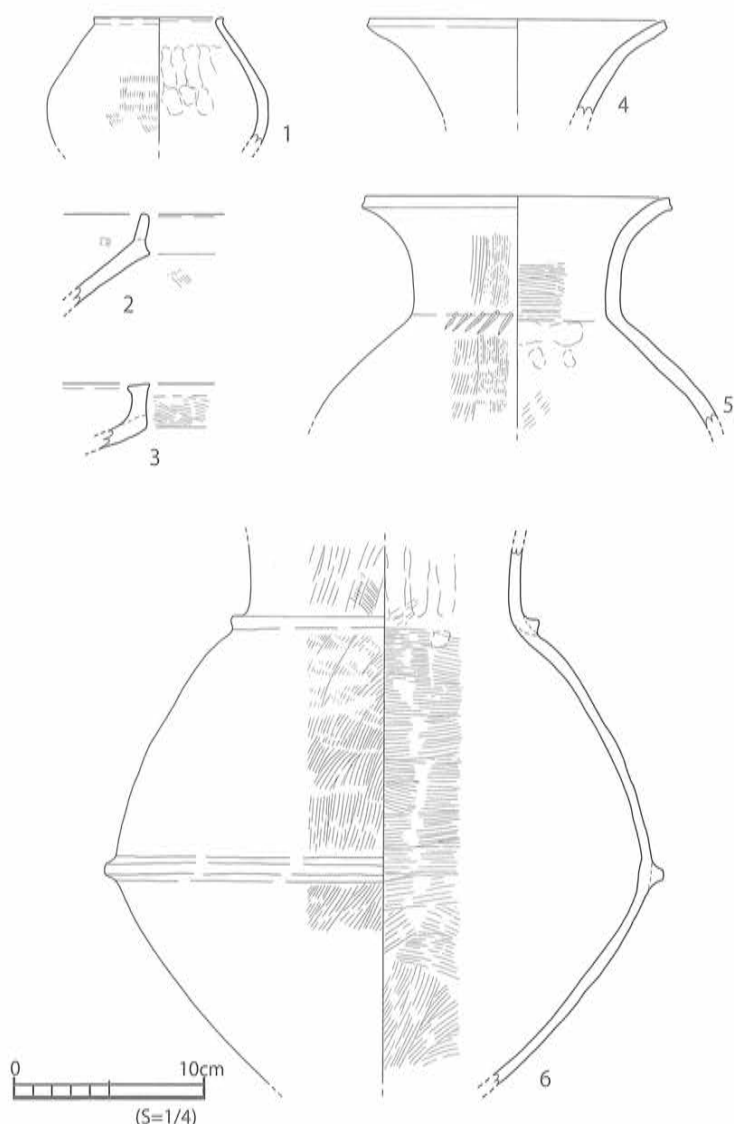
第 11 図 大坪 2 次 SB42 出土遺物 1

遺物の多くは住居跡北半部分で出土し、一部住居跡南西隅に土器のまとまりが確認される。土器の器形は甕（第11・12図）鉢（第13図1）・高坏（第13図2・3）・壺（第13図4～6）がある。時期は建物跡の形状および出土土器より、弥生時代後期に属するものと考えられる。

SB43（第14～16図・第52図）

調査区中央からやや北寄りで検出された竪穴建物跡である。長軸は北東―南西方向であり、平面形は長辺約6.0m、短辺約4.4mの長方形である。支柱穴は2本と思われ、建物中央に火処と思われる土坑が検出されている。

遺物は建物跡内で7か所のまとまりを持って出土していることから、建物跡廃棄時の状況である可能性がある。第15図に鉢（1）・器台（3・4）・高坏（5）・壺（2・6～8）・石包丁（9）を、第16図に甕、第52図に鉄器を示す。その他、砥石2が出土している。特筆されるのは、第15図8の二重口縁壺胴部に線刻が確認されることと、第16図13・14のように熊本県地域の影響がみられる器形が存在することで、時期は建物跡の形状と出土土器より、弥生時代後期に属する。



第12図 大坪2次SB42出土遺物2

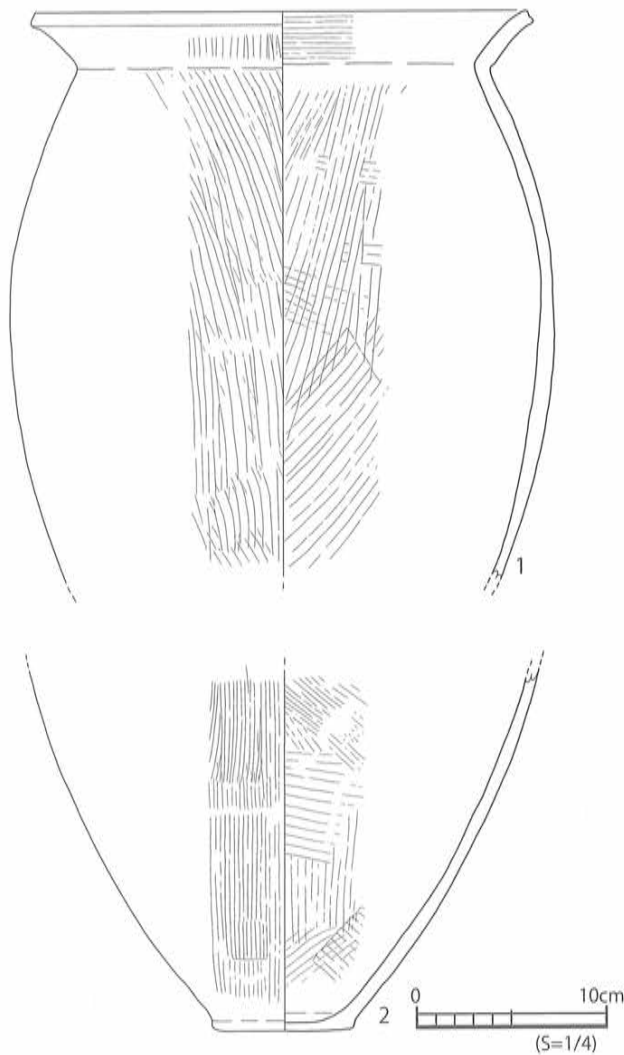
SB44（第17～19図）

調査区北側で検出された竪穴建物跡である。長辺6.7m・短辺6.0mの正方形に近い長方形の平面形で、長軸は北東―南西方向である。建物跡南西側壁にベッド状遺構を有し、建物北東側壁の一部に支柱穴は判然としないが2本・4本両方の可能性がある。

出土遺物は甕（第18図1・2）、第19図に鉢（第19図1～3）・壺（同4～6）・器台（同7・8）・高坏（同9・10）を示した。その他、砥石1が出土している。出土土器より、建物跡の時期は弥生時代後期～終末期に属するものと思われる。

SB45・46（第20・22・23・52図）

調査区北側で検出した竪穴建物跡であり、主軸は共に北東―南西方向で、長辺約7.0m、短辺約5.2mである。調査時の図面等によれば、調査時の判断はSB45がSB46を切っているが、後述する出土遺物等からは前後関係が逆の可能性も想定され、前後関係にはやや不安な要素が残る。SB45・46共にベッド状遺構と張出し部を有している。支柱穴は検出数が少なく判然としないが、平面は長方形であること

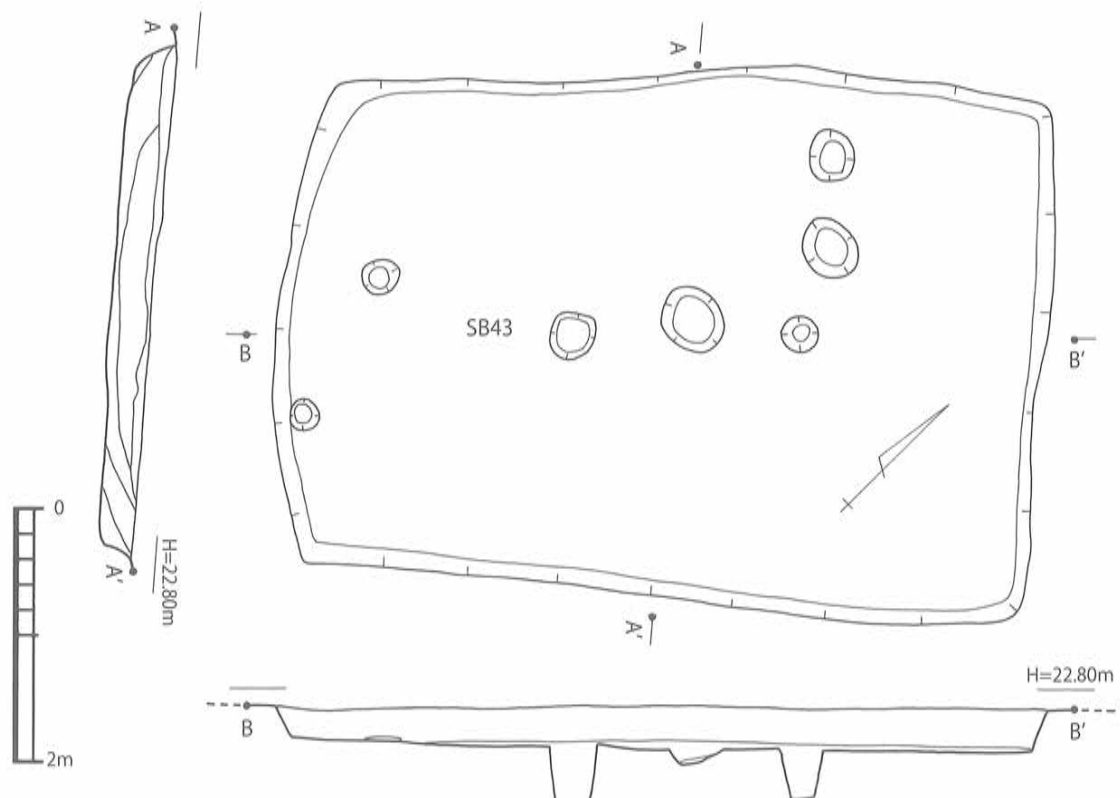


第13図 大坪2次 SB42 出土遺物 3

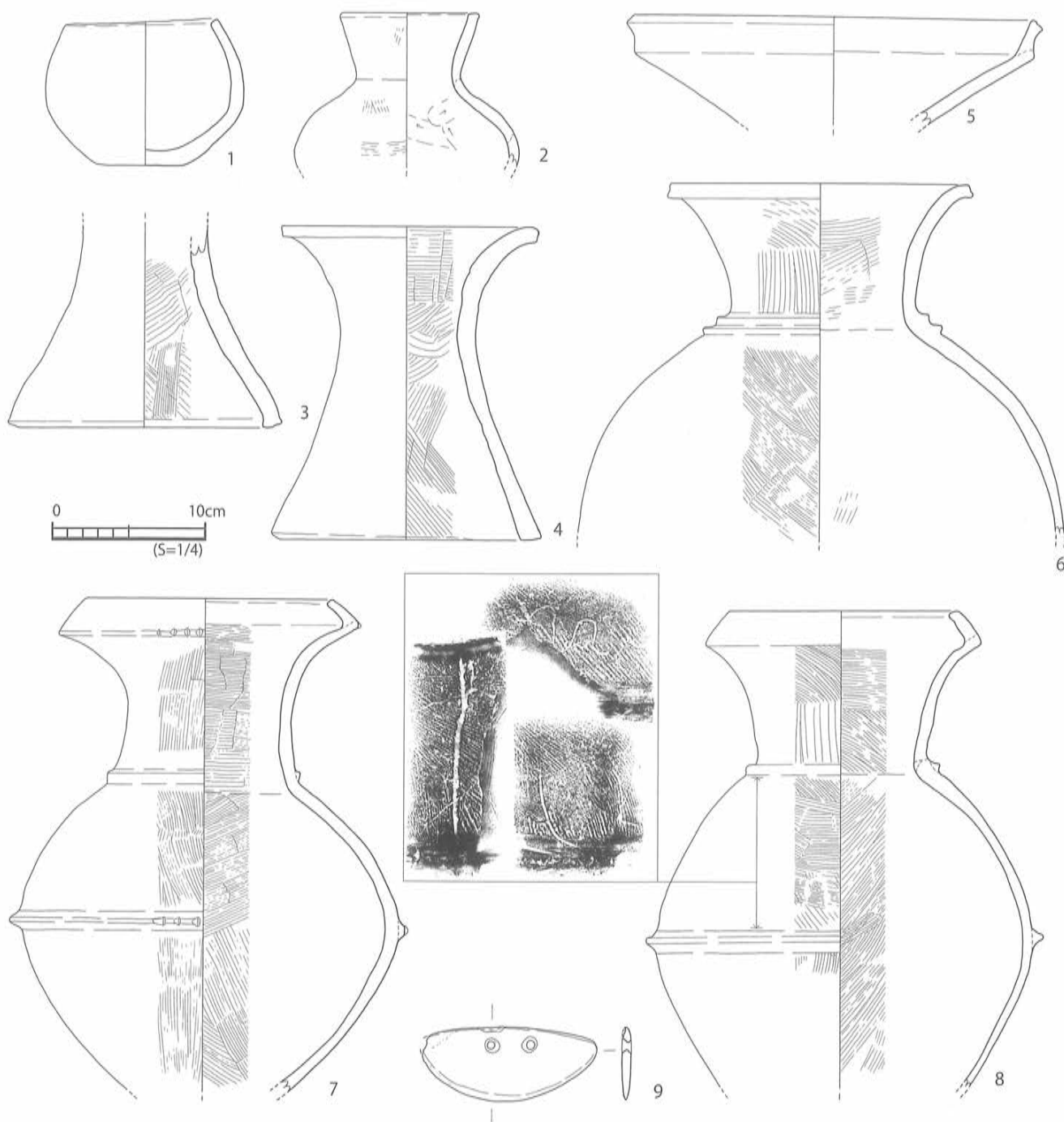
から、2本である可能性が高いと思われる。

出土遺物は、SB45では建物跡東半部で多く出土しており、SB46では建物跡全体より散在的に出土している。出土遺物のうち図化したものを、SB45は第22図、SB46は第23図1～4と第52図に示した。SB45からは壺（22図1）、器台（同2・3）、高坏（同4・5）、甕（同6～9）、石包丁（同10）がある。SB45の出土遺物は全て弥生時代後期に属すると判断される。

SB46からは、ミニチュア土器の鉢（23図1）、高坏（同2）、器台（同3）、甕（同4）、鉄斧（52図2）が出土している。高坏は小型化しており古式土師器の特徴を有していることや、甕も頸部が広がっていることから、弥生時代終末期～古墳時代前期の形状の特徴も見受けられる。出土遺物からは、建物跡の前後関係が逆となる可能性が残ることを指摘しておく。



第14図 大坪2次 SB43 実測図 (S=1/60)

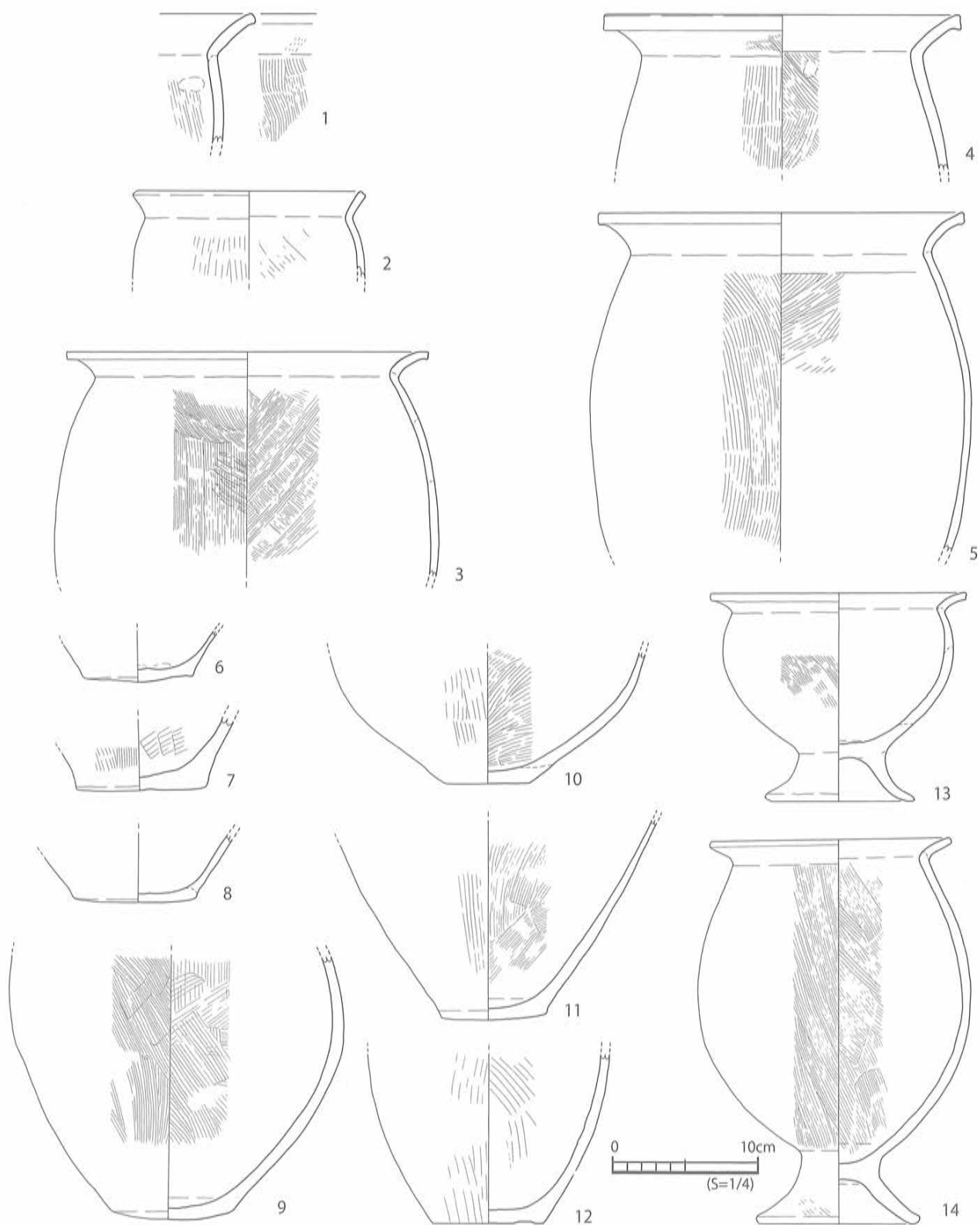


第15図 大坪2次SB43出土遺物1

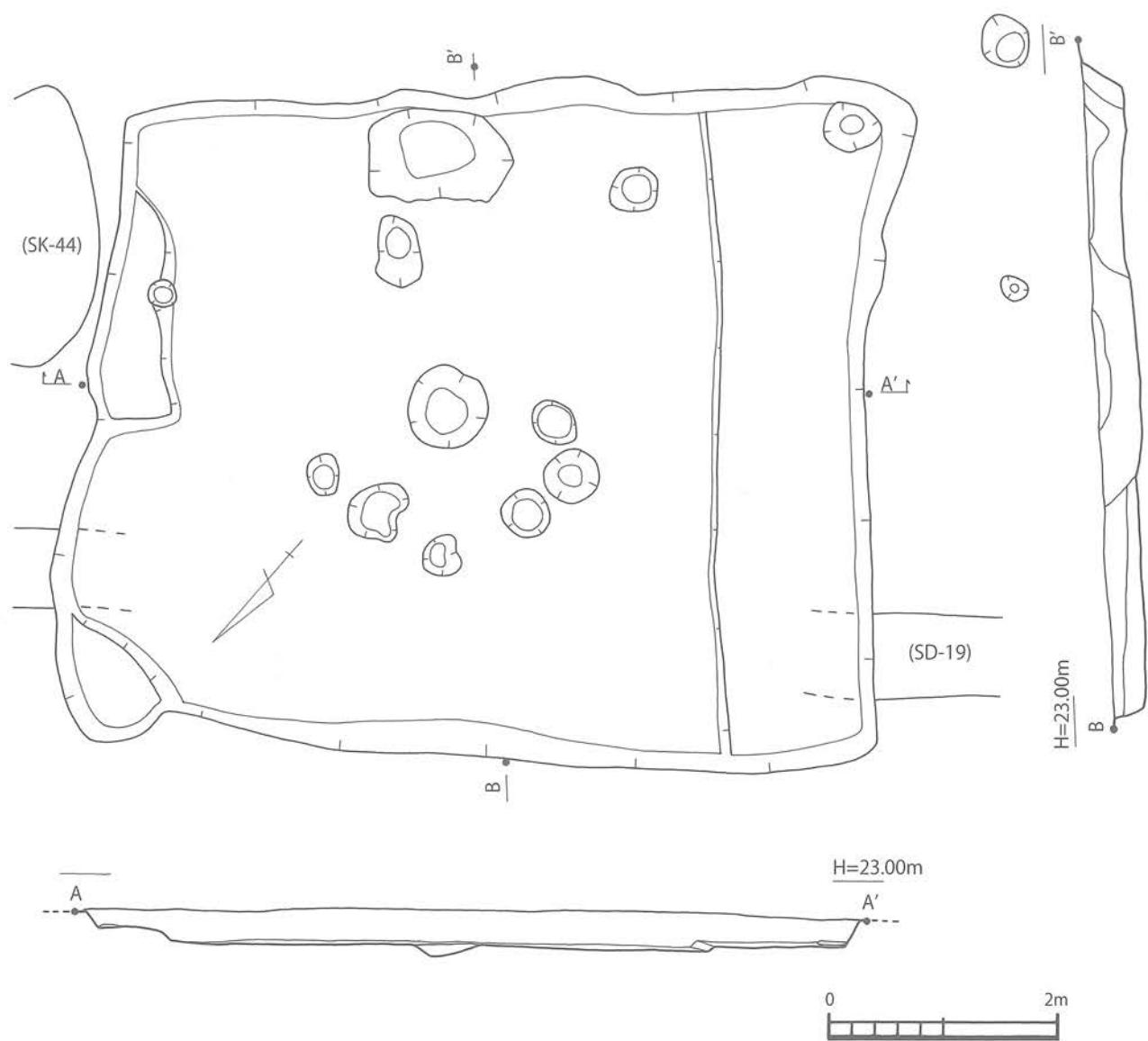
SB48（第21・23図）

概報によると、SB48は発掘調査者の所見では弥生時代と判断している建物跡であるが、建物跡の形状や遺物からは古代（平安時代）の可能性もある建物跡であることを、まず指摘しておく。

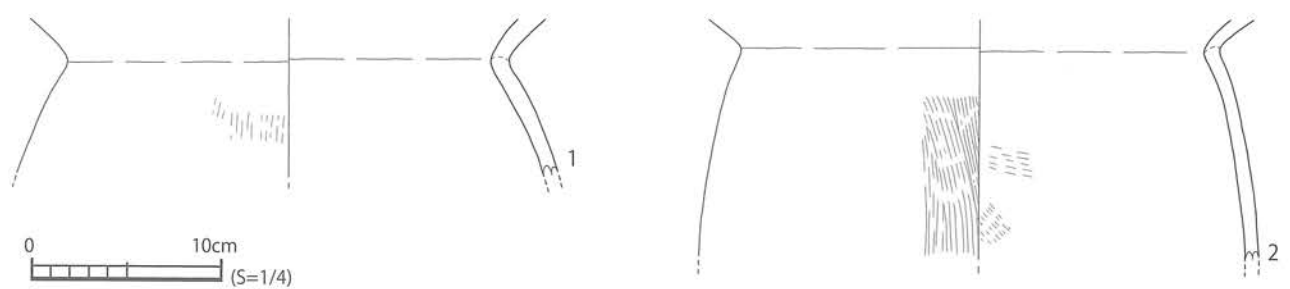
SB48は調査区中央からやや東よりの地点で検出した竪穴建物である。検出面から床面までは10cm程度の深さであり、残存状況はあまり良好ではない。平面形は長辺4.8m、短辺4.5mのほぼ正方形である。主柱穴もはっきりとしないが、建物跡北側に寄って2本可能性のあるピットが存在することから、4本柱の可能性が想定される。火処等は調査記録からは判然としないが、建物跡西側に見られる張り出



第16図 大坪2次SB43出土遺物2



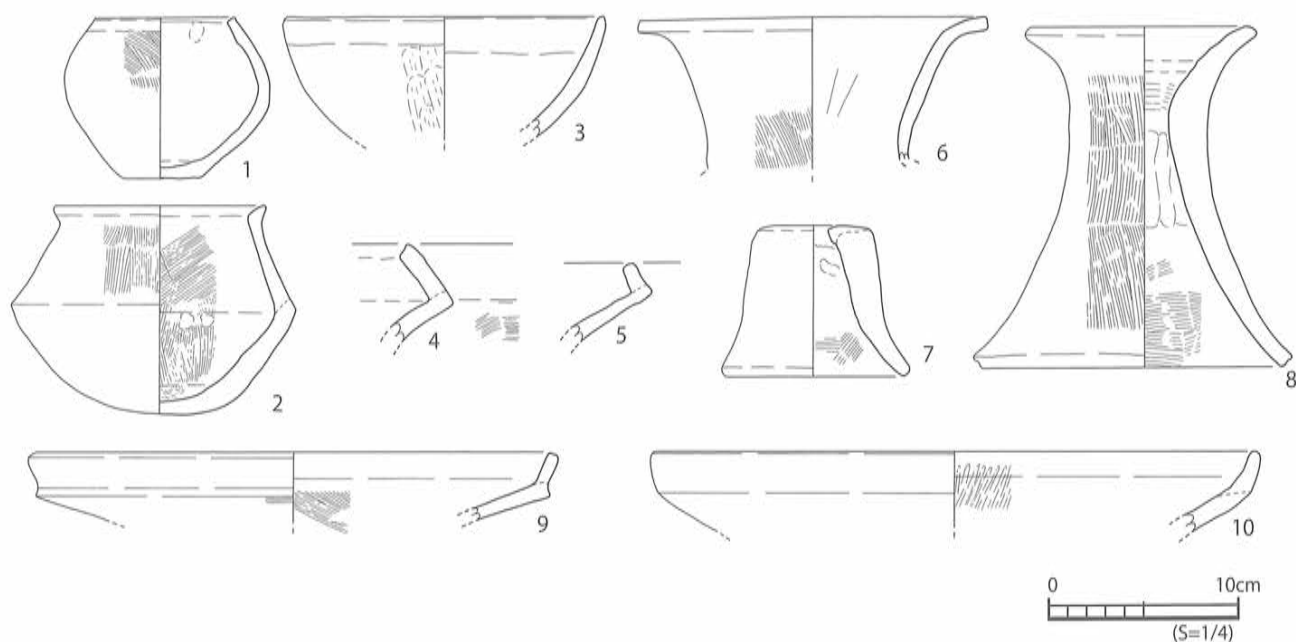
第 17 図 大坪 2 次 SB44 実測図 (S=1/60)



第 18 図 大坪 2 次 SB44 出土遺物 1

し部分が竈の痕跡である可能性も考えられる。

SB48 の遺物は器台 (23 図 5・6) と須恵器甕片 (同 7・8) があり、前者は弥生時代後期、後者は平安時代に属するものと思われる。



第 19 図 大坪 2 次 SB44 出土遺物 2

SB49(第 24・25 図)

調査区東側で検出された竪穴建物跡である。長軸を東西方向にとり、平面形は長辺約 8 m、短辺約 6 m の長方形である。建物の北東と南西とに張出し部を 2 箇所所有している。支柱穴は明確ではないが、建物跡の西端と東端にその可能性のあるピットが確認される。

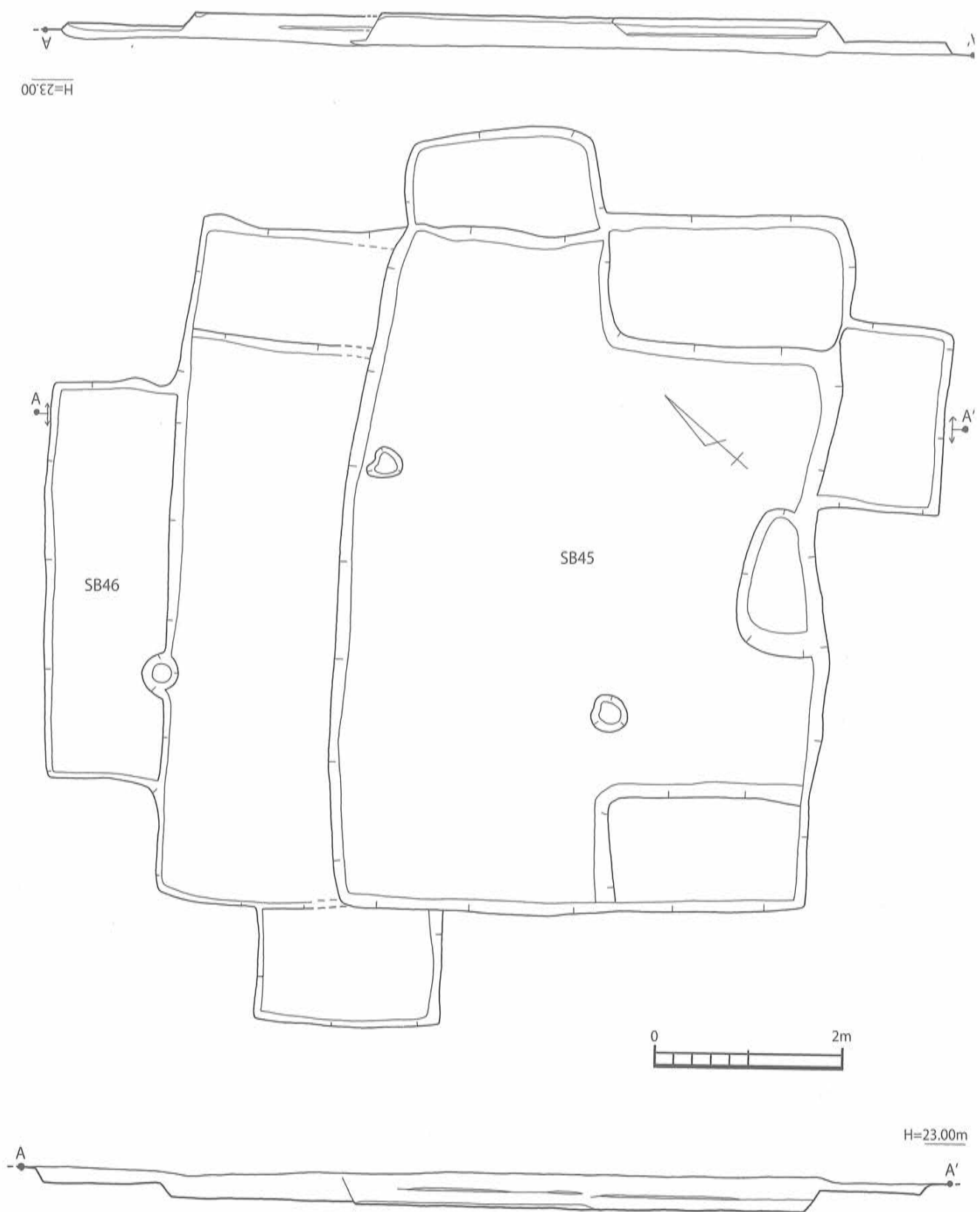
遺物は建物跡北半部より出土しており、鉢 (25 図 1・2)、壺 (25 図 3) がある。これらの土器は、弥生時代後期～終末期に属する可能性が高いと思われ、SB49 もこの時期の建物跡と考えられる。

②掘立柱建物跡 (SB)

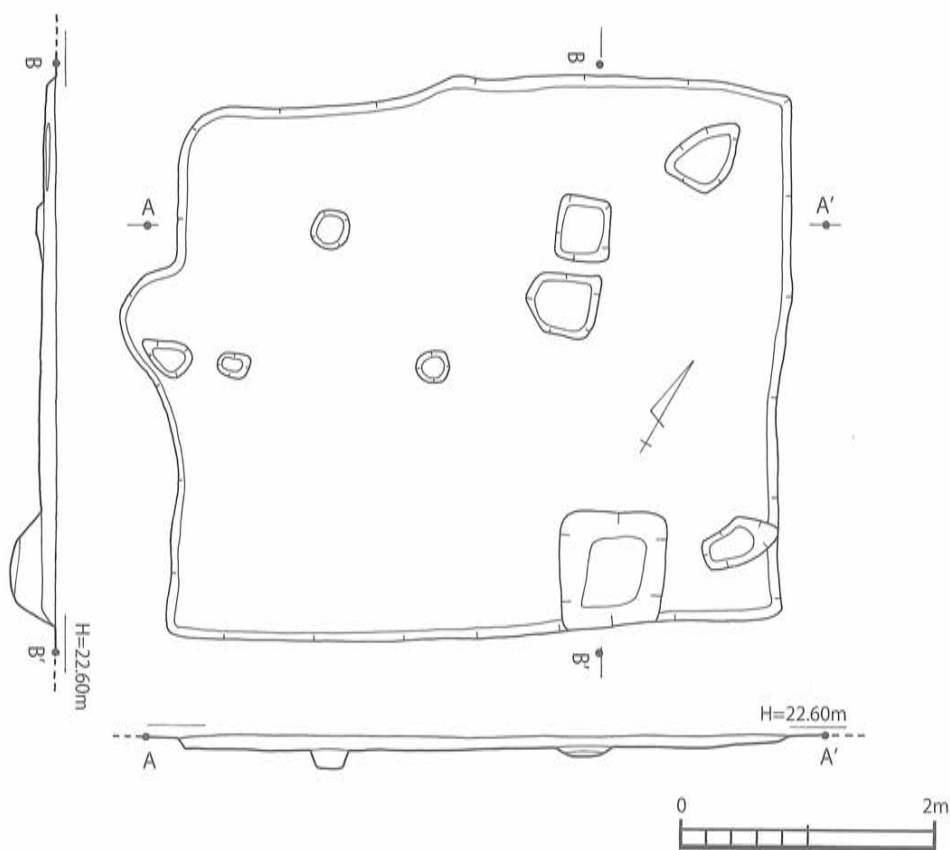
大坪遺跡 2 次調査の弥生時代の掘立柱建物跡は、調査時の所見では SB39・40・47・52～55 の 8 棟とされている。これについては後述する (第 42～48 図参照)。

③土坑墓 (SX) (第 26～29 図)

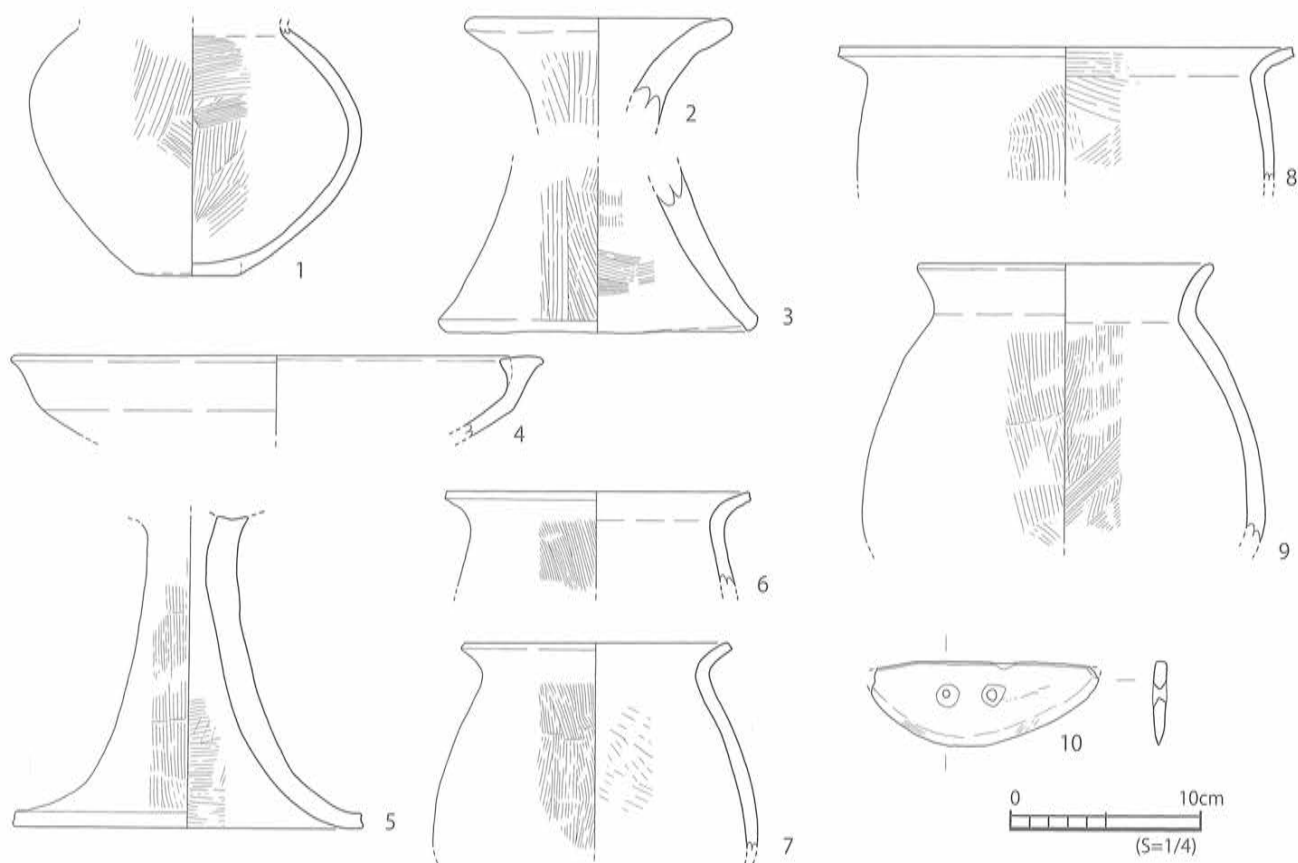
大坪遺跡 2 次調査では、土坑墓は SX04～SX07 の計 4 基について調査がなされている。「概報」によれば、「土壙墓」と記載されている。ただし、SX07 では小口部分に当たる箇所では平石が立てられた状態で検出されている。また、土坑の形状は全て、楕円形の土坑の中にさらに長方形気味の深掘り部分を有する特徴があり、2 段掘りになっている。土層断面等でも記載はなく、現状としては確認する術はないが、土坑の形状や SX07 で検出された石材等を考慮すると、木棺等の棺施設が存在する、木棺墓の可能性も考えられる。本報告では明確な証拠を示しえないこともあり、以下、「土坑墓」として報告する。土坑墓は、調査区南端西側の SD17・18 付近に集中して発見されている。遺物は概報によれば弥生式土器の小片がわずかに出土しているのみであり、本報告の整理作業の際にも図化できる遺物はなかった。



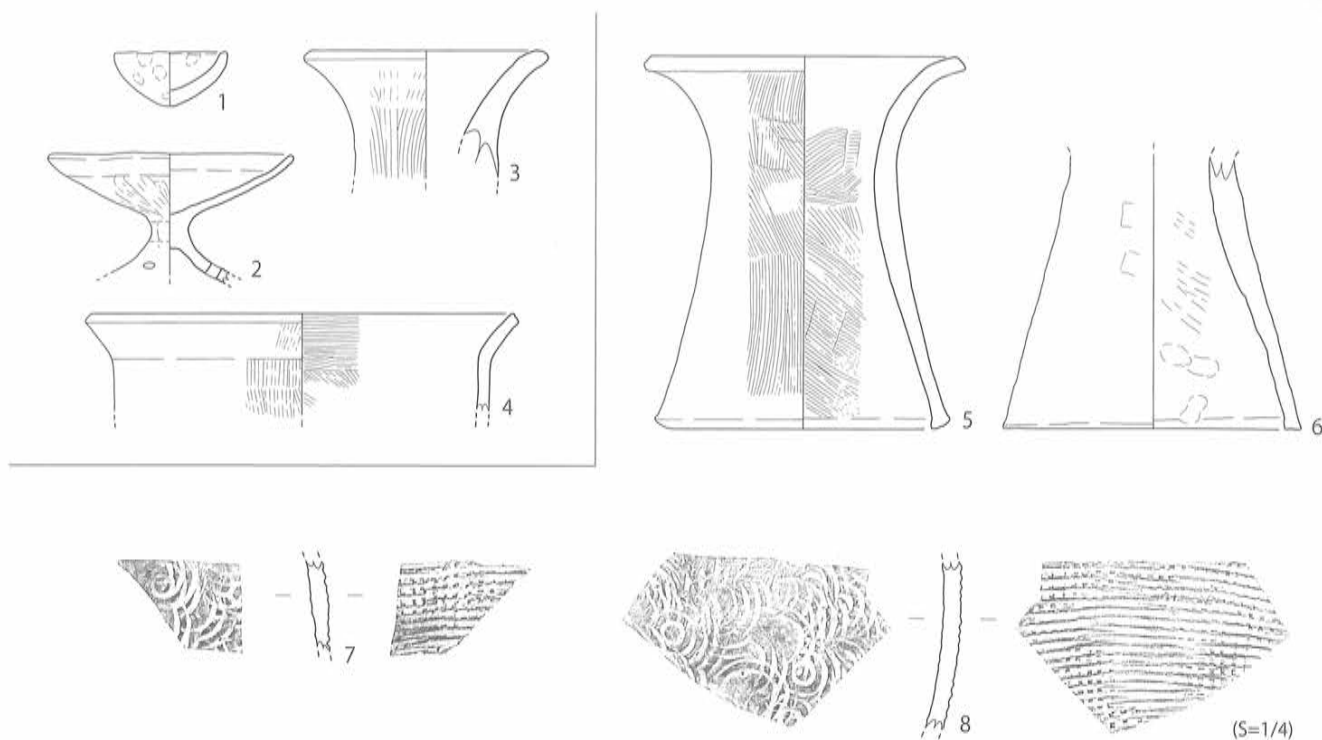
第 20 図 大坪 2 次 SB45・46 実測図 (S=1/60)



第 21 図 大坪 2 次 SB48 実測図 (S=1/60)



第 22 図 大坪 2 次 SB45 出土遺物



第 23 図 大坪 2 次 SB46・48 出土遺物

SX04 (第 26 図)

調査区南端西側で発見された土坑墓で、東に SX06、南東に SX-07 がある。長軸はほぼ東西方向である。土坑は長辺 2.4m、短辺約 1 m の楕円形の土坑で、2 段掘りになっており、深掘り部分は長辺約 1.5 m、短辺約 40cm の、やや丸みを帯びた長方形となっている。調査所見では、覆土は上層に黒褐色土および暗灰茶褐色土、下層は暗茶褐色土である。遺物の出土はない。

SX05 (第 27 図)

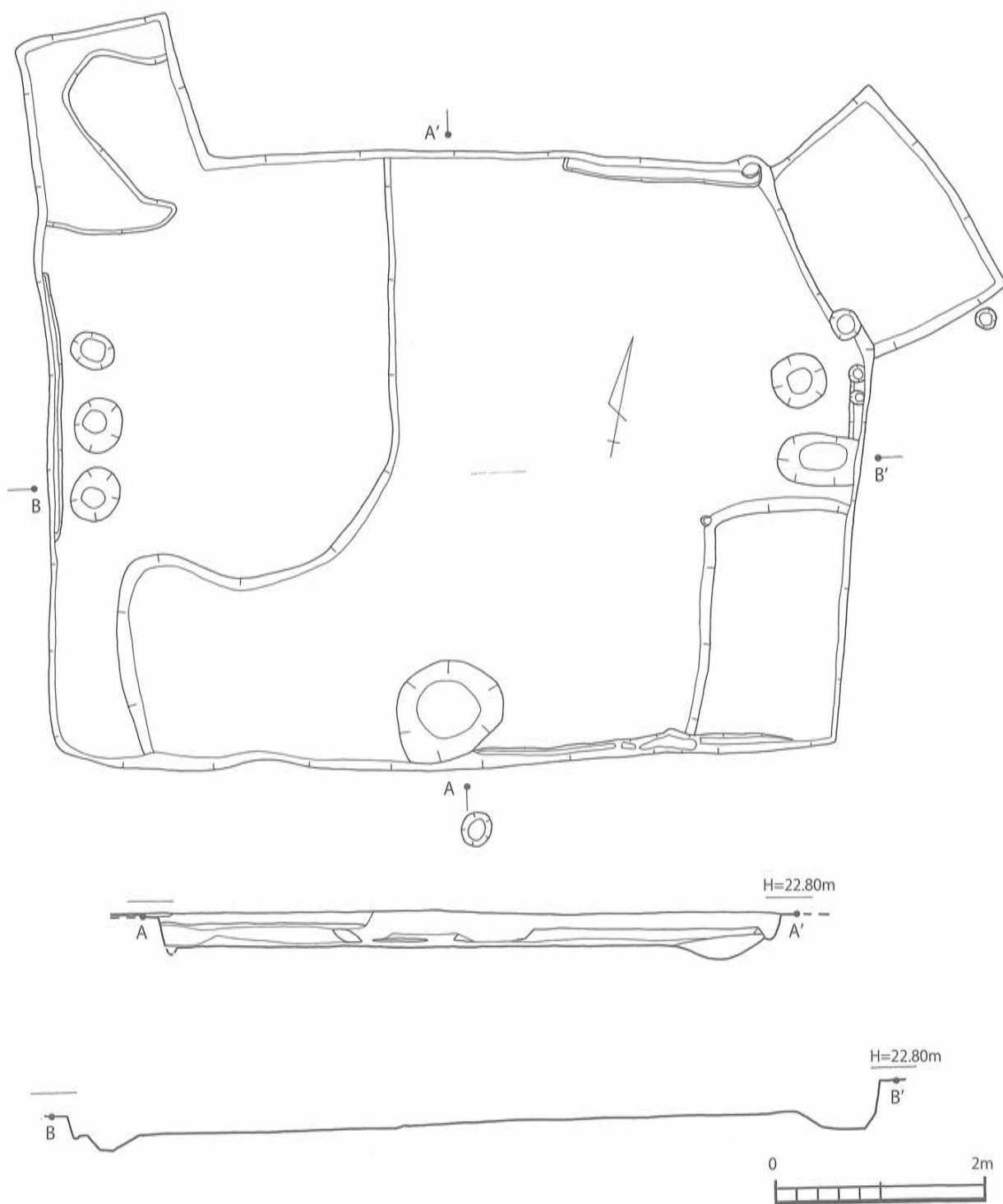
調査区南西端付近で検出された土坑墓で、他の SX04 および SX06・07 ～はやや東に離れた場所で発見された土坑墓である。長軸は西北西―東北東方向である。土坑は長辺 1.9m、短辺約 1.1 m の楕円形の土坑で、2 段掘りになっており、深掘り部分は長辺約 1.1 m、短辺約 0.2 ～ 0.35 m の、ややいびつな長方形となっている。他の土坑墓に比してやや小型である。遺物等は確認されていない。なお、「概報」による調査者の所見では小児用となっている。

SX06 (第 28 図)

SX04・07 の東側にある土坑墓である。長軸は南南西―東北東方向であり、今回検出された 4 基の中では唯一長軸方向が異なる。土坑は長辺 2.0m、短辺約 0.95 m の楕円形の土坑で、2 段掘りになっており、深掘り部分は長辺約 1.7 m、短辺約 0.4m の、やや丸い長方形となっている。図化可能な遺物の出土はない。

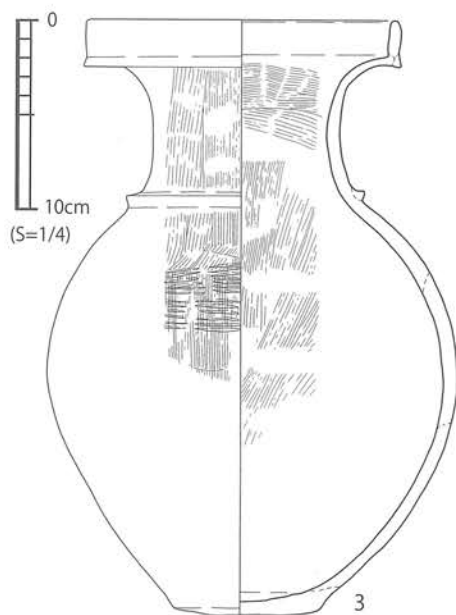
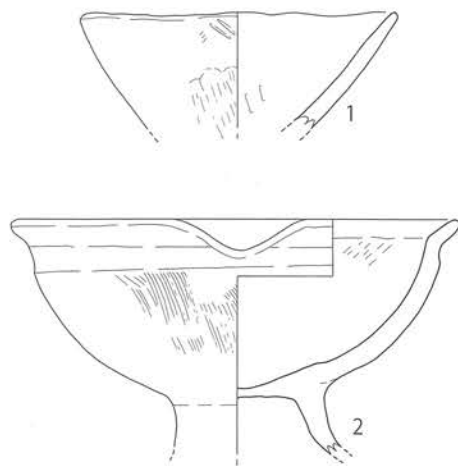
SX07 (第 29 図)

調査区南端で、SX04 の南東方向で発見された土坑墓である。長軸は西南西―東北東方向である。土坑は長辺約 1.3m、短辺約 0.9 m の楕円形の土坑で、2 段掘りになっており、深掘り部分は長辺約 1.8 m、



第 24 図 大坪 2 次 SB49 実測図 (S=1/60)

短辺約 0.55m の、やや丸い長方形となっている。土坑東側に平石が 1 枚立った状態で検出されており、棺状の施設が存在していた可能性を示唆している。また、土坑底面ではわずかに全面で粘土が検出されている。これは、おそらく棺底部に粘土を敷いて埋蔵した状況と思われる。図化可能な遺物の出土はないが、他の土坑墓と同様に、弥生時代後期に属するものと思われる。



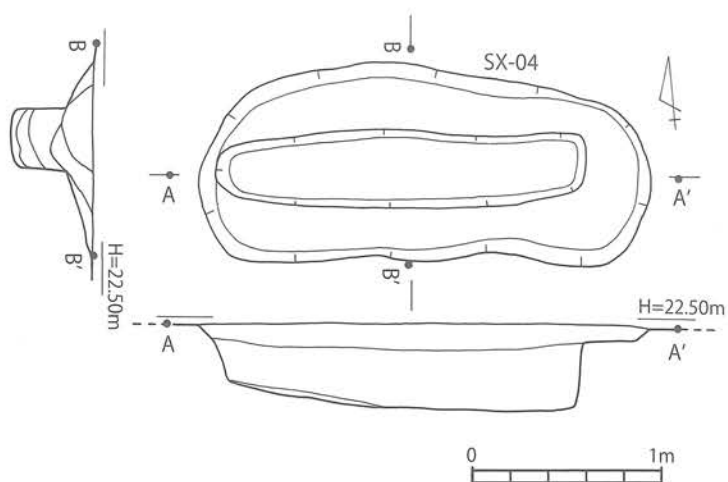
第25図 大坪2次 SB49 出土遺物

③土坑・溝（SK・SD）

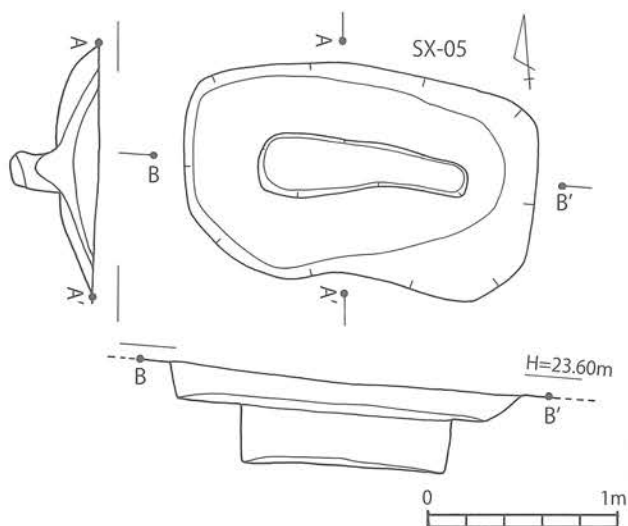
大坪遺跡2次調査で検出された土坑や溝・ピットは、古代の集落跡と思われる遺構と共に検出されているうえ、覆土等の記録も存在していないことから、遺物等の出土がない限り時代の特定は困難である。ここでは、土坑と溝のうち、遺物等の出土で弥生時代後期の可能性が高いと判断されるものについて報告する。なお、時期不明の土坑は収録出来ていないが、第4図の調査区全体図に示しているので、参照されたい。

SK42・43・44（第30・31図）

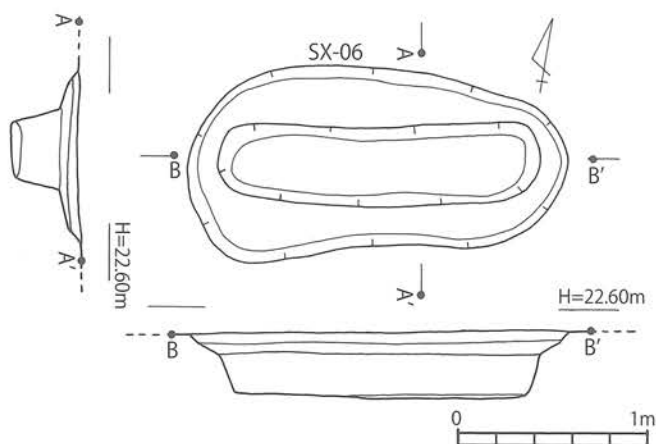
SK42～44は、弥生式土器の出土等から調査者が弥生時代後期と判断した土坑である。



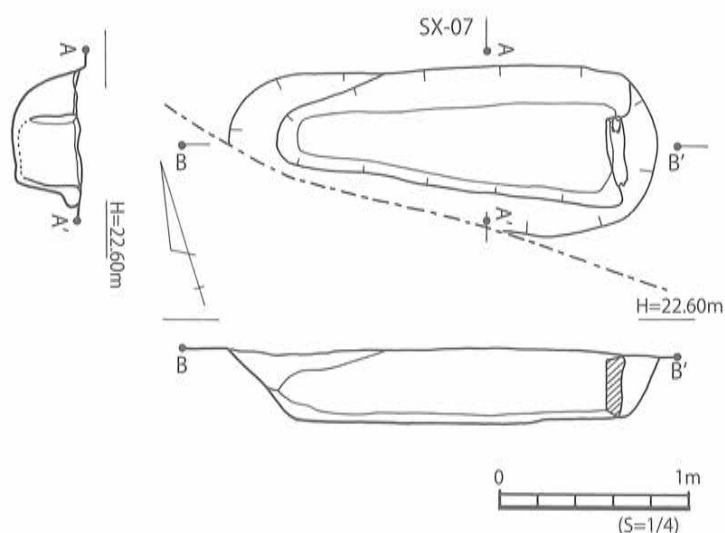
第26図 大坪2次 SX04 実測図 (S= 1/40)



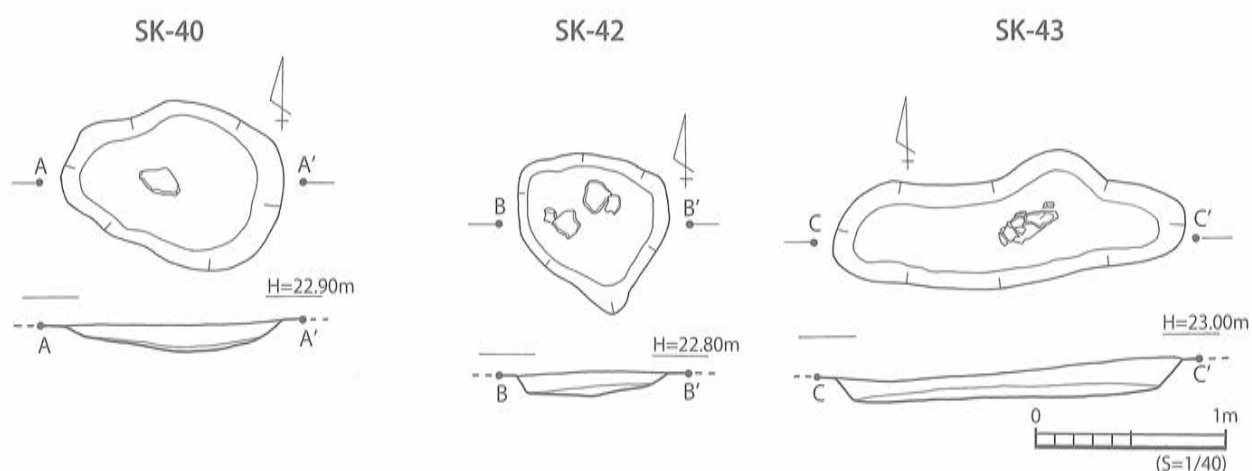
第27図 大坪2次 SX05 実測図 (S= 1/40)



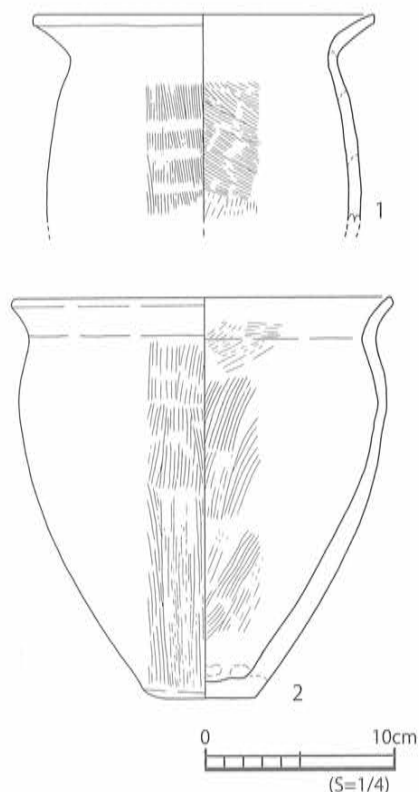
第28図 大坪2次 SX06 実測図 (S= 1/40)



第 29 図 大坪 2 次 SX07 実測図 (S= 1/40)



第 30 図 大坪 2 次 SK40・42・43 実測図 (S= 1/40)



第 31 図 大坪 2 次 SK43 出土遺物

SK42 は、調査区北端部で検出した土坑である。平面形は不整形な円形で、長辺 1.2 m、短辺 0.8 m である。

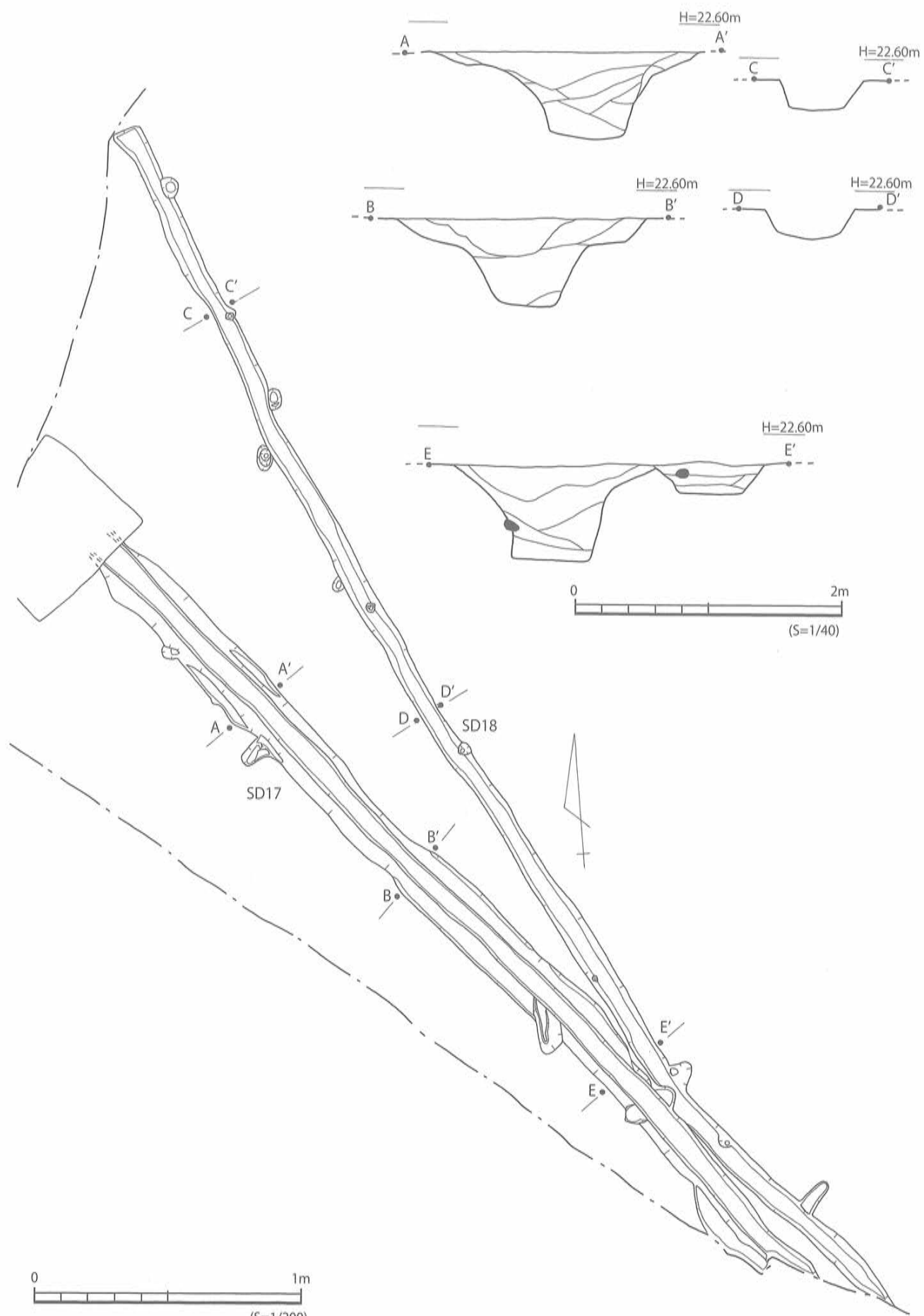
SK43 は、SK42 と同様に調査区北端で検出した土坑である。平面形は径 0.8 m 程度の円形である。遺物は甕 2 点が出土しており、弥生時代後期に属する。

SK44 は、調査区北側の SB44 建物跡の北東で検出した土坑である。長辺約 1.9 m、短辺約 0.6 m である。

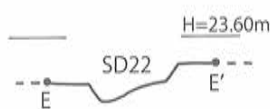
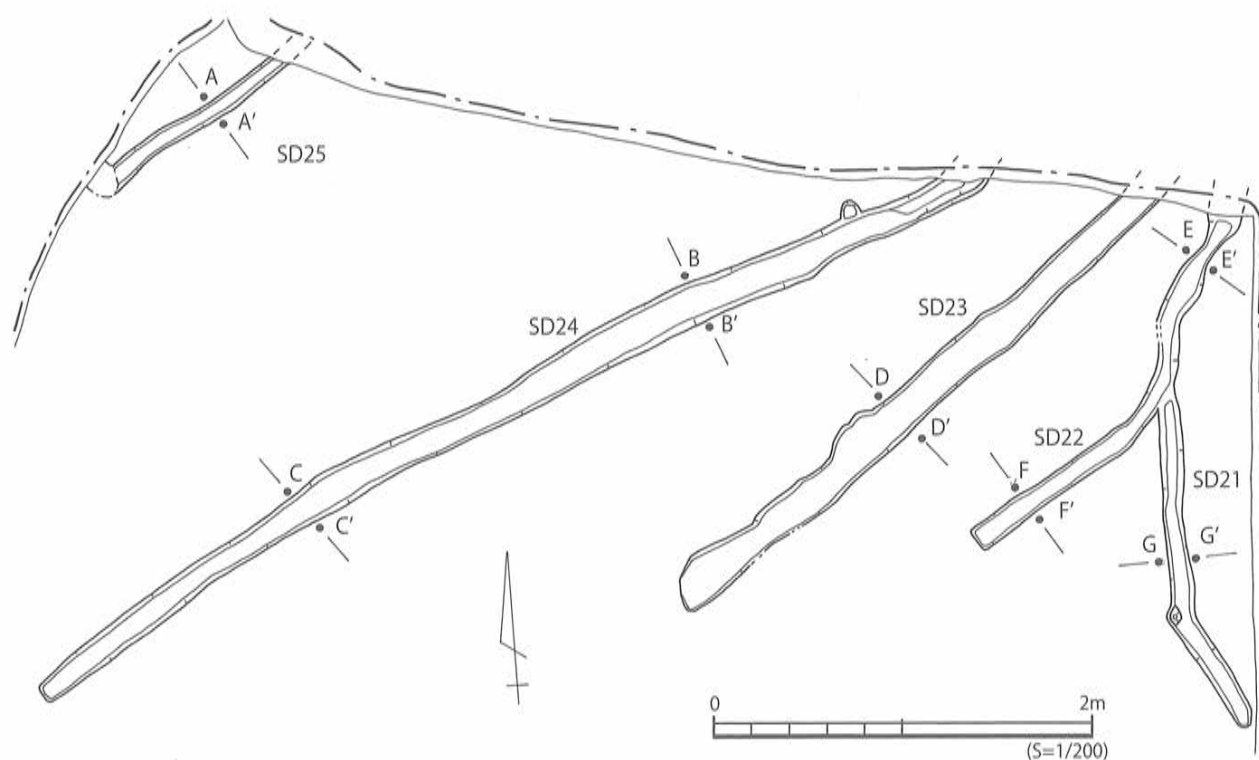
SD17・18 (第 32 図)

SD17・18 は調査区南西部を北西—南東方向に直線的に伸びる溝であり、ともに調査区外に向かって伸びている。

SD17 は、断面逆台形の溝であり幅は約 2 m で、調査区内で最大の溝である。弥生時代環壕等の、弥生時代集落の一部を構成している溝の可能性も考えられるが、概報の調査担当



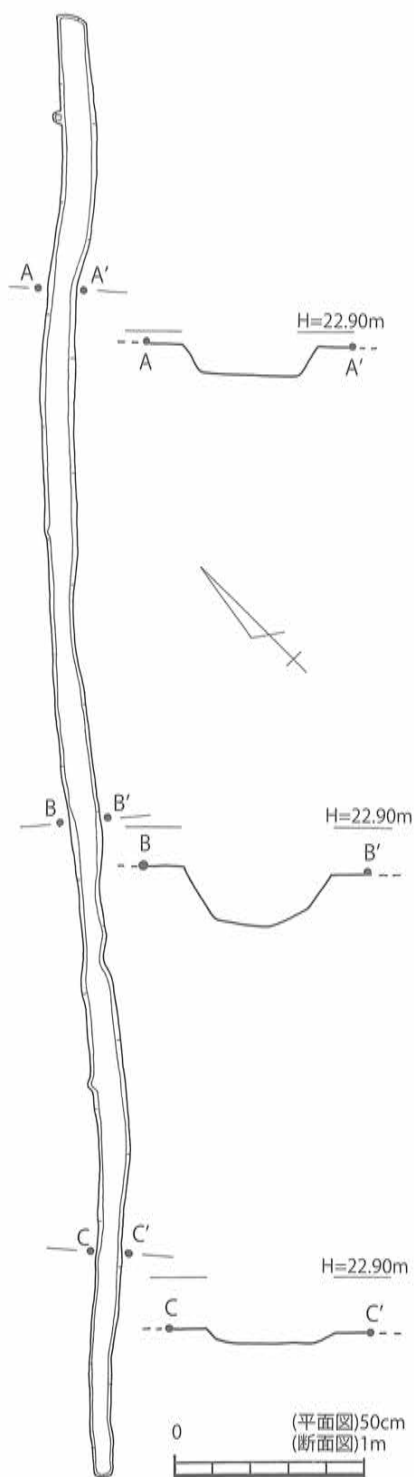
第 32 図 大坪 2 次 SD17・18 実測図 (S= 1 / 200)



第 33 図 大坪 2 次 SD21 ~ 25 実測図 (S= 1 / 200)

者の見解によれば北西部で SB37 建物跡に SD17 が壊されているということであり、SB37 建物跡より古い溝ということになる。遺物は弥生式土器の小片や押型文土器片であり、時期の決定打を欠く点が惜しまれる。

SD18 は、SD17 からやや北東方向に傾いて伸びる溝であり、溝の南東部、調査区南端付近で SD17 に接近する。遺物等の出土が少なく、時期を決定するには困難であるが、別の SD19 溝にほぼ直行している。何らかの区画等の意図があるのかもしれないが、建物跡と墓域の区画としては矛盾点もあり、判然としない。



第34図 大坪2次 SD26 実測図
(S= 1/200)

SD21～25 (第33図)

SD21～25は、調査区北端で検出された溝で、概ね北東－南西方向に延びている溝群である。調査者によれば、遺物の出土も少なく時期を特定するのが難しいが、大半は弥生時代と思われるとのことである。ほとんどが検出面から20～40cm程度の浅い溝である。溝の機能としては区画溝もしくは排水路等が想定されるが、根拠に乏しく判然としない。

SD26 (第34図)

調査区東端で検出された浅い溝である。調査時にも時期の確定が困難で明確な結論は出されておらず、遺物も確認できないため検討が困難であるが、調査区南側に延びるSD20とほぼ直行する形で存在する点が若干気かりであり、後世の水田等の区画もしくは流路といった可能性も残る。

2) 古代(平安時代)の遺構と遺物

① 竪穴建物跡(SB)

SB50・51 (第35・36・52図)

SB50は調査区中央やや東側で検出された竪穴建物である。長辺3.0m、短辺約2.8mで、小型でほぼ正方形の平面形である。建物北東のコーナー部分に土坑状もしくは張り出し部状の穴が1基検出されており、調査記録等からは焼土等の存在は不明であり判然としないが、カマド等の可能性もある。主柱穴は調査時には検出されていないが、4本主柱の可能性が高いものと思われる。遺物は無いが、後述するSB51との建物跡の平面形の類似等から、古代(平安時代)に属する可能性が高いものと思われる。

SB51はSB50の南東、調査区東端付近で検出された小型の竪穴建物であり、長辺約3.0m、短辺約2.5mの、ほぼ正方形の平面形である。SB50と同様に、建物北東のコーナー部分に土坑状の穴が存在する。主柱穴は調査時には検出されていないが、4本主柱の可能性が高いものと思われる。

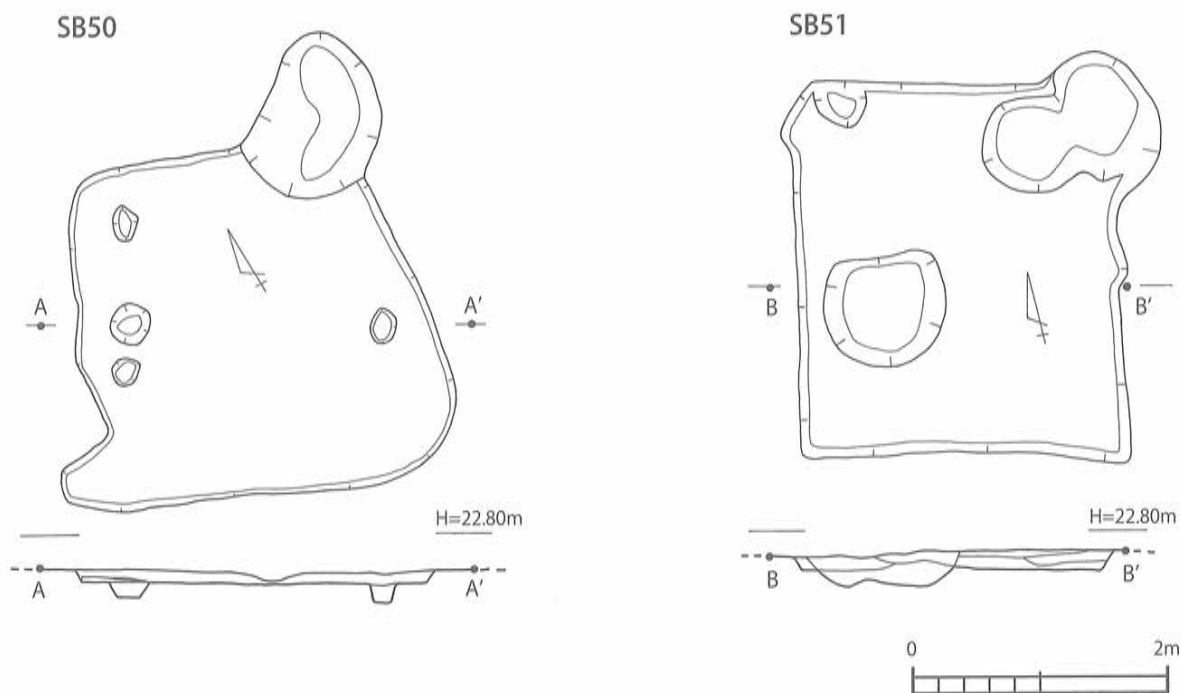
遺物はSB51土坑内より、高台付坏と坏が出土している(36図1～3)。その他、鉄器が出土している(52図3～5)。

建物の特徴および遺物から、古代(平安時代、8世紀台)に属するものと思われる。

② 掘立柱建物跡

大坪遺跡第2次調査では、柱穴の可能性が高いピットは多数検出されている。発掘調査段階で認定されたもの以外にも、建物跡が立つ可能性がある箇所も確認された。また、建物の性格上、時期の特定について根拠を欠き困難である建物跡も存在する。

そこで、ここではまず、調査時に古代(平安時代)に属すると判断されたSB56・57の2棟について



第 35 図 大坪 2 次 SB50・51 実測図 (S=1/60)

報告する。時期特定が困難である建物跡と本報告作成時に気付いた建物跡については、弥生時代の可能性がある建物跡と共に別途後述する（第 37 ～ 48 図）。

SB56（第 37 図）

調査区東端の、SB51 の北側で検出された掘立柱建物跡である。平面形は 2 間 × 3 間である。長軸を北北東－南南西方向にとり、建物跡両端ピット間は長軸約 6.2 m × 短軸約 3.9 m である。

SB57（第 38 図、第 49 図）

調査区中央付近で検出された掘立柱建物跡である。平面形は 2 間 × 3 間である。長軸を北北東－南南西方向にとり、SB56 と長軸方向がほぼ同じである。建物跡両端ピット間は長軸約 6.5 m × 短軸約 3.9 m であり、規模もほぼ同じであることから、SB56 と SB57 は同時代の所産である可能性が高いと思われる。SB57 のピットからは土師器の坏が出土しており、おそらく古代（平安時代）の建物跡であると思われる。

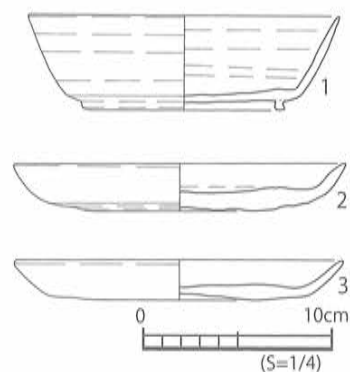
③ 土坑（SK）

ここでは、発掘調査者が古代に属すると判断した土坑および古代の遺物が出土している土坑に関し報告する。それ以外の土坑に関しては、第 4 図に示しているので参照されたい。

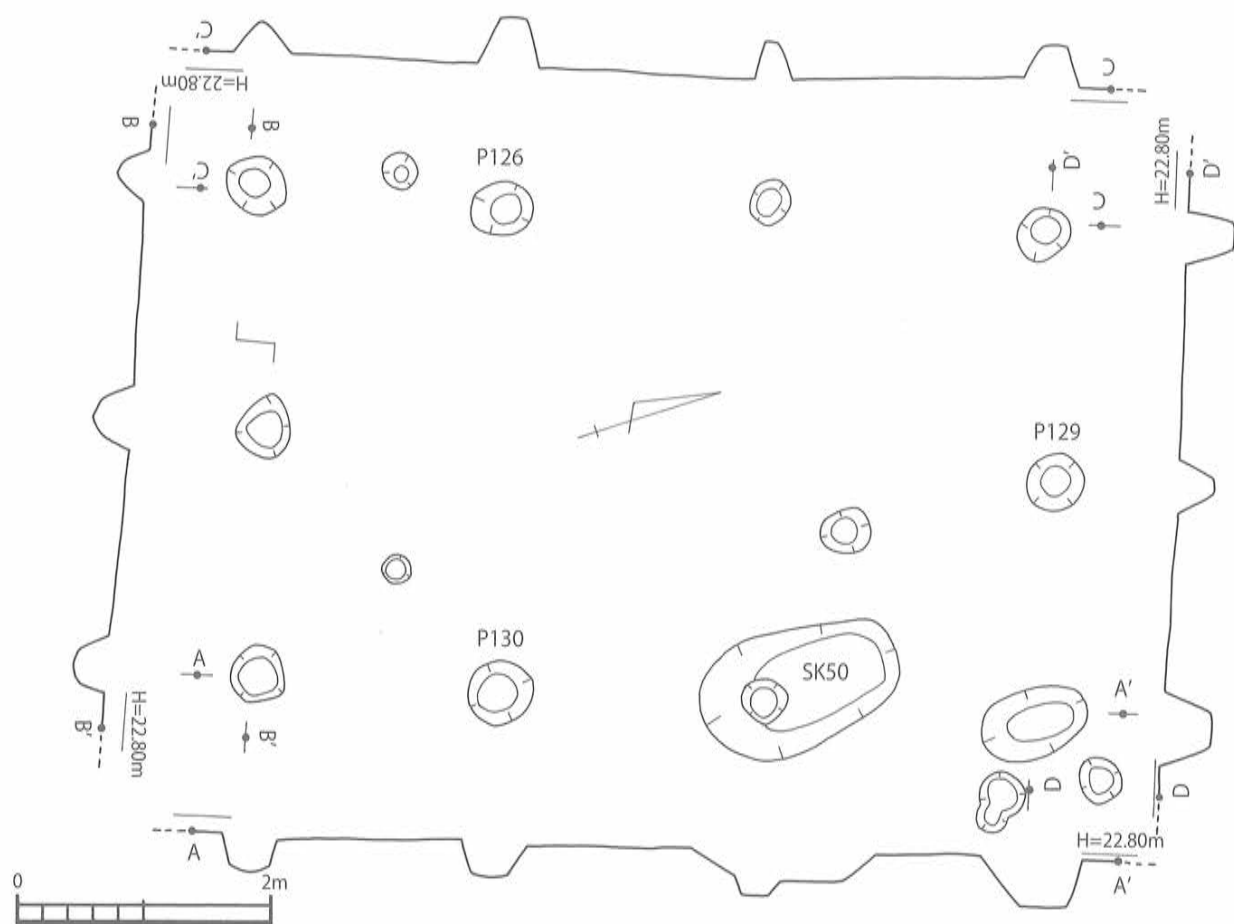
SK47・50（第 39 図）

SK47 は調査区東側の SB50 竪穴建物跡北側で検出された、長辺 0.9 m、短辺 0.7 m の、長軸がほぼ東西で平面形が長方形の土坑である。

SK53 は調査区東側の SB56 掘立柱建物跡に重なり検出された土坑で、長辺 1.6 m、短辺約 1.0 m、長軸がほぼ南北の楕円形の土坑である。



第 36 図 大坪 2 次 SB51 出土遺物



第 37 図 大坪 2 次 SB56 実測図 (S=1/60)

SK53 (第 40・41 図)

SK53 は、調査区東端の SB56 掘立柱建物跡の北側で検出された土坑で、長辺約 2.4 m、短辺約 1.4 m の長方形の土坑であり、長軸はほぼ南北方向である。出土遺物には土師器の甕と鍋があり、出土遺物から SB56 は平安時代（8 世紀台）に属するものと思われる。

4) 時期特定困難な掘立柱建物跡 (S B)

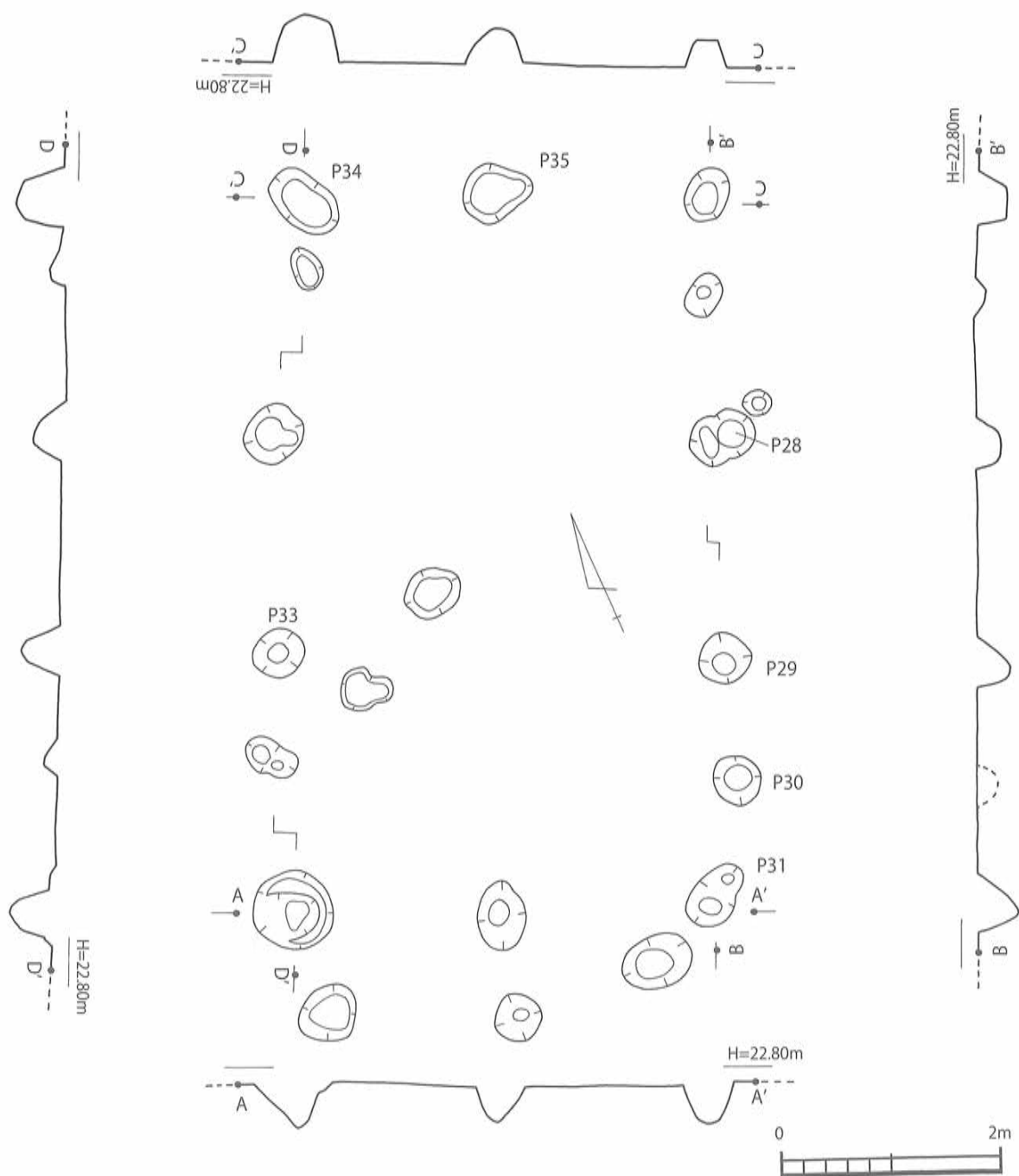
ここでは、大坪遺跡 2 次調査区で検出された掘立柱建物跡のうち、遺物等から時期決定が困難であったものについて報告する。なお、調査時に弥生時代後期の掘立柱建物跡とされていたものも、ここに含んでいる。また、本報告に当たって検討した結果、新たに掘立柱建物の可能性があるピット列も見いだされたため、それについてもここで報告する。

SB55 (第 42 図)

調査区東側、SB49 竪穴建物の南側で検出された掘立柱建物跡で、長軸をほぼ南北方向にとる。柱間は 1 間 × 1 間であり。長辺 約 2.6 m × 短辺約 2.2 m である。なお、調査者によれば、時期は弥生時代後期とされている。

SB38(第 42 図)

調査区南西部で検出された建物跡で、SD18 溝と重なる状態で検出されている。建物長軸を北東—南西方向にとる。柱間は 1 間 × 1 間であり。長辺 約 3.4 m × 短辺約 2.5 m である。なお、調査者によれば、時期は弥生時代後期とされている。



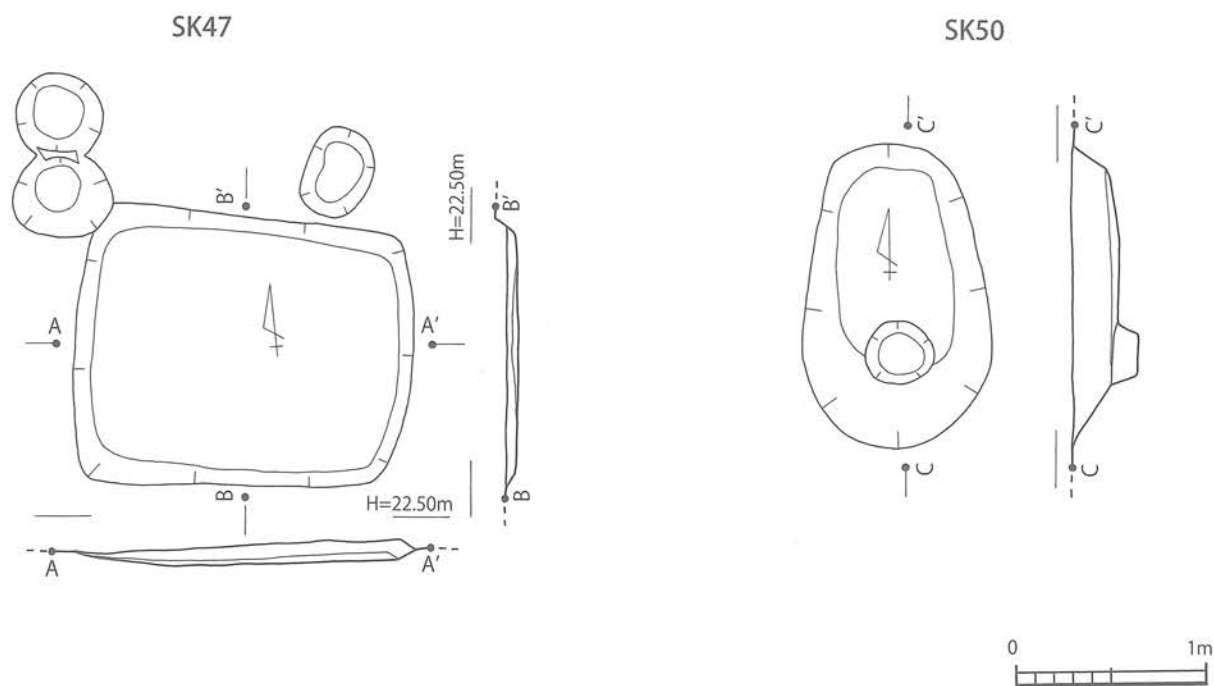
第 38 図 大坪 2 次 SB57 実測図 (S=1/60)

SB39 (第 43 図)

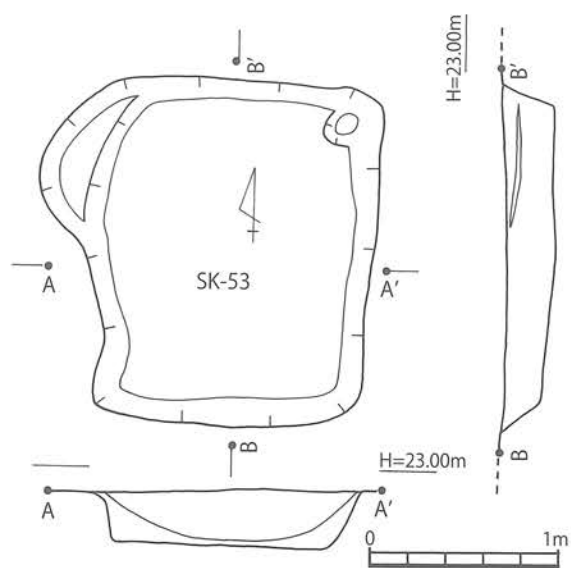
調査区南西部で検出された建物跡で、SD18 溝・SD19 溝と重なる状態で検出されている。建物長軸をほぼ南北方向にとる。柱間は 2 間 × 1 間であり。長辺 約 3.5 m × 短辺 約 3.0 m である。なお、調査者によれば、時期は弥生時代後期とされている。

SB40 (第 43 図)

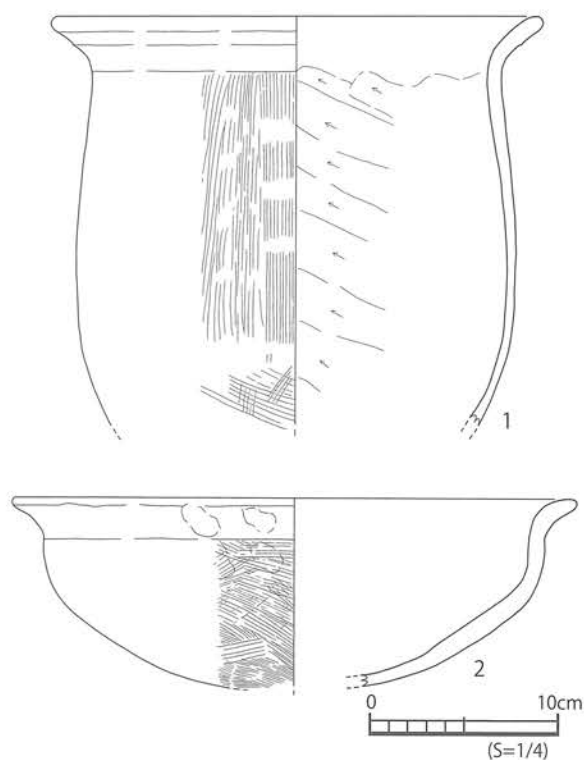
SB39 の北側で検出された建物跡である。建物長軸は SB39 とほぼ直交する。柱間は 2 間 × 1 間であり。長辺 約 4.3 m × 短辺 約 3.6 m である。なお、調査者によれば、時期は弥生時代後期とされている。



第 39 図 大坪 2 次 SK47・50 実測図 (S=1/40)



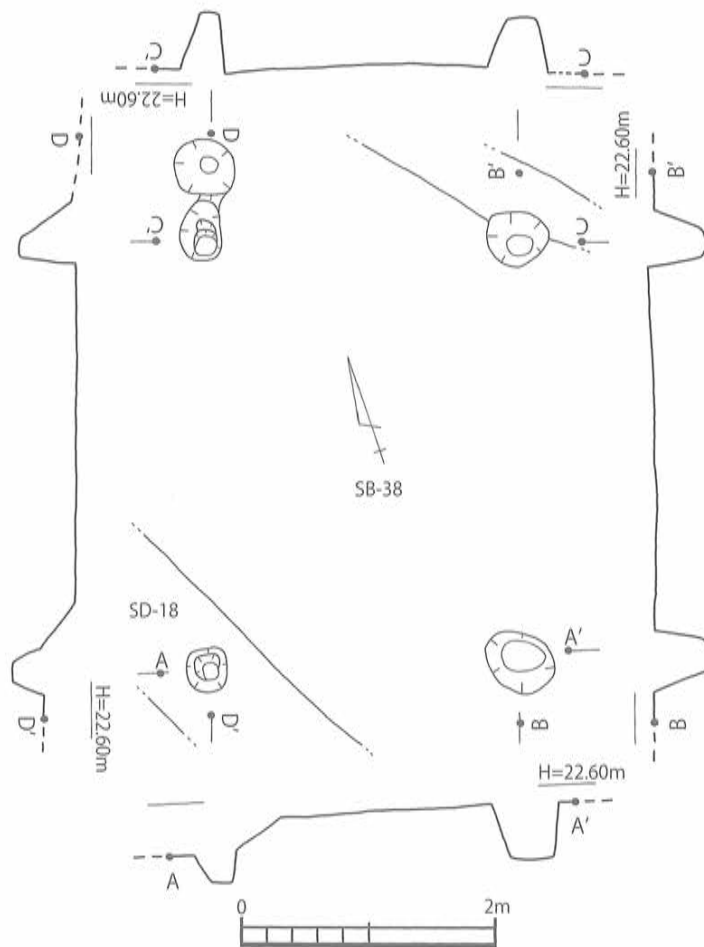
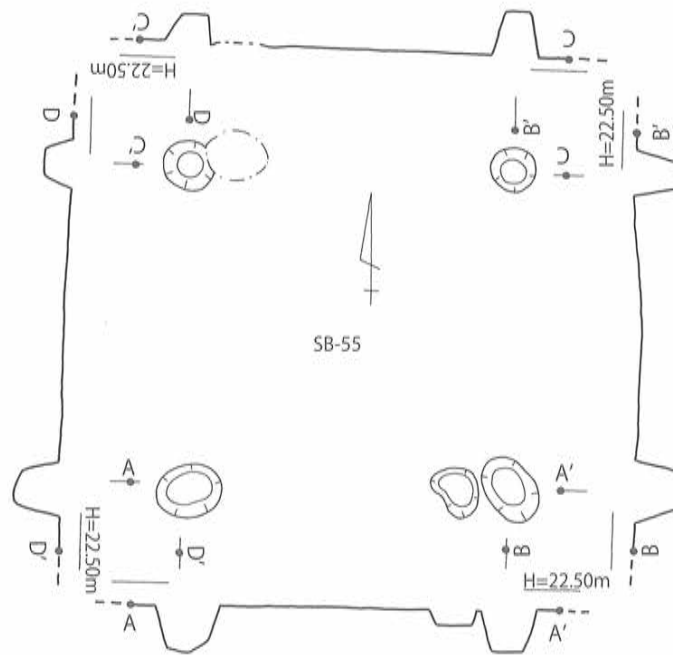
第 40 図 大坪 2 次 SK53 実測図 (S= 1/40)



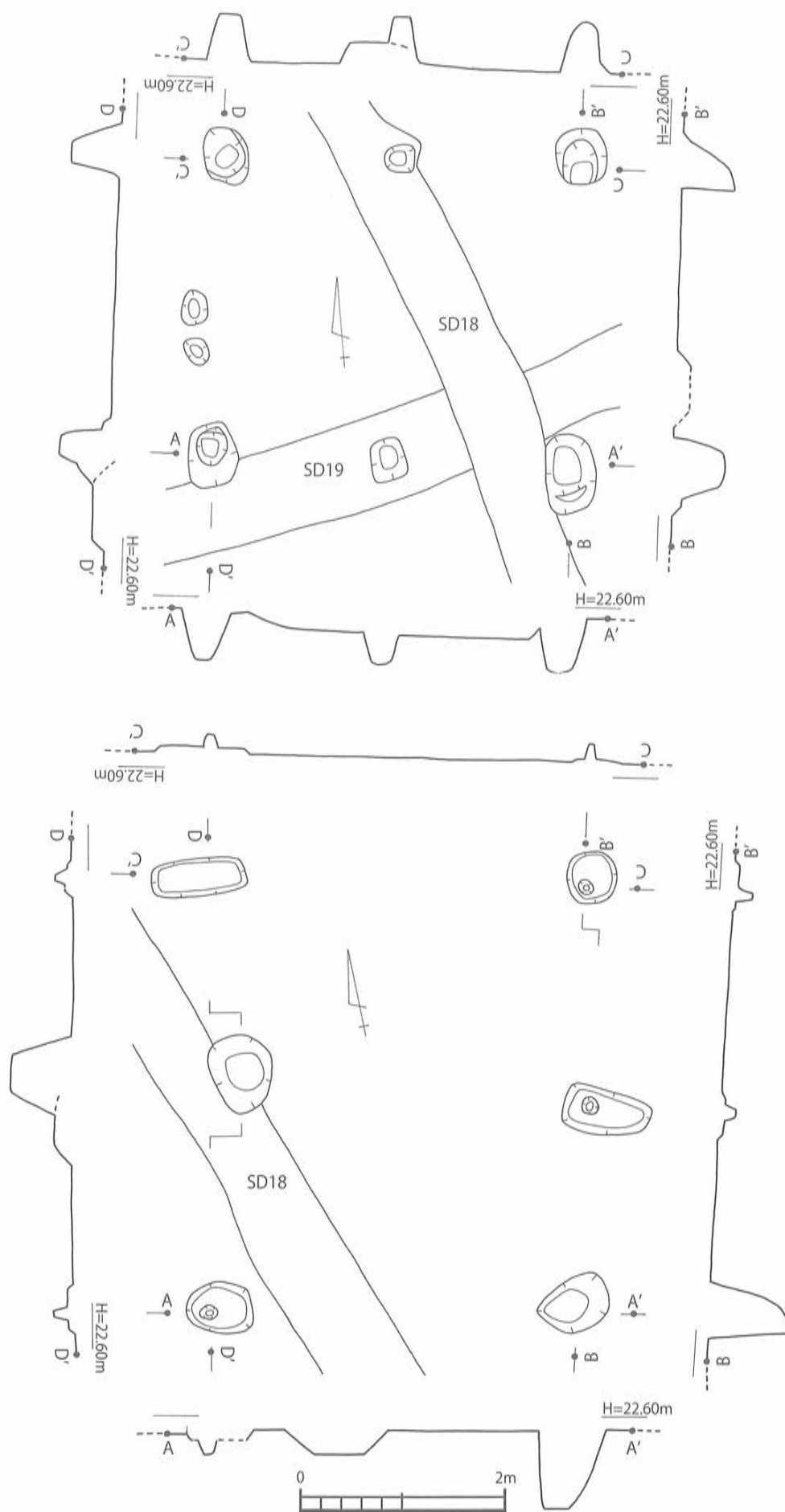
第 41 図 大坪 2 次 SB53 出土遺物

SB47 (第 44 図)

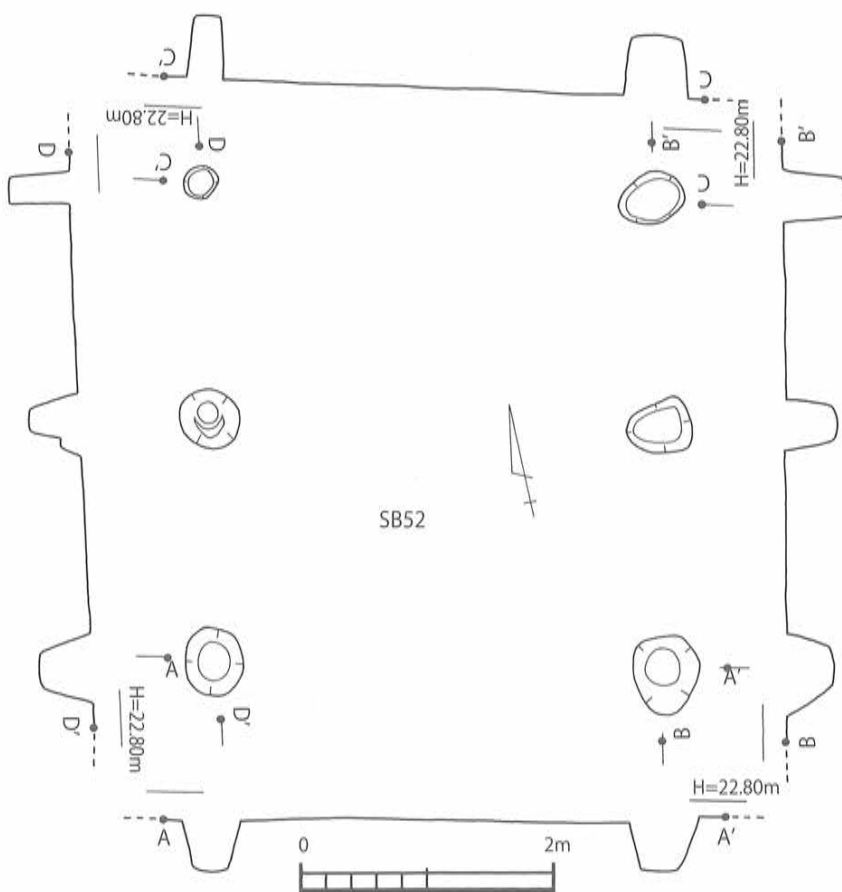
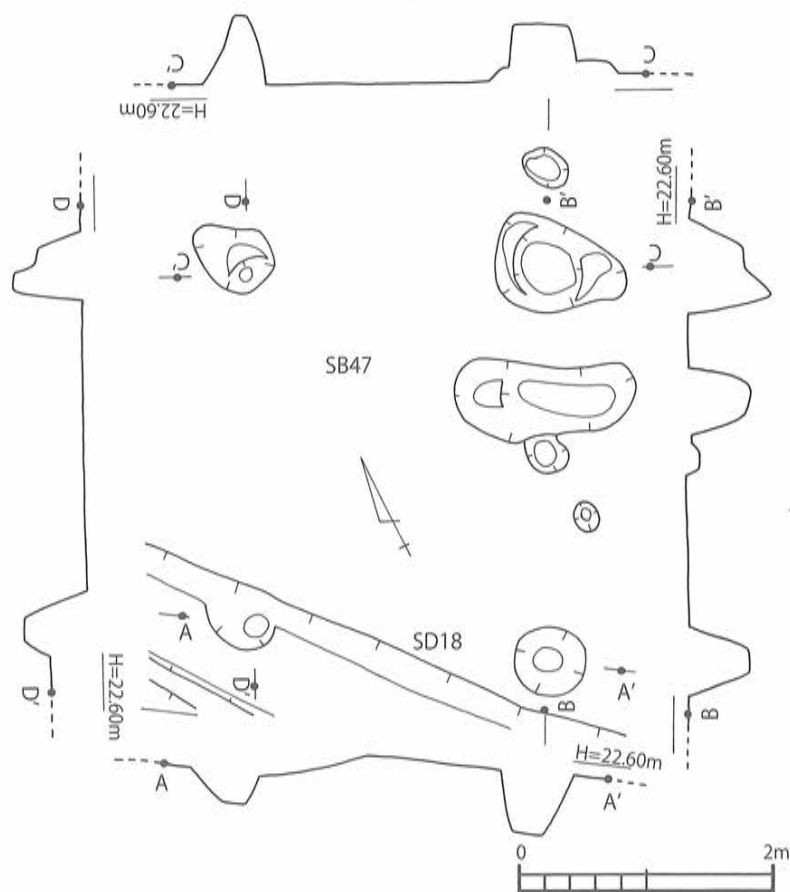
調査区東側で検出された掘立柱建物跡である。柱間は 1 間 × 1 間であり、建物南西端で SD18 と重なる。また、同じ SB18 に隣接する SB38 住居跡とほぼ長軸方向が一致する。長辺 2.8 m × 短辺 2.4 m である。なお、調査者によれば、時期は弥生時代後期とされている。



第 42 図 大坪 2 次 SB35・38 実測図 (S=1/60)



第 43 図 大坪 2 次 SB39・40 実測図 (S=1/60)



第44図 大坪2次 SB47・52 実測図 (S=1/60)

SB52 (第44図)

調査区東側付近で検出された建物跡である。長軸を南北方向にとる2間×1間の住居跡である。長辺約3.8m、短辺約3.6mの、正方形に近い平面形である。

SB53 (第45図)

調査区東側付近で検出された建物跡である。長軸を東北東-西南西方向にとる2間×1間の住居跡である。長辺約5.0m、短辺約3.8mの、長方形の平面形である。なお、調査者によれば、時期は弥生時代後期とされている。

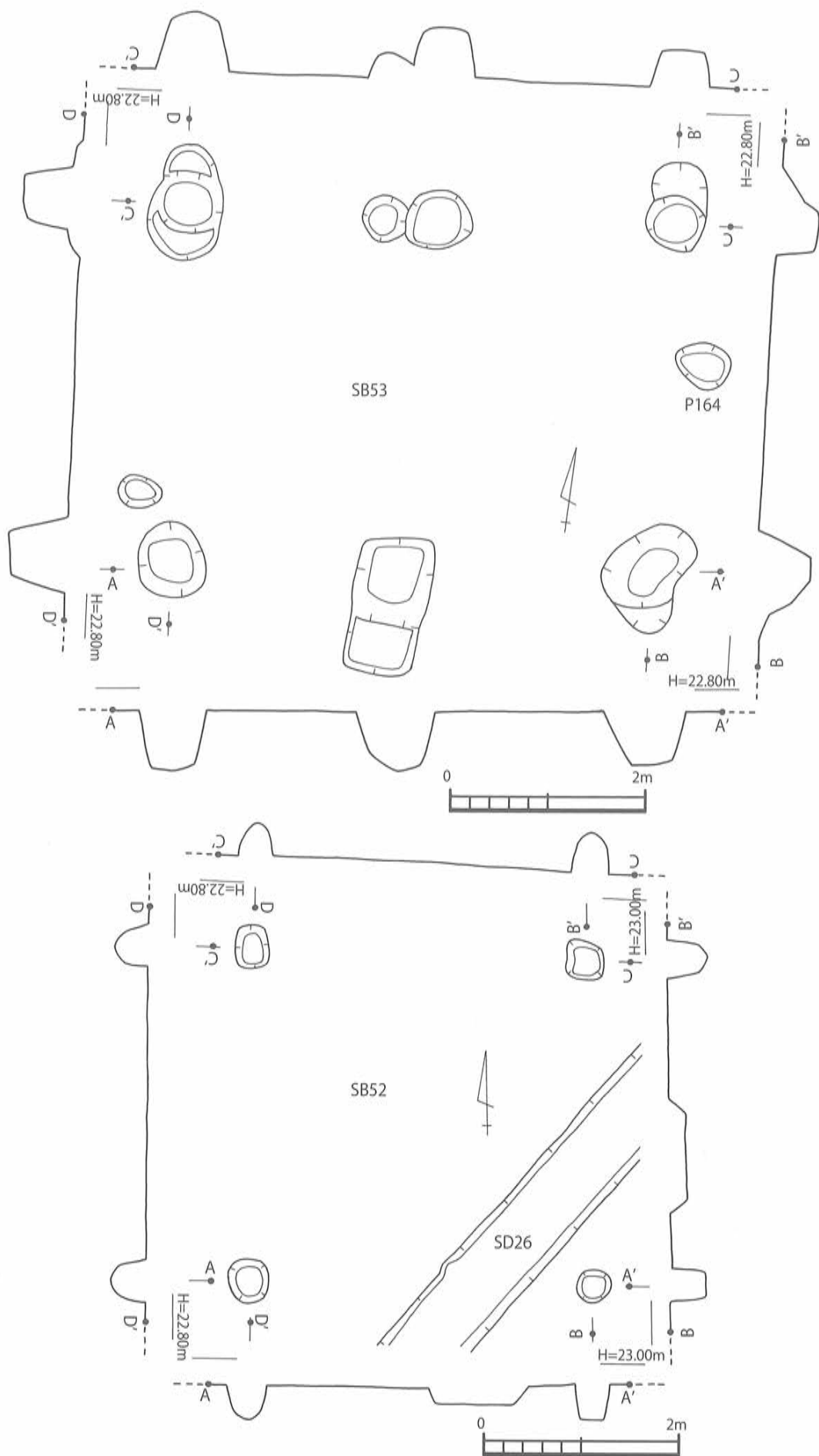
SB54 (第45図)

調査区東端付近で検出された建物跡である。長軸をほぼ東西方向にとる1間×1間の住居跡である。南東部分でSD26溝と重なっている。長辺約3.6m、短辺約3.5mの、ほぼ正方形の平面形である。なお、調査者によれば、時期は弥生時代後期とされている。

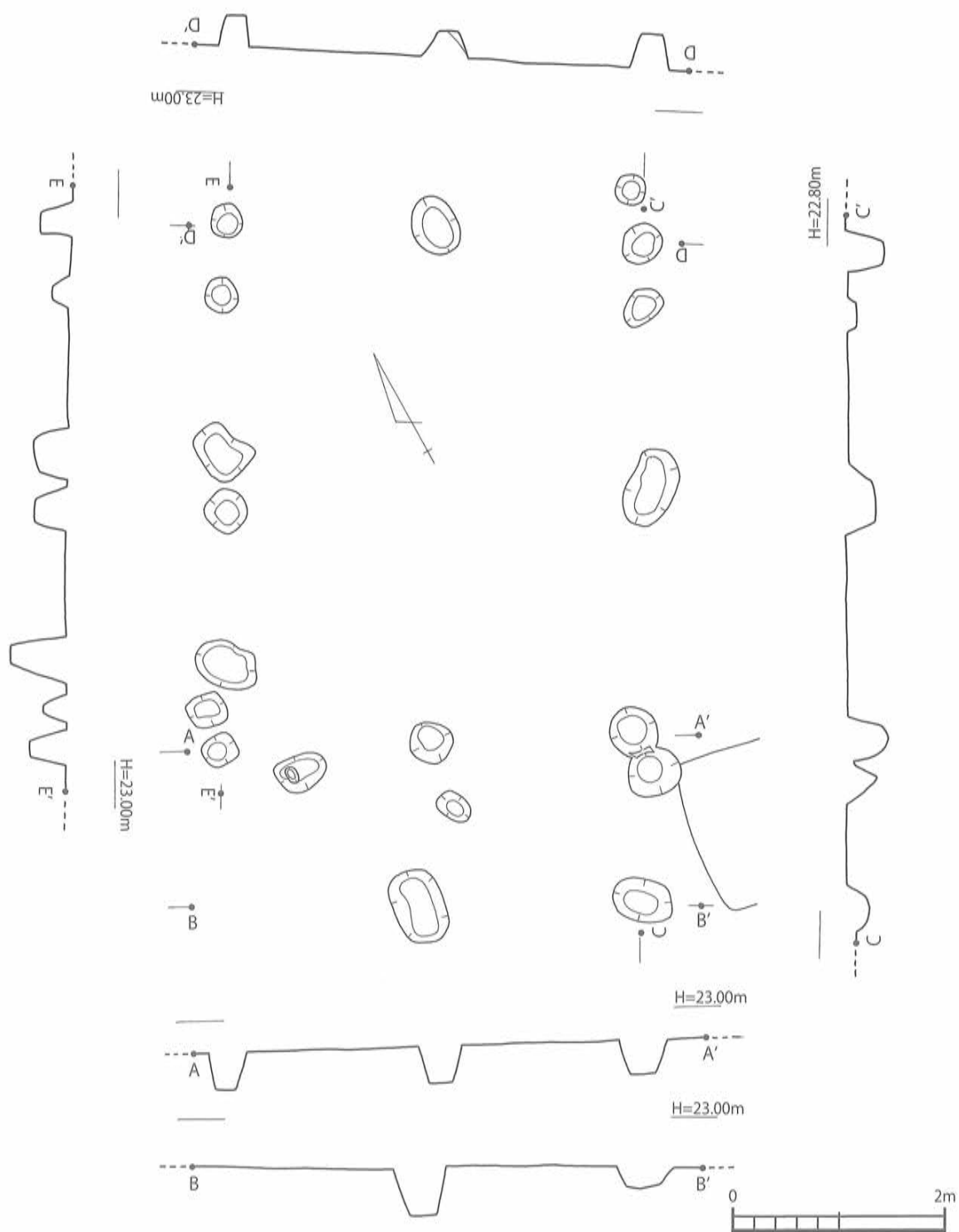
SB58 (第46図)

今回の整理作業時に建物跡の可能性のある柱穴列を検出し、それについて調査時の番号の連番であるSB58～60を付した。

SB58は調査区中央から東よりの、SB48とSB49との間で検出された掘立柱建物の可能性のある柱穴群である。長軸を北東-南西方向に持ち、2間×2間、も



第 45 図 大坪 2 次 SB53・54 実測図 (S=1/60)

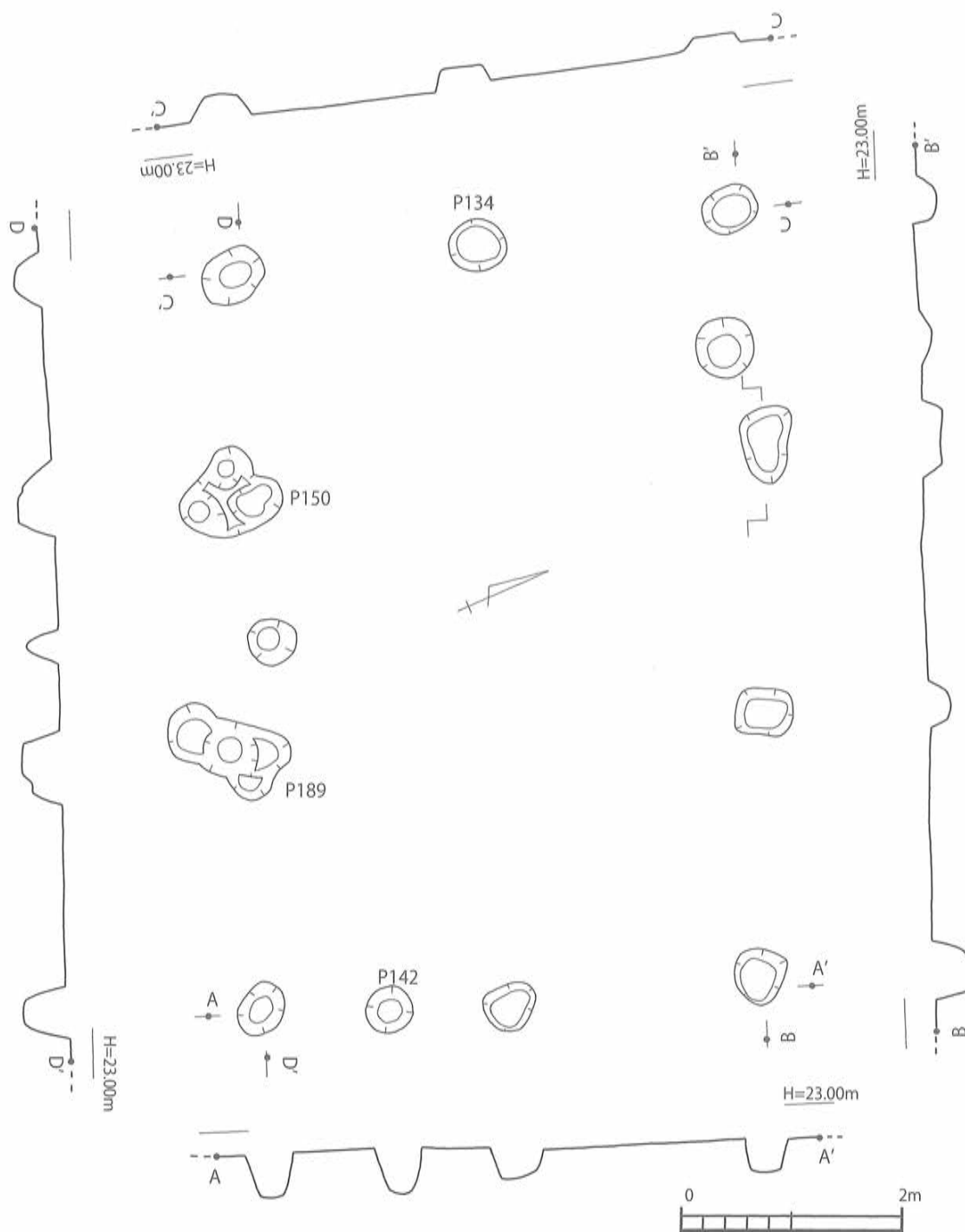


第46図 大坪2次 SB58 実測図 (S=1/60)

しくは柱穴を1箇所欠くが、2間×3間の建物跡であり、柱穴を欠く部分もあるが総柱の可能性もある建物跡である。柱穴間は長辺6.5m×4.5mである。

SB59 (第47図)

調査区東側の北端にある、掘立柱建物の可能性がある柱穴群である。後述するSB60ほぼ同一に存在する。平面形がややいびつでありやや不安が残るが、2間×3間の建物の可能性がある。長辺約6.5m、短辺約4.6mの長方形の平面形である。また、これが建物跡であるとすれば、調査時に検出されているSB56掘立て柱建物跡と長軸がほぼ直交する建物配置となる。時期は根拠を欠くが古代と思われる。



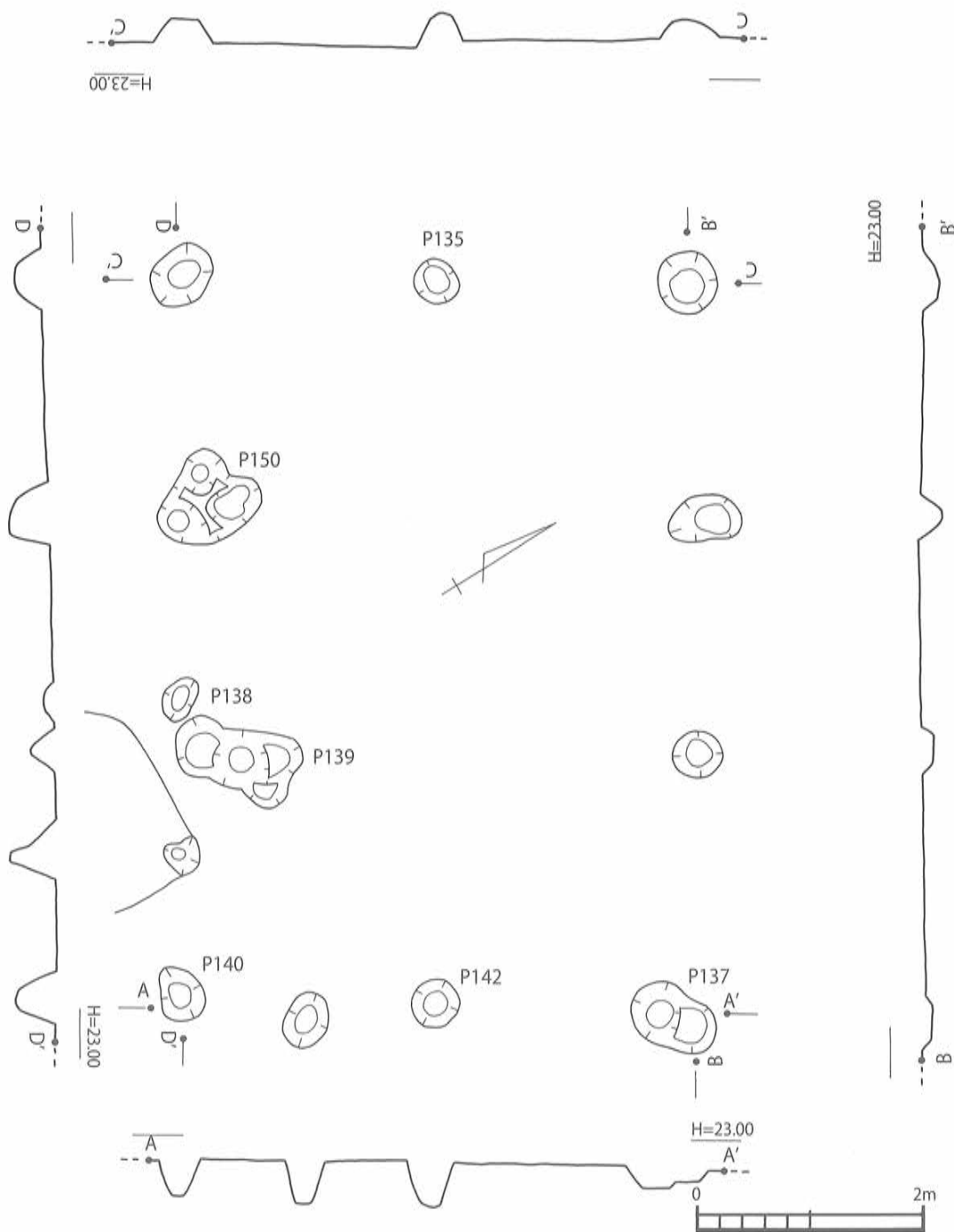
第47図 大坪2次SB59実測図 (S=1/60)

SB60 (第48図)

SB59 掘立柱建物跡をわずかに時計回りに回したような状況で検出した柱穴列である。長辺約 6.5 m、短辺約 4.6 mの長方形の平面形であり、同一箇所にも重なる SB59 とほぼ同一の平面形であり、柱穴が 1 か所同一箇所にも重なっている。これらの状況から、SB59 と SB60 は建て替え等による同一時代の所産である可能性が高いものと思われる。2 間 × 3 間という柱穴配置を考慮すると、SB59 と SB69 は古代 (平安時代) の所産である可能性が高いものと思われる。

⑤ 溝・ピット・土坑 (SD・P・SK) 出土遺物 (第4図、第49・50図)

その他の遺構より出土した遺物について第49図に示した。



第 48 図 大坪 2 次 SB60 実測図 (S=1/60)

⑥ 井戸 (S E)

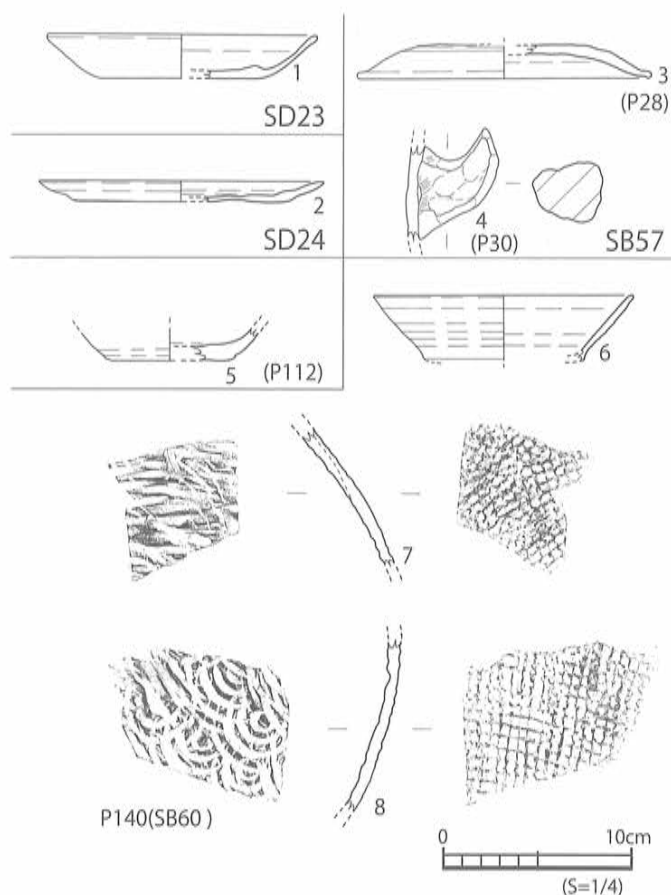
SE01 (第 4 図・第 51 図・図版 3-8)

調査区中央やや東寄りの地点で検出した井戸である。平面形は径約 115 c m のほぼ円形であり、出水の為 1 m 程しか掘り下げることが出来ず、深さ等の詳細は不明である。井戸からは完形に近い形で青磁が 8 点出土している (第 51 図)。

3) 縄文時代早期の遺構・遺物

① 集石遺構・押型文土器 (第 4 図・第 53 ~ 55 図)

大坪遺跡 2 次調査で発見された遺構・遺物の中で特筆されるのが、この押型文土器の大量出土である。概報によれば「表土を取り除いた状態で石組炉を 34 基確認することが出来た。」「一部に 3 m グリット (注：原文マ) を設定し掘り下げた結果、多量の押型文土器、黒曜石片、また石斧も出土している。」

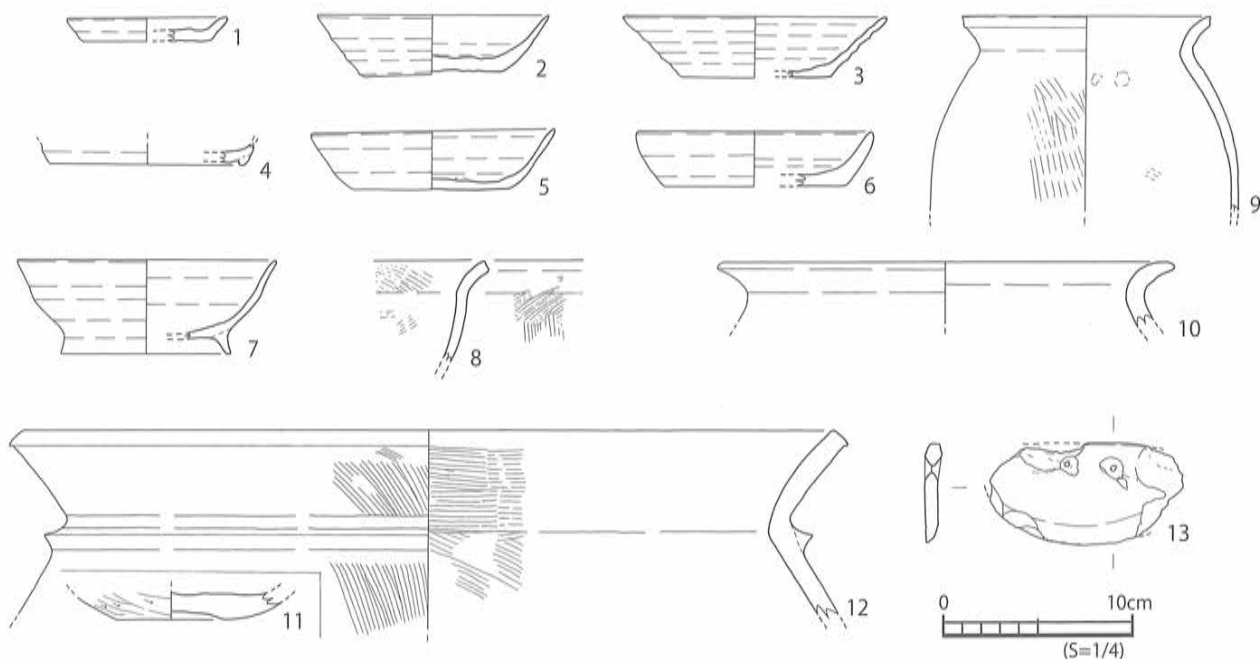


第49図 大坪2次溝・掘立柱建物跡出土遺物

とあり、「整理途中のため数ははっきりしないが数千点に及ぶと思われる」「なお未発掘地点は土盛により保存された」とのことである。今回報告のために実施した整理作業においても、整理箱4箱に詰め込まれた大量の押型文土器片と、整理箱1箱分の黒曜石片（チップ）を確認している。また、調査時に「石組炉」を撮影した写真を見ると、規格的に石を並べたものではなく、礫がまとまりを持って出土している状況が確認された。一部被熱等で赤化している礫がまとまって出土している状況確認できたため、本報告では「石組炉」ではなく「集石遺構」として報告する。

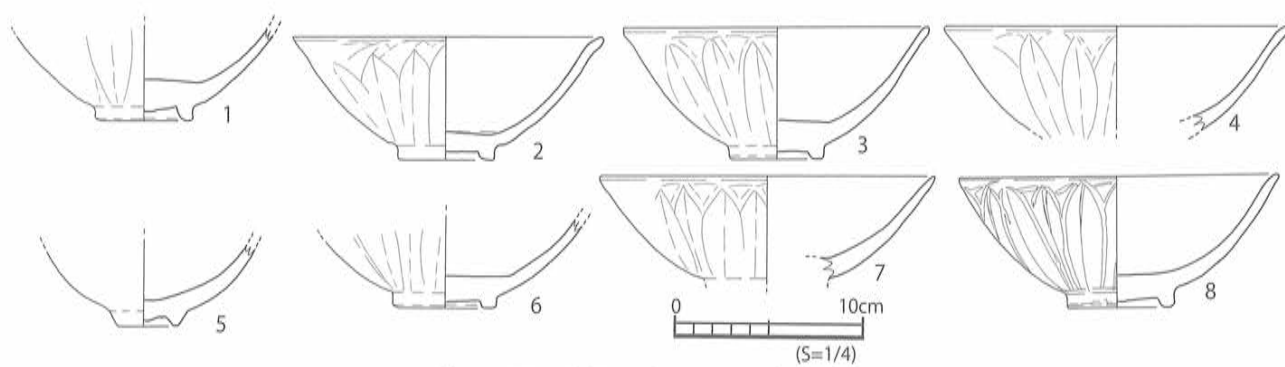
なお集石遺構は、特に個別の図面等の作成はなされていないが、調査区全体図に検出箇所の記載があったため、その個所を第4図に示した（図中に示した破線の○が集石遺構）。

また、押型文土器はその出土量が大量であるため、全てを図化することは困難であった。そのため、文様ごとに分類して集計し、第1表に示した。大坪遺跡2次調査で確認された

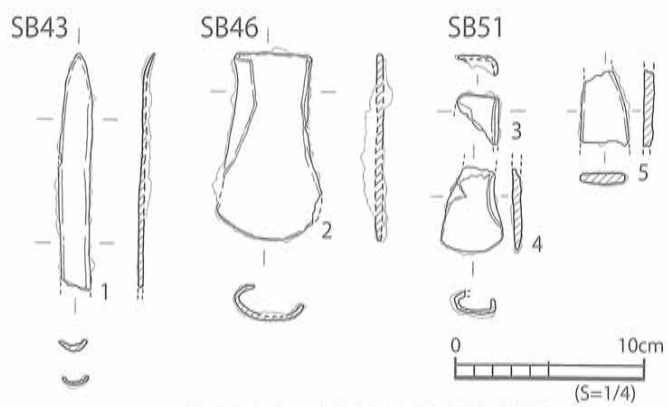


第50図 大坪2次ピット出土遺物

押型文土器の総数は、集計の結果、約100㎡の範囲で設定された深掘り区（グリッド）出土の押型文土器は657片、竪穴建物やピット・溝などの遺構中出土の押型文土器が1,179片であり、大坪遺跡第2次調査区では計1,836片の押型文土器が出土している。



第 51 図 大坪 2 次 S E 01 出土遺物



第 52 図 大坪 2 次鉄器実測図

第1表-1 大坪遺跡2次出土押型文土器集計表(出土グリッド別)

出 土 グリッド	文 様															小 計
	楕 円			波 形			線			格 子			不 明			
	口 縁 部	胴 部	底 部	口 縁 部	胴 部	底 部	口 縁 部	胴 部	底 部	口 縁 部	胴 部	底 部	口 縁 部	胴 部	底 部	
A-10	2	10	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	17
A-11	3	1	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	9
A-12	0	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	8
A-13	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
B-10	5	13	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	5	0	25
B-11	1	25	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	0	6	0	35
B-12	1	18	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	24
C-10	2	11	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	15
C-11	3	12	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0	21
C-12	4	17	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	24
D-8	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	13
D-9	1	11	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	15
D-10	2	14	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	22
D-11	3	10	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	15
D-12	4	7	2	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	19
D-13	4	17	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	23
E-8	4	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	18
E-9	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	7
E-10	8	17	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	28
E-11	7	24	2	1	8	0	0	1	0	0	0	0	1	10	0	54
E-12	0	7	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
E-13	3	7	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	21
F-8	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	4
F-9	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	8
F-10	0	6	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	10
F-11	1	26	0	0	6	0	0	4	0	0	0	0	0	4	0	41
F-12	7	45	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	5	0	61
F-13	2	20	3	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	30
G-8	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
G-9	1	8	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	12
G-10	0	9	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	15
G-11	0	7	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	11
G-12	4	14	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	22
G-13	5	10	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	19
総 計	84	403	14	13	40	1	1	19	0	0	2	0	2	78	0	657

第1表-2 大坪遺跡2次出土押型文土器集計表(出土遺構別集計)

出 土 箇 所	文 様															小 計
	楕 円			波 形			波 形			波 形			その他			
	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	口縁部	胴部	底部	
SB18	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
SB42	6	17	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	5	0	32
SB44	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SB45	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SB48	8	51	2	1	2	0	0	1	0	0	0	0	2	13	1	81
SB49	50	279	4	1	28	1	2	7	0	0	0	0	11	74	1	458
SB50	21	67	1	1	2	0	3	10	1	0	0	0	1	25	4	136
SB51	17	41	3	1	8	0	0	1	0	0	0	0	3	15	0	89
SB52	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	10
SB53	11	22	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	43
SE01	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SX07	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SD20	13	70	0	0	6	0	0	2	0	0	0	0	3	13	1	108
SD26	4	28	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	40
SD28	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
SK44	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
SK47	1	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	6	0	13
SK48	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
SK49	5	12	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	4	0	26
SK50	12	49	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	12	2	84
SK51	4	12	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	24
SK52	0	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	7
SK53	1	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	7
SK54	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
その他	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
総 計	157	681	10	8	66	1	6	24	1	0	0	0	23	192	10	1179

6) 小結

以上、大坪遺跡第2次調査の成果について報告した。大坪遺跡第2次調査地は、標高約23mの、矢部川の北側に広がる平野部中の微高地に位置しており、現在でも現地に立つと周辺は1キロ以上遠くまで見晴らすことができる場所である。

大坪遺跡第2次調査では、弥生時代後期・古代（平安時代）の集落跡が発掘調査により発見された。このことから、旧八女市南西部においても長い人々の生活の営みが残されている状況が、また一段と明らかになってきた。

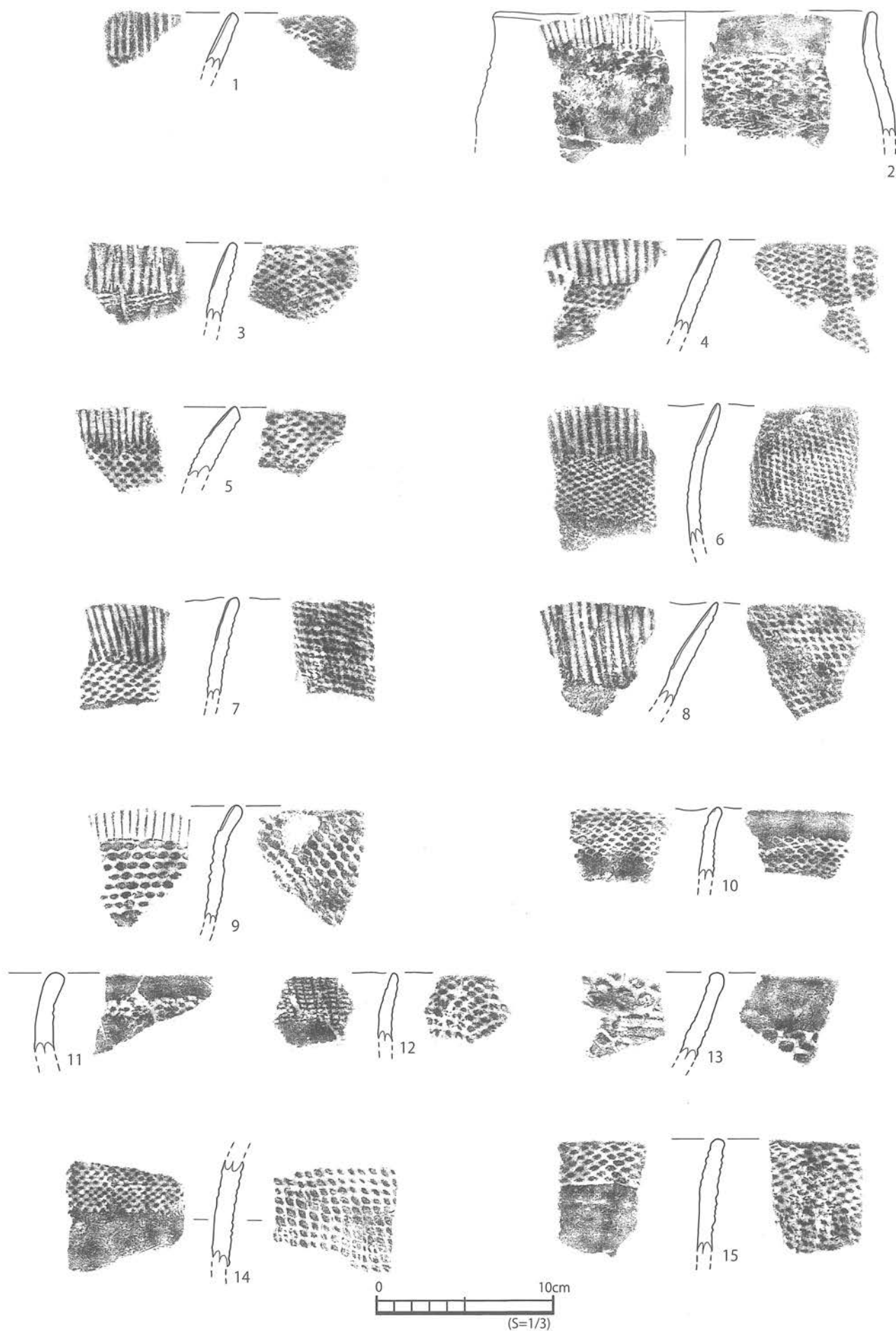
これらの時代については、周辺の圃場整備事業関連で実施された発掘調査でも、同時期ないしその前後の時期の遺構・遺物が発見されており、後述する篠原遺跡でも同様の時期の遺構・遺物が発見されている。また、これ以外にも多くの遺構・遺物が発掘調査により発見されているので、八女南部地区圃場整備事業関連の発掘調査成果だけでも、各時代の八女市の状況が、より鮮明になってくることが期待される。それらの発掘調査の成果を併せて分析することにより、旧八女市南西部の弥生時代の状況がより鮮明に浮かび上がってくることが期待される。

弥生時代後期では、建物跡・溝等の集落域の状況が明らかとなると共に、一部で木棺墓の可能性がある土坑墓も検出され、集落域のみならず墓域も一部で状況が明らかとなった。

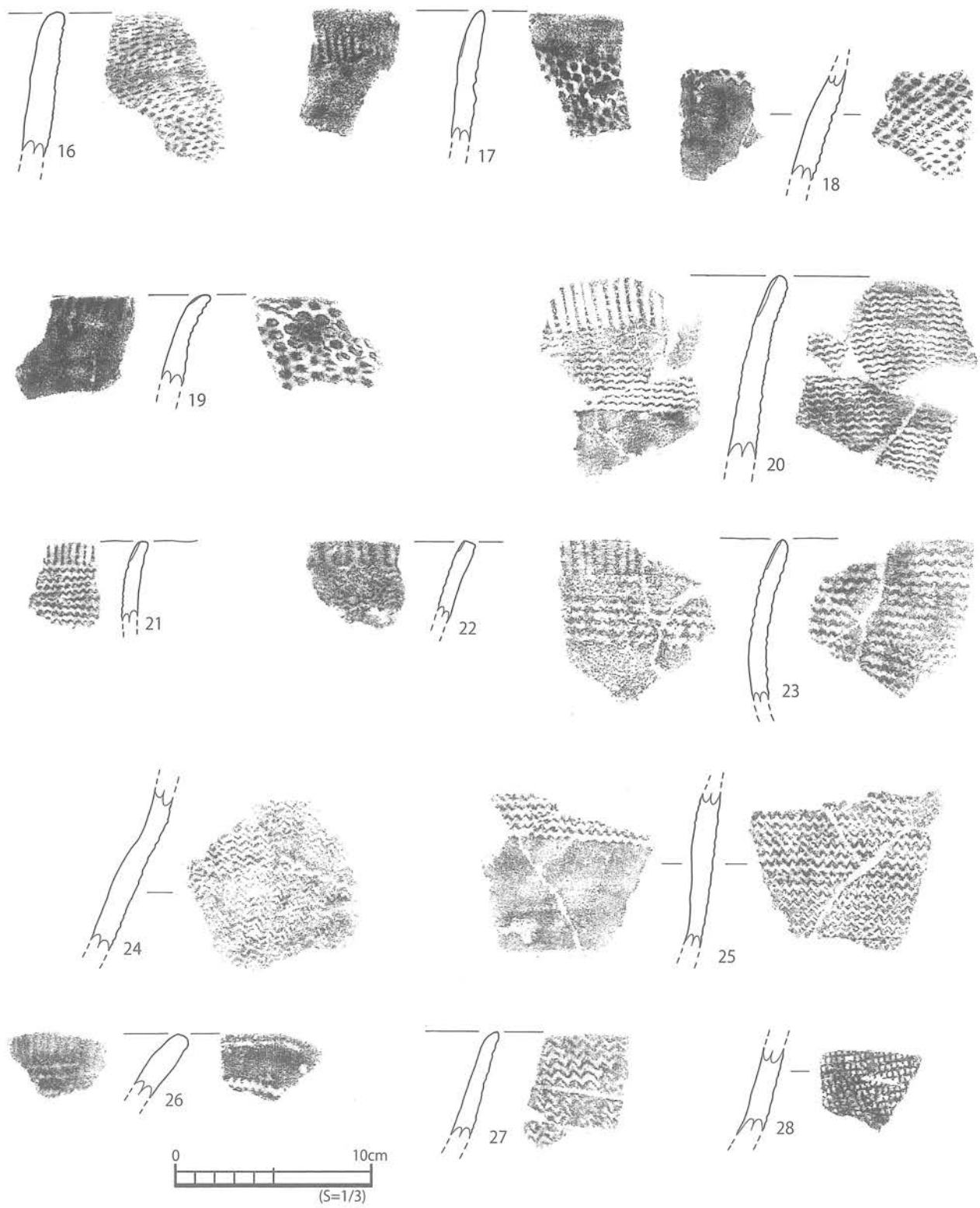
また、何より大坪遺跡第2次調査で特筆されるのは、調査はごく一部のみであるにもかかわらず、1,000点を超える大量の押型文土器の出土があり、集石遺構が30基以上発見される等、縄文時代早期の遺構・遺物が相当量まとまって発見された点である。このように大量に縄文時代早期の遺物が出土する例は八女市のみならず南筑後地域でも例が少なく、たいへん貴重な発見と言える。

大坪遺跡2次調査地周辺の旧地形は、平野中の微高地であったものと思われ、ランドマークとしても、周辺では見晴らしの良い場所であったものと思われる。この大坪遺跡2次調査地点が縄文時代早期の人々にとって、八女市および南筑後地域でも有数のキャンプ地として機能していたことを示唆するものであろう。恐らく、狩猟・採集等の遊動生活を送っていた人々が冬支度等の理由で定期的に集まるキャンプ地が、この八女市西部の大坪遺跡第2次調査地に存在していたということを想定しても差し支えないものと思われる。

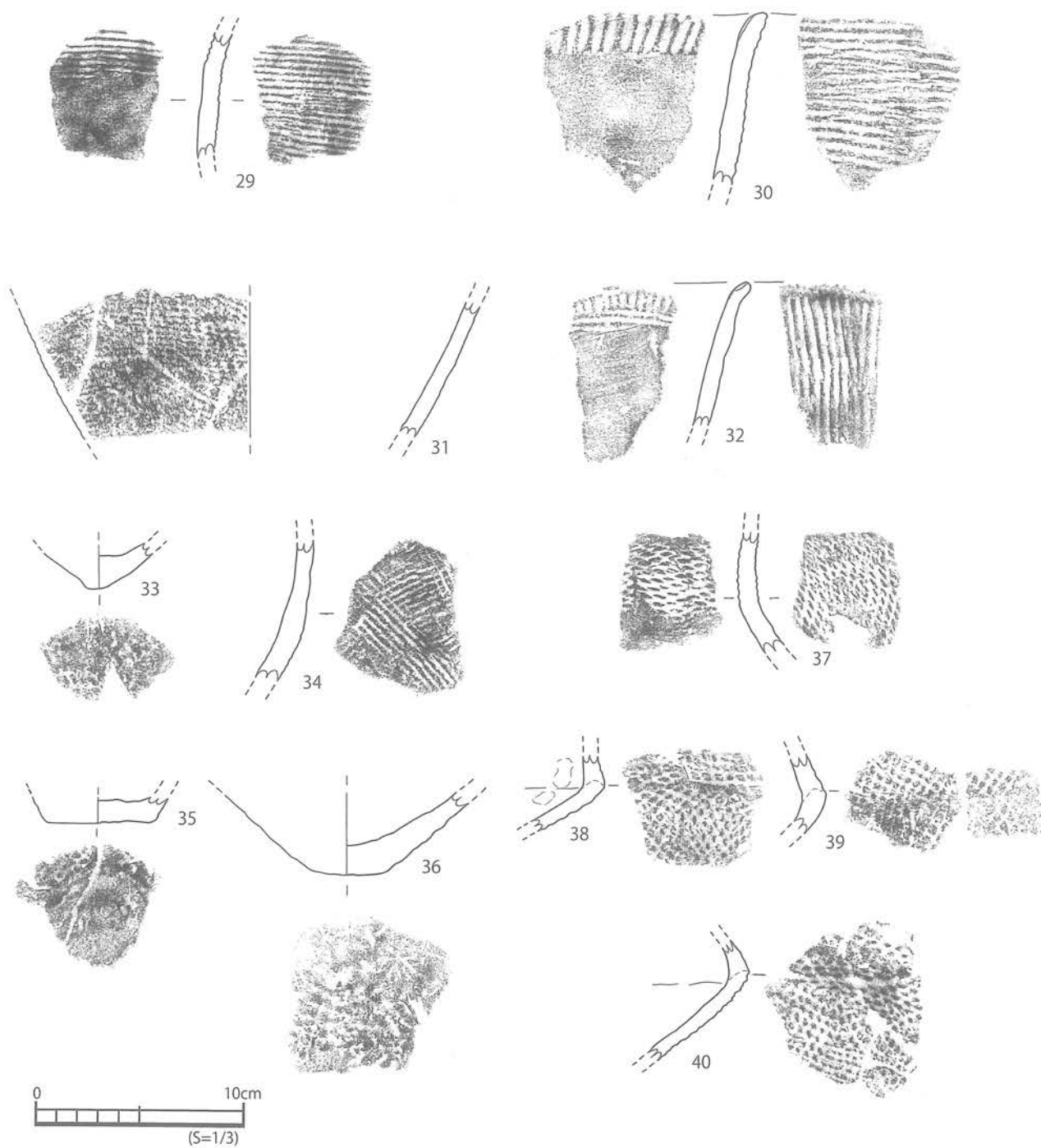
最後に、繰り返しになるが、大坪遺跡第2次調査の遺構・遺物について、縄文時代早期の層は一部の調査にとどめ、盛土による現地保存がなされている。したがって、平成27年現在も当該地には縄文時代早期の八女市を知る上でたいへん重要な遺構・遺物が埋蔵され保存されている状態である。今後も当該地における開発等には十分な注意を要することを、再度述べておきたい。



第 53 图 大坪 2 次押型文土器実测图 1



第 54 図 大坪 2 次押型文土器実測図 2



第 55 図 大坪 2 次押型文土器実測図 3

第2表 大坪遺跡第2次調査出土土器観察表

持回番号	出土地点	器形	焼成	色調 (外面/内面)	胎土	成形・整形手法等	寸法		備考(種類・残存等)	実測図 番 号
							口径(底径)	残存高		
第6図1	S B 37	高坏	軟質	黄褐 / 淡橙	精良 (a)	丁寧なナリ後ナリ。脚部穿孔4箇所。	11.6 (8.0)	8.8	古式土師器。	R44
第6図2	S B 37	器台	軟質	橙 / 赤褐	砂礫含 (a)	ナリ後ナリ。	5.2	5	上半部残存。	R88
第6図3	S B 37	高坏	軟質	赤褐 / 黒褐	砂礫多 (a)	ナリ後ナリ。	(20.0)	15.5	脚部のみ残存。	R46
第6図4	S B 37	鉢	軟質	黄褐 / 淡黒褐	砂礫含 (a)	内外共にナリ。	21.8	11.0	底部を欠く。	R41
第6図5	S B 37	鉢	軟質	黄褐 / 淡黒褐	砂礫少 (a)	内外共に丁寧なナリ。頸部内面ナリ。	12.0	5.5	上半部残存。古式土師器?	R85
第6図6	S B 37	甕	軟質	黄褐 / 淡黒褐	砂礫含 (a)	内外共に丁寧なナリ。	(8.0)	2.0	底部のみ残存。	R89
第6図7	S B 37	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外共にナリ。	(7.4)	5.2	底部のみ残存。	R90
第6図8	S B 37	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外共にナリ。	(6.4)	8.0	底部のみ残存。	R91
第9図1	S B 41	高坏	軟質	黄白 / 黄白	砂礫含 (a)	ナリ後口縁部ナリ。	27.0	6.0	坏部のみ残存。	R70
第9図2	S B 41	高坏	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にナリ。内面ナリ痕あり。	—	12.0	脚部のみ残存。	R131
第9図3	S B 41	高坏	軟質	暗黄褐 / 暗黄褐	砂礫少 (a)	内外面共にナリ。内面ナリ痕あり。	—	10.8	脚部のみ残存。	R130
第9図4	S B 41	甕	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫少 (a)	内外面共にナリ後丁寧なナリ。	25.4	9.0	上半部のみ残存。	R73
第9図5	S B 41	甕	軟質	褐 / 黄褐色	砂礫含 (a)	内外面共にナリ。	22.0	9.4	上半部のみ残存。外面スス付着。	R84
第9図6	S B 41	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫少 (a)	内外面共にナリ。外面に一部工具ナリ痕。	15.8	15.0	上半部のみ残存。外面スス付着。	R74
第9図7	S B 41	甕	軟質	淡黄白 / 淡黄白	砂礫含 (b)	外面ナリ、内面ナリ後ケズリ。	13.8	6.5	古式土師器(混入?)。	R72
第9図8	S B 41	甕	軟質	暗黄褐 / 黄褐	砂礫含 (c)	内外面共にナリ。	(7.4)	5.0	底部内面にコナリ付着。	R69
第9図9	S B 41	甕	軟質	黒褐 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面共にナリ後丁寧なナリ。	(7.0)	5.5	内面指頭圧痕あり。外面スス付着。	R71
第11図1	S B 42	甕	軟質	黄褐 / 淡黄褐	砂礫少 (a)	内外面共にナリ。口縁部ナリ。	20.2	9.8		R121
第11図2	S B 42	甕	軟質	赤褐 / 赤褐	砂礫少 (a)	内外面共に丁寧なナリ。	20.8	5.5	小片。	R59
第11図3	S B 42	甕	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面共にナリ。	20.8	14.6	外面スス付着。	R122
第11図4	S B 42	甕	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にナリ。口縁部ナリ。	—	5.4	小片で径不明。	R65
第11図5	S B 42	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にナリ。口縁部ナリ。	16.2	14.0	黒斑有。外面スス付着。	R49
第11図6	S B 42	甕	軟質	黄褐 / 黄白	砂礫含 (b)	内外面共にナリ。口縁部ナリ。	29.2	9.2		R61
第11図7	S B 42	甕	軟質	黄褐 / 黄白	砂礫含 (b)	内外面共にナリ。口縁部ナリ。	25.6	11.9	外面スス付着。11図9と同一個体?	R48
第11図8	S B 42	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にナリ。口縁部ナリ。	23.0	21.5	外面スス付着。	R159
第11図9	S B 42	甕	軟質	黄褐 / 黄白	砂礫含 (b)	内外面共にナリ。口縁部ナリ。	28.0	16.7	外面スス付着。11図7と同一個体?	R164
第11図10	S B 42	甕	軟質	淡赤褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に丁寧なナリ。	(11.2)	4.3	外面は被熱により赤化。	R64
第11図11	S B 42	甕	軟質	淡赤褐 / 黒褐色	砂礫含 (a)	内外面共にナリ後丁寧なナリ。	(7.5)	3.3	外面全面にスス付着。	R53
第11図12	S B 42	甕	軟質	黄褐 / 暗黄白	砂礫多 (a)	外面ナリ、底部外面工具ナリ、内面指ナリ。	(7.7)	5.1	窓か。	R56
第11図13	S B 42	甕 or 壺	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面共にナリ。内面指圧痕あり。	(6.4)	5.9	黒斑有。	R62
第11図14	S B 42	甕	軟質	淡赤褐 / 淡黄褐	砂礫多 (a)	内外面共にナリ。	(6.4)	10.5	外面被熱により赤化。	R55
第12図1	S B 42	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫多 (a)	内外面共にナリ。	26.0	30.0	外面スス付着。黒斑有。	R199
第12図2	S B 42	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫多 (a)	内外面共にナリ。	(7.4)	19.0	外面スス付着。黒斑有。	R198
第13図1	S B 42	鉢	軟質	橙 / 橙	砂礫少 (a)	外面ナリ後ナリ、内面指ナリ。	6.9	6.8	古式土師器?。1/2 残存。	R60
第13図2	S B 42	高坏	軟質	黄白 / 黄白	砂礫多 (a)	内外共にナリ。	—	5.0	坏部小片。	R63-66
第13図3	S B 42	高坏	軟質	黒褐 / 淡黄褐	砂礫多 (a)	外面ナリ・内面丁寧なナリ。	—	3.5	坏部小片。	R67
第13図4	S B 42	壺	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともに丁寧なナリ。	15.8	5.1	※上下逆で高坏脚部の可能性もある。	R58
第13図5	S B 42	壺	軟質	赤褐 / 淡黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともにナリ。	16.0	11.8	頸部に板状工具による刻目文有。	R199
第13図6	S B 42	壺	軟質	淡橙 / 淡赤褐	砂礫多 (a)	内外面ともにナリ。	—	28.4	頸部と胴部中央に突帯。	R198
第15図1	S B 43	鉢	軟質	黄白 / 黄白	砂礫多 (a)	内外面ともにナリ後丁寧なナリ。	9.4	8.5	黒斑有。	R99
第15図2	S B 43	壺	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫少 (a)	外面ナリ後ナリ、口縁部ナリ、内面ケズリ。	9.1	10.0	土師器(混入?)。	R123
第15図3	S B 43	器台	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫多 (a)	外面ナリ、内面ナリ。	15.4	13.3	下半部被熱により赤化。	R83
第15図4	S B 43	器台	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫少 (a)	外面工具ナリ後ナリ。内面ナリ。	16.7(17.6)	20.4	ほぼ完形。	R80
第15図5	S B 43	高坏	軟質	黄白 / 黄白	砂礫少 (a)	内外面ともに丁寧なナリ。	26.2	7.0	坏部のみ小片残存。	R125
第15図6	S B 43	壺	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともにナリ後胴部内面ナリ。	19.5	22.6	頸部に突帯2条。	R196
第15図7	S B 43	壺	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫多 (a)	内外面共にナリ後部分ナリ。	16.0	32.0	口縁部に刻目、胴部中央に刻目突帯1条。ほぼ完形。	R174
第15図8	S B 43	壺	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫多 (a)	内外面共にナリ後部分ナリ。	14.8	31.0	頸部・胴部中央に刻目突帯各1条。胴部上半に沈線の線刻有。ほぼ完形。	R175
第16図1	S B 43	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともにナリ、口縁部ナリ。	—	8.8	小片。	R51
第16図2	S B 43	甕	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫少 (a)	内外面ともにナリ、口縁部ナリ。	17.2	6.0	丁寧なナリ仕上げ。外面スス付着。	R50
第16図3	S B 43	甕	軟質	暗赤褐 / 暗黄褐	砂礫多 (a)	ナリ後内外面ともにナリ、口縁部ナリ。	28.0	15.3	左上がりタタキ残存。	R167
第16図4	S B 43	甕	軟質	黄褐 / 淡黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともにナリ、口縁部ナリ。	24.2	10.5		R52
第16図5	S B 43	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともにナリ、口縁部ナリ。	25.0	23.0	外面スス付着。	R195

第2表 大坪遺跡第2次調査出土土器観察表

挿図番号	出土地点	器形	焼成	色調 (外面/内面)	胎土	成形・整形手法等	寸法		備考(種類・残存等)	実測図 番 号
							口径(底径)	残存高		
第16図6	S B 43	甕	軟質	黄褐/黄白	砂礫多(a)	内外面ともにナナ	(7.5)	3.3	底部片。外面双、内面ナナ付着。外面被熱により赤化。	R197
第16図7	S B 43	甕	軟質	黄褐/暗褐	砂礫多(a)	内外面ともにナナ後ナナ	(8.9)	4.9	底部片。外面双付着。外面被熱により赤化。	R78
第16図8	S B 43	甕	軟質	黄褐/淡黄褐	砂礫多(a)	外面工具によるナナ、内面摩耗により不明。	(8.3)	4.7	底部片。外面双付着。外面被熱により赤化。	R54
第16図9	S B 43	甕	軟質	暗黄褐/暗黄褐	砂礫多(a)	内外面共にナナ	(8.2)	18.1	下半部残存。黒斑有。外面双付着。	R82
第16図10	S B 43	壺 or 甕	軟質	橙/橙	砂礫少(a)	内外面共にナナ	(6.1)	8.9	下半部残存。壺か? 黒斑有。	R57
第16図11	S B 43	甕	軟質	淡赤褐/黄褐	砂礫多(a)	内外面共にナナ後ナナ	(7.2)	13.6	下半部残存。双付着。外面被熱により赤化。	R163
第16図12	S B 43	甕	軟質	黄褐/淡橙	砂礫多(a)	内外面共にナナ後ナナ	(7.6)	11.5	外面双付着有。	R75
第16図13	S B 43	甕	軟質	淡橙/黄褐	砂礫多(a)	内外面共にナナ後ナナ	17.6(10.2)	14.1	小型の脚付甕。底部に黒斑有。	R124
第16図14	S B 43	甕	軟質	黄褐/黄褐	砂礫多(a)	内外面共にナナ後ナナ	16.1(10.4)	26.4	脚付甕。1/2 残存。外面双付着。黒斑有。	R170
第18図1	S B 44	甕	軟質	黄白/黄白	砂礫多(a)	内外面共にナナ後丁寧なナナ	27.4	9.4	黒斑有。口縁部双付着。	R120
第18図2	S B 44	甕	軟質	淡黄褐/淡黄褐	砂礫多(a)	内外面共にナナ後ナナ	30.0	13.5	約 1/6 残存。	R126
第19図1	S B 44	鉢	軟質	橙/橙	砂礫少(a)	外面ナナ後ナナ、内面丁寧なナナ	7.4(3.9)	8.5	ほぼ完形。	R76
第19図2	S B 44	鉢	軟質	黄褐/黄褐	砂礫含(a)	内外面ともにナナ後部分ナナ	11.2	11.0	ほぼ完形。	R176
第19図3	S B 44	鉢	軟質	黄褐/黄褐	砂礫含(d)	外面工具によるナナ、内面ナナ、口縁部コナナ	14.6	6.4	小片。黒斑有。	R87
第19図4	S B 44	壺	軟質	黄褐/黄褐	砂礫少(a)	内外共にナナ後丁寧なナナ	—	5.3	二重口縁壺口縁部小片。	R86
第19図5	S B 44	壺	軟質	黄褐/暗黄褐	砂礫含(a)	内外共にナナ後丁寧なナナ	—	R93	二重口縁壺口縁部小片。	R93
第19図6	S B 44	壺	軟質	淡赤褐/淡赤褐	砂礫多(a)	外面ナナ後ナナ、内面工具ナナ後丁寧なナナ	18.2	7.5	直口壺口縁部。	R42
第19図7	S B 44	器台	軟質	淡橙/淡橙	砂礫多(a)	外面ナナ、内面ナナ後ナナ	(9.5)	8.0	上部に穿孔有。約 1/2 残存。	R77
第19図8	S B 44	器台	軟質	淡橙/淡橙	砂礫含(d)	外面縦方向ナナ、内面ナナ(指圧痕あり)	12.3(15.6)	18.0	脚部約 1/2 を欠く。	R94
第19図9	S B 44	高坏	軟質	黄白/黄白	砂礫少(a)	内外面ともにナナ後丁寧なナナ	31.0	3.6	坏部小片。	R127
第19図10	S B 44	高坏	軟質	淡橙/淡橙	砂礫含(a)	内外面ともにナナ後丁寧なナナ。内面放射状ナナも。	30.0	4.3	坏部約 1/2 残存。	R129
第22図1	S B 45	壺	軟質	黄褐/黄褐	砂礫含(a)	内外面ともにナナ	(5.6)	8.2	下半部はほぼ完形残存。	R81
第22図2	S B 45	器台	軟質	黄褐/淡赤褐	砂礫含(a)	外面ナナ、内面ナナ後ナナ	13.4	5.7	小片。内面被熱による赤化。	R104
第22図3	S B 45	器台	軟質	淡赤褐/淡赤褐	砂礫含(a)	外面ナナ、内面ナナ後ナナ	17.0	8.7	下半部約 2/3 残存。	R95
第22図4	S B 45	高坏	軟質	橙/橙	砂礫含(a)	内外面ともにナナ。やや摩耗。	28.2	4.3	坏部のみの小片。	R105
第22図5	S B 45	高坏	軟質	淡黄橙/淡黄褐	砂礫少(a)	内外面ともにナナ後ナナ。内面ナナナ痕有。	(18.4)	16.4	脚部のみほぼ完形。	R166
第22図6	S B 45	甕	軟質	淡黄褐/淡黄褐	砂礫含(a)	外面ナナ、内面ナナ	8.0	5.0	小片。	R108
第22図7	S B 45	甕	軟質	暗黄褐/暗黄褐	砂礫含(a)	内外面ともにナナ	7.7	15.7	約 1/6 残存。	R96
第22図8	S B 45	甕	軟質	黄褐/黄褐	砂礫含(a)	内外面ともにナナ	12.0	7.0	小片。	R106
第22図9	S B 45	甕	軟質	淡黄褐/淡黄褐	砂礫含(a)	内外面ともにナナ	13.8	10.8	約 1/5 残存。	R109
第23図1	S B 46	手づくね土器	軟質	淡橙/淡橙	砂礫少(不明)	手づくねによる成形。	5.9	3.0	ほぼ完形残存。	R112
第23図2	S B 46	高坏	軟質	橙/淡黄褐	砂礫含(a)	外面工具ナナ成形後丁寧なナナ整形。内面は丁寧なナナ。	7.0	6.8	穿孔は4箇所。約 1/4 残存。脚部を欠く。	R100
第23図3	S B 46	器台	軟質	黄褐/暗黄褐	砂礫含(a)	外面ナナ後ナナ。内面丁寧なナナ	13.0	6.7	小片。	R107
第23図4	S B 46	甕	軟質	黄褐/黄褐	砂礫含(a)	内外面共にナナ	24.0	5.2	小片。	R111
第23図5	S B 48	器台	軟質	黄褐/黄褐	砂礫多(a)	内外面共にナナ	16.2(15.6)	19.7	外面上半は被熱により赤化。	R79
第23図6	S B 48	器台	軟質	橙/赤褐	砂礫多(a)	外面工具ナナ後ナナ、内面ナナ後ナナ	(16.2)	15.3	内面指圧痕有。	R168
第23図7	S B 48	甕	軟質	灰/灰	精良	内外面共にタタキ成形。	—	4.5	胴部小片。	R97
第23図8	S B 48	甕	軟質	灰/灰	精良	内外面共にタタキ成形。	—	9.0	胴部小片。	R191
第25図1	S B 49	鉢	軟質	暗黄褐/暗黄褐	砂礫多(a)	内外面ともにナナ。黒斑有。	16.2	6.2		R47
第25図2	S B 49	鉢	軟質	黄褐/黄褐	砂礫多(a)	脚付鉢。	22.9	12.1	脚部を欠く。片口有。	R68
第25図3	S B 49	壺	軟質	黄褐/黄褐	砂礫多(a)	外面ナナ後ナナ・ナナ。内面ナナ。	16.0(3.5)	31.4	二重口縁壺。黒斑有。頸部に突帯1条。	R160
第31図1	S K 43	甕	軟質	黄褐/黄褐	砂礫多(a)	内外面共にナナ。口縁部コナナ	14.5	10.8	小片。口縁部付近被熱により赤化。	R40
第31図2	S K 43	甕	軟質	淡橙/淡橙	砂礫多(a)	内外面ともにナナ後ナナ	17.8(6.0)	21.2	約 1/2 残存。	R45
第36図1	S B 51	高台付坏	軟質	淡灰/黄褐	精良	回転ナナ後底部回転ナナ切り、高台添付。	16.4(10.1)	5.0	約 2/3 残存。須恵器だが、焼きが甘い。	R37
第36図2	S B 51	坏	軟質	橙/橙	砂礫少	回転ナナ整形、切離し後底部手持ちナナナリ。	17.9	2.7	ほぼ完形残存。	R39
第36図3	S B 51	坏	軟質	黄白/黄白	砂礫少	回転ナナ整形後底部ナナ	17.4	2.15	約 2/3 残存。	R38
第41図1	S K 53	甕	軟質	赤褐/淡黄褐	砂礫多(a)	外面ナナ、内面ナナリ、口縁部コナナ	26.2	21.5	約 1/3 残存。外面被熱により赤化。	R98
第41図2	S K 53	鍋	軟質	赤褐/橙	砂礫多(a)	外面ナナ、内面ナナ、口縁部コナナ	30.0	9.9	約 1/2 残存。外面被熱により赤化。双付着。	R92
第49図1	S D 23	坏	軟質	黒褐/黄褐色	精良	回転ナナ後底部回転ナナ切り。	14.0	9.4	小片。外面黒斑有。	R118
第49図2	S D 24	坏	軟質	黄橙/黄橙	砂礫少(a)	回転ナナ後底部回転ナナ切り。	14.8	1.1	約 1/4 残存。	R110
第49図3	S B 57	蓋	軟質	橙/橙	精良	回転ナナ後回転ナナ切り、丁寧なナナ	15.8	1.8	P28。土師質。	R115
第49図4	S B 57	甕	軟質	橙/橙	砂礫少(a)	把手部分は指押さえ調整、内面ナナ/ナナナリ。	—	5.0	P30。把手のみ残存。	R114
第49図5	P 112	坏	軟質	橙/黄褐	精良	回転ナナ成形。	6.9	1.8	土師質。	H26-1

第2表 大坪遺跡第2次調査出土土器観察表

挿図番号	出土地点	器形	焼成	色調 (外面/内面)	胎土	成形・整形手法等	寸法		備考(種類・残存等)	実測図 番 号
							口径(底径)	残存高		
第49図6	P 140	坏	軟質	淡黄褐/淡黄褐	精良	回転ナデ。底部は調整不明。	13.7	3.5		H26-2
第49図7	P 140	甕	軟質	灰/灰	精良	内外面共にタタキ成形。	—	7.2		H26-3
第49図8	P 140	甕	軟質	灰/灰	精良	内外面共にタタキ成形。	—	9.1		H26-4
第50図1	P 122	坏	軟質	橙/橙	砂礫少	回転ナデ後底部ハ切り。	8.6	(6.8)	土師質。	R116
第50図2	P 5	坏	軟質	橙/橙	精良	内外面ともに回転ナデ後底部回転ハ切り。	12.3(7.5)	3.0		H26-5
第50図3	P 36	坏	軟質	淡黄褐/淡黄褐	精良	回転ナデ後底部回転ハ切り・ナデ。	14.0(7.9)	3.2		H26-6
第50図4	P 49	坏	軟質	黄褐/黄褐	砂礫少	叩成形後高台添付。	10.2	1.1	ごく小片で残存。	H26-7
第50図5	P 83	坏	軟質	橙/淡橙	精良	回転ナデ後底部回転ハ切り。	13.0(8.2)	3.2	完形。	H26-8
第50図6	P 117	坏	軟質	橙/橙	砂礫少	回転ナデ後底部ハ切り後ナデ。	12.2	2.9	土師質。	R117
第50図7	P 54	高台付 坏	軟質	黄白/黄白	精良	内外面ともに回転ナデ後底部回転ハ切り。高台添付。	13.7	8.8	約1/4残存。	G26-9
第50図8	P 133	鉢 or 甕	軟質	黄褐/黄褐色	砂礫含 (a)	内外面ともにナデ	—	5.5		H26-10
第50図9	P 156	甕	軟質	赤褐/赤褐	砂礫多 (a)	内外面ともにナデ後ナデ。	13.1	10.2		H26-11
第50図10	P 165	甕	軟質	淡赤褐/淡赤褐	砂礫含 (c)	内外面ともに口縁部コナデ。	24.2	3.1	口縁部小片。内外面ともにスリ付着。	R113
第50図11	P 150	壺?	軟質	橙/橙	精良	丁寧なナデ後底部外面に工具による押捺調整。	5.5	1.5	底部は上げ底状になっている。	H26-12
第50図12	P 40	甕	軟質	淡黄褐/黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともにナデ後ナデ。	40.8	9.7	頸部に突帯1条。	R119
第51図1	S E 01	碗	硬質	明緑灰/緑灰	精良	外面に蓮弁文浮彫。	16.2 (5.0)	6.95	青磁。約1/2残存。	R201
第51図2	S E 01	碗	硬質	明ナデ灰 / 淡緑	精良	外面に蓮弁文浮彫。	16.4 (5.1)	6.5	青磁。約1/3残存。	R200
第51図3	S E 01	碗	硬質	ナデ灰 / ナデ灰	精良	外面に蓮弁文浮彫。	5.2	4.5	青磁。下半部のみ残存。	R203
第51図4	S E 01	碗	硬質	ナデ灰 / ナデ灰	精良	外面に蓮弁文浮彫。	17.6	5.5	青磁。口縁部のみ約1/5残存。	R204
第51図5	S E 01	碗	硬質	ナデ灰 / ナデ灰	精良	外面に蓮弁文浮彫。	(3.2)	4.0	青磁。下半部のみ残存。	R202
第51図6	S E 01	碗	硬質	黄灰/黄灰	精良	外面に蓮弁文浮彫。	(5.5)	4.4	青磁。約1/7残存。	R206
第51図7	S E 01	碗	硬質	ナデ灰 / ナデ灰	精良	外面に蓮弁文浮彫。	18.2	5.5	青磁。口縁部のみ約1/6残存。	R205
第51図8	S E 01	碗	硬質	ナデ灰 / ナデ灰	精良	外面に蓮弁文浮彫。	16.2 (5.8)	7.0	青磁。約1/8残存。	H26-22

※ 胎土欄の記号は、含まれる砂礫の一部に着目したものであり、下記の通りである。

a: 片岩 + 白濁礫の礫(矢部川流域に特徴的な胎土) b: 角閃石 + 石英多数 (片岩が確認できないもの)

c: 角閃石 + 長石が多く入る砂礫構成、d: 角閃石 + スコリア状白色砂粒(凝灰岩?)が多く入る砂礫構成。

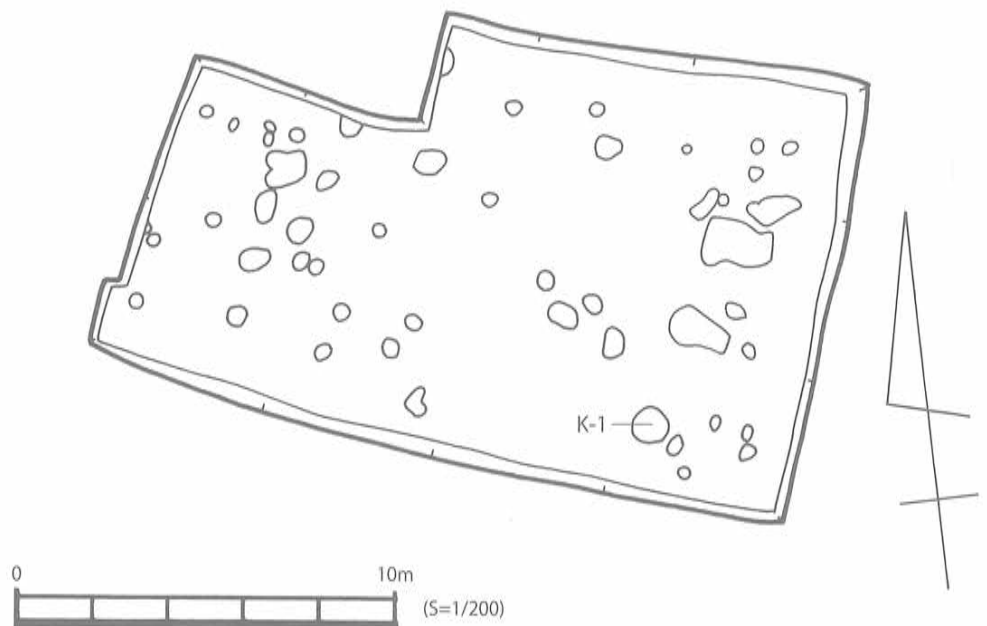
第3表 大坪遺跡第2次調査出土石器・鉄器観察表

挿図番号	出土地点	種 類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	残存度	素 材	備 考	実測図
第7図1	S B 37	石包丁	7.25	4.45	0.48	ほぼ完形	片岩		H26-13
第15図9	S B 43	石包丁	11.6	5.0	0.5	ほぼ完形	片岩		H26-14
第22図10	S B 45	石包丁	12.0	4.4	0.7	ほぼ完形	片岩		H26-15
第50図13	P 135	石包丁	10.3	5.4	0.7	ほぼ完形	片岩		H26-16
第52図1	S B 43	ヤカンナ	12.5	1.7	0.3	基部を欠く。	鉄		H26-17
第52図2	S B 46	鉄斧	10.0	5.5	1.9	ほぼ完形	鉄		H26-18
第52図3	S B 51	鉄斧?	2.6	2.3	1.1	破片	鉄	52図4と同?	H26-19
第52図4	S B 51	鉄斧?	4.3	3.3	0.4	破片	鉄	52図3と同?	H26-20
第52図5	S B 51	鉄鎌?	4.0	2.5	0.5	破片	鉄		H26-21

C 篠原遺跡(1地点 ～4地点)の発掘調査 成果

1) 調査の概要(第1～ 3図、第56・59・68・ 137図)

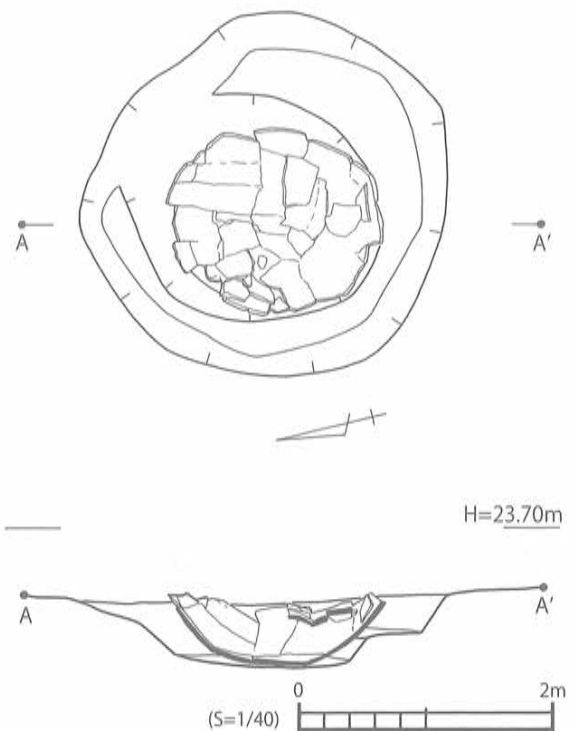
篠原遺跡は旧八女市の西南部、国武集落の西側に位置する。遺跡名は調査地の小字名に由来する。前述の大坪遺跡第2次調査地点からは北約500mに位置する(第2・3図参照)。



第56図 篠原遺跡1地点調査区全体図

調査区は1地点～4地点の4箇所であり、弥生時代後期の遺構・遺物を中心として、古墳時代前期・古代(平安時代)・中世の遺構・遺物が発見されている。篠原遺跡の発掘調査は、平成元年10月12日から平成2年3月2日にかけて実施されている。調査対象となった面積は、1地点～4地点を合わせて、10,600 m²である。

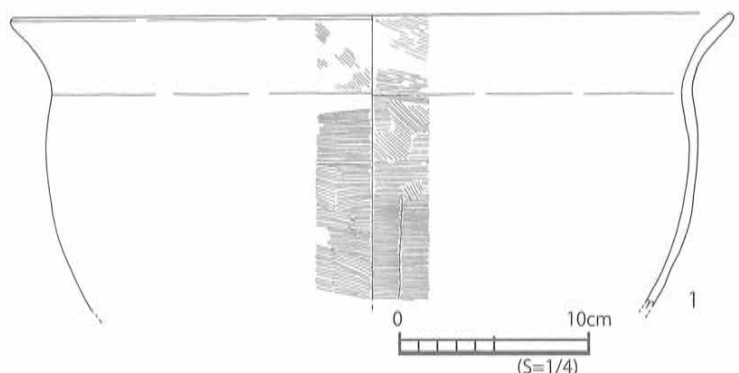
以下、地点ごとに概要を記すが、遺構の数は膨大であり、かつ現場図面でも形状等が確認できない遺構も存在する。諸般の事情で一部掲載できなかったものもあることを付記しておく。また、遺物の解説は一部に限らざるを得ないので、遺物観察表(第4・5表)を参照されたい。図面等調査記録および遺物は八女市教育委員会で保管しているので、有効な活用を望む。



第57図 篠原遺跡K-1実測図

2) 篠原遺跡1地点の調査成果 (第56～58図)

篠原遺跡1地点では、ピット等の遺構は検出されているが、明確な遺構としてはK-1 甕棺墓のみである。K-1は、甕棺墓である。埋設時の上半は削平により失われており、半分のみが残存である。図面を見る限り、胴部のみが残存で口縁部・底部は確認できない。そのため



第58図 篠原遺跡K-1出土遺物

か、過去の整理作業で他の胴部片と共に保管されている可能性が高いため、本報告では土器そのものを観察できなかった。その為詳細については本報告では触れることができないので、今後の課題としたい。なお、K-1出土の土器として甕が1点存在する（第58図）。甕棺の時期は実物観察のうえ今後検討が必要であるが、他の調査地点の状況等を考慮すると、恐らく弥生時代後期に属するものと思われる。

3) 篠原遺跡2地点の調査成果（第59図）

篠原遺跡2地点では、竪穴建物2軒、掘立柱建物跡2棟、溝1条、土坑4基、ピット多数が検出されている。

以下、遺構ごとに2地点の遺構・遺物について説明する。

① 竪穴建物跡

SB02（第60図）

調査区北側で検出した竪穴建物である。長軸を北東—南西方向にとり、長辺約5.4m、短辺約4.0mの平面長方形である。柱穴は発見されていない。遺物は甕が出土しており（62図1～3）、時期は弥生時代後期に属する。

SB04（第61図）

調査区南西で検出した竪穴建物跡である。長軸を北東—南西方向にとり、概ね前述のSB02と同一軸である。長辺約4.8m、短辺約3.0mの長方形の平面形である。柱穴は発見されていない。遺物は甕が出土しており（62図4～8）、時期は弥生時代後期に属する。また、SB04からは滑石製の石鍋片も出土している（第63図）が、時期は中世に属するものと思われ、これは住居埋没後の混入によるものと思われる。

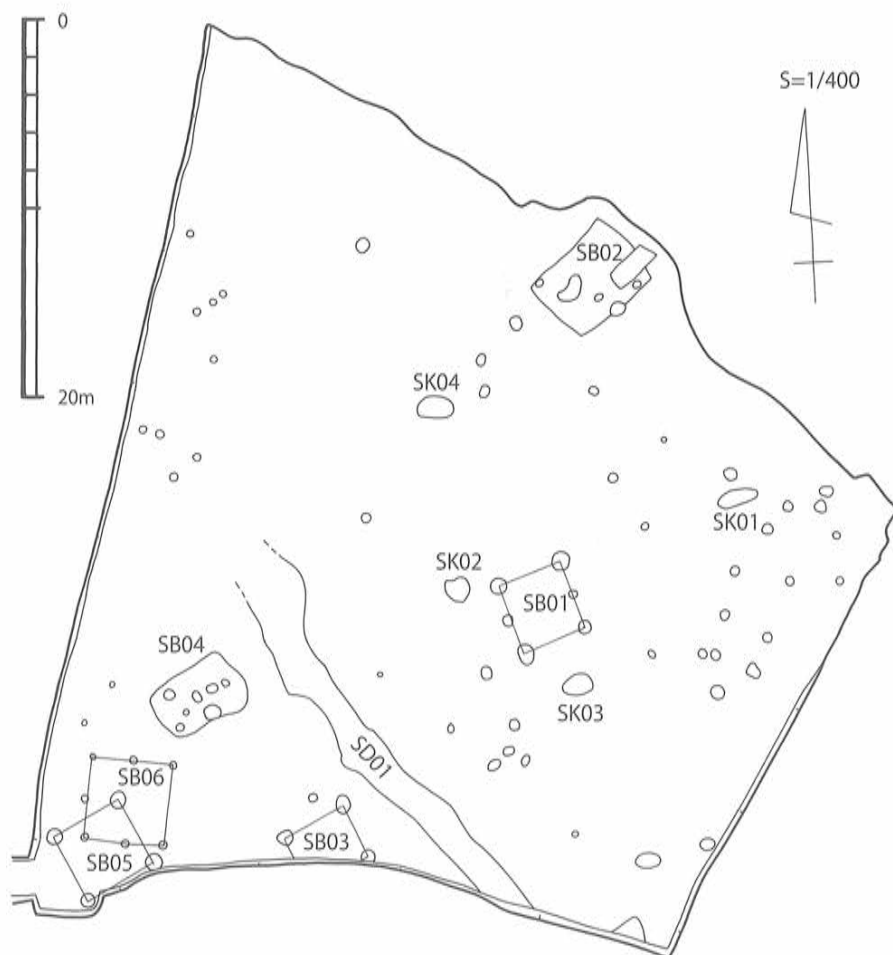
② 溝（SD）

SD01（第62図）

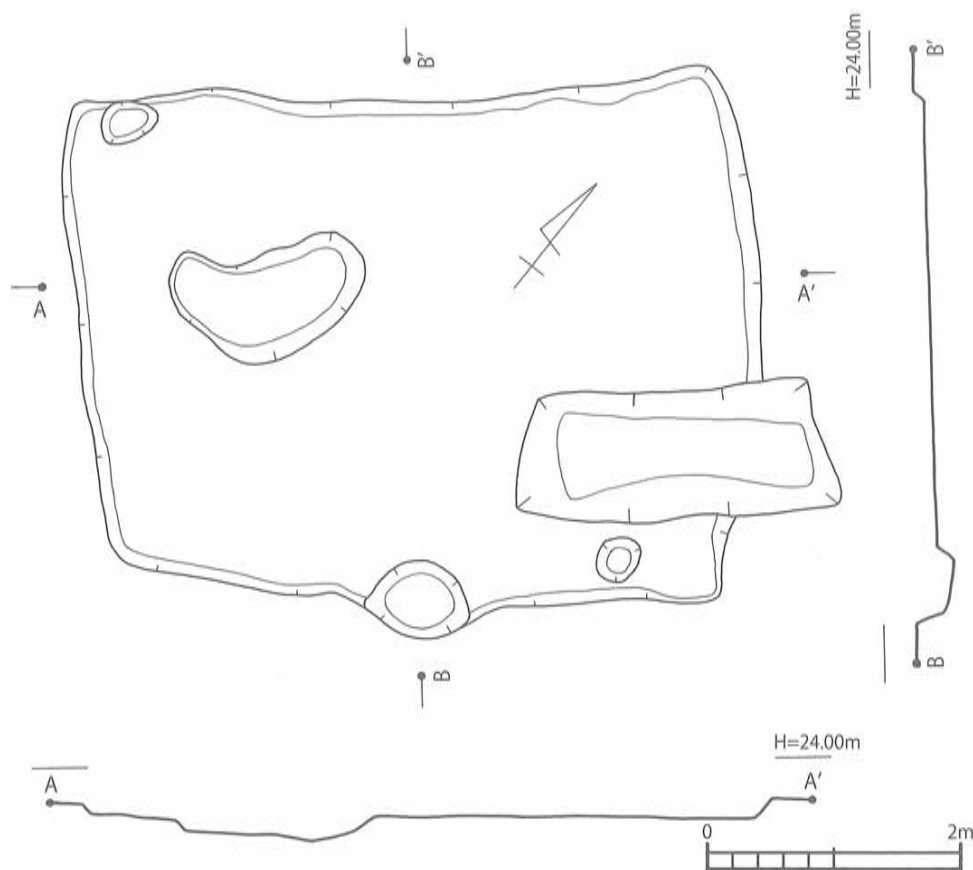
SD01溝は、断面逆台形をした溝である。遺物はほとんどないが、古代（平安時代、8～9世紀）の遺物が出土している（62図9～12）ため、古代の溝である可能性がある。

③ 掘立柱建物跡（第64～67図）

掘立柱建物跡は4棟検出されている（SB01・03・05・06）。SB01は調査区中央付近、残りの3棟が

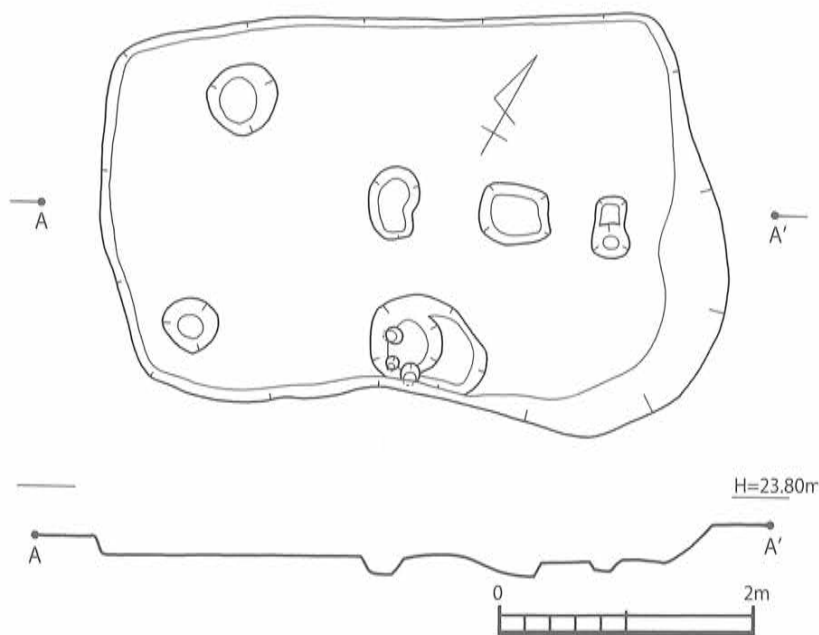


第59図 篠原遺跡2地点調査区全体図



第 60 図 篠原遺跡 SB02 実測図 (S=1/60)

SD01 溝より南側の、調査区南西端部で検出されている。遺物がほとんど存在しないため、時期の決定は困難な状況であるが、概報によれば調査担当者は「弥生時代の高床倉庫」を想定している。先の報告した大坪遺跡 2 次調査や周辺の圃場整備関連発掘調査で検出されている掘立柱建物跡との比較、加えて篠原遺跡 2 地点で検出されている他の遺構・遺物の状況を加味すると、これらの篠原遺跡 2 地点で検出された掘立柱建物跡は弥生時代後期に属する可能性が高いと思われる。

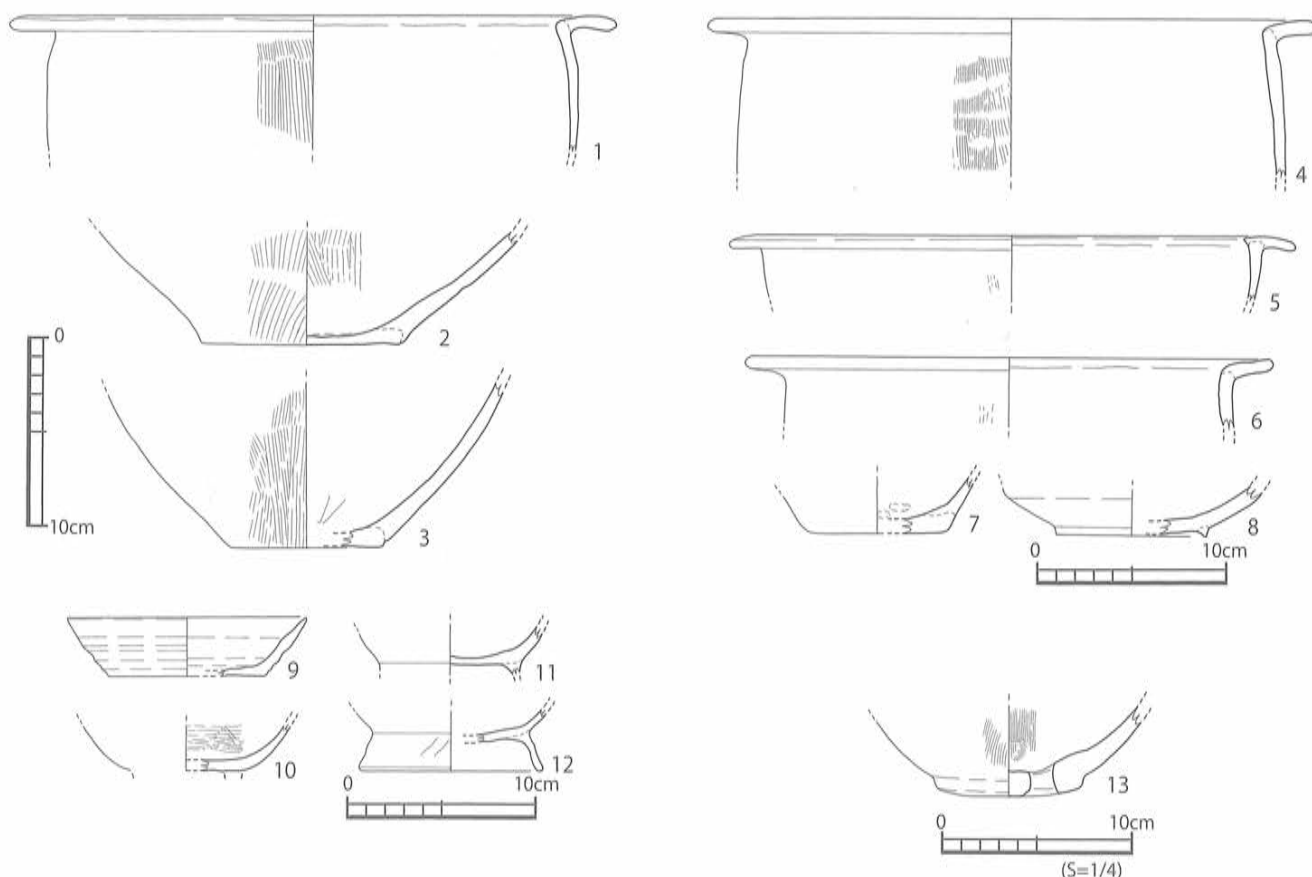


第 61 図 篠原遺跡 SB04 実測図 (S=1/60)

SB01 (第 64 図)

調査区中央付近で検出された掘立柱建物である。長軸を北西—南東方向にとり、2 間 × 1 間であり、長辺約 3.6 m、短辺約 3.5 m のほぼ正方形の平面形である。

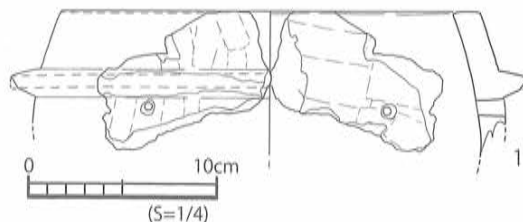
遺物は柱穴中より弥生時代中期の高坏の坏部小片が出土しているが、住居跡に付随するものかどうかは不明である。



第 62 図 篠原遺跡 SB02・SB04・SB05・SD01 出土遺物

SB03 (第 65 図)

調査区南西部で検出された掘立柱建物であり、一部調査区外に延びている。長軸を北西－南東方向にとり、SB01 とほぼ同一方向の建物である。未調査部分によって建物規模が変わる可能性は残されているが、1 間 × 1 間の建物跡で、長辺約 3.5 m、短辺約 3.0 m の長方形の平面形であると思われる。明確に SB04 に伴う遺物は確認できなかったが、弥生時代に属する建物跡である可能性が高いものと思われる。



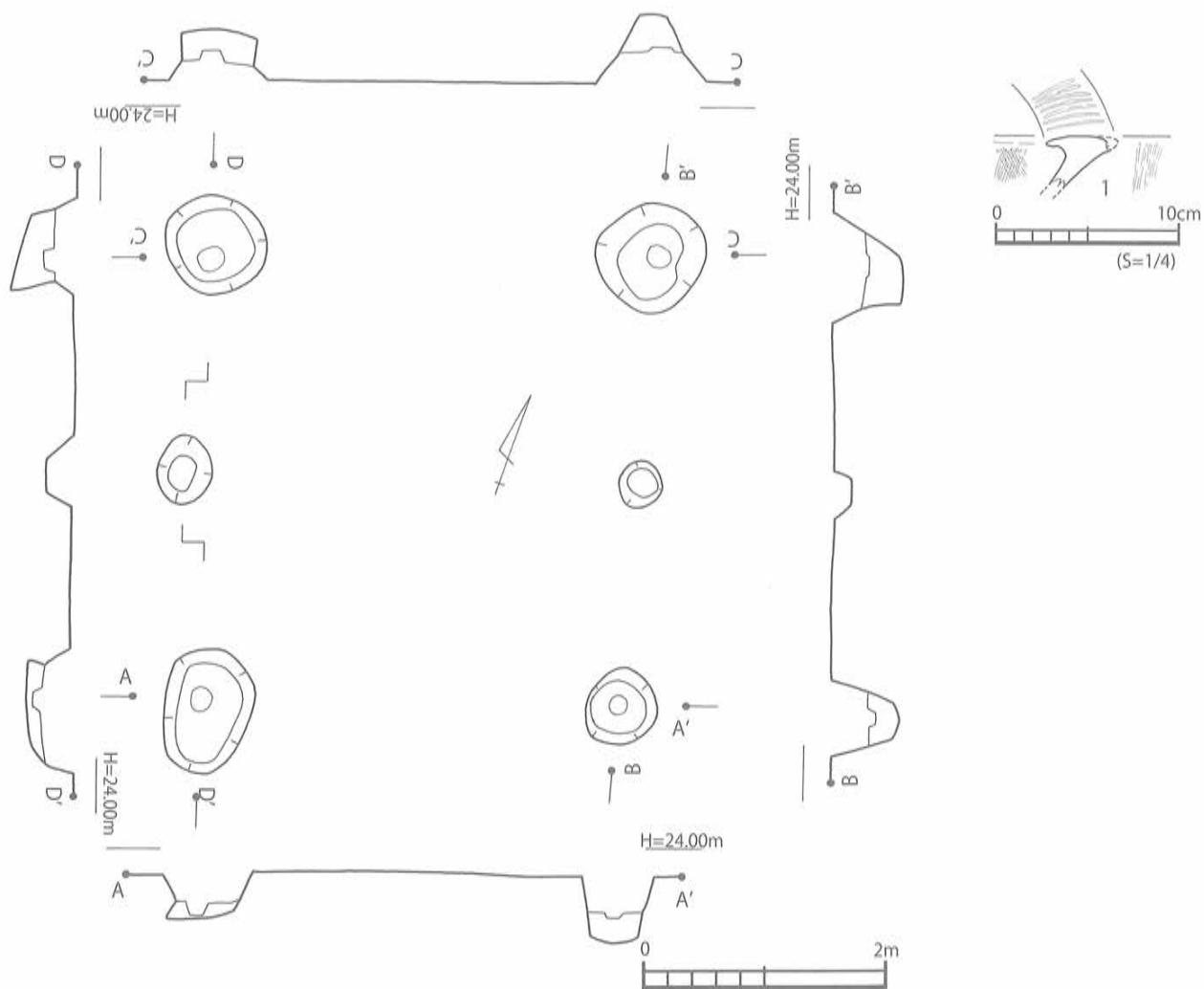
第 63 図 篠原遺跡 SB04 出土遺物

SB05 (第 66 図)

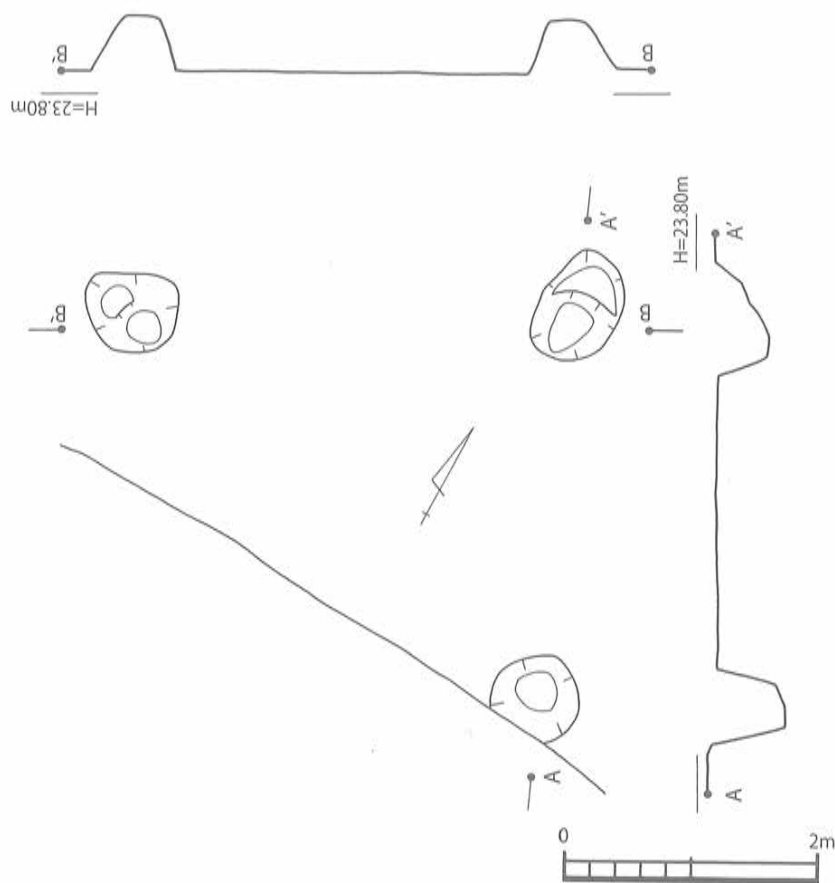
調査区南西部で検出された掘立柱建物であり、一部が後述する SB06 と重なっている。長軸を北西－南東方向にとり、前述の SB01・SB03 とほぼ同一方向の建物である。1 間 × 1 間の建物跡で、平面形は 1 辺約 4.0 m の精緻な正方形である。それぞれ柱穴内の柱痕跡も明確に検出されている。遺物は明確に SB05 に伴うものは確認できなかった。周辺の状況から、弥生時代に属する公算が高いと思われるが、時期決定にはやや根拠稀薄ではある。

SB06 (第 67 図)

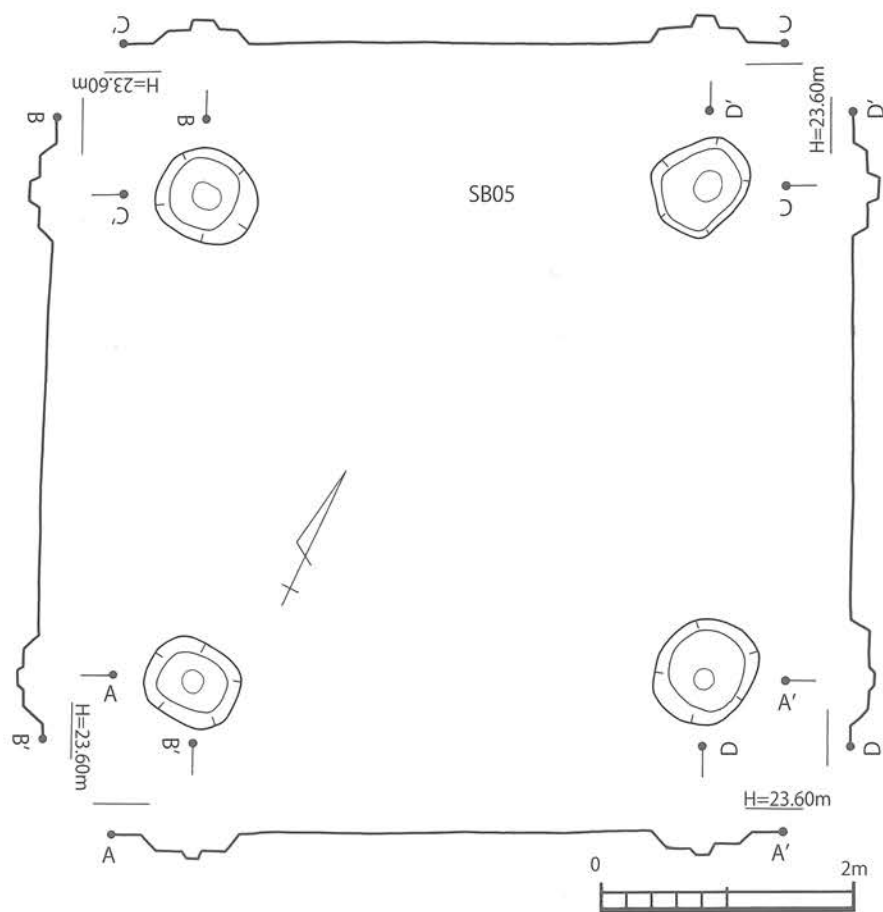
調査区南西部で検出された掘立柱建物であり、一部が前述の SB05 と重なっている。長軸を南北方向にとり、他の掘立柱建物とは軸を異にする。2 間 × 2 間の建物跡であると思われるが、東側中央の柱穴が検出されていない。平面形は長辺約 4.4 m、短辺約 4.2 m のほぼ正方形の平面形である。それぞれ柱穴内の柱痕跡も明確に検出されている。遺物は明確に SB05 に伴うものは確認できなかった。周辺の状況から、弥生時代に属する公算が高いと思われるが、時期決定にはやや根拠稀薄ではある。



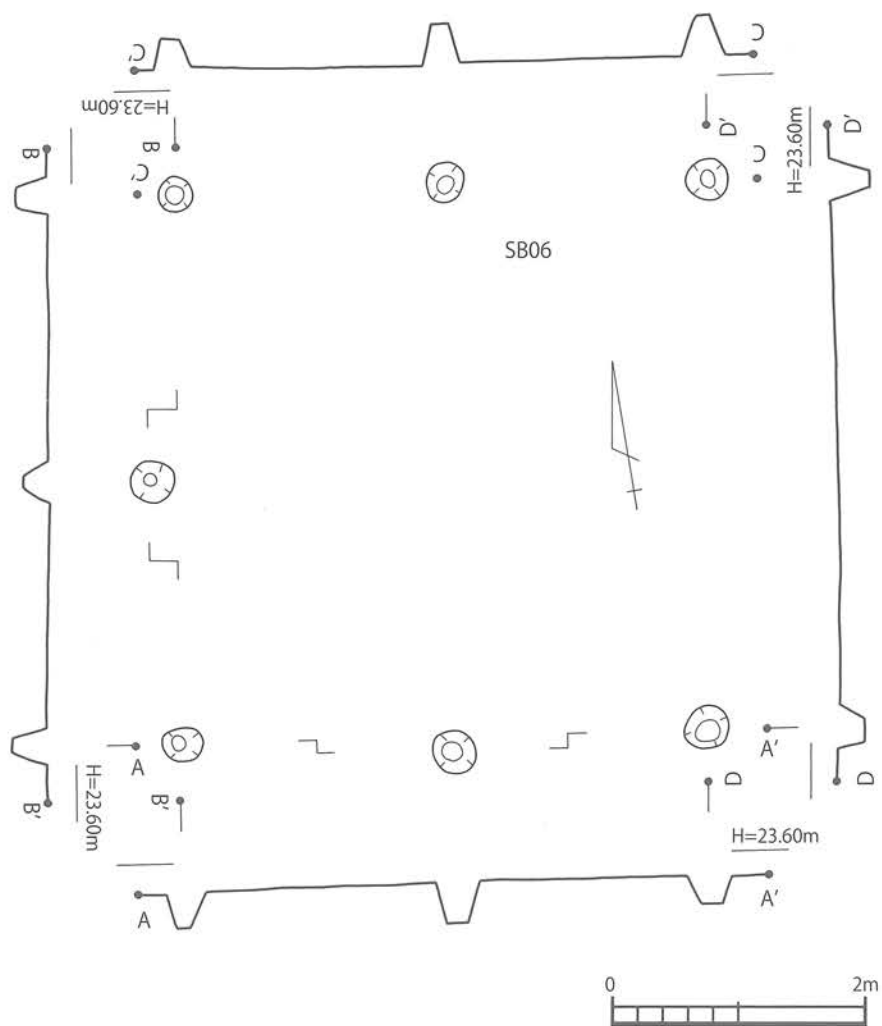
第 64 図 篠原遺跡 SB01 実測図および出土土器



第 65 図 篠原遺跡 SB03 実測図 (S=1/60)



第 66 図 篠原遺跡 SB05 実測図 (S=1/60)



第 67 図 篠原遺跡 SB06 実測図 (S=1/60)

4) 篠原遺跡 3 地点の調査成果



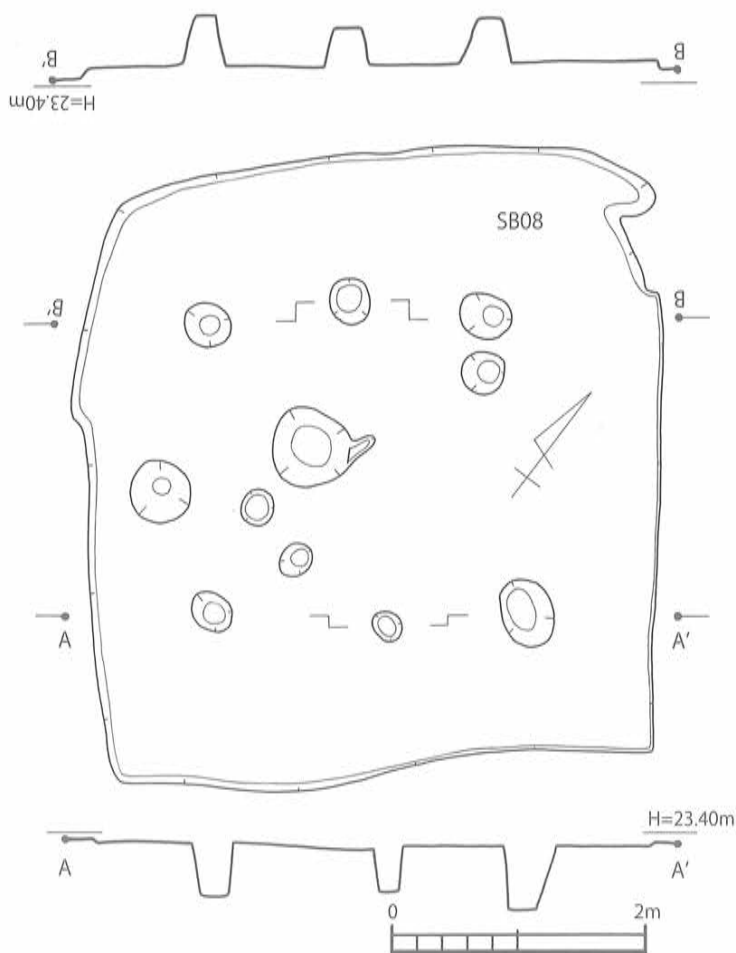
第 68 図 篠原遺跡 3 地点調査区

篠原遺跡 3 地点の調査成果 (第 68 図)

3 地点は、篠原遺跡の調査区の中で最大の調査面積となった調査区である。3 地点では、発掘調査時に竪穴建物跡および掘立柱建物跡は SB07 ～ SB53、土坑は SK05 ～ SK30、溝は SD03・SD04 の 2 条、不明円形遺構等について SX01 ～ 04 の遺構番号が付されている。なお、本報告に際した調査図面整理段階で、調査区北西の SB13 竪穴建物跡・SB23 掘立柱建物の北側で、掘立柱建物となる可能性がある柱穴列を建物 1 棟分検出し、追加している（後述する篠原遺跡 4 地点の遺構番号に続き、SB81 の遺構名を付した）。また、切合い等で形状が不明瞭な建物跡も存在する。

篠原遺跡 3 地点の建物跡等の遺構は、調査区北西部と調査区南東部で密に検出されており、調査区内に北西－南東を横断する帯のように遺構が集中しているようにも思われる。

以下、遺構ごとに篠原遺跡 3 地点調査成果について報告する。なお、遺物解説は紙幅の都合上、特徴的なものに限らざるを得なかった。遺物の特徴や詳細については簡単ではあるが観察表（第 3 表）にまとめているので参照されたい。



第 69 図 篠原遺跡 SB08 実測図 (S=1/60)

構の存在のためかもしれない。主柱穴は明確ではない。遺物は建物跡南東端より弥生時代中期後半に位置付けられる甕が出土している。建物跡の時期も同様の時期と推定される。

SB10 (第 71・72 図)

調査区の北側で検出されたやや小型の竪穴建物跡である。長軸を北西―南東方向にとり、長辺約 4.0 m × 短辺約 3.6 m の長方形の平面形である。主柱穴は明確ではないが、建物東側中央でピットが 1 基検出されていることから、2 本主柱の可能性が高いと思われる。遺物は弥生時代後期の甕が出土していることから、建物跡の時期も同様の時期と思われる。

SB11 (第 73 図)

調査区東側中央付近で検出された竪穴建物跡である。長軸を東西方向にとり、長辺約 6.0 m、短辺約 4.0 m の長方形の平面形である。主柱穴は明確ではないが、2 本の可能性が高いと思われる。遺物は確認されないが、長方形の平面形であることから、弥生時代後期に属する公算が高いと思われる。

SB12 (第 74 図)

調査区東端中央付近で検出された竪穴建物跡である。一部が調査区外に伸びる。南西―北東方向に主軸を取り、長辺約 4.6 × 短辺約 3.8 m の長方形の平面形である。遺物は住居跡全体から散在的に出土しているが、図化できる遺物は確認できなかった。形状より、弥生時代～古墳時代前期の建物跡か。

SB13 (第 75・76 図)

調査区北側で検出された竪穴建物跡である。平面形は隅丸方形をしているが、検出面から床面までの深さは 10cm 以下であり、一辺 4.6 m の正方形であった可能性も考えられる。4 本主柱である。遺物は建物跡中央付近で集中的に出土しており、高坏 (76 図 1～4) と甕 (同 5～9) と特殊な器形の土器 (同

① 竪穴建物跡 (SB)

SB07 (第 68 図)

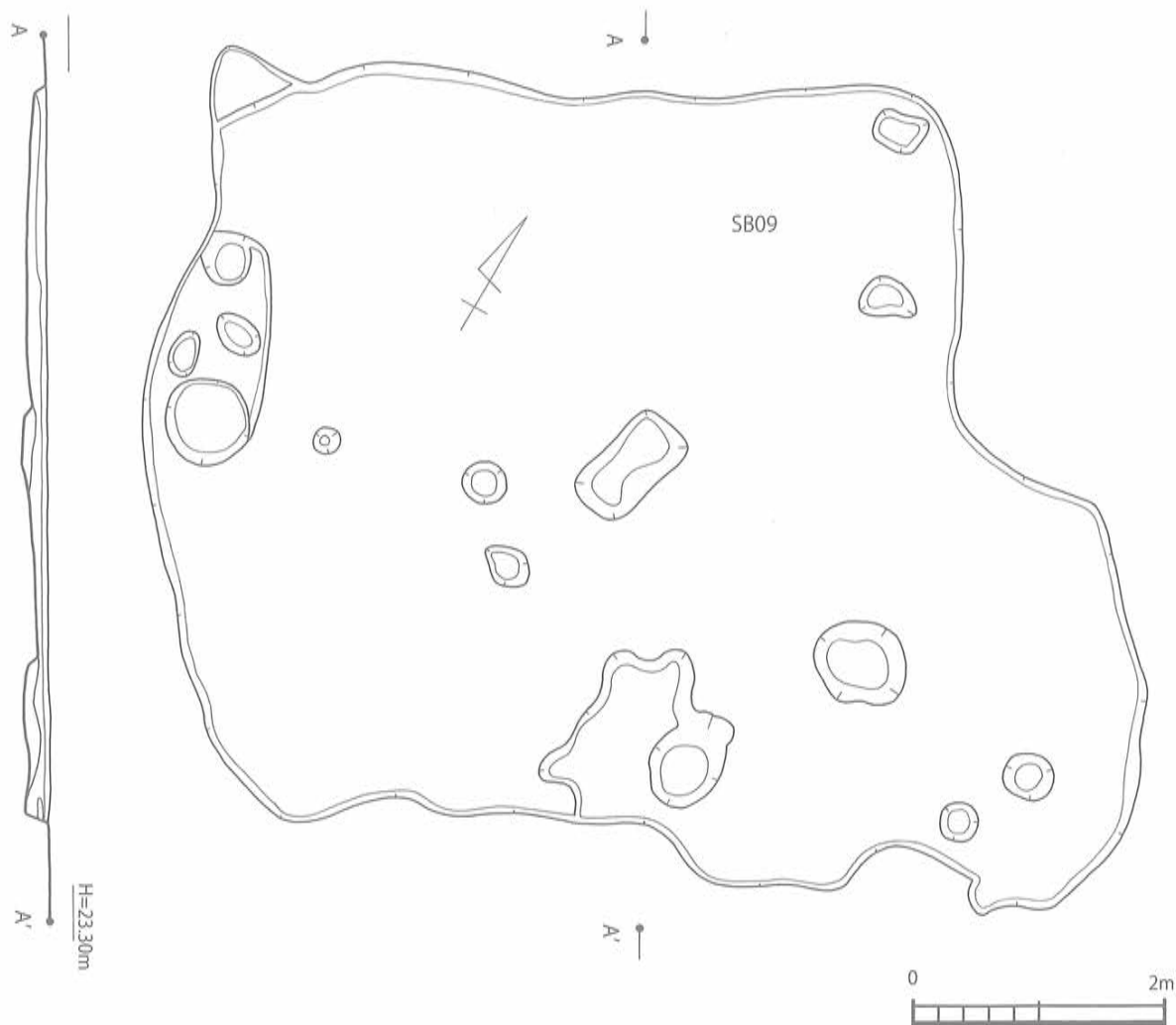
調査区北側拡張部の北端で検出された竪穴建物跡であり、調査区外に伸びるため全体の形状は不明であるが、短辺約 4.3 m の平面長方形の建物跡と思われる。遺物の出土は確認されていない。

SB08 (第 69 図)

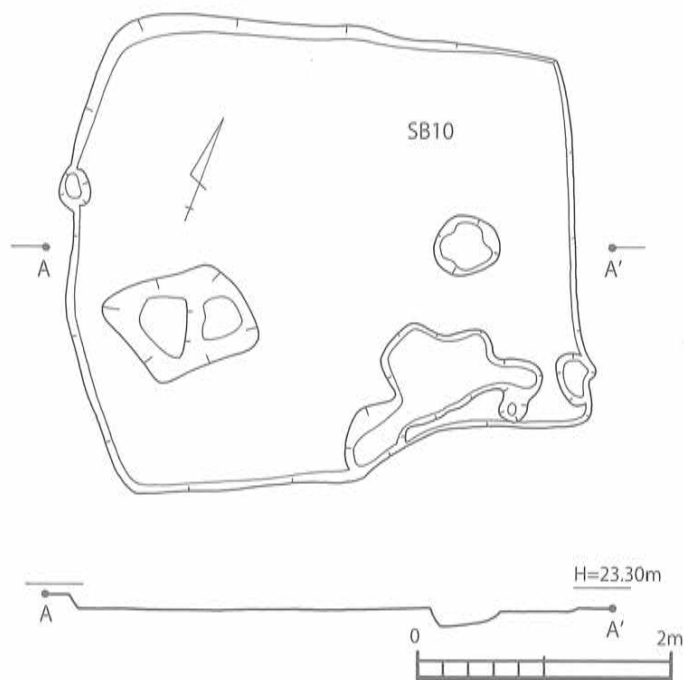
調査区北側拡張部の北端部、SB07 の南側で検出された竪穴建物跡である。長辺約 4.9 m × 短辺約 4.5 m の、ほぼ正方形の平面形である。主柱穴は 4 本確認されており、建物跡中央に炉の可能性のある穴がみられる。遺物は出土していない。

SB09 (第 70・72 図)

調査区北側で検出された竪穴建物跡である。約 7 m × 約 6.5 m のほぼ正方形の平面形であるが、形状がややいびつである。検出面から床面が、深さ約 5cm 程度と残存状況が良くないので、建物跡北東部分の建物壁のくぼみはベッド状遺



第70図 篠原遺跡 SB09 実測図 (S=1/60)

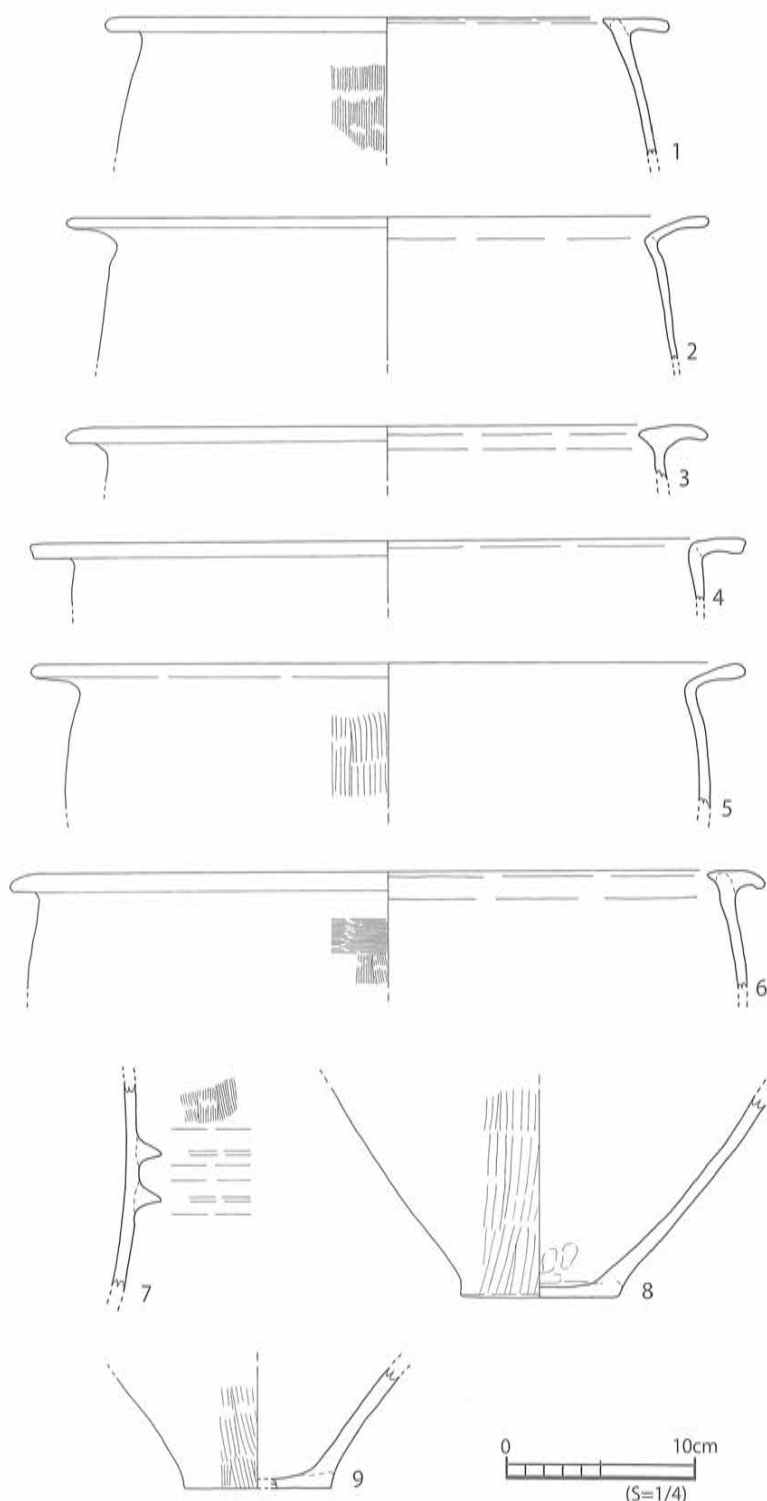


第71図 篠原遺跡 SB10 実測図 (S=1/60)

10) が出土している。遺物で特筆されるのは、高坏は弥生時代後期と比して小型化していること、甕には近畿第V様式変容系統のもの(76図6~8)がみられること、76図9の甕には口縁部に三角文が線刻されていること、10の土器は珍しい形状であり、受口状の形になっていることから、祖形は手焙形土器である可能性が高いこと、である。

特に76図10の土器は、調整の特徴等から他の遺物と同時期の所産であると思われる、器形がやや個性的であるが、手焙形土器であるとすれば南筑後では大変珍しい器形である。

SB13の時期は出土遺物より、古墳時代前期に位置付けられると思われる。



第 72 図 篠原遺跡 SB09・SB10・SB12 出土遺物

SB17 (第 77・78・79 図)

調査区中央やや北寄りで検出された竪穴建物跡である。長辺約 6.5 m、短辺約 5.4 m の、ややいびつな長方形の平面形で、周囲にベッド状遺構を有する。主柱穴は不明であるが 4 本柱か。遺物は建物跡東側および南側にまとまって出土している。

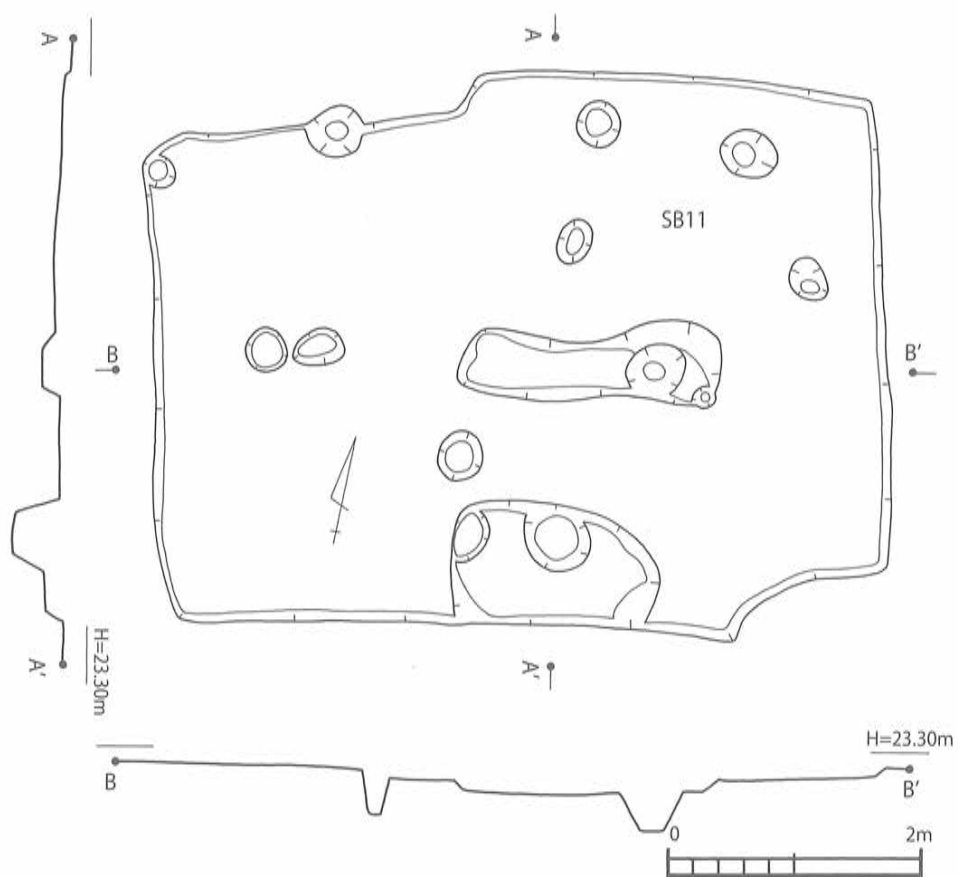
出土遺物より、住居跡の時期は弥生時代後期～終末期に属するものと思われる。

SB18 (第 80・82 図)

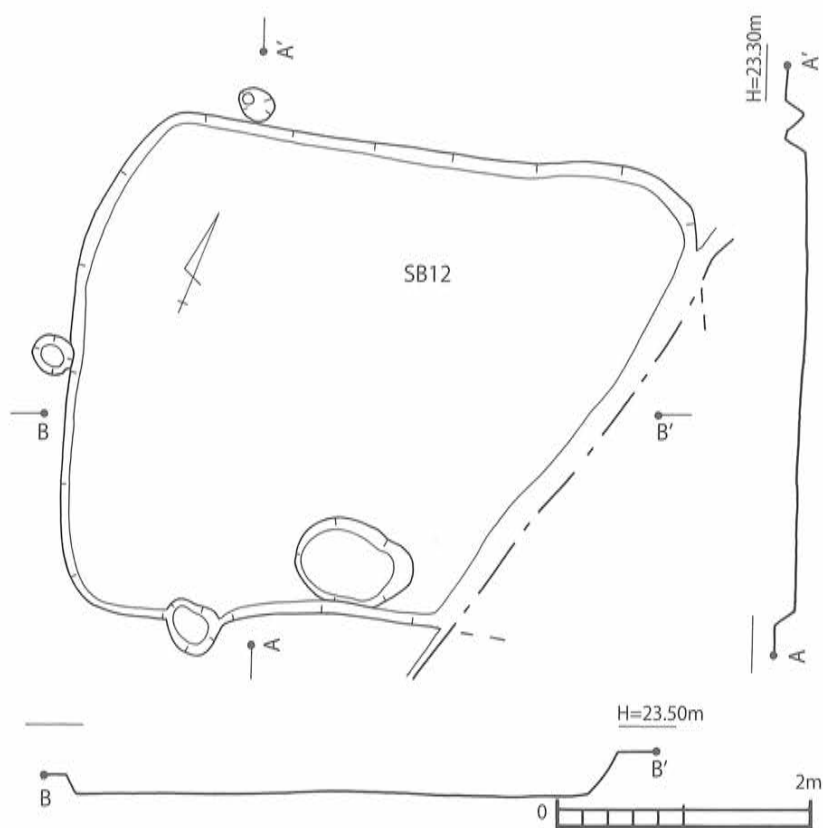
調査区中央付近で検出した竪穴建物跡である。長軸を南北方向やや西よりにとり、長辺約 5.4 m、短辺約 4.4 m のやや台形に近い長方形の平面形である。柱穴は不明である。遺物は高坏があり、建物跡中央付近から出土している。SB18 は出土遺物から、弥生時代後期～終末期に位置づけられるものと思われる。

SB19 (第 81・82 図)

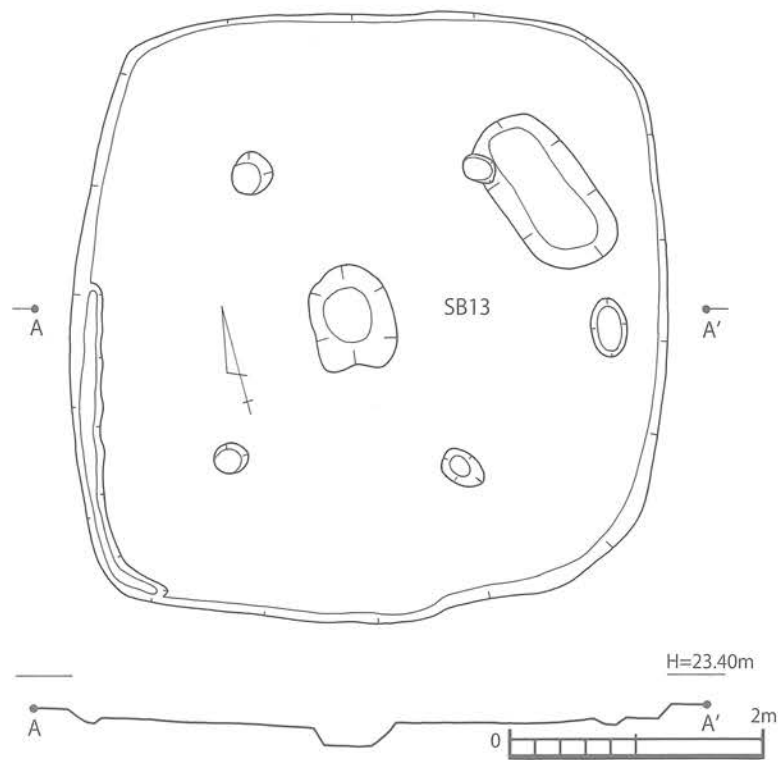
調査区北西端で検出された竪穴建物跡である。1 辺約 4.4 m のやや隅丸正方形の平面形であるが、かなり削平を受けているため本来の形は正方形の平面形であったのかもしれない。主柱穴ははっきりとしない。遺物は建物跡全体から出土しているが、特に建物跡南東壁中央のあたりに集中している。出土土器には鉢・高坏・壺・甕・甑があり、いずれも古墳時代前期の古式土師器である。このことから、SB19 は古墳時代前期に位置づけられるものと思われる。



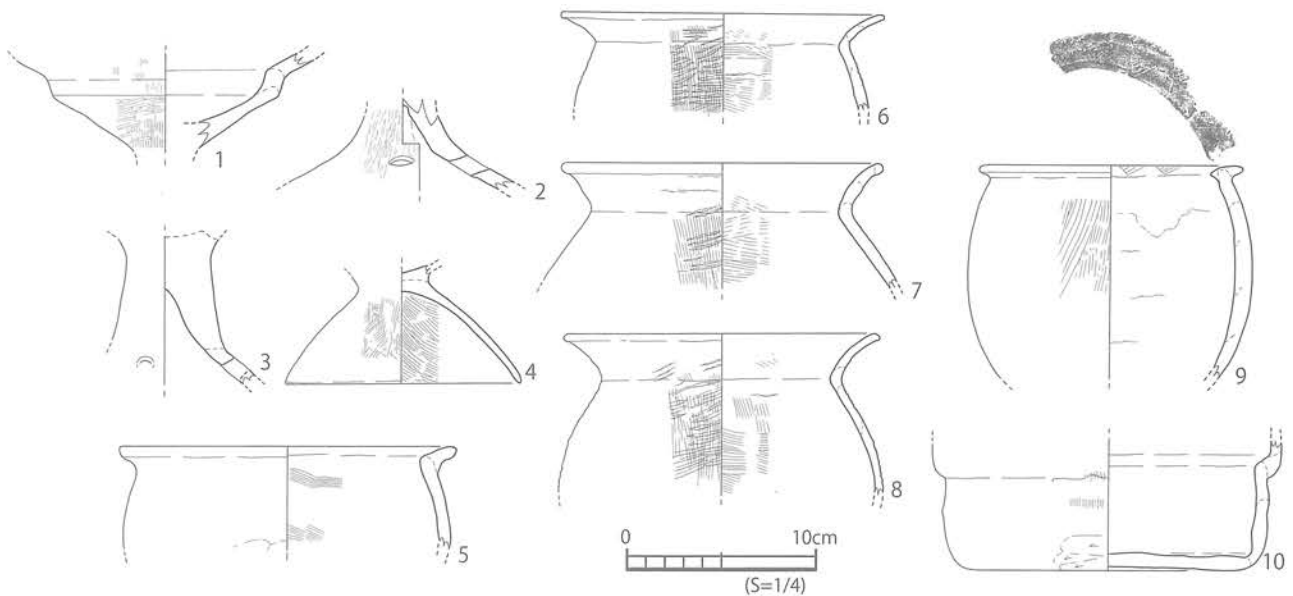
第 73 図 篠原遺跡 SB11 実測図 (S=1/60)



第 74 図 篠原遺跡 SB12 実測図 (S=1/60)



第 75 図 篠原遺跡 SB13 実測図 (S=1/60)



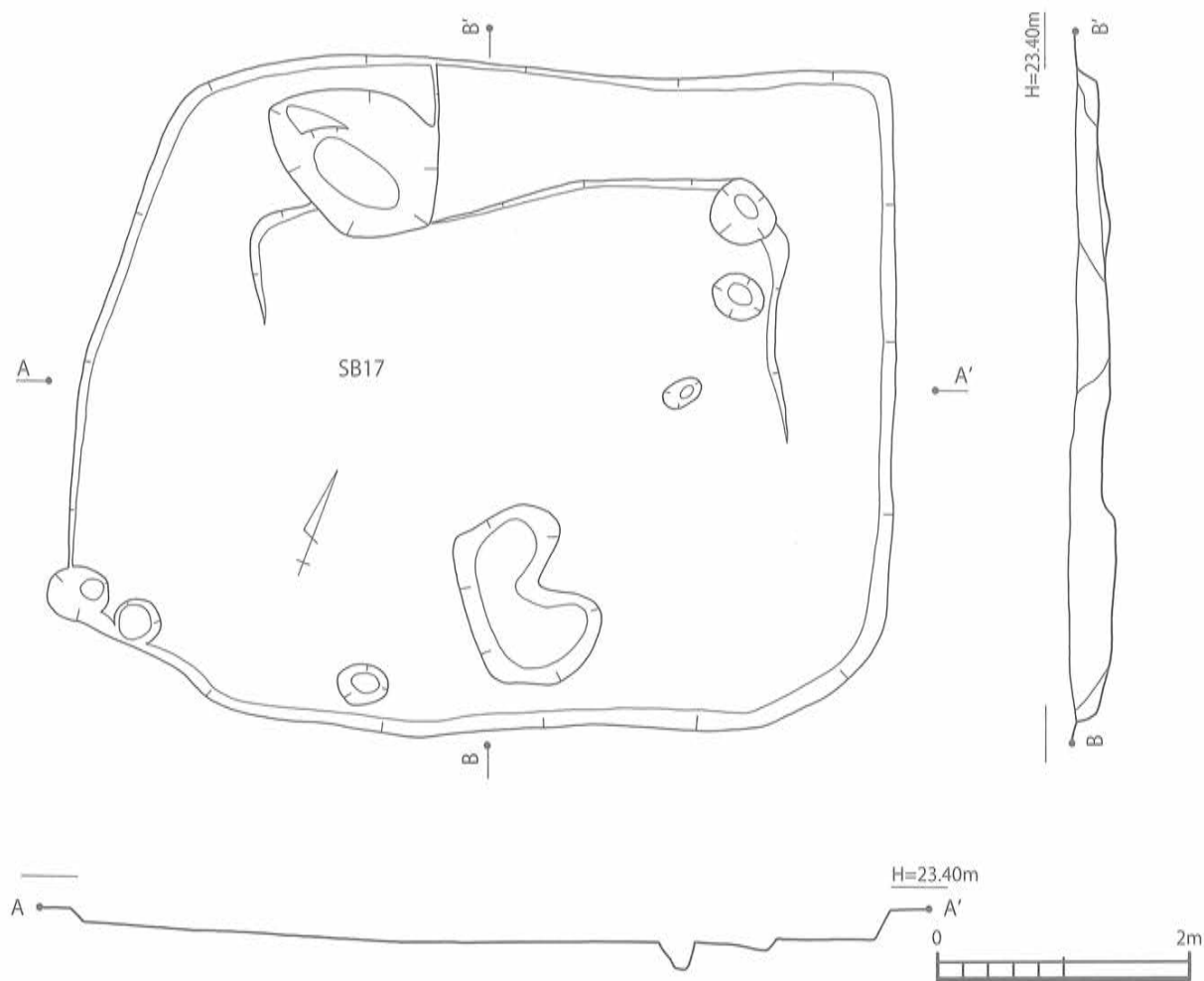
第 76 図 篠原遺跡 SB13 出土遺物

SB22 (第 83・84 図)

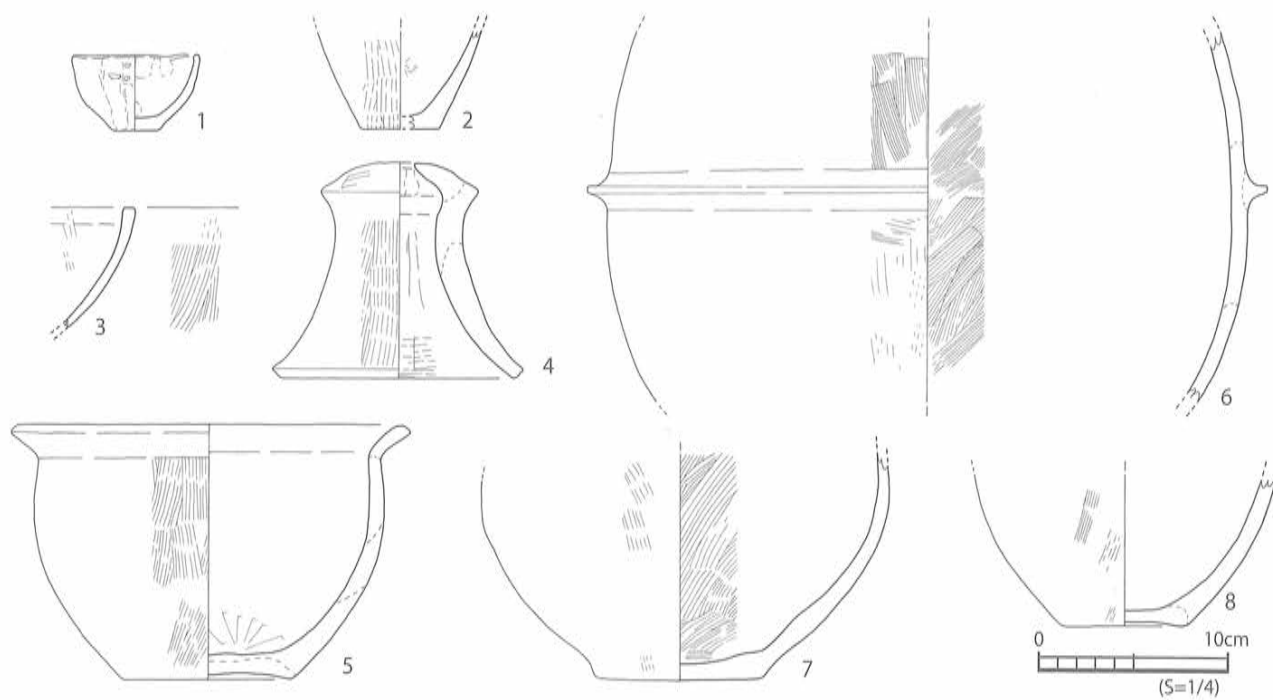
調査区中央からやや北西の位置で検出された建物跡である。長軸を西北西―東南東にとり、長辺約 5.2 m、短辺約 3.8 m の平面長方形である。支柱穴ははっきりしないが中央に土坑がある。遺物は建物北東隅にまとまって出土しており、弥生式土器の甕 (84 図 2) と、古代の高台付坏 (84 図 3) がある。

SB23 (第 85・86 図)

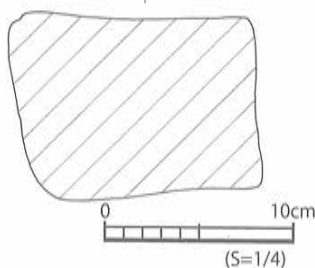
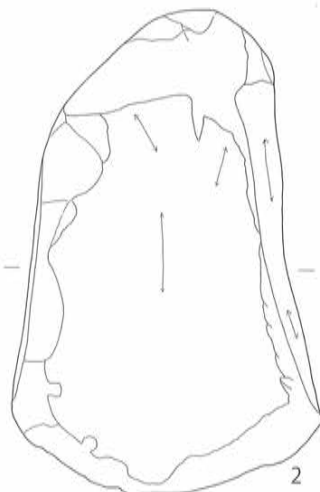
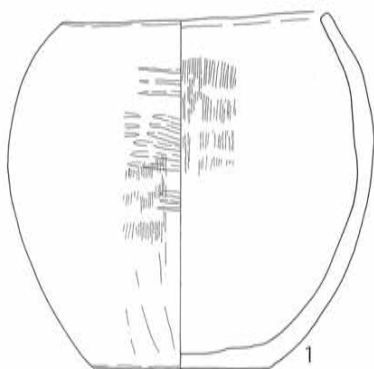
調査区中央付近で検出された建物跡であり、調査図面では SB51 に切られており、さらに SD03 に切られている。長軸は北西―南東方向で、長辺約 5.2 m の平面長方形と思われる。支柱穴ははっきりしない。SB23 から出土した遺物は多量であり、丹塗の高坏 (86 図 1・2・5)、ミニチュア土器の甕 (同



第 77 図 篠原遺跡 SB17 実測図 (S=1/60)



第 78 図 篠原遺跡 SB17 出土遺物 1



第 79 図 篠原遺跡 SB17
出土遺物 2

3・4)、器台(86図6・7)、鉢(同8・9)、甕(同10～25)がある。丹塗の高坏は弥生時代中期後半、それ以外の遺物の大半は弥生時代後期に属することから、当該建物の時期もそのころである可能性が高いものと思われる。

SB24 (第 87・88 図)

調査区西側中央付近で検出された建物跡であり、建物東側をSB50が切っている。長軸を北東―南西方向にとり、長辺約6.0m、短辺約5.8mのほぼ正方形の平面形である。支柱穴になりそうなピットは存在し、2本柱・4本柱両方の可能性があるが、中央に炉跡かと思われる土坑が存在する。

遺物は少なく、鉢と壺の小片が出土したのみである。建物跡の時期は、弥生時代終末期～古墳時代前期と思われる。

SB25 (第 88・89 図)

調査区西側中央の、SB24の北側で検出した建物跡である。残存状況は悪く、検出面から建物の床面まで約5cmしかない。そのためか、平面形は南と南東の隅でややいびつな形をしているが、その場所にベッド状遺構が存在するとすれば長辺約7.2m、短辺約5.4mのやや長方形の平面形である可能性が高いものと思われる。遺物は鉢が出土しており、小型化していることから古墳時代前期に属する可能性が高いものと思われる。

SB29 (第 90・91 図)

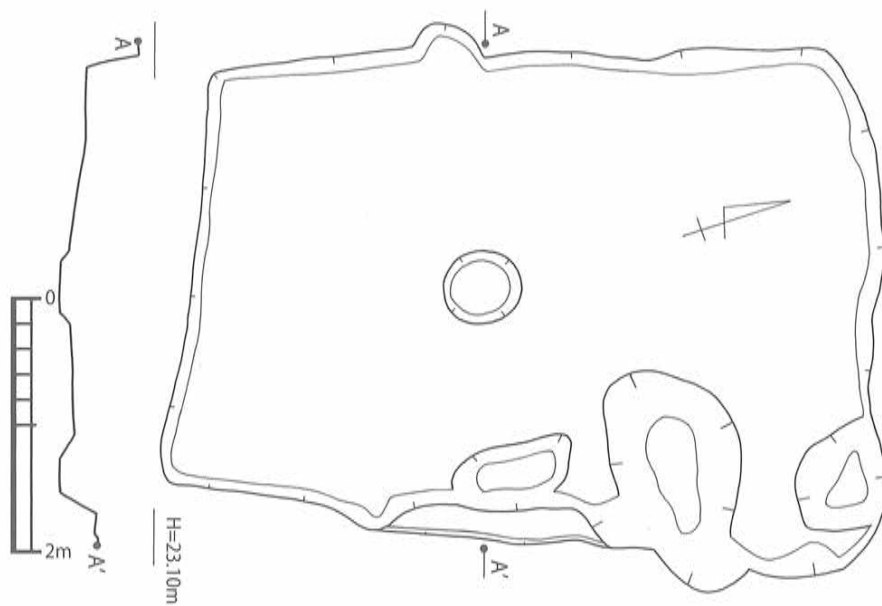
調査東側で検出された竪穴建物跡であり、SK18に切られている。長軸は北西―南東方向である。削平を受けており残存状況は良好ではなく、建物跡北西と南東に平面形がくぼむ場所があるが、ここにベッド状遺構が存在した可能性が高いものと思われる。そうであれば、長辺約6.8m、短辺約4.2mの長方形の平面形である。支柱穴ははっきりとしないが、検出されているピットからは4本主柱の可能性も想定される。遺物は建物跡全体から出土しているが、建物跡東半部分よりやや多く出土している。鉢(91図1・2・6)・ミニチュア土器(同3)・器台(同4・5)・甕(同7～14)・壺(同15・16)が出土しており、いずれも弥生時代後期に位置づけられる。

SB31 (第 92 図)

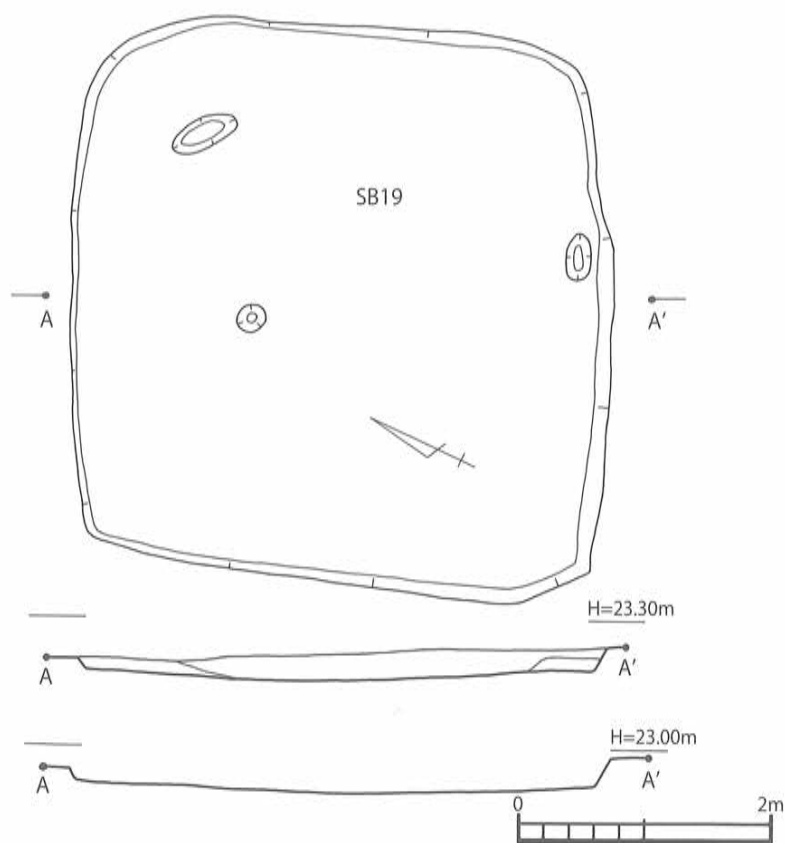
調査区東側部分で検出された竪穴建物跡であり、建物跡南東部分の一部が調査区外に伸びる。長軸を北東―南西方向にとり、長辺約4.9m、短辺約3.2mの長方形の平面形である。支柱穴は明確ではないが、2本主柱の可能性が高いものと思われる。遺物は確認されなかった。

SB32・33 (第 93 図)

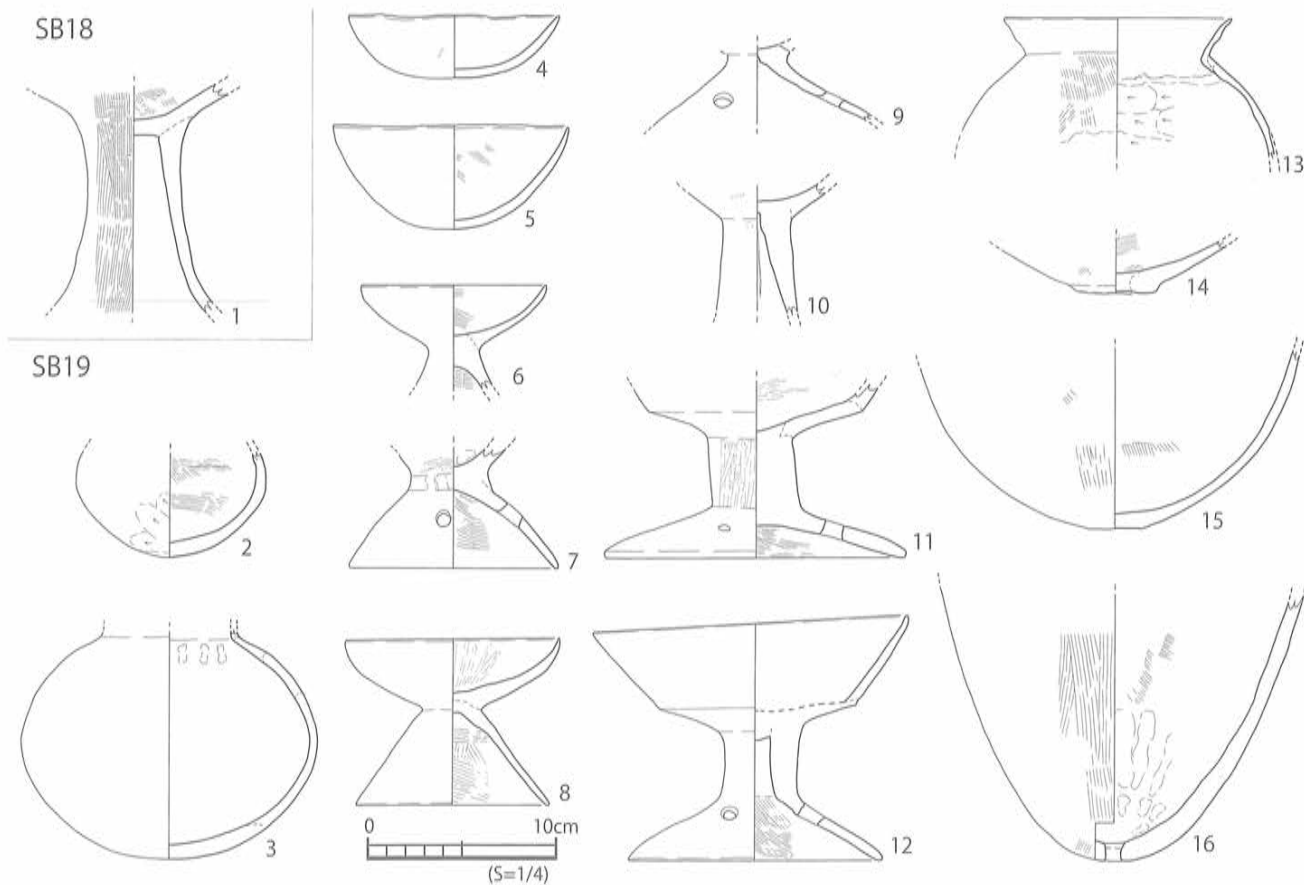
調査区南東側で検出された竪穴建物跡であり、2軒切り合った状態で検出された。SB32はSB33によって切られており、建物跡の大半部分は残存していない。



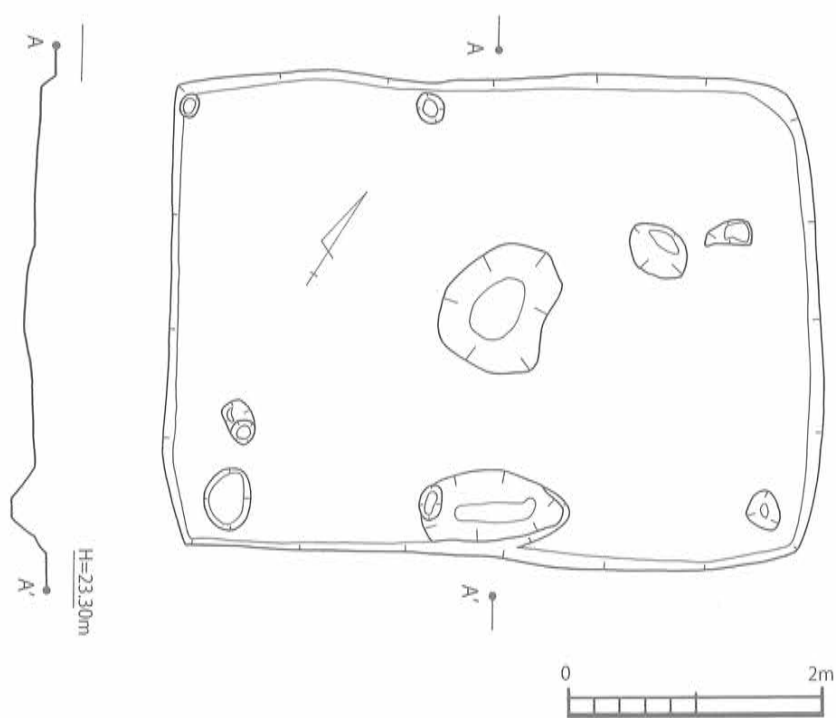
第 80 図 篠原遺跡 SB18 実測図 (S=1/60)



第 81 図 篠原遺跡 SB19 実測図 (S=1/60)



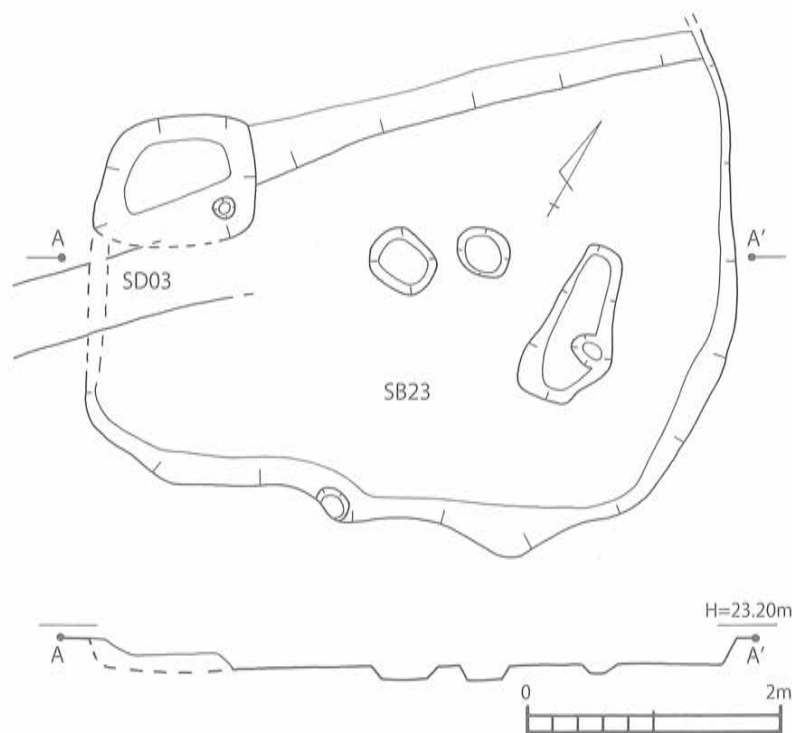
第 82 図 篠原遺跡 SB18・19 出土遺物



第 83 図 篠原遺跡 SB22 実測図 (S=1/60)



第 84 篠原遺跡 SB21
・ 22 出土遺物



第 85 図 篠原遺跡 SB23 実測図 (S=1/60)

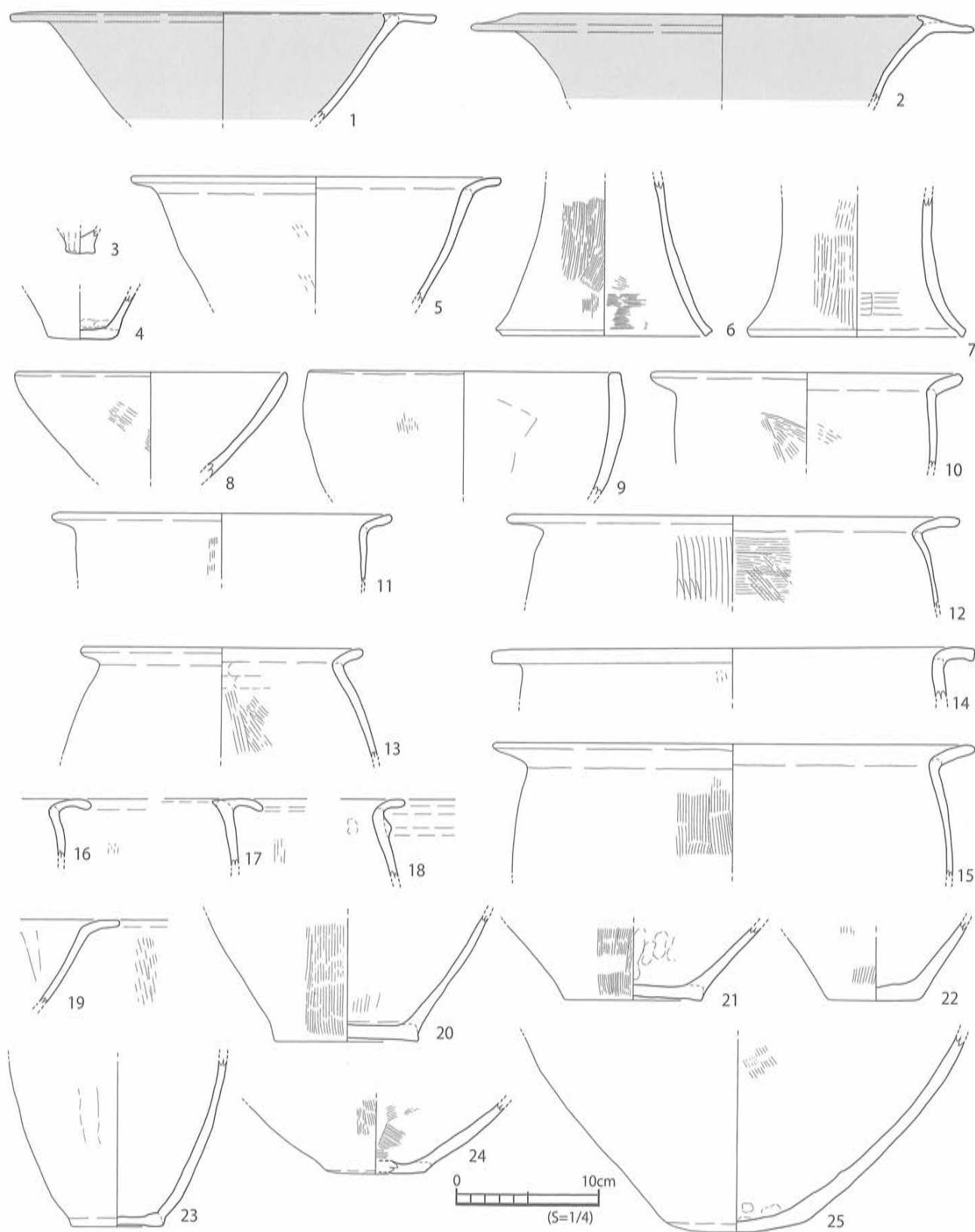
SB32 は長軸方向をほぼ東西方向にとり、長辺約 4.6 m、短辺約 3.8 m の長方形の平面形である。

SB32 では主柱穴は明確ではないが、建物内で検出されているピット等を考慮すると、2 本主柱であった可能性が高いものと推測される。遺物は建物跡中央付近よりまとまって出土している。

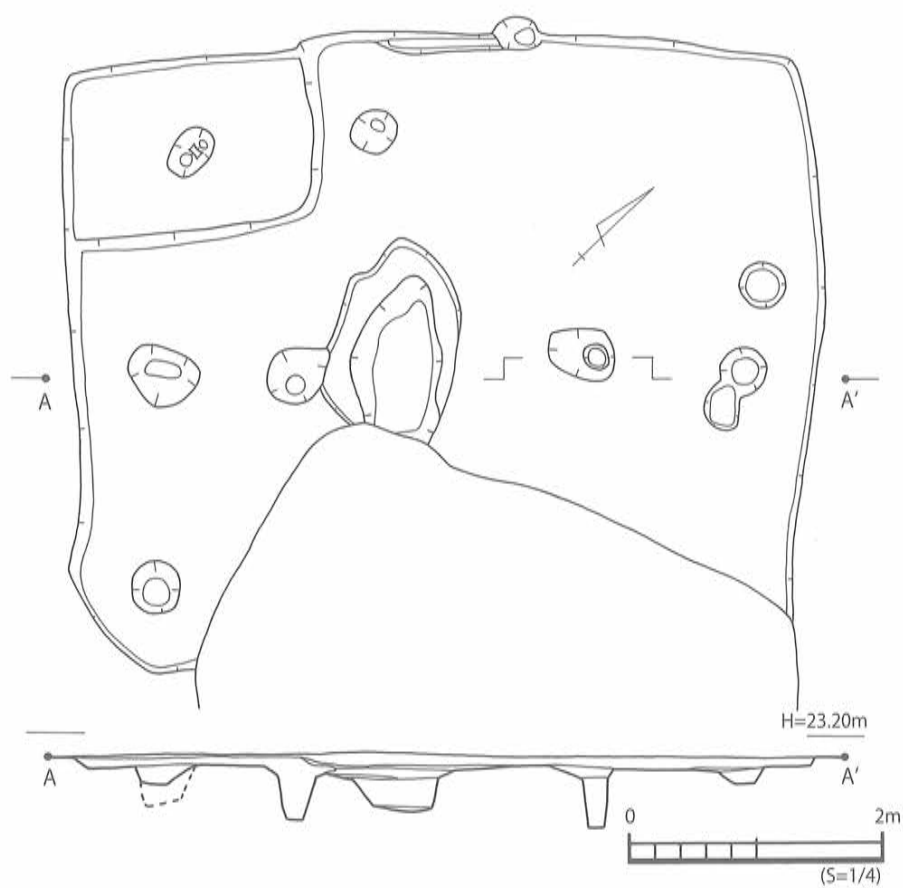
SB33 は長軸を北東－南西方向にとり、長辺約 4.4 m、短辺約 4.2 m のほぼ正方形の平面形であるが、残存箇所が少ないので不明瞭で、短辺が短くなり長方形になる可能性もある。主柱穴は明確でなく不明である。遺物は建物跡南東壁付近および SB32 と 33 が重なる場所付近で出土している。

SB32 より出土した土器には、鉢 (94 図 1～3)、器台 (同 4)、壺 (同 5)、甕 (同 6～17) がある。特に、94 図 12 の甕脚部片は中部九州の脚付甕の模倣形態と考えられ、熊本県北部地域からの影響がみられる。第 94 図掲載の SB32 出土土器の時期は、弥生時代後期に位置づけられる。

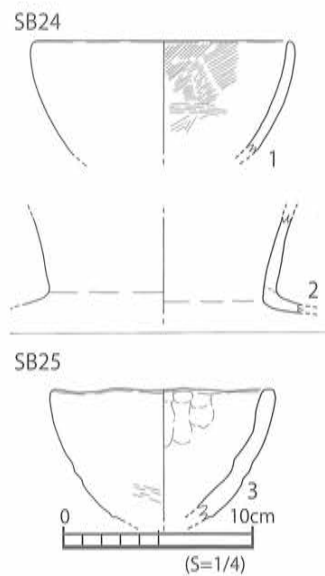
SB33 からは丹塗土器が多く出土している。(第 95 図 1～3)。これらの土器は形態の特徴から弥生時代中期後半に位置づけられるものと思われる。また、SB32 と 33 の境界部分から出土したと思われる土器を第 96 図に示した。SB33 出土土器と同様に丹塗りがなされている甕形土器であり、SB33 の土器と同時期の所産と思われる。



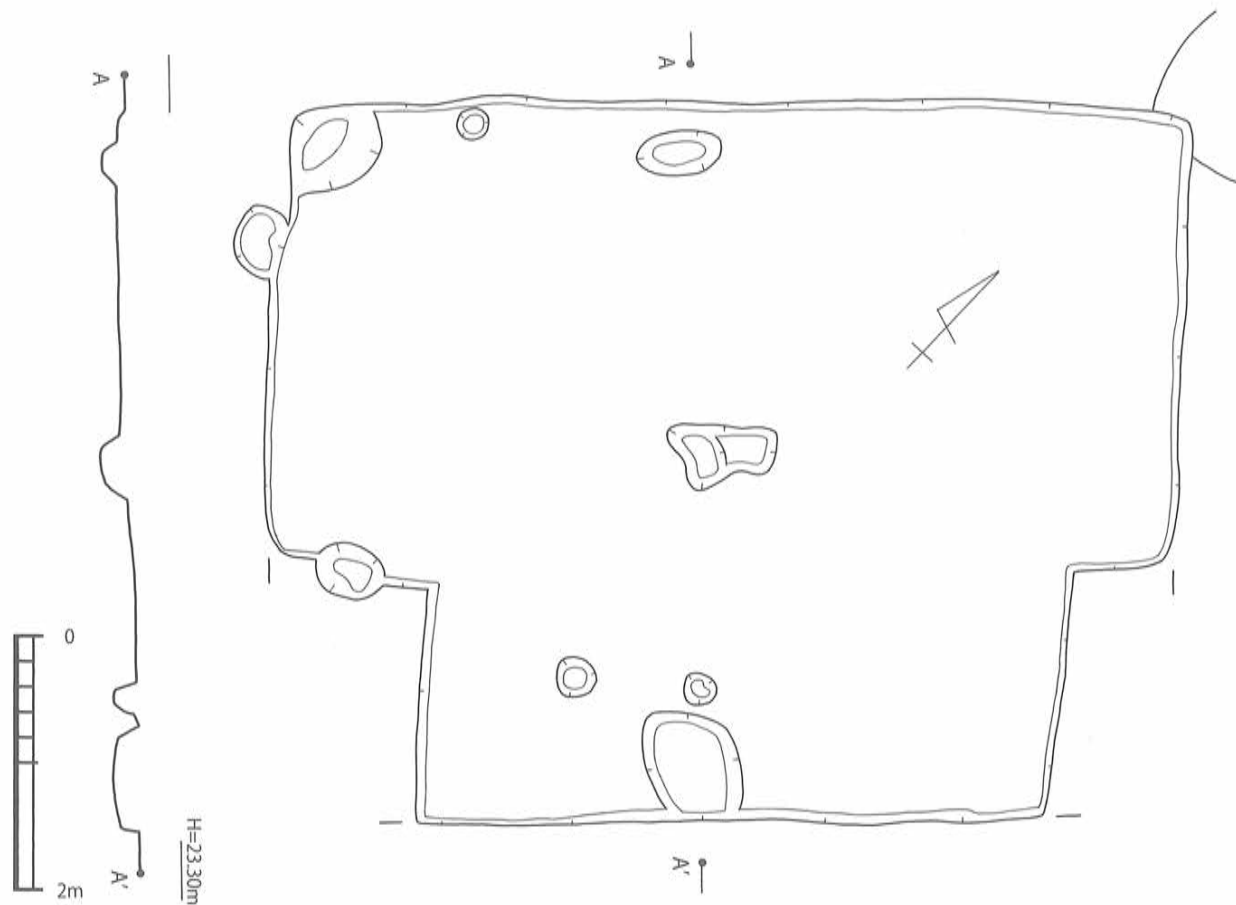
第 86 図 篠原遺跡 SB23 出土遺物



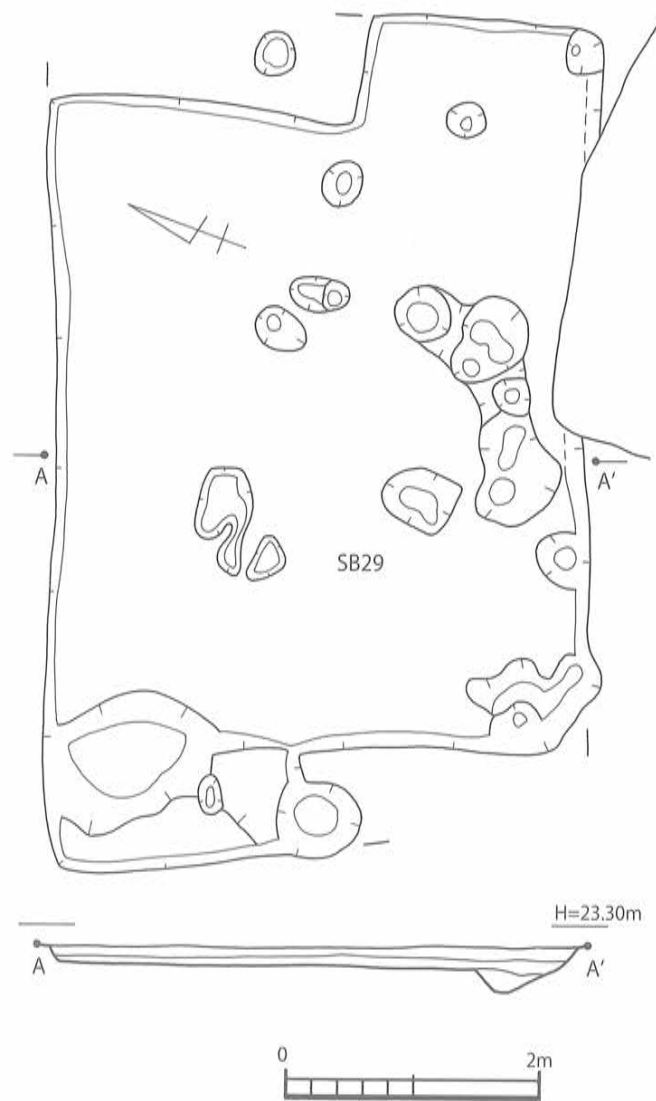
第 87 図 篠原遺跡 SB24 実測図 (S=1/60)



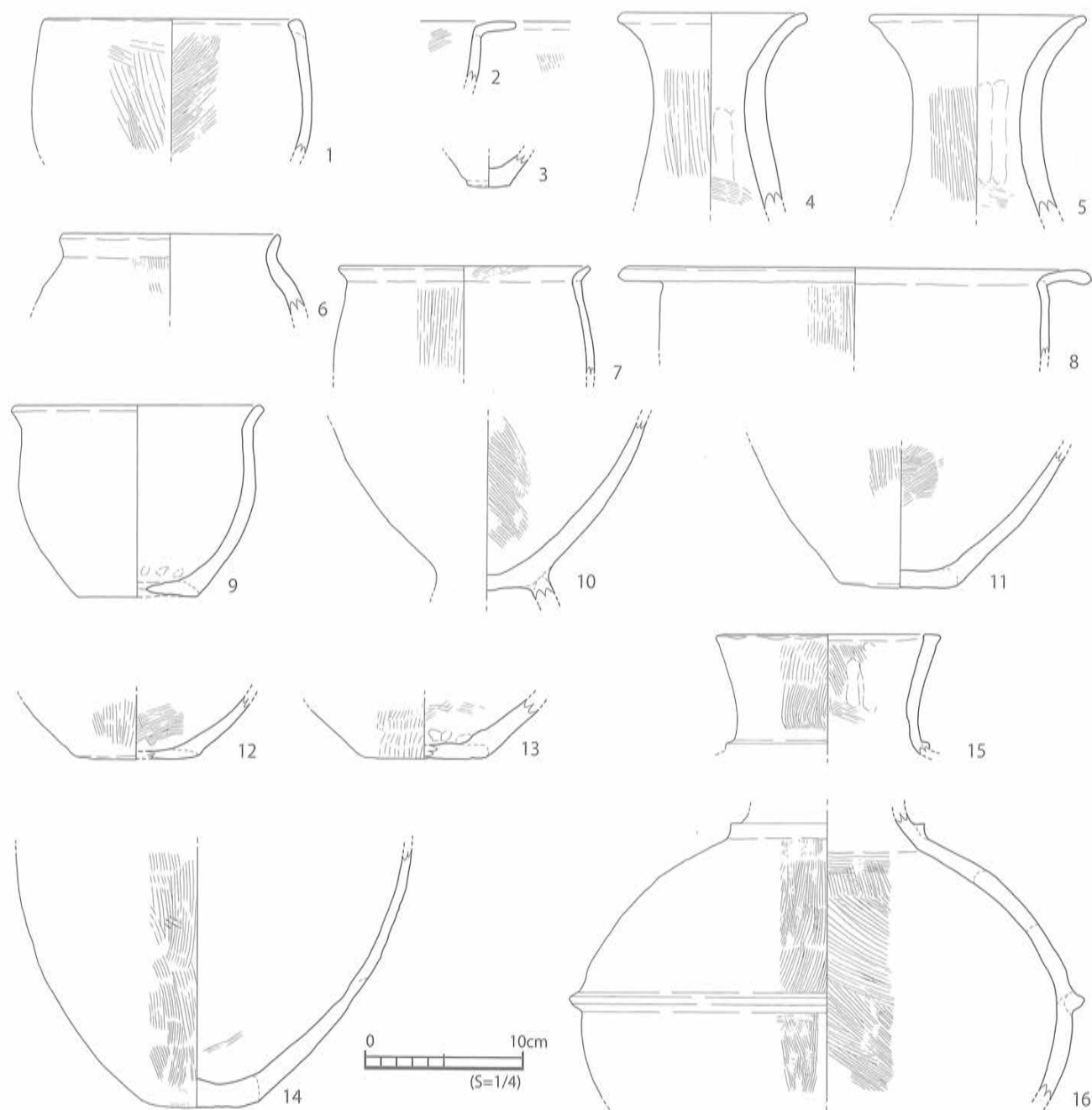
第 88 図 篠原遺跡 SB24・25
出土土器 (S=1/60)



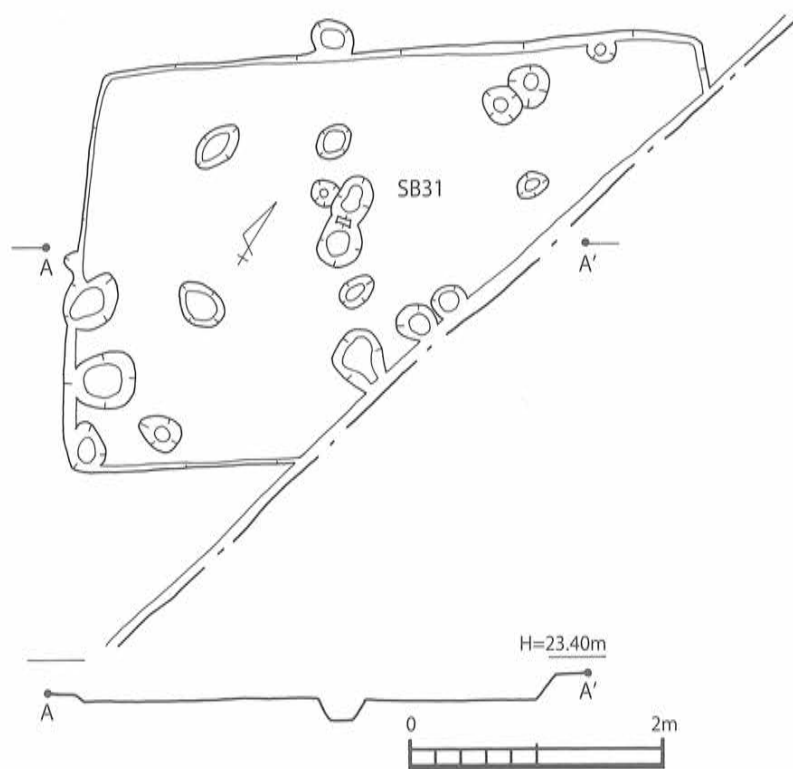
第 89 図 篠原遺跡 SB25 実測図 (S=1/60)



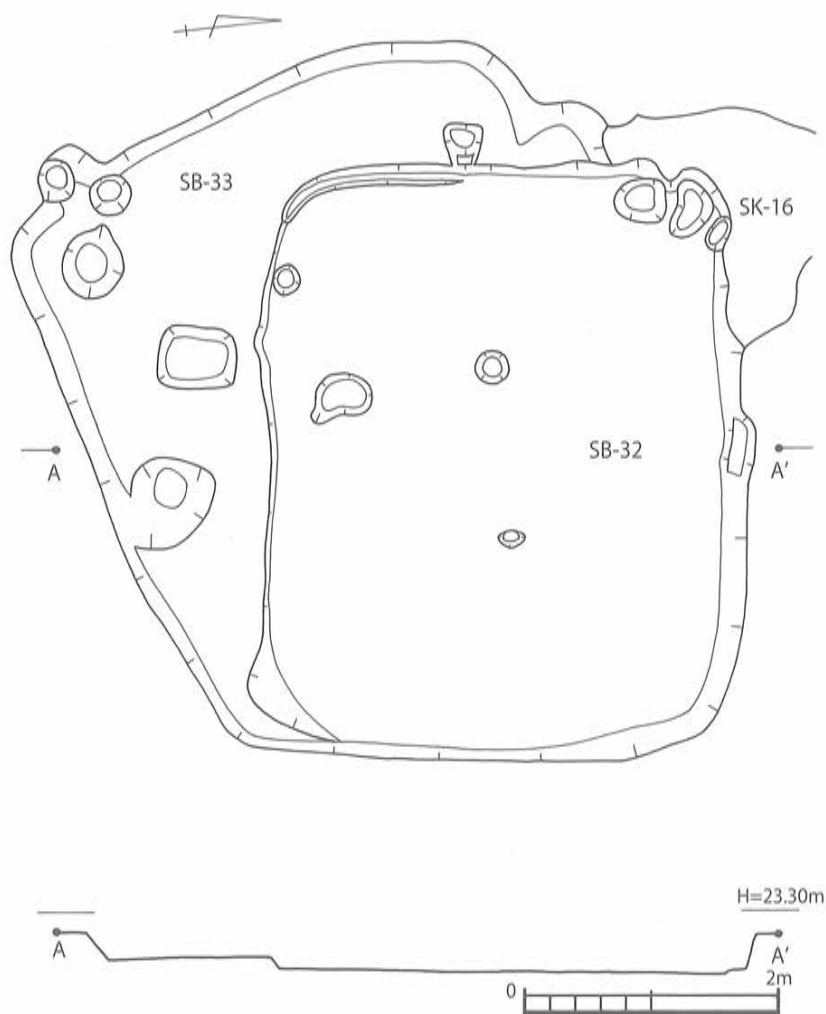
第 90 図 篠原遺跡 SB29 実測図 (S=1/60)



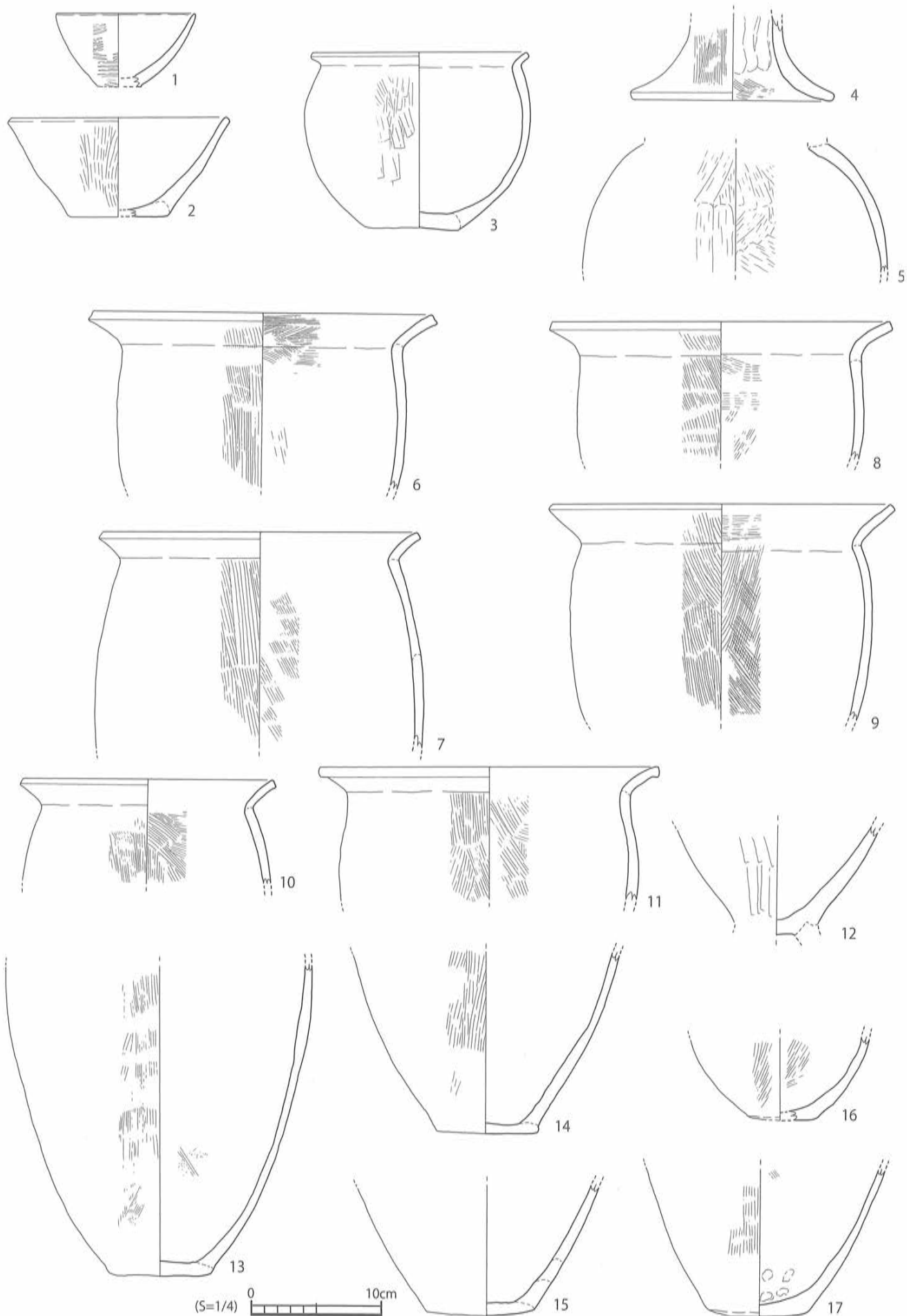
第 91 図 篠原遺跡 SB29 出土遺物



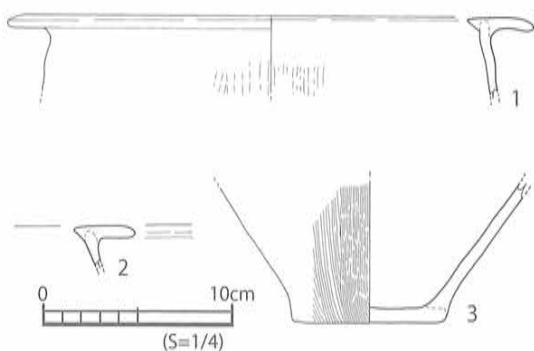
第 92 図 篠原遺跡 SB31 実測図 (S=1/60)



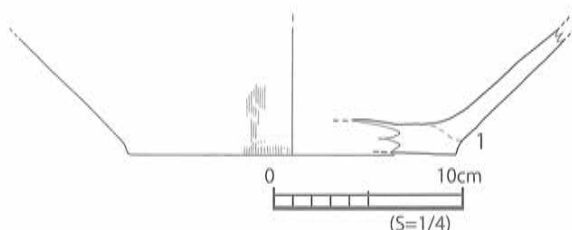
第 93 図 篠原遺跡 SB32・33 実測図 (S=1/60)



第 94 図 篠原遺跡 SB32 出土遺物



第 95 図 篠原遺跡 SB33 出土遺物



第 96 図 篠原遺跡 SB32・33 出土遺物

SB34 (第 97・99 図)

調査区南西端付近で検出された竪穴建物である。長軸をほぼ東西方向にとり、長辺約 6.6 m、短辺約 6.4 m の、隅丸であるがほぼ正方形の平面形をした竪穴建物である。主柱穴は建物内で検出されているピットより、4 本ないし 6 本の可能性が考えられる。建物跡中央に土坑があり、炉である可能性があるが詳細不明である。東壁と西壁の壁面に沿って、床面に一部に溝が掘られている。

遺物は建物内で散在的に土器が出土している。高坏 (99 図 1・5)・鉢 (同 2・3)・壺 (同 4)・甕 (同 6・7) が確認される。土器の形態的特徴から、これらの土器は弥生時代終末期～古墳時代初頭に位置づけられるものと思われ、竪穴建物跡の時期もこの前後のものと思われる。

SB35 (第 98・99 図)

調査区南東端付近で検出された竪穴建物跡である。長軸を北東－南西方向にとり、長辺約 4.7 m、短辺約 4.5 m の正方形に近い隅丸方形である。主柱穴は明確でないが、建物内で検出されているピット等より、2 本主柱の可能性も考えられる。火処等は確認されていない。

遺物は住居跡南東側に集中して出土している。第 99 図に図化可能であった土器を示す。出土している土器は全て甕であり、99 図 8 は弥生時代中期後半～後期初頭の可能性があるが、それ以外は弥生時代後期に属する形状であり、建物跡の時期も弥生時代後期前後であると思われる。

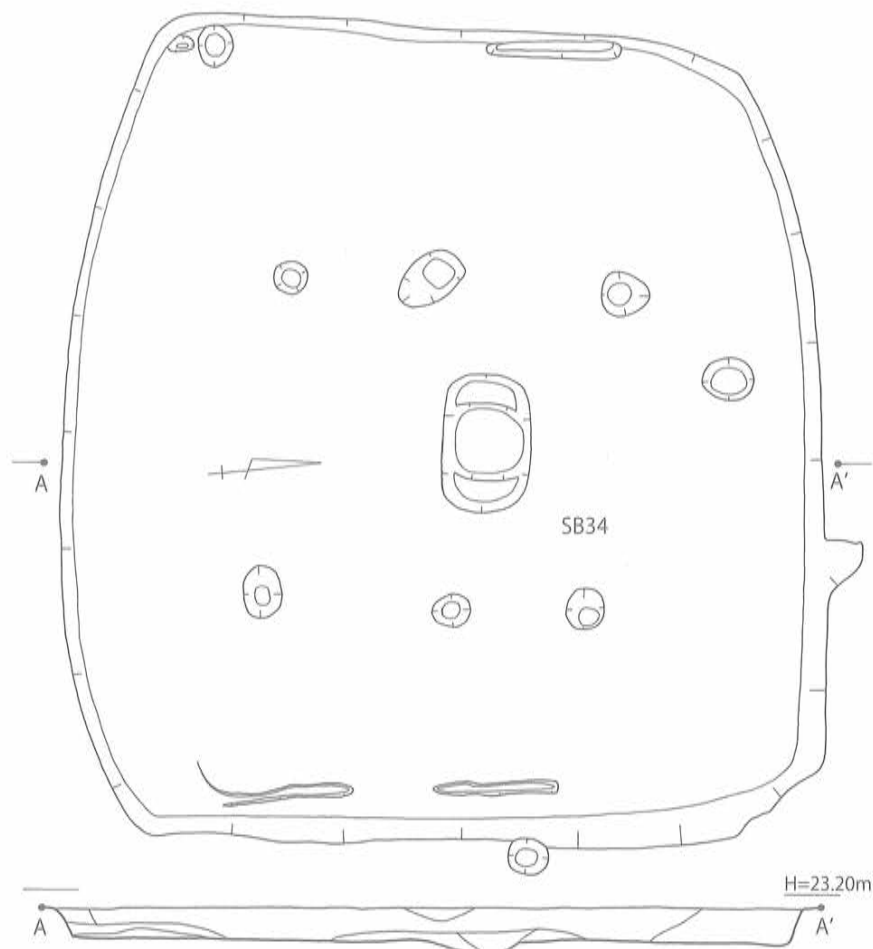
SB36 (第 100・102 図)

調査区南東端付近で検出された竪穴建物跡である。1 辺 3.8～3.9 m のほぼ正方形をした平面形である。主柱穴は明確ではないが、建物跡中央付近に 2 つピットがある。

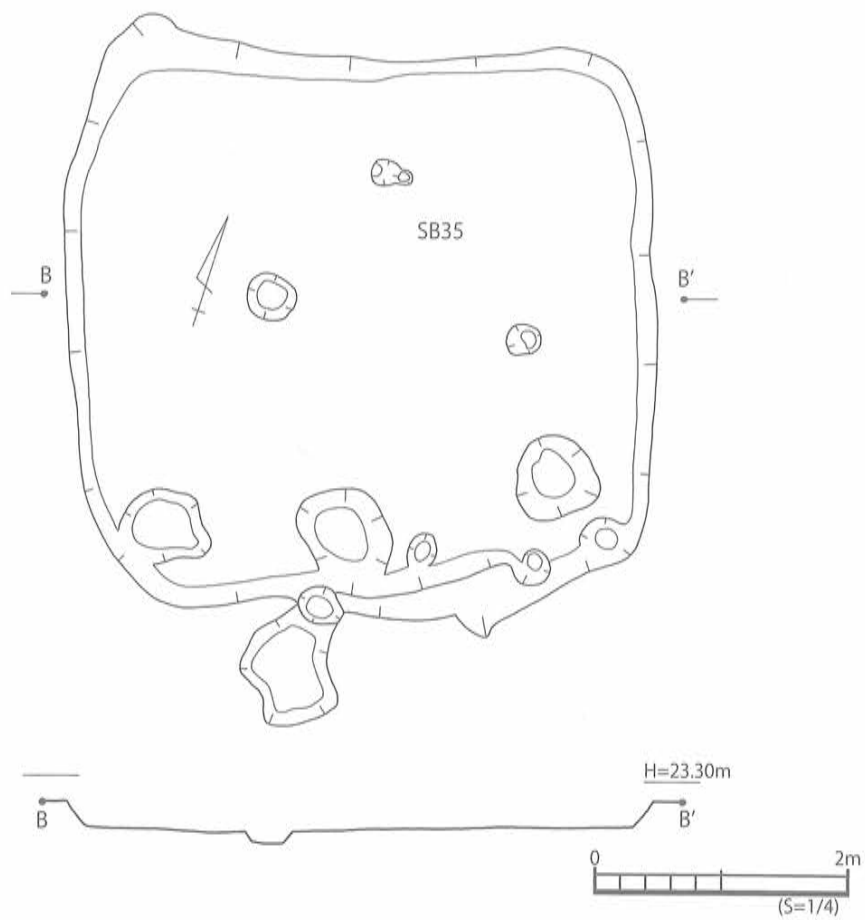
遺物は建物跡北側でまとまって出土している。102 図に図化可能であった遺物を示す。SB36 からは、鉢 (102 図 1)・甕 (同 2～5) が出土している。5 はおそらく甕棺片であると思われる。

SB37 (第 101・103 図)

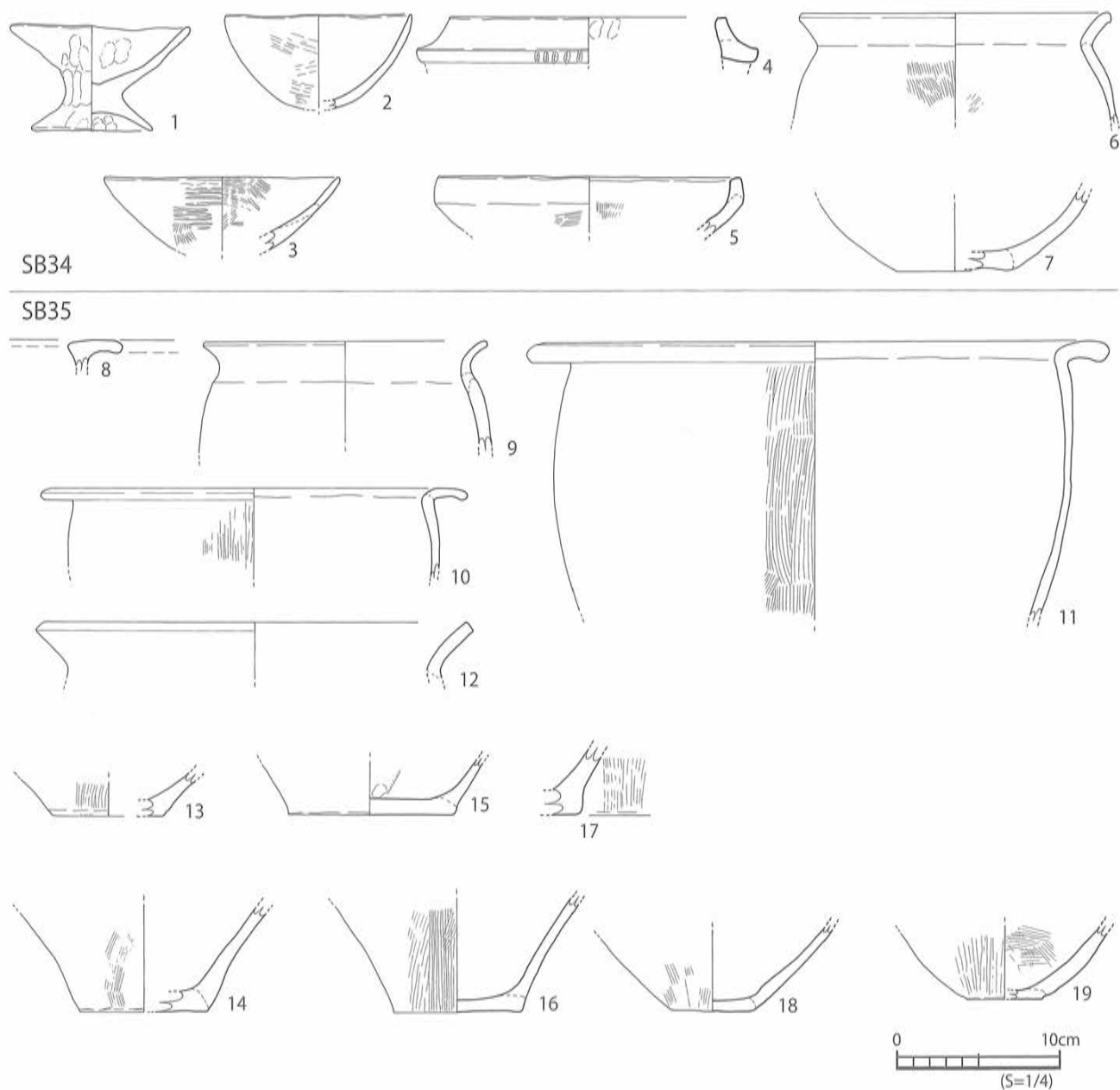
調査区中央付近で検出された竪穴建物跡である。長軸を北東－南西方向にとり、長辺約 5.6 m、短辺約 3.6 m の長方形の竪穴建物である。建物跡中央に土坑があり、火処の可能性があるが明確ではない。主柱穴は明確ではないが、建物跡内で検出されたピットの位置より、2 本主柱の建物跡である可能性が高いと思われる。



第 97 図 篠原遺跡 SB34 実測図 (S=1/60)



第 98 図 篠原遺跡 SB35 実測図 (S=1/60)



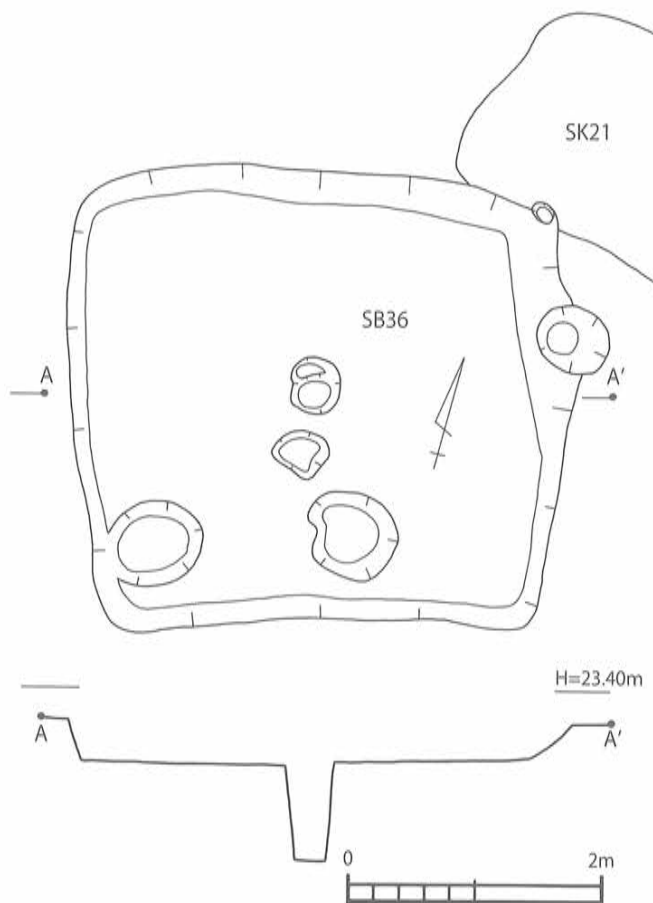
第 99 図 篠原遺跡 SB34・35 出土遺物

遺物は建物内より散在的に出土しており、住居跡中央付近に多い。図化可能であったものを第 103 図に示した。SB37 からは、鉢（103 図 1・2）・壺（同 3）・甕（同 4～6）が出土している。形態的特徴から、これらの土器は弥生時代後期に属するものと思われ、SB37 の時期もこのころであると思われる。

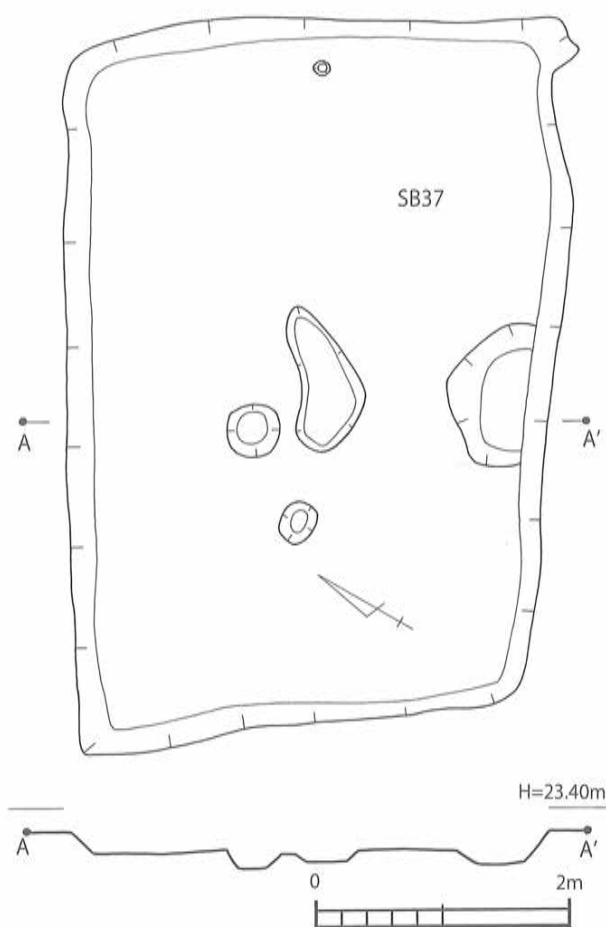
SB38（第 103・104 図）

調査区中央付近で検出した竪穴建物跡である。長軸を北西－南東方向にとり、長辺約 7.0 m、短辺約 5.6 m の長方形の建物跡である。建物は壁に沿って壁溝が巡らされており、建物跡内にはピットが多数検出されているが、長軸方向に沿った 2 本主柱の建物跡である可能性が高いと思われる。また、北東側壁中央付近に張り出し部を有しているが、SB38 に伴うものであるかどうかは定かではない。

遺物は散在的に出土しており、ミニチュア土器（103 図 7・8）・鉢（同 9）・甕（同 10～12）がある。いずれの土器も形態的特徴から弥生時代後期に位置付けられるものであり、SB38 の時期も弥生時代後



第 100 図 篠原遺跡 SB36 実測図 (S=1/60)



第 101 図 篠原遺跡 SB37 実測図 (S=1/60)

期に属する可能性が高いと思われる。

SB39 (第 105・106 図)

調査区中央やや南寄りに位置する竪穴建物跡であり、検出面から床面までは約 10cm 程度の深さしかなく、残存状況は良好でない。平面形は 1 辺約 7.0 m の円形を呈する。建物跡中央に土坑があり、それを囲むように柱穴が円形に巡っているように見えるが、支柱穴がどれであるかは定かではない。住居跡内からはピットが 13 基確認されている。

SB39 の出土遺物は、弥生式土器と古式土師器があり、第 106 図に示した。鉢 (106 図 1・2・6・7)・高坏 (同 3・14・19)・ミニチュア土器 (同 4)・器形不明の底部や脚部 (同 5・8・9・22)・器台 (同 10)・甕 (同 11～13・14～18)・壺 (20・21) がある。

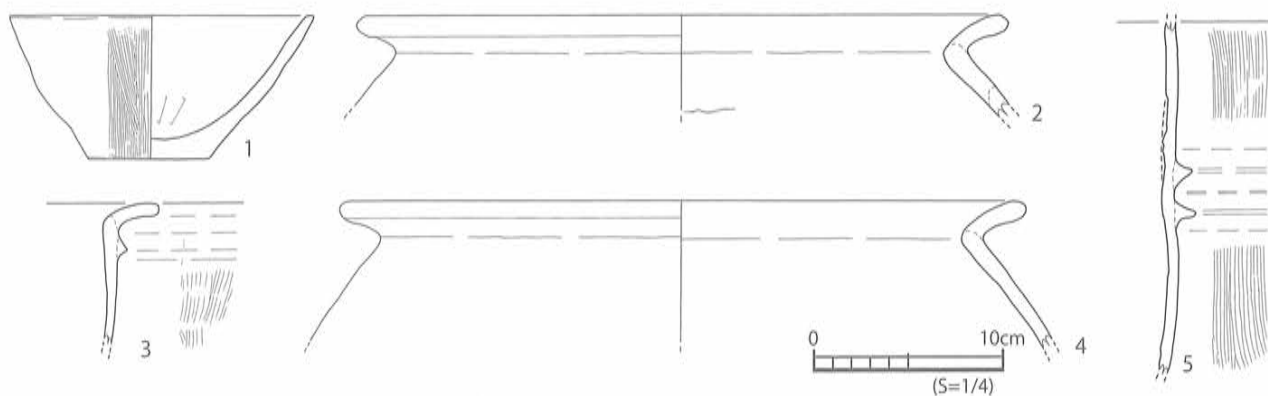
この中で、106 図 2・3・19・21 は確実に古式土師器で有ると思われ、古墳時代前期に属するが、10・12～18 は弥生時代後期に属する。このように、SB39 では 2 時期の土器が出土しており、建物廃絶後に後に土師器の混入がある可能性の他、住居跡が 2 軒重なっていた可能性等も考慮される。

SB40 (第 107 図)

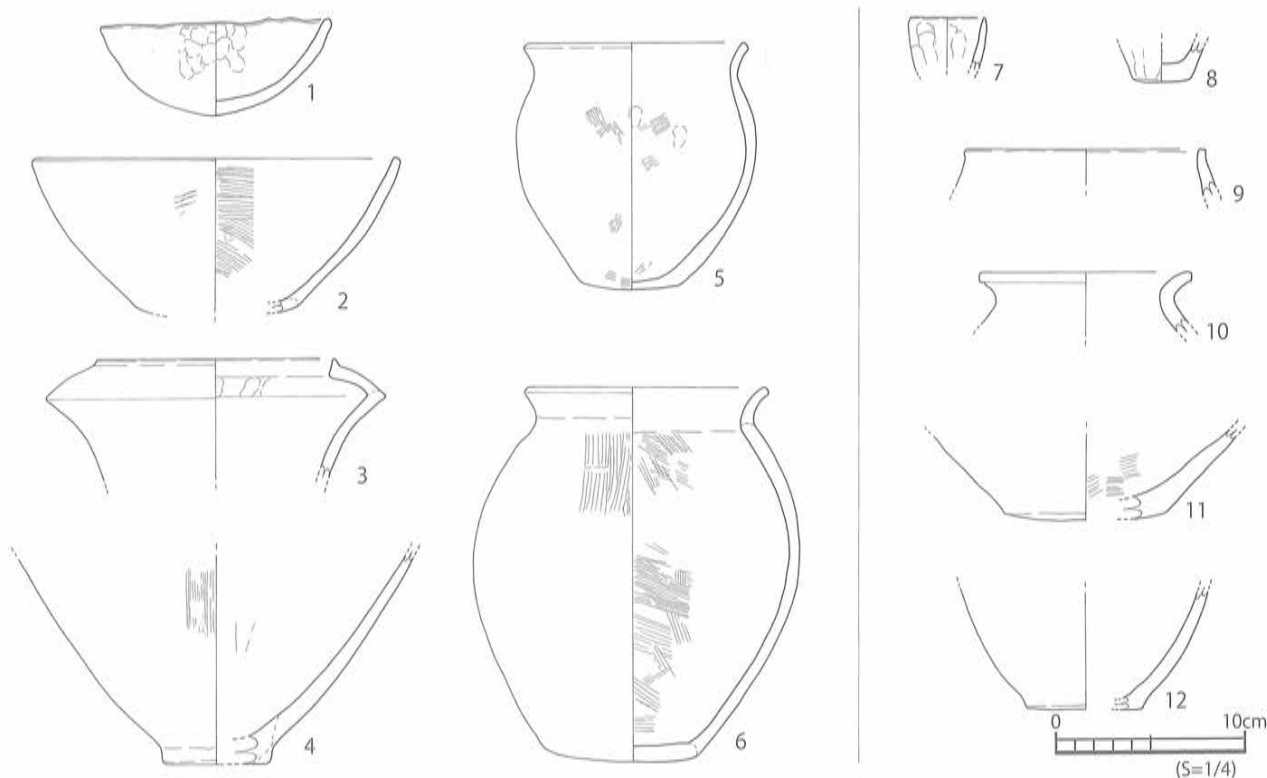
調査区中央から南側で検出された竪穴建物跡であるが、先ほどの SB39 等と同様に、遺構検出面から床面までの深さが約 10cm 程度と浅く、残存状況は良くない。

北東－南西方向に長軸をとる、長辺約 4.8 m、短辺 4.0 m の長方形の建物跡である。建物跡内で 8 箇所の掘り込みが確認されるが、火処や支柱穴等は明確ではない。

SB40 では、出土遺物も図化できるものは確認されなかった。



第 102 図 篠原遺跡 SB36 出土遺物



第 103 図 篠原遺跡 SB37・38 出土遺物

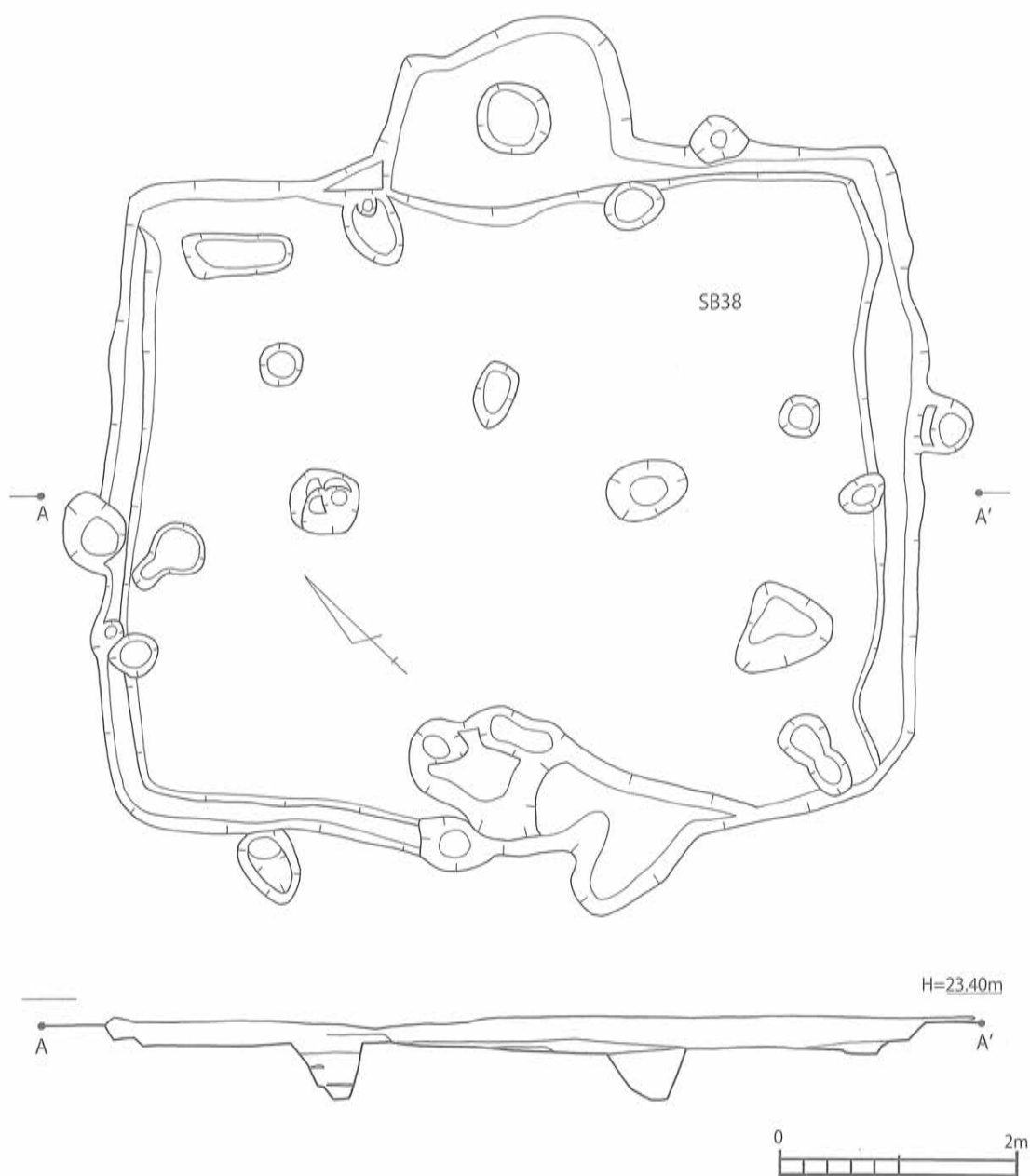
SB42 (第 108・113 図)

調査区中央やや西よりで検出された竪穴建物跡で、遺構の残存状況が悪い上に、遺構が複数重なっており、形状がやや不明確な建物跡である。ややいびつな形状で不明確な点も多いが、ほぼ東西方向に長軸をとり、長辺が最大で約 8.0 m、短辺が約 4.2 m の長方形の建物跡である。建物跡中央に土坑があり、その東西に 1 基ずつピットが検出されているので、2 本主柱の建物跡である可能性がある。

遺物は壺 (113 図 1)・高坏 (同 2)・甕 (同 3～5) があり、弥生時代後期に属するものと思われる。

SB45 (第 109 図)

調査区南西端付近で検出された竪穴建物跡である。長軸を北東―南西方向にとり、長辺約 6.0 m、短辺約 4.2 m の長方形の平面形である。主柱穴は 2 本である。かなり削平を受けていることもあり、図化可能な遺物は確認されなかった。



第 104 図 篠原遺跡 SB38 実測図 (S=1/60)

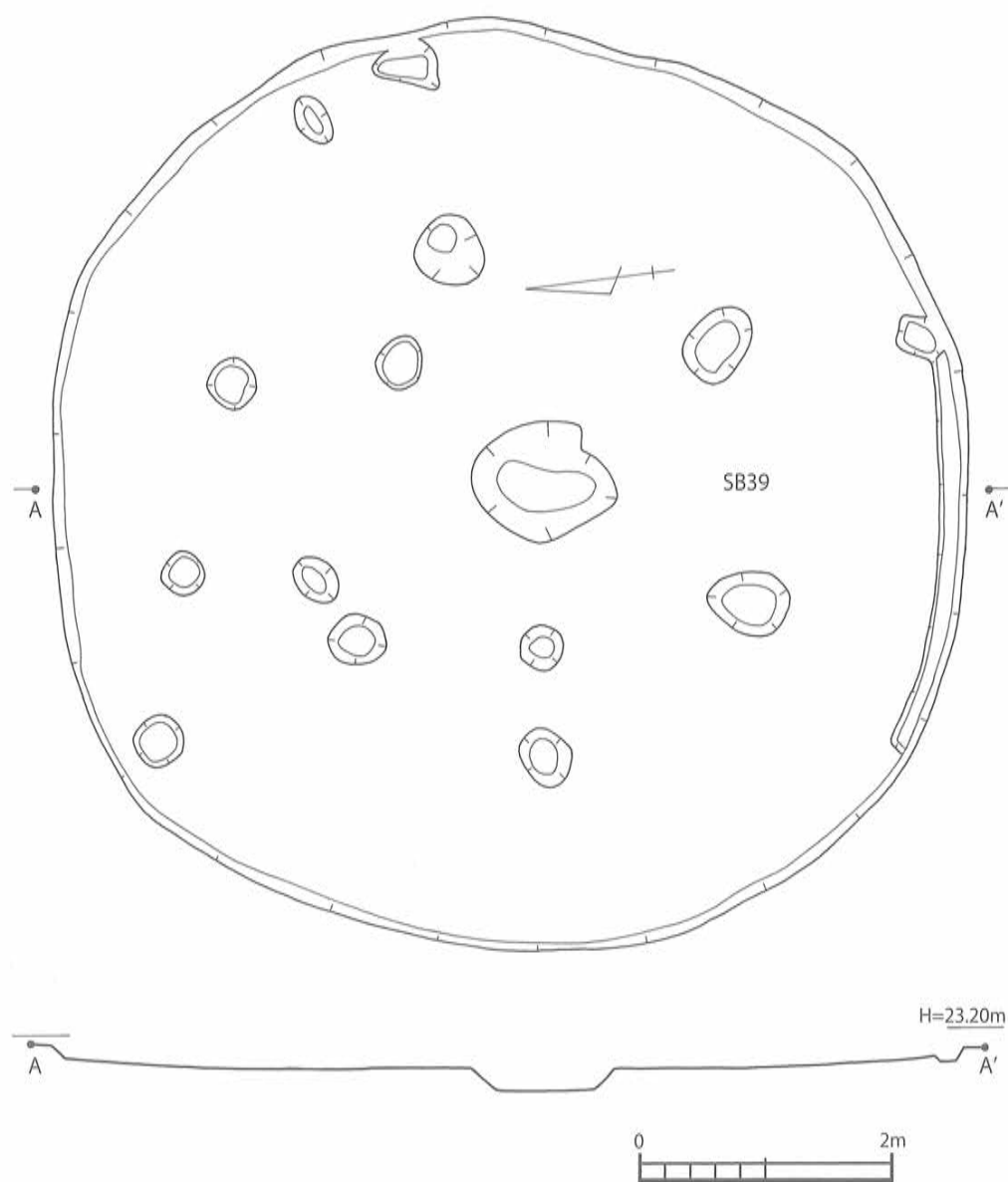
SB46 (第 110・113 図)

調査区南西端の、SB45 の南西側で検出された竪穴建物である。SB45 と同様に、長軸を北東－南西方向にとり、長辺約 7.4 m、短辺約 5.0 m の長方形の平面形である。建物長軸の両端には壁に沿ってベッド状遺構が設けられている。遺物は建物跡中央付近にまとまって出土しており、鉢 (113 図 6)・甕 (同 7～11)、壺 (同 12・13) が出土している。遺物の時期は弥生時代後期と思われる。

SB47 (第 111 図)

調査区西端中央付近で検出された竪穴建物跡である。長軸を北東－南西方向にとり、長辺約 4.7 m、短辺約 3.8 m である。建物跡中央に炉跡の可能性のある土坑があり、その土坑の東西にピットがあるので、2 本主柱の建物であったと思われる。

遺物は土器が住居跡西側に集中して出土している。土器は甕 (113 図 15～17) と器台 (同 18～20) があり、ともに弥生時代後期に属すると思われる。



第 105 図 篠原遺跡 SB39 実測図 (S=1/60)

SB48 (第 112・115 図)

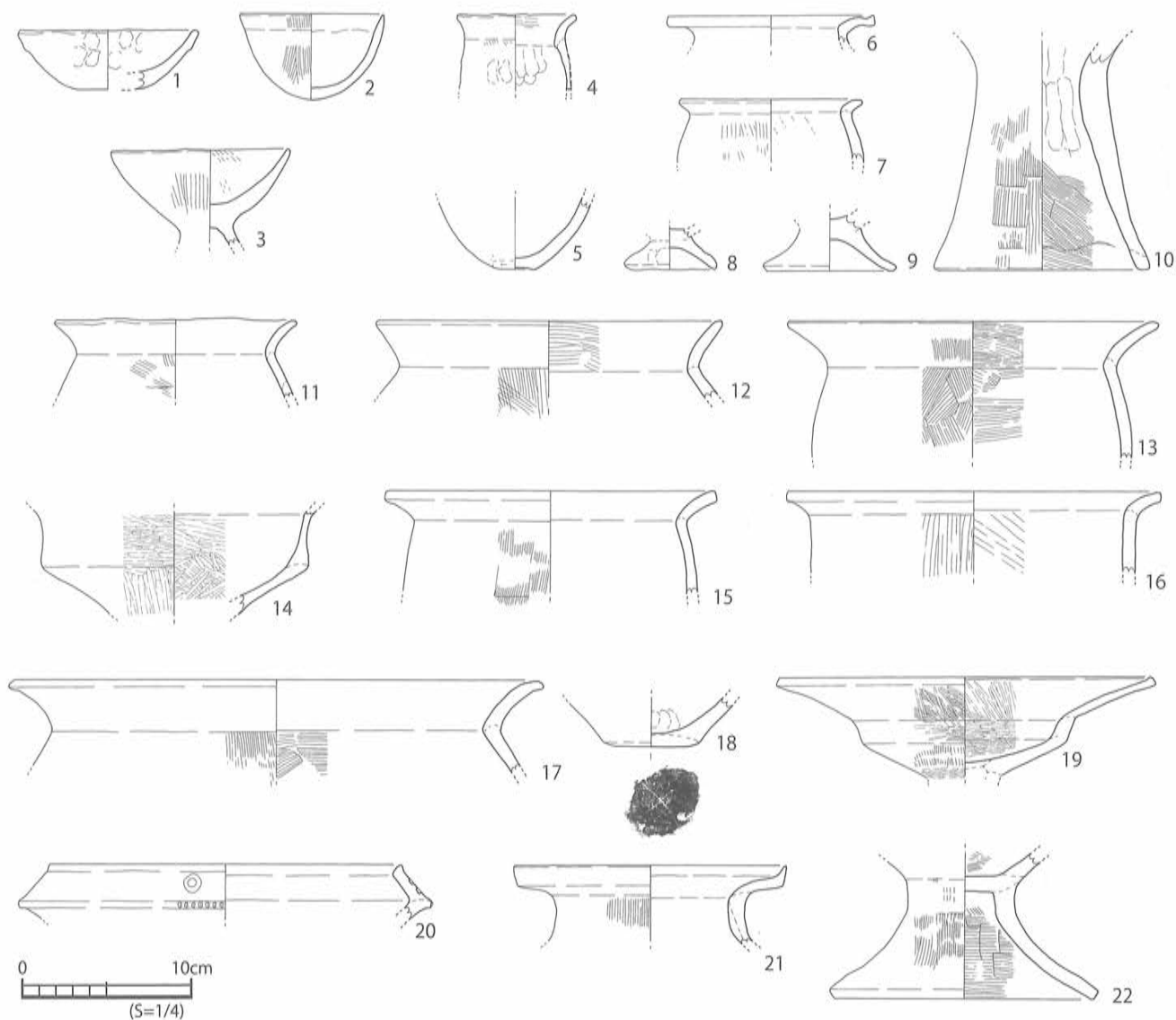
調査区西端中央付近、SB47 の西側に所在する竪穴建物跡である。長軸は SB47 と同じく北東－南西方向にとり、長辺約 6.0 m、短辺約 3.8 m である。検出された平面形は、北東側に張り出しを持つような形になっているが、実際は東側のベッド状遺構の下位にまで削平を受けたためと判断した。したがって、SB48 はもともと竪穴の角隅 2 箇所にはベッド状遺構を有する、長方形の平面形であったものと思われる。支柱穴は判然としないが、建物跡内で検出されているピット等の掘り込みの位置関係を考慮すると、2 本支柱であった可能性が高いと思われる。

遺物は多くは出土していないが、図化可能であった遺物として、鉢 1 点がある (115 図 1)。土器の時期は弥生時代後期であると思われ、SB48 も弥生時代後期に属するものと思われる。

SB49・50 (第 114・115 図)

SB49・50 は調査区中央やや西側の地点で検出された竪穴建物である。概報によれば、調査者は SB50 が SB49 を切っていると判断している。

SB49 は、長軸をほぼ南北方向にとり、北西部を SB50、南東部を SD03 に切られている。残存状況は



第 106 図 篠原遺跡 SB39 出土遺物

悪いが、長辺約 6.0 m、短辺約 3.8 m 程度の長方形の竪穴建物になる可能性がある。

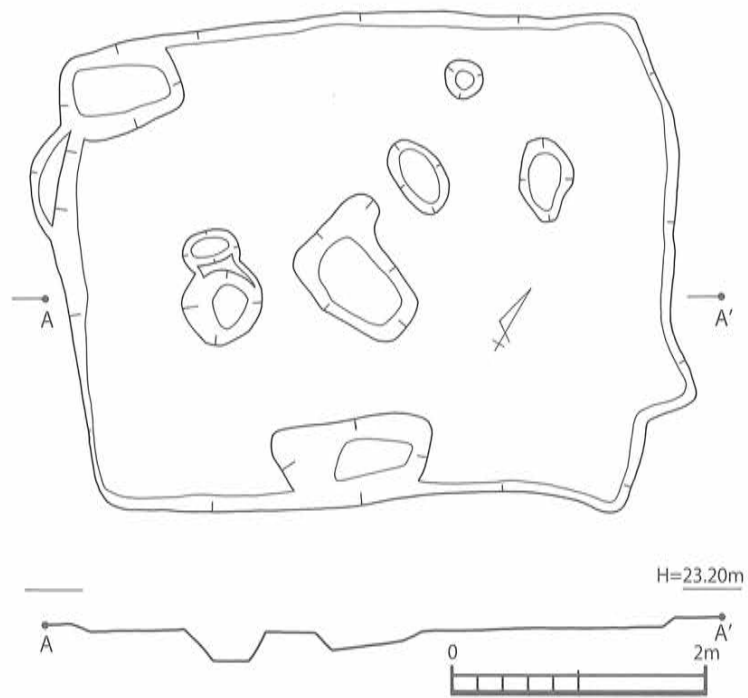
主柱穴は明確ではないが、検出されたピットの位置から、2 本主柱であると思われる。

SB49 から出土した土器として鉢があり（115 図 2・3）、時期は弥生時代後期と思われる。

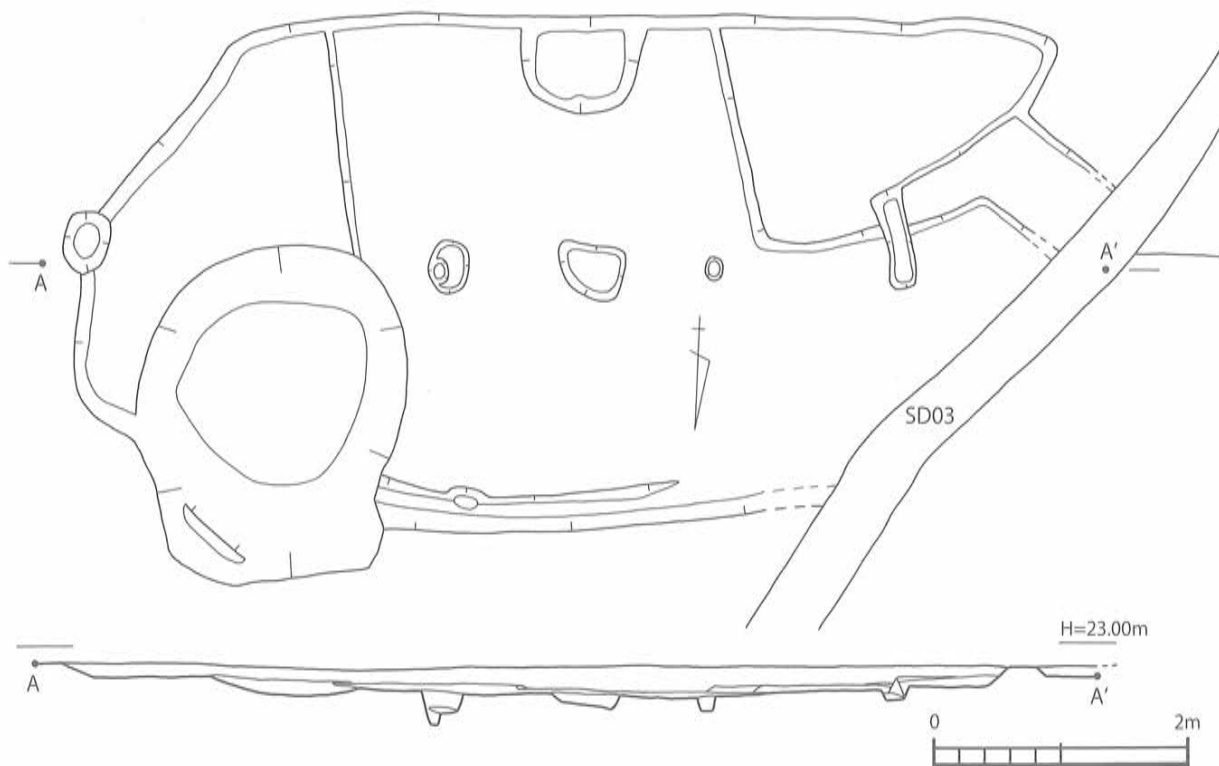
SB50 は長軸を北東－南西方向にとり、長辺約 4.6 m、短辺約 3.6 m の長方形の平面形である。主柱穴は明確ではなく不明である。遺物は住居跡中央付近に集中して土器が出土している。出土土器には甕（115 図 4～9）・高坏（同 10）がある。弥生時代後期の遺物と思われる。

SB51（第 116 図）

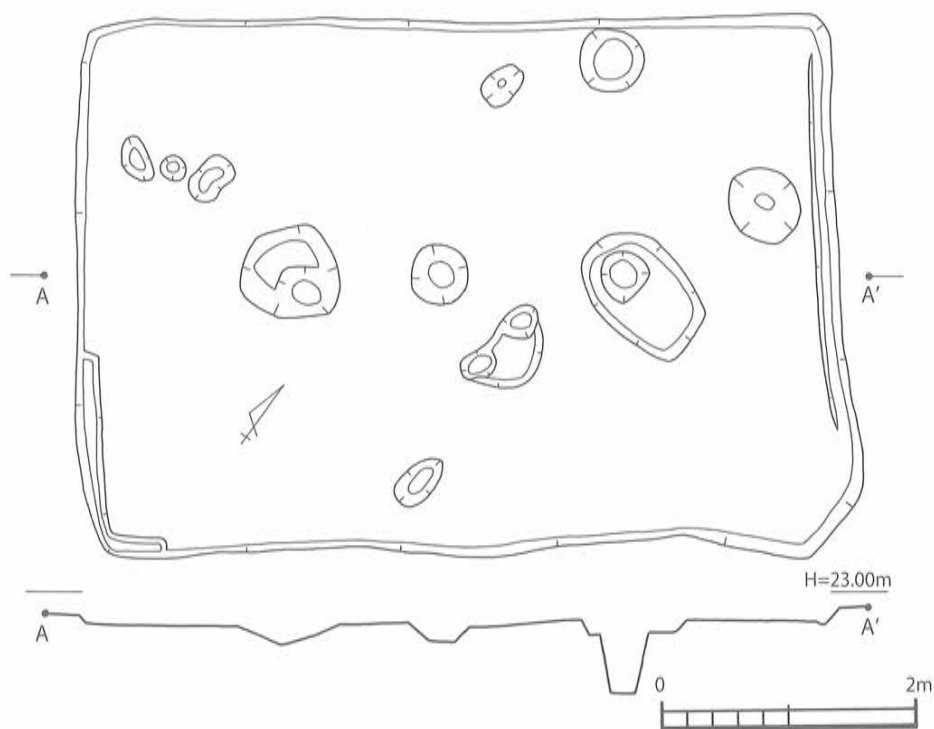
調査区中央やや西寄りで検出した竪穴建物跡である。周辺の遺構との切り合いが多く、調査図面では平面形態はややいびつな長方形をしている。長辺約 6.1 m、短辺約 4.2 m の、やや平行四辺形状の長方形の平面形態である。住居跡北東にベッド状遺構を有する。遺物は確認できなかった。



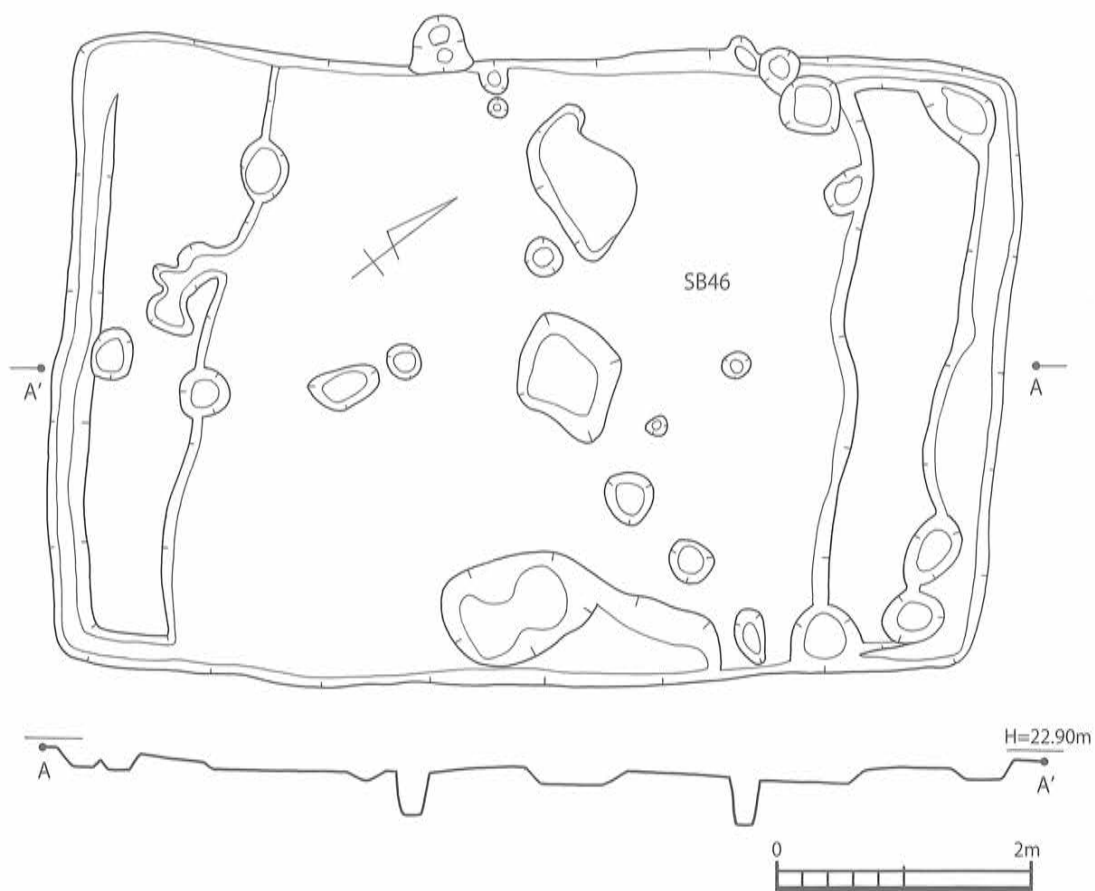
第 107 図 篠原遺跡 SB40 実測図 (S=1/60)



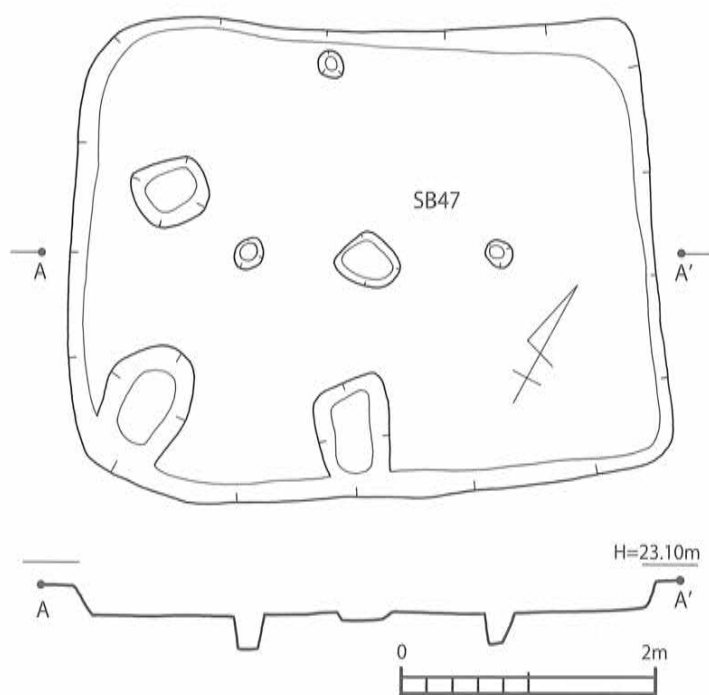
第 108 図 篠原遺跡 SB42 実測図 (S=1/60)



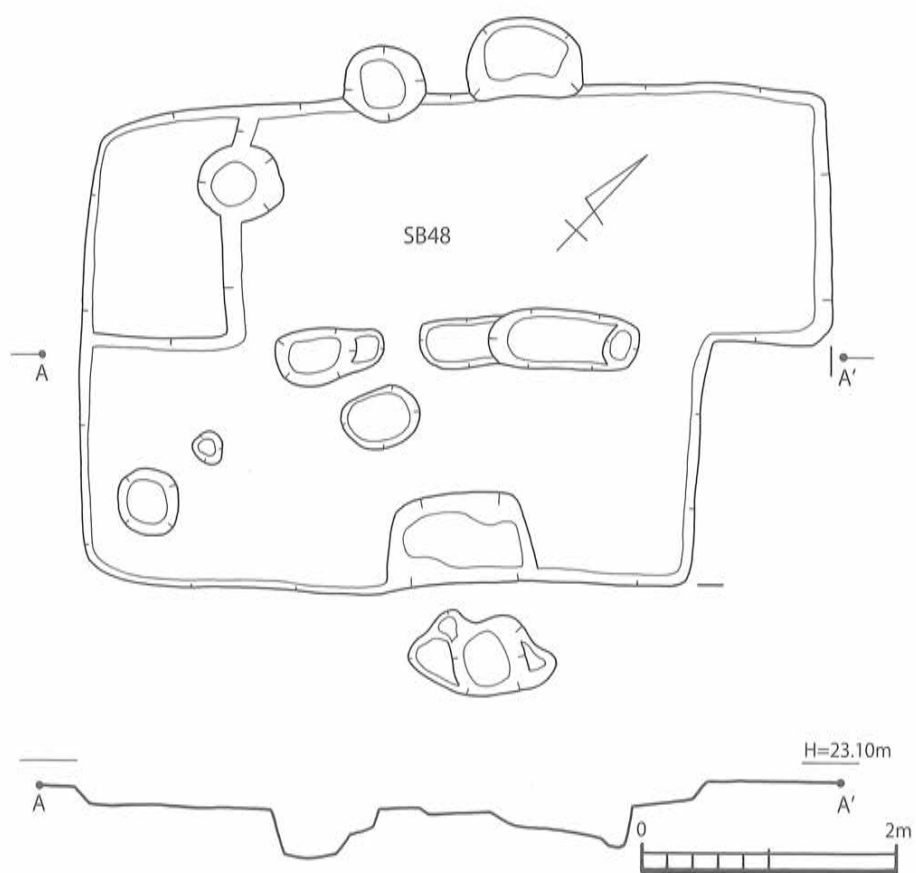
第 109 図 篠原遺跡 SB45 実測図 (S=1/60)



第 110 図 篠原遺跡 SB46 実測図 (S=1/60)

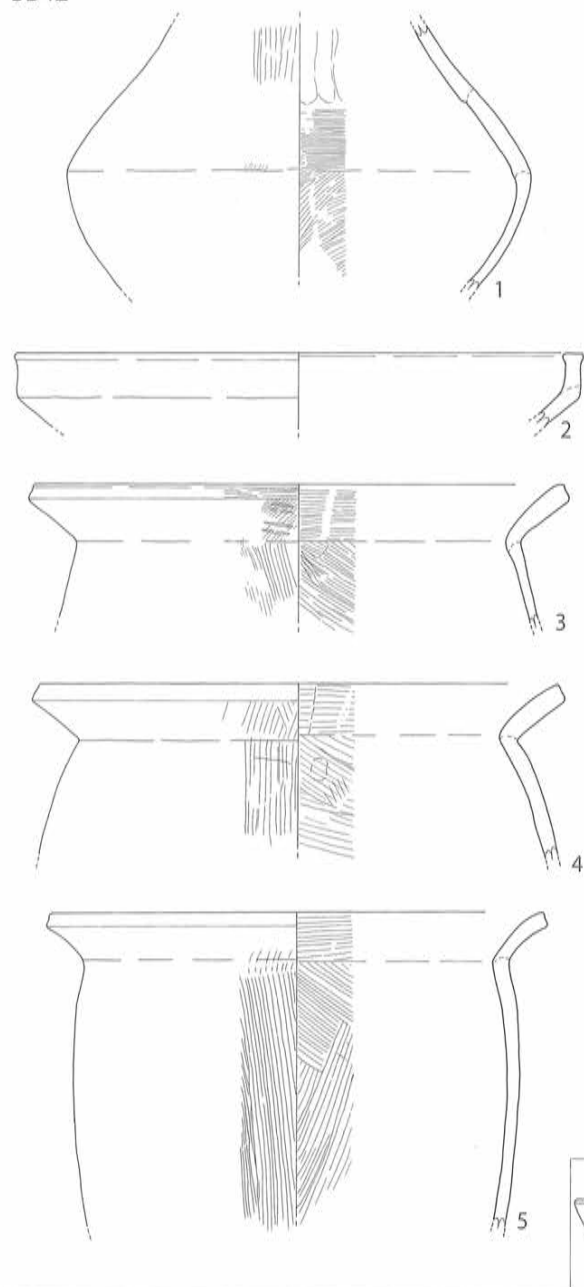


第 111 図 篠原遺跡 SB47 実測図 (S=1/60)

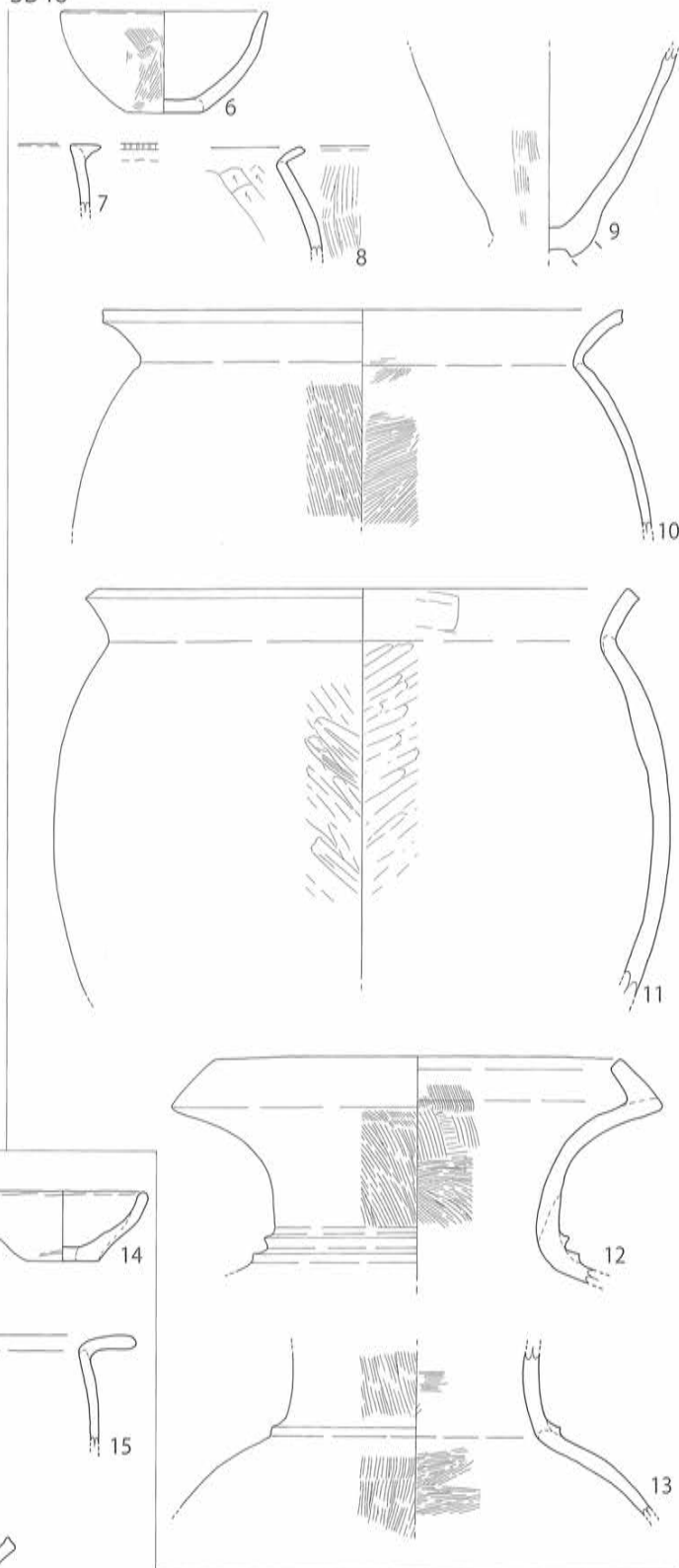


第 112 篠原遺跡 SB48 実測図 (S=1/60)

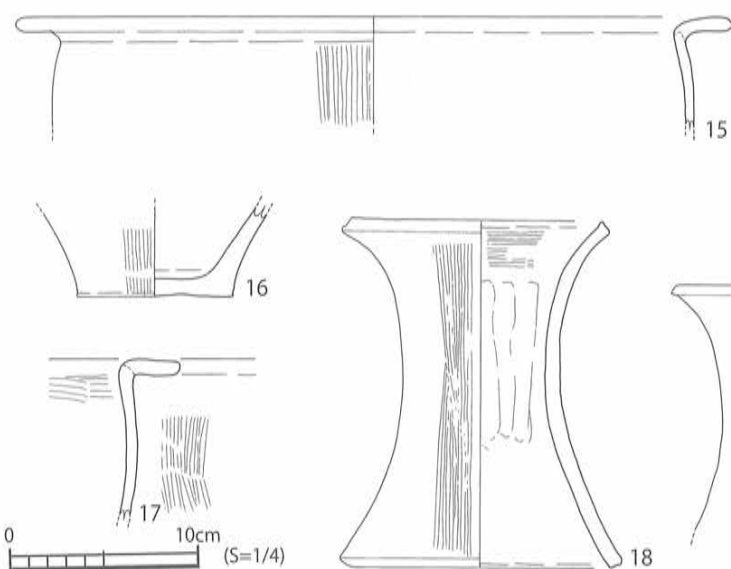
SB42



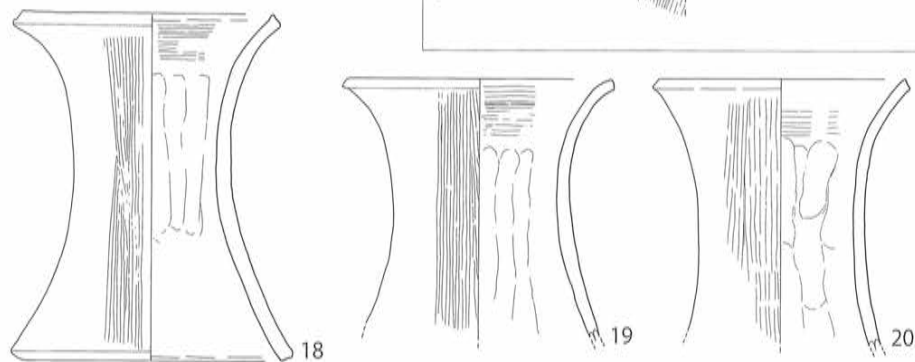
SB46



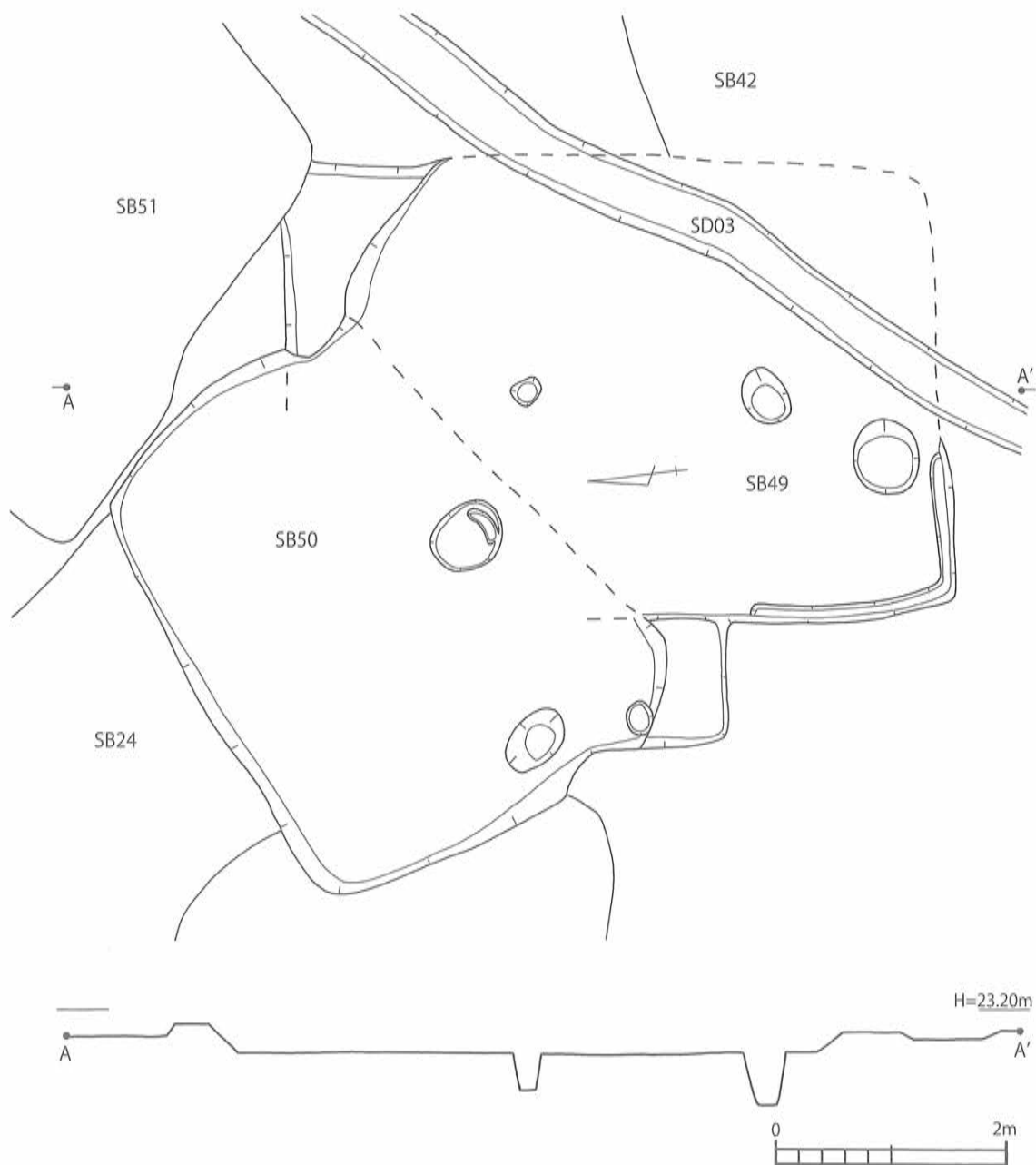
SB47



0 10cm (S=1/4)



第 113 図 篠原遺跡 SB42・46・47 出土遺物



第 114 図 篠原遺跡 SB49・50 実測図 (S=1/60)

② 掘立柱建物跡 (SB)

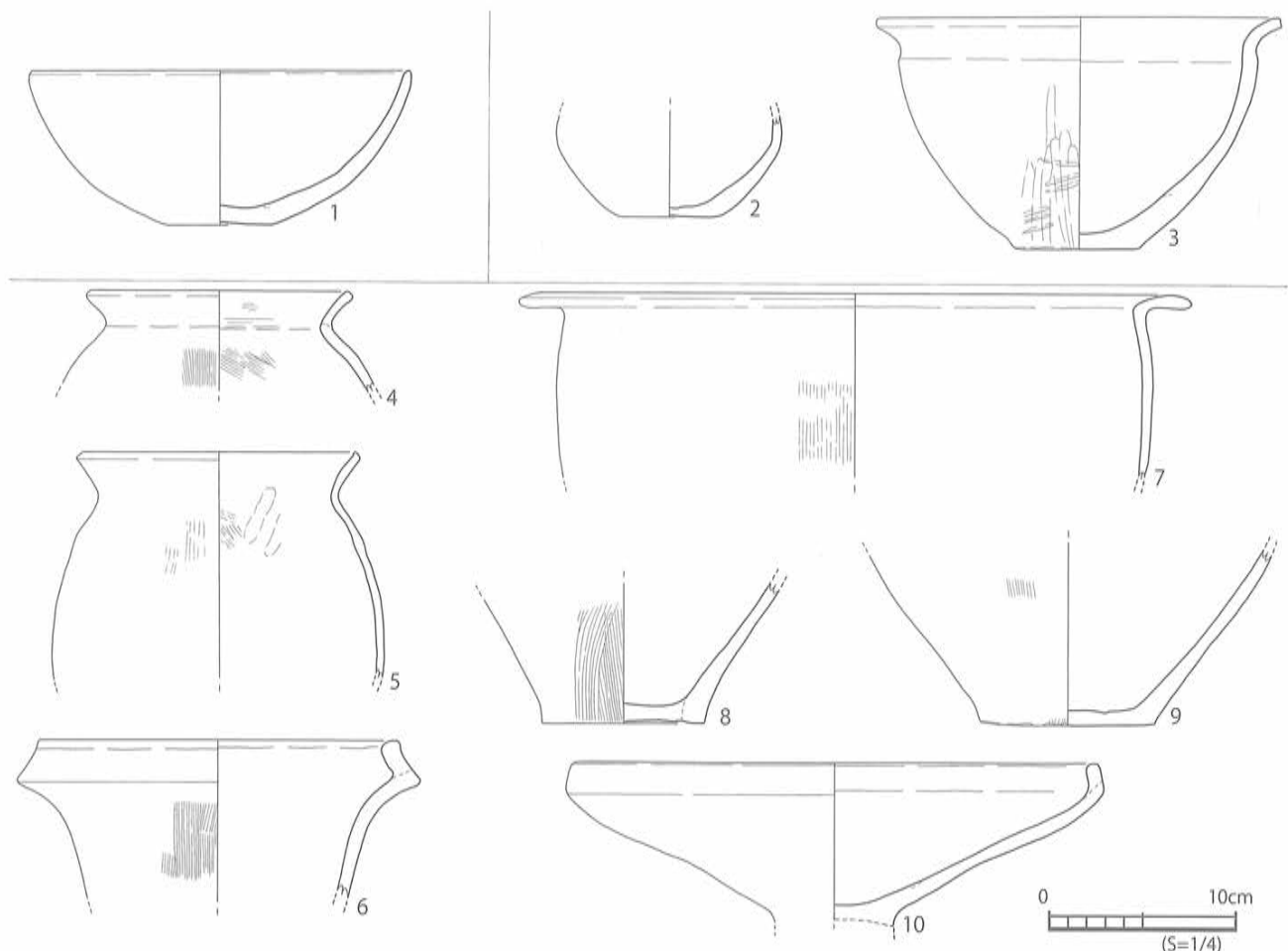
以下、篠原遺跡 3 地点で発見された掘立柱建物跡について報告する。なお、掘立柱建物は検討がやや不十分で、他にも存在する可能性がある。検出ピットの配置は全体図 (第 68 図) を参照されたい。

SB14 (第 118 図)

調査区の北側で検出された掘立柱建物跡である。長軸を北北東—南南西方向にとる 1 間 × 1 間の建物で、柱間は長辺約 2.6 m、短辺約 2.2 m である。明確に SB14 に伴う遺物は確認できず、根拠は希薄であるが、形状等から弥生時代に属する建物と思われる。

SB15 (第 119 図)

調査区の北側、SB14 の南側で検出された掘立柱建物跡である。長軸を北西—南東方向にとる 1 間 × 1 間の建物で、柱間は長辺約 3.2 m、短辺約 2.4 m の長方形である。明確に SB15 に伴う遺物は確認できず根拠は希薄であるが、形状等から弥生時代に属する建物と思われる。



第 115 図 篠原遺跡 SB48・49・50 出土遺物

SB16 (第 120 図)

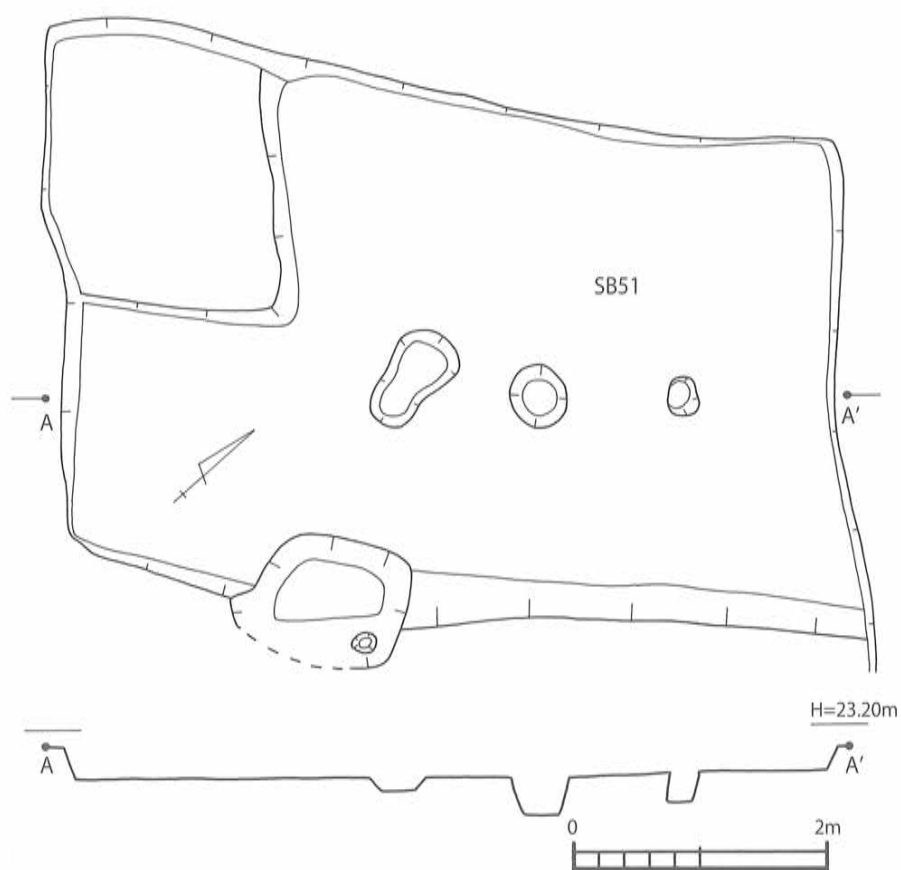
調査区南東端で検出された掘立柱建物跡である。長軸を北西－南東方向にとる。概報によれば調査者の判断は 1 間 × 1 間の建物であるが、その他に SB16 の柱穴になる可能性がある柱穴も存在し、2 間 × 1 間、2 間 × 2 間の可能性もある。柱間は長辺約 3.4 m、短辺約 2.8m の長方形である。明確に SB16 に伴う遺物は確認できず根拠は希薄であるが、形状等から弥生時代に属する建物と思われる。

SB20 (第 121 図)

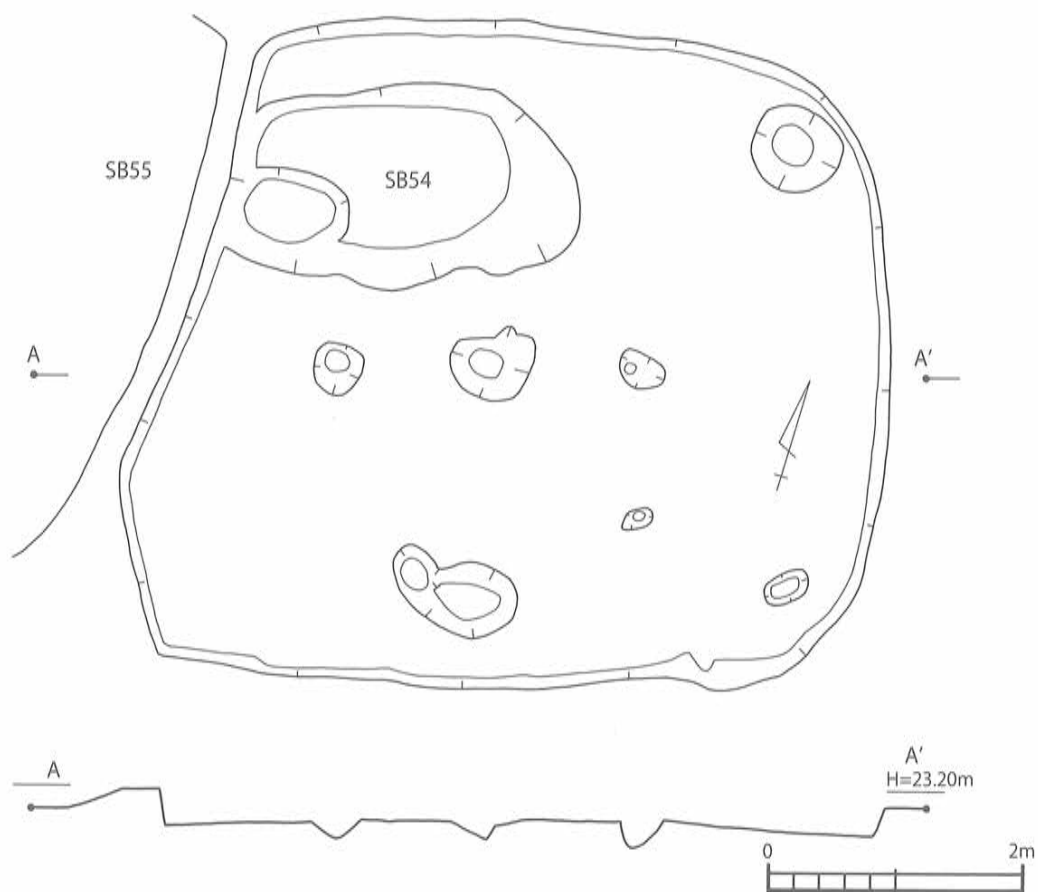
調査区の北西側で検出された掘立柱建物跡である。長軸を北西－南東方向にとる 1 間 × 1 間の建物で、柱間は長辺約 3.2 ～ 3.4 m、短辺約 2.2m の長方形である。明確に SB20 に伴う遺物は確認できず根拠は希薄であるが、形状等から弥生時代に属する建物と思われる。

SB21・SB26 (第 68・84 図)

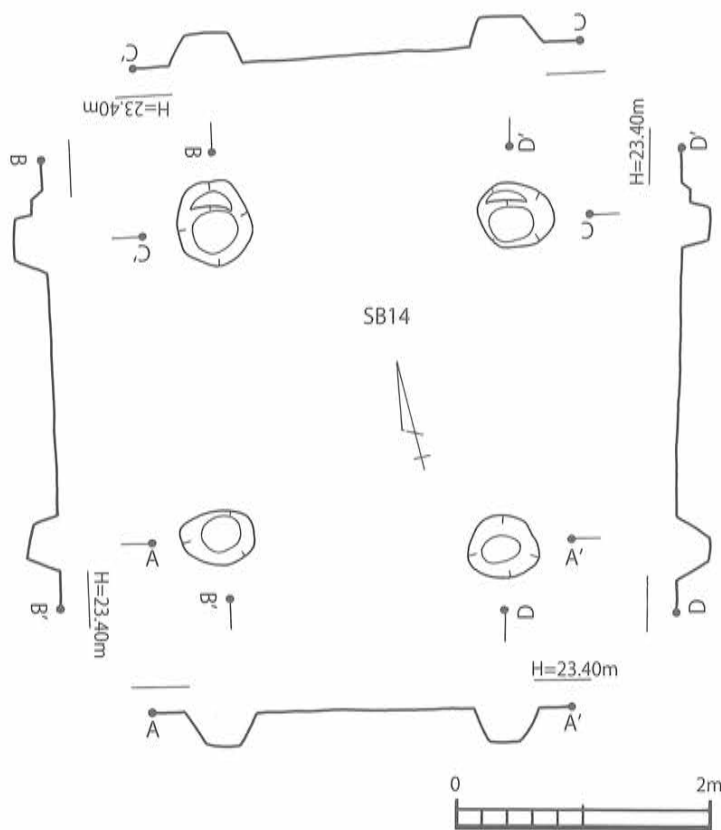
調査区の北西側で 2 軒重なった状態で検出された掘立柱建物跡である。SB21 は長軸を北西－南東方向にとる 1 間 × 1 間の建物で、柱間は長辺約 4.2 m、短辺約 2.2m の長方形である。SB26 は長軸を北西－南東方向にとる 1 間 × 1 間の建物で、柱間は長辺約 4.1 m、短辺約 2.6m の長方形である。SB20 からは、柱穴より弥生中期の高坏小片が出土している（第 84 図 1）。SB26 は明確に伴う遺物は確認できず根拠は希薄であるが、形状等から弥生時代に属する建物と思われる。



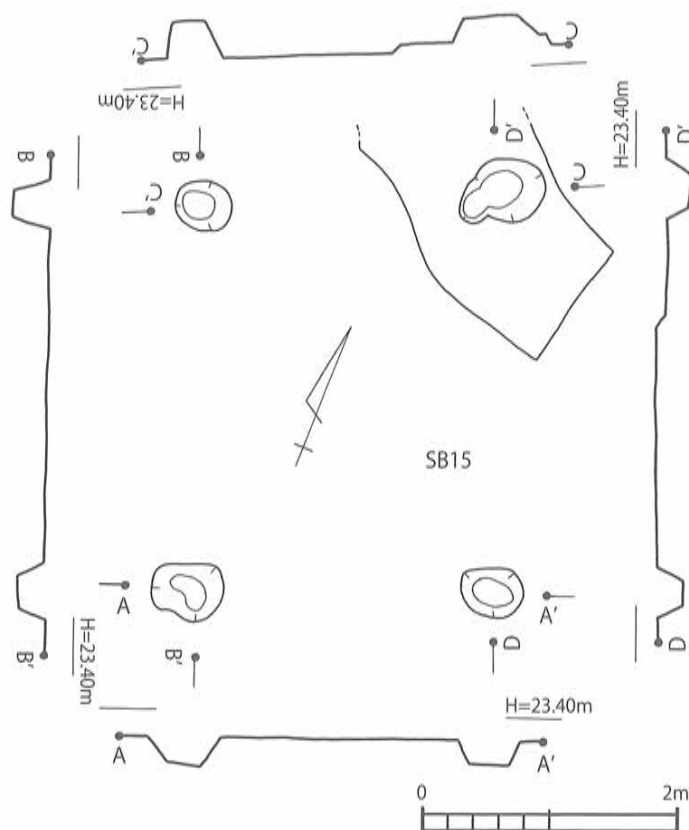
第 116 図 篠原遺跡 SB51 実測図 (S=1/60)



第 117 図 篠原遺跡 SB54 実測図 (S=1/60)



第 118 図 篠原遺跡 SB14 実測図 (S=1/60)



第 119 図 篠原遺跡 SB15 実測図 (S=1/60)

SB27 (第 122 図上)

調査区中央やや西側で検出された掘立柱建物跡であり、SD03 溝をまたぐ形で検出されている。長軸を北西—南東方向にとる 1 間×1 間の建物で、柱間は長辺約 3.0 m、短辺約 2.6 m の長方形である。明確に SB27 に伴う遺物は確認できず根拠は希薄であるが、形状等から弥生時代に属する建物と思われる。

SB28 (第 122 図下)

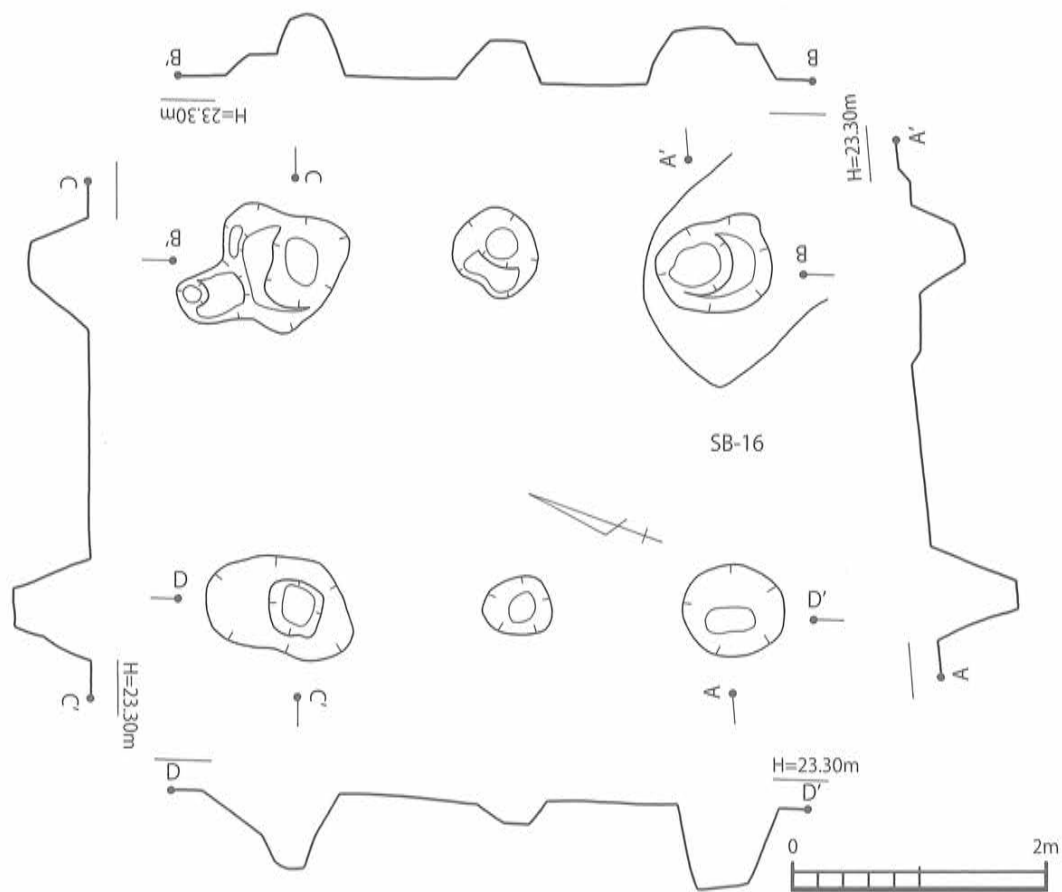
調査区北西端付近で検出された掘立柱建物跡である。長軸を北西—南東方向にとる 1 間×1 間の建物で、柱間は長辺約 3.8 m、短辺約 3.4 m とやや長方形である。明確に SB28 に伴う遺物は確認できないが、形状等から弥生時代に属する建物と思われる。

SB30 (第 123 図)

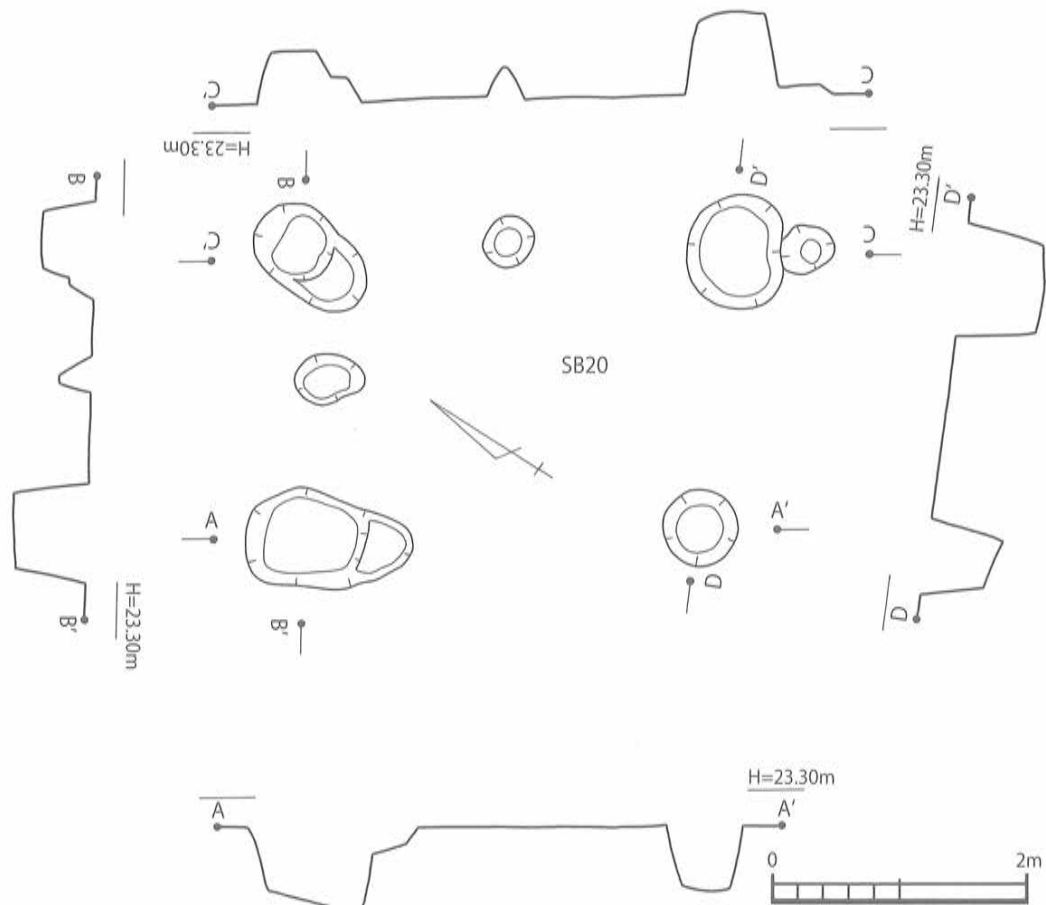
調査区南側で検出された掘立柱建物跡であり、1 棟だけ離れた位置で検出されている。長軸を北西—南東方向にとる 1 間×1 間の建物で、柱間は長辺約 3.1 m、短辺約 2.5 m の長方形であり、形状は SB28 に近い。明確に SB30 に伴う遺物は確認できず根拠は希薄であるが、形状等から弥生時代に属する建物と思われる。

SB41 (第 124 図)

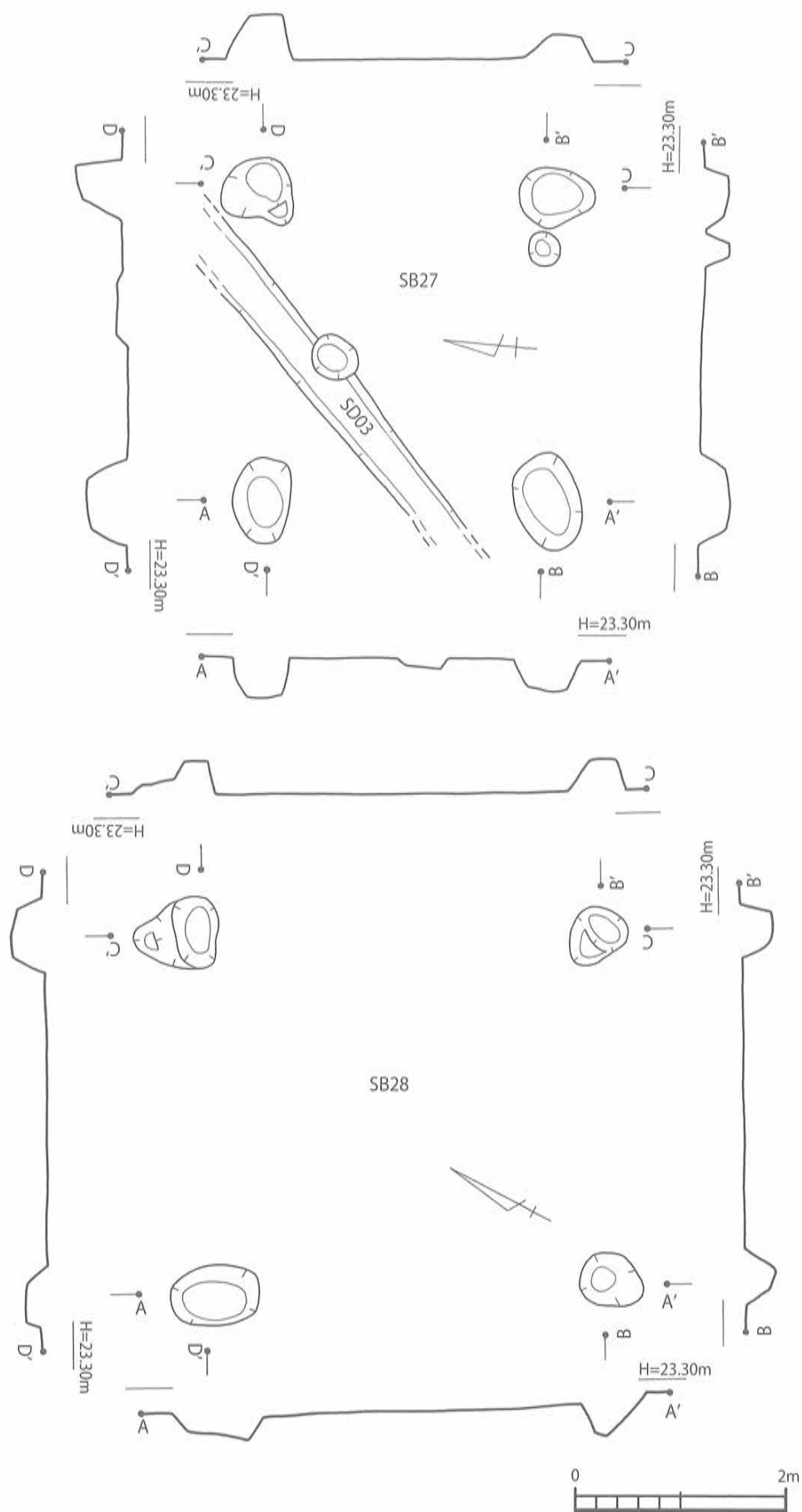
調査区中央やや南側で検出された掘立柱建物跡である。長軸を北西—南東方向にとる 2 間×1 間の建物で、柱間は長辺約 4.6 m、短辺約 2.6 m の長方形である。明確に SB41 に伴う遺物は確認できない。周辺で検出された遺構等から可能性を絞ると、弥生時代ないし古代に属する建物跡と思われる。



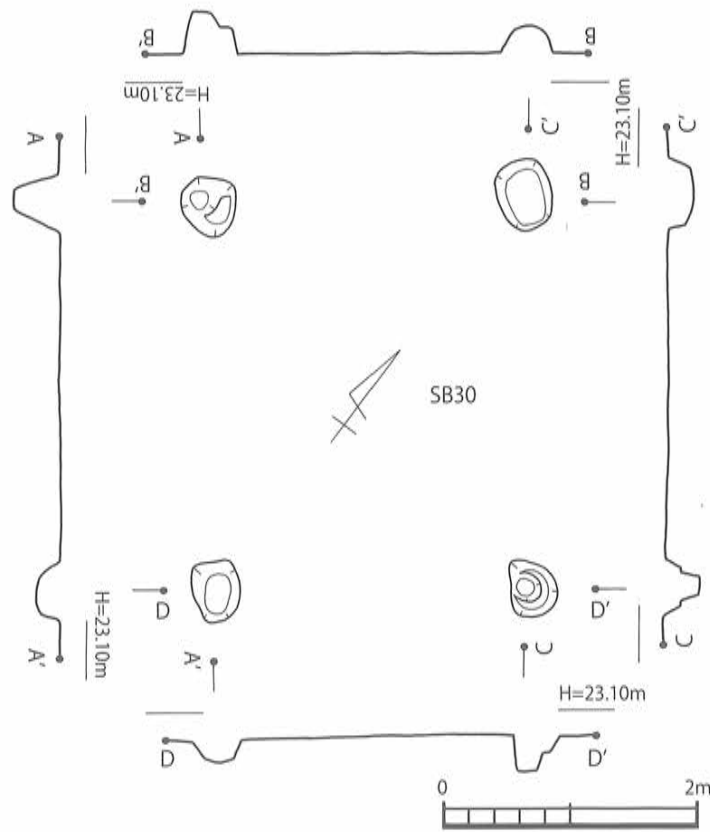
第 120 図 篠原遺跡 SB16 実測図 (S=1/60)



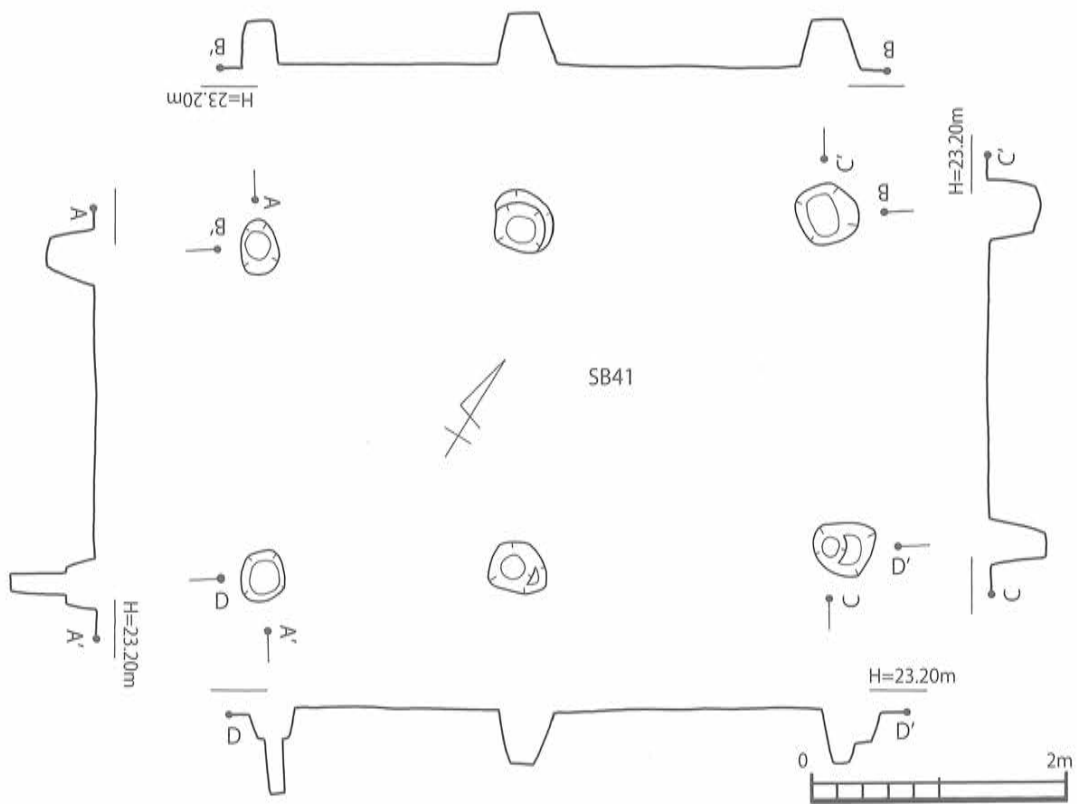
第 121 図 篠原遺跡 SB20 実測図 (S=1/60)



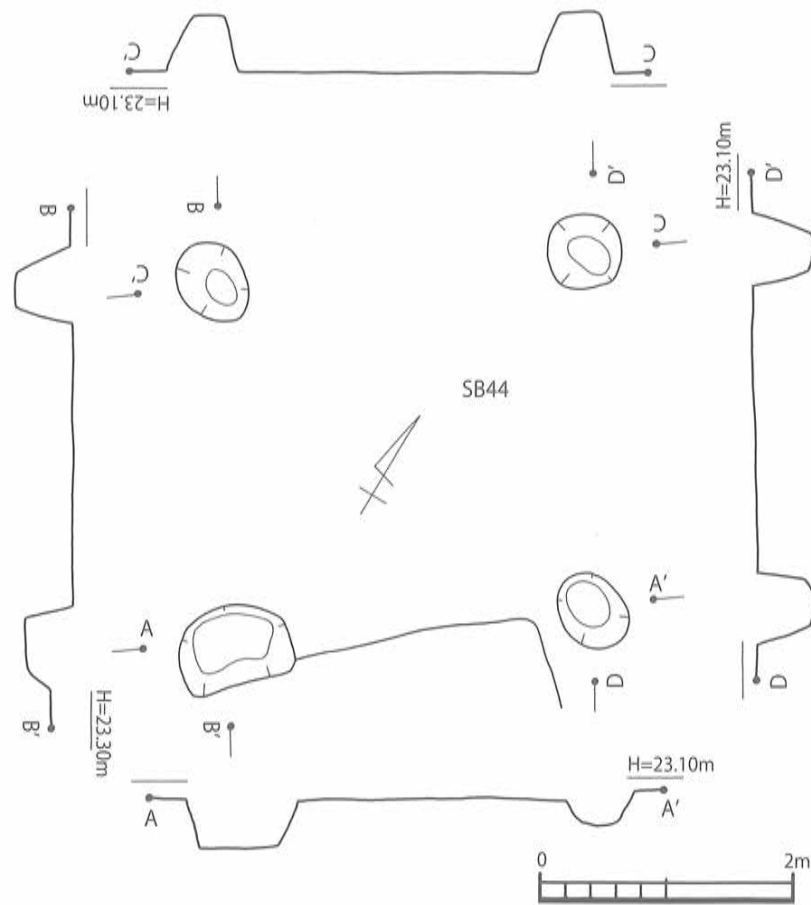
第 122 図 篠原遺跡 SB27・28 実測図 (S=1/60)



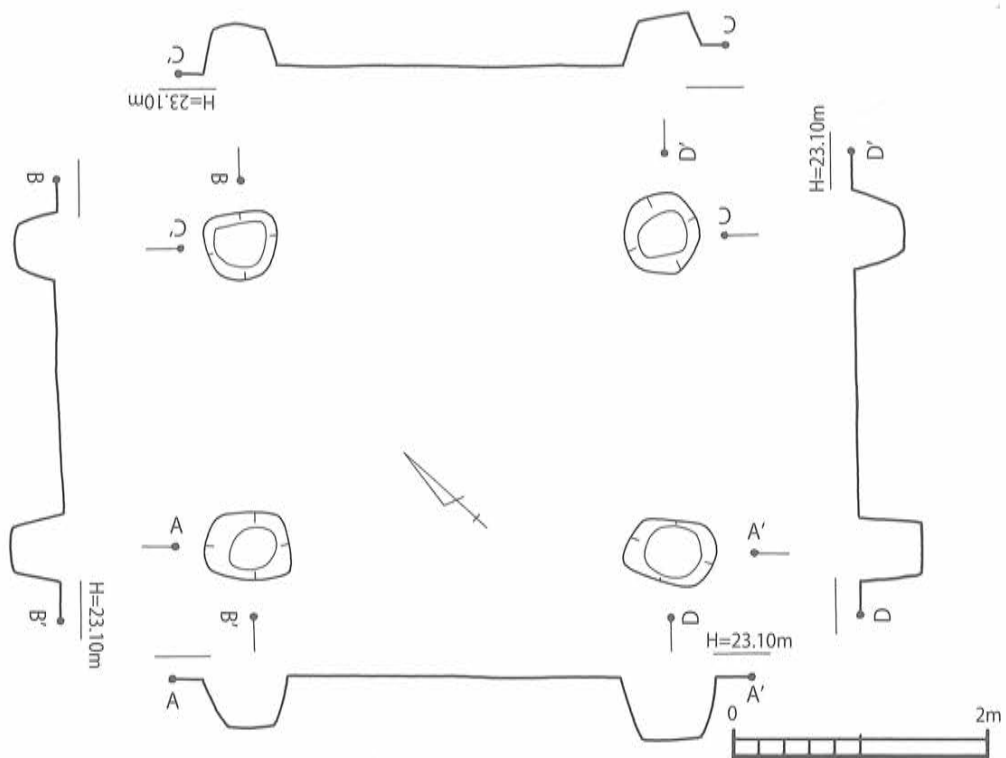
第 123 図 篠原遺跡 SB30 実測図 (S=1/60)



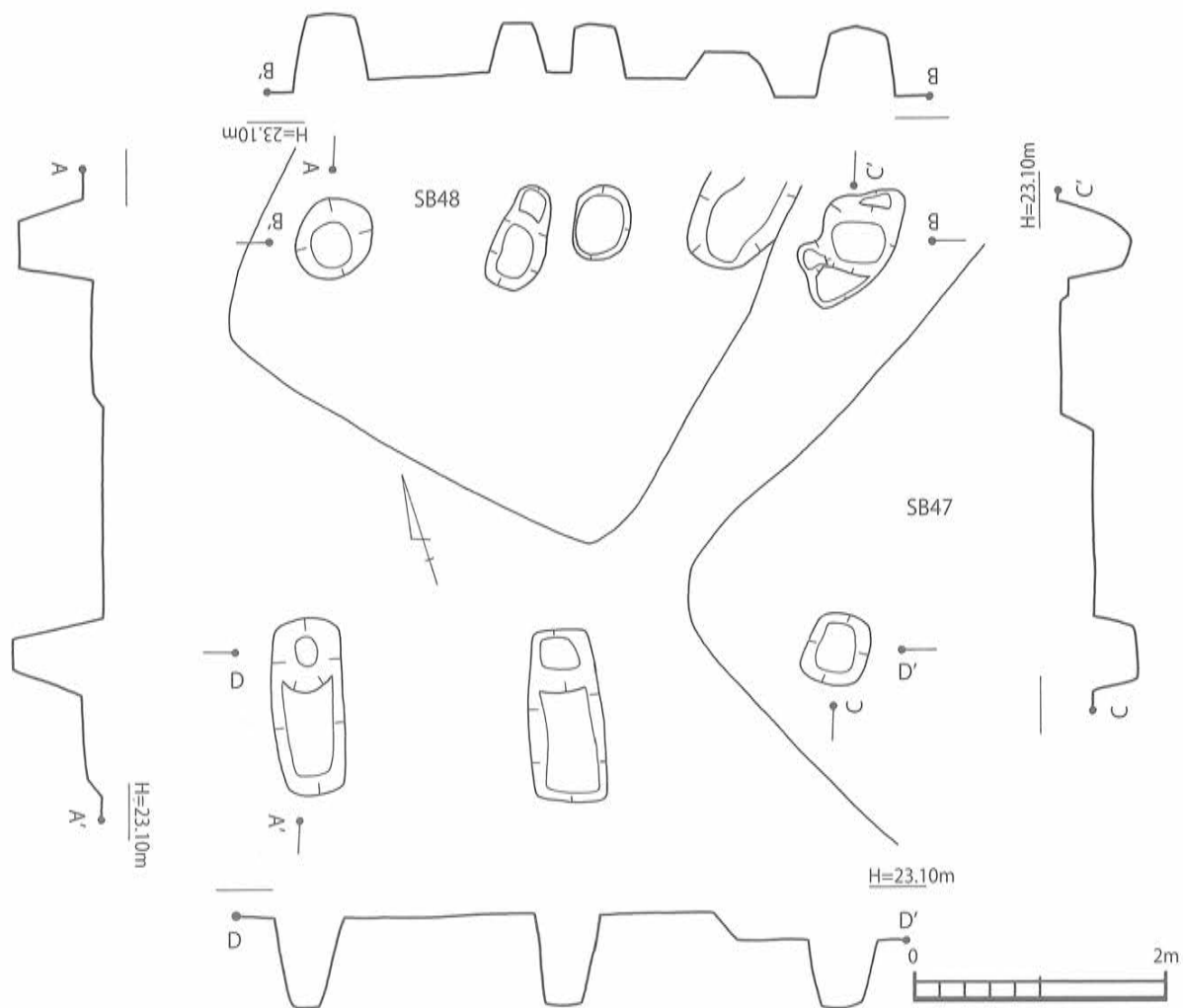
第 124 図 篠原遺跡 SB41 実測図 (S=1/60)



第 125 図 篠原遺跡 SB44 実測図 (S=1/60)



第 126 図 篠原遺跡 SB52 実測図 (S=1/60)



第 127 図 篠原遺跡 SB53 実測図 (S=1/60)

SB44 (第 125 図)

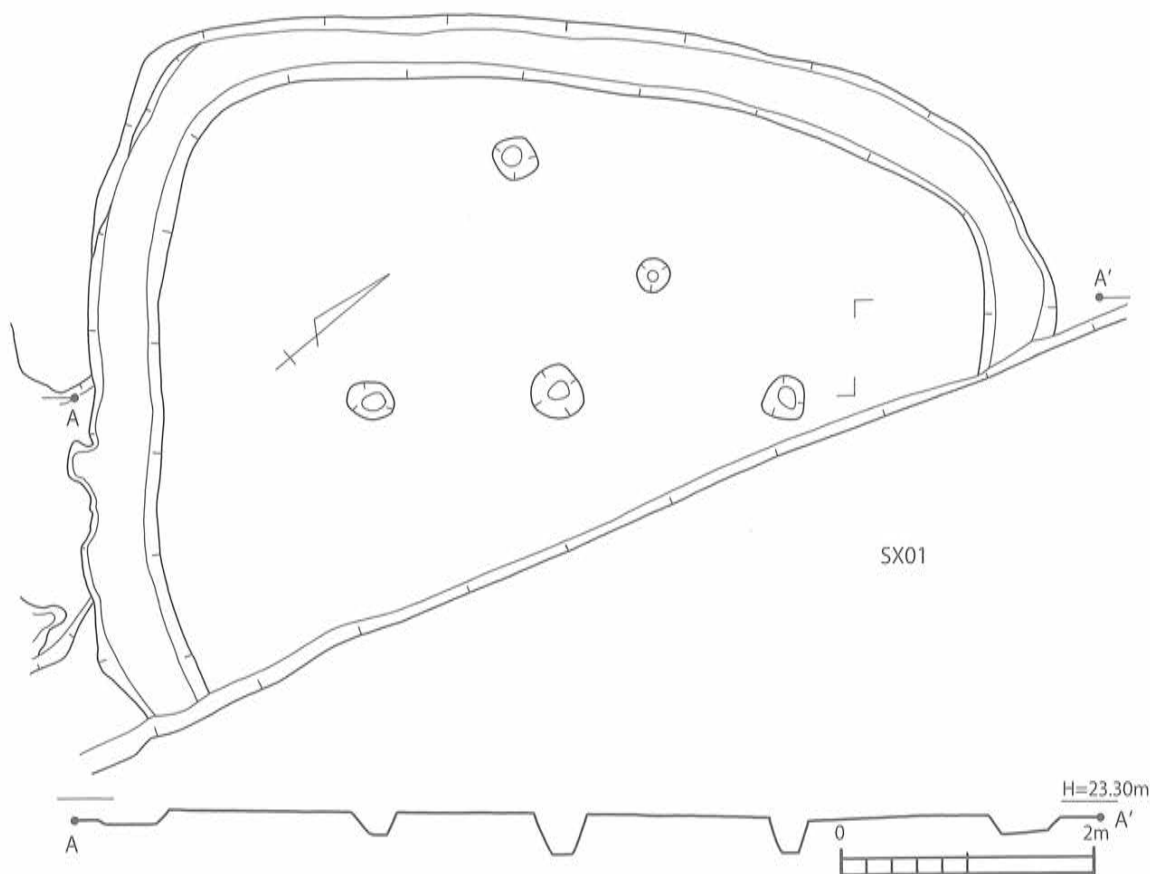
調査区西端部中央付近で検出された掘立柱建物跡である。長軸を北西—南東方向にとる 1 間 × 1 間の建物で、柱間は 1 辺約 3.0 m の正方形である。明確に SB44 に伴う遺物は確認できないため根拠に乏しいが、形状から弥生時代に属する建物跡と思われる

SB52 (第 126 図)

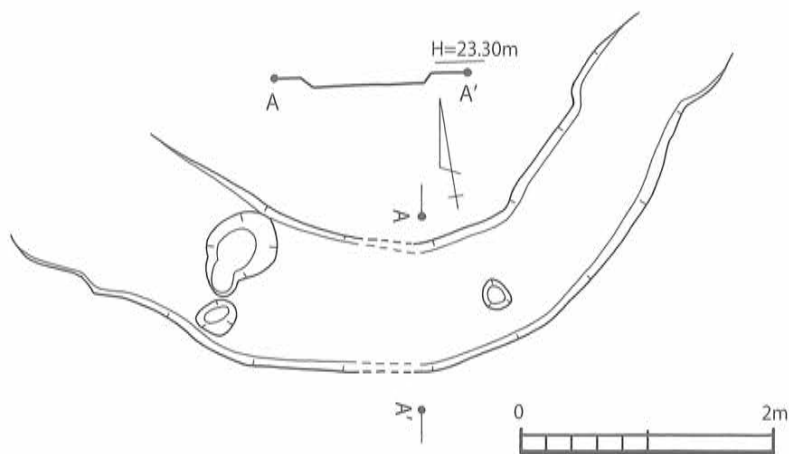
調査区西端部中央付近、SB44 の南側で検出された掘立柱建物跡である。長軸を北西—南東方向にとる 1 間 × 1 間の建物で、柱間は長辺約 3.4 m、短辺約 2.6m の長方形である。明確に SB52 に伴う遺物は確認できないが、形状より弥生時代に属する建物跡と思われる。

SB53 (第 127 図)

調査区西端部中央付近、SB44・52 の東側で検出された掘立柱建物跡である。長軸を東西方向にとる 2 間 × 1 間の建物で、柱間は長辺約 4.2 m、短辺約 3.4m の長方形である。明確に SB53 に伴う遺物は確認できないが、形状より弥生時代ないし古代に属する建物跡と思われる。



第128図 篠原遺跡 SX01 実測図 (S=1/60)



第129図 篠原遺跡 SX02 実測図 (S=1/60)

③ 円形周溝遺構 (SX)

篠原遺跡3地点では、調査時に SX01～04 の番号が付されているが、SX01・02・04 は円形の周溝である。概報によれば調査者の見解は、「溝内より(弥生時代)後期の土器が出土しているが、遺構の性格は不明である」とのことである。

なお、SX03 は円形周溝

ではなく楕円形の不明土坑である。このことは、概報の記載を読み解く限り、調査者も同一見解である。SX01 (第128図)

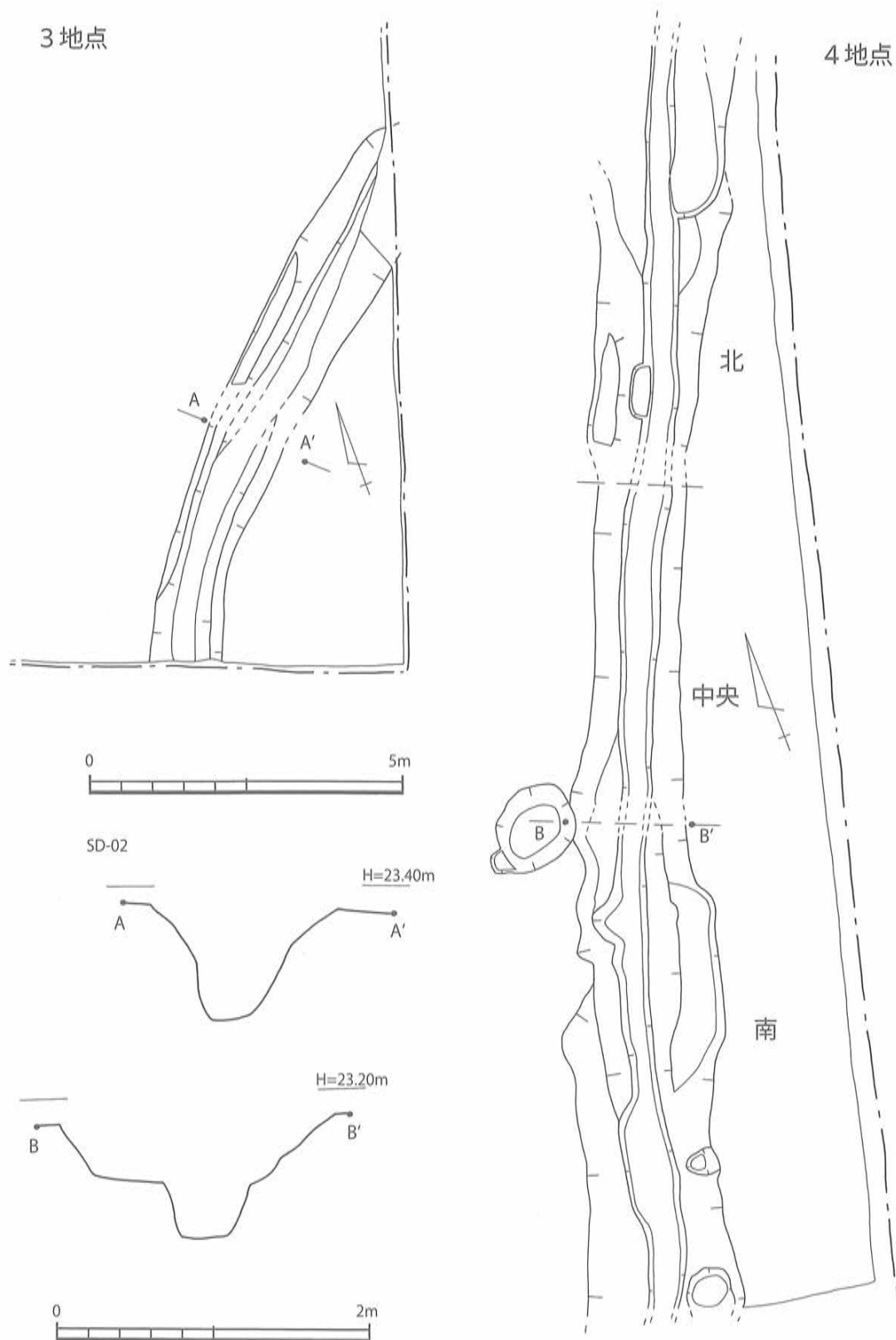
調査区東端で検出され、調査区外に伸びる。直径約7m程度の、やや角張った円形周溝になるものと思われる。遺物は確認できなかった。

SX02 (第129図)

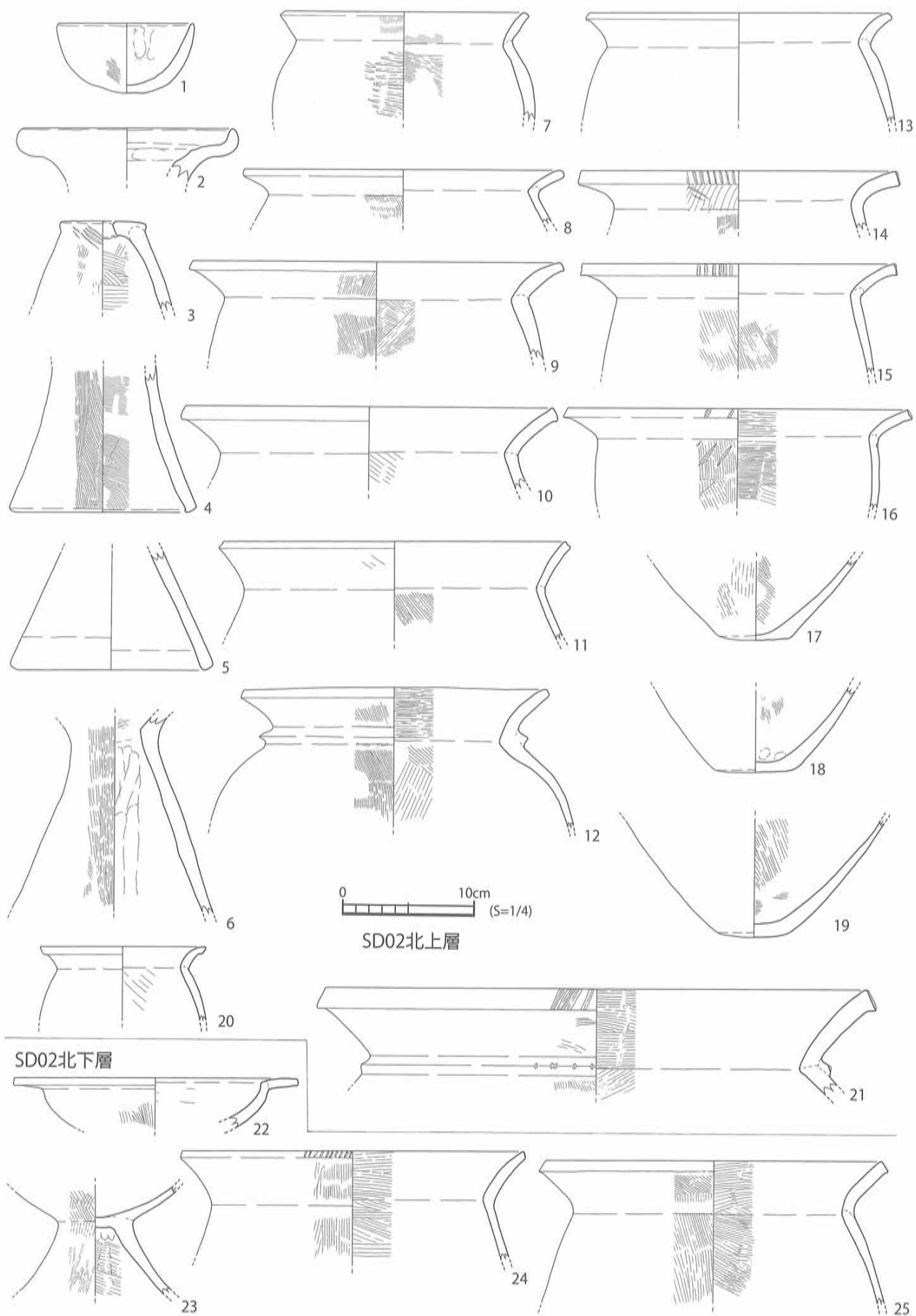
調査区北側で検出され、残存状態は悪い。規模、性格は不明である。遺物も確認されなかった。

SX04 (第 157・159 図)

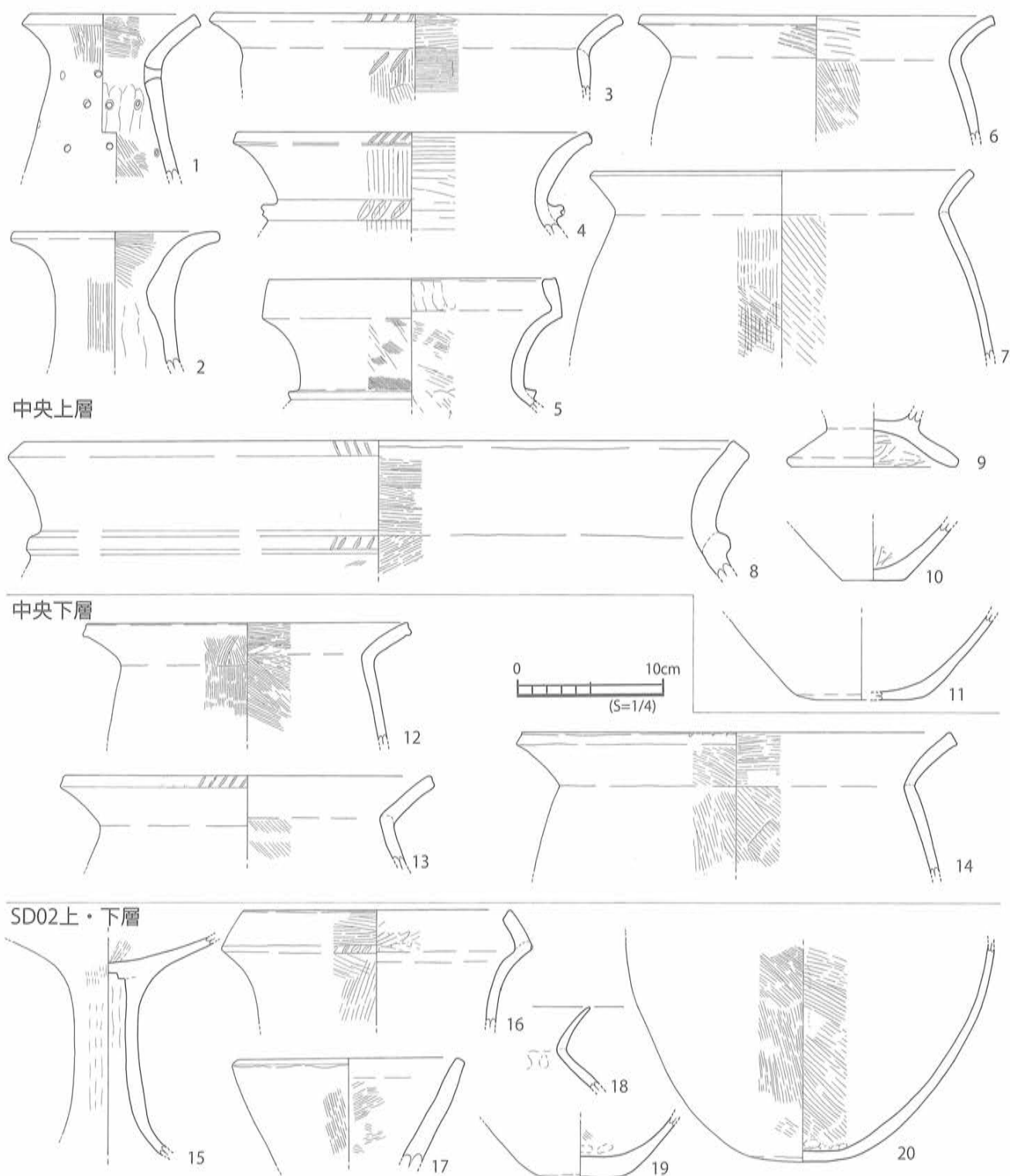
調査区南東端で検出され、調査区外に伸びる。直径約 7 m の 4 隅が角張り気味の円形になるものと思われる。



第 130 図 篠原遺跡 SD02 実測図 (S=1/100)



第 131 図 篠原遺跡 SD02 出土遺物 1



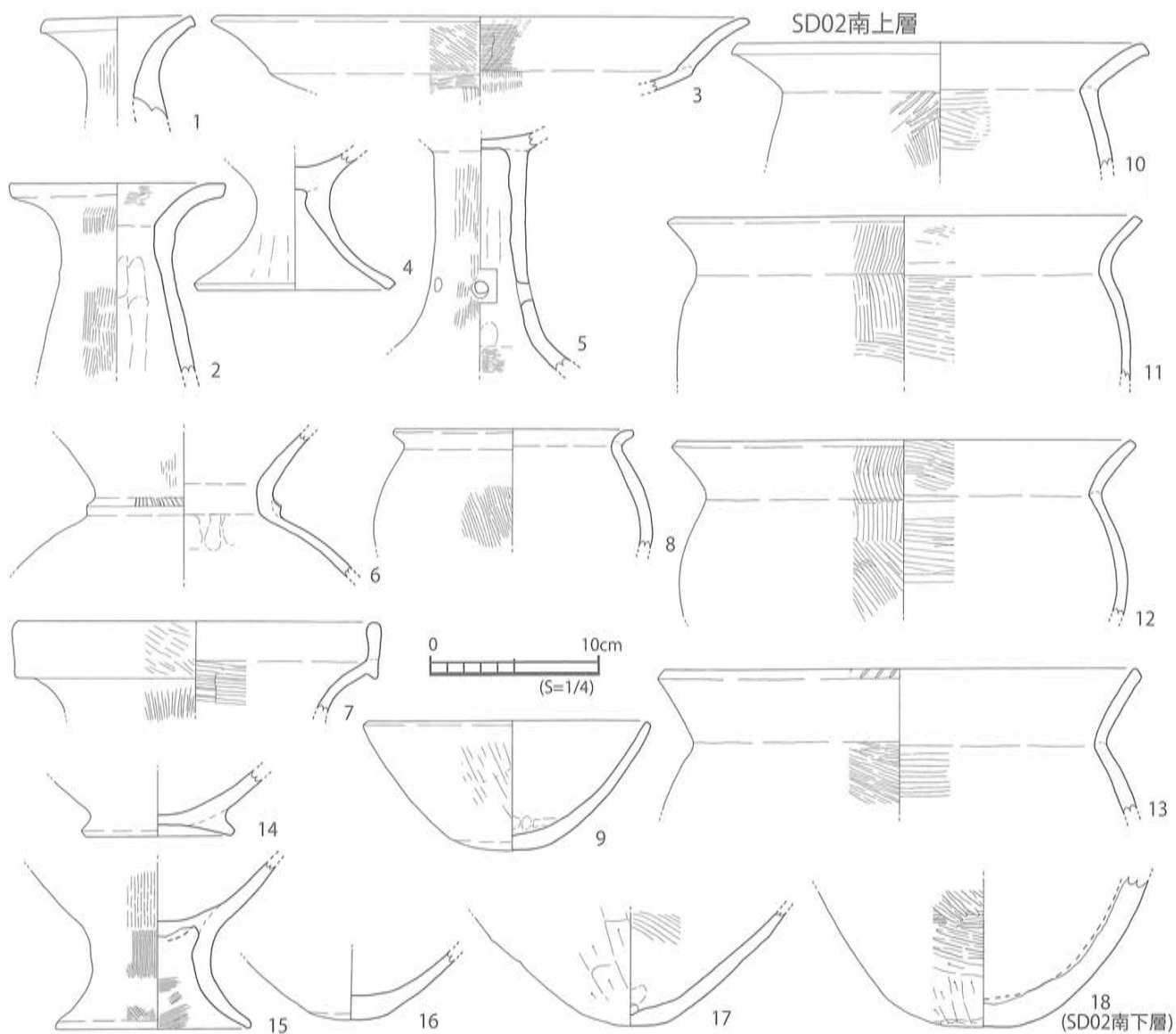
第 132 図 篠原遺跡 SD02 出土遺物 2

④ 溝状遺構 (SD) (第 68・130 図)

篠原遺跡 3 地点では、調査区北東で SD02、調査区中央付近を南北に SD03 が存在し、2 条の溝が検出されている。また、SD02 は 4 地点にも存在するため、ここでは 4 地点 SD02 も含めて報告する。

SD02 (第 130～134・136 図、参考：第 3・4・68・137 図)

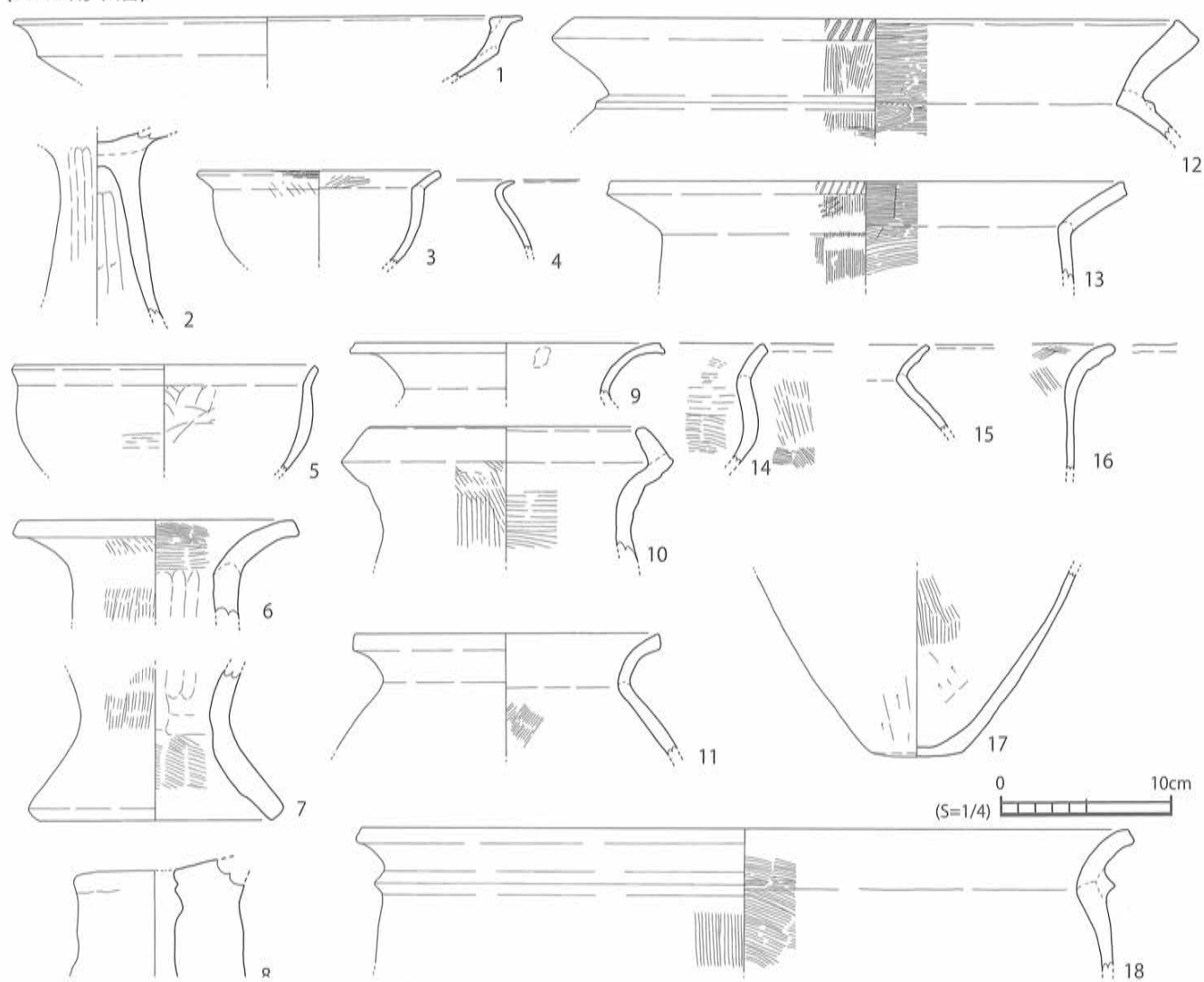
篠原遺跡 3 地点、および後述する 4 地点の調査区東側に南北方向に伸びていると思われる溝である。3 地点・4 地点共に調査時は SD02 となっているが、調査段階および整理段階で若干の混乱があったよ



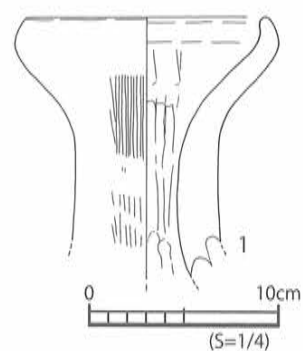
第 133 図 篠原遺跡 SD02 出土遺物 3

うで、3 地点 SD02 と 4 地点 SD02 の遺物の分離は困難である。詳しくは観察表を参照されたいが、4 地点 SD02 の遺物は北・中央・南の 3 ブロックに分けて、さらに上層・下層に分けて遺物の取り上げがなされているようであり、ブロック分けがなされているものが 4 地点になるようである。第 131 ～ 134 ・ 136 図に、調査取り上げ時の注記単位にまとめて出土遺物を掲載した。遺物はほとんどが弥生時代後期・終末期～古墳時代初頭・前期前半に収まるものである。

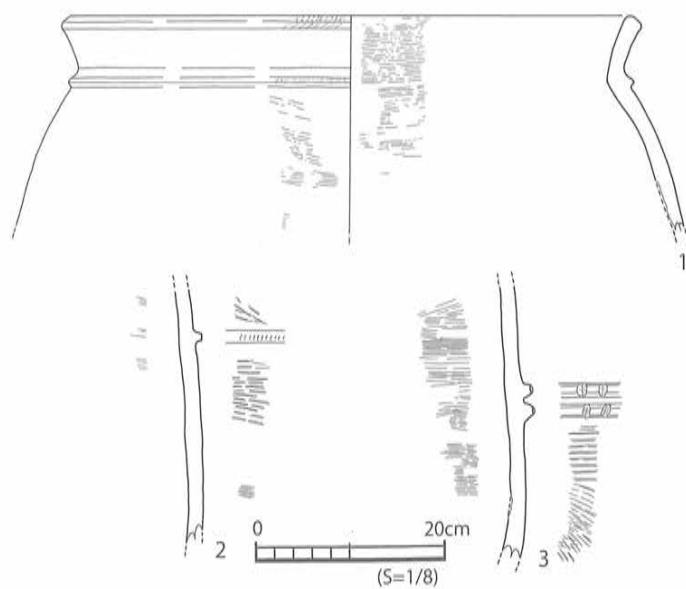
(SD02南下層)



第 134 図 篠原遺跡 SD02 出土遺物 4



第 135 図 篠原遺跡
SD03 出土遺物



第 136 図 篠原遺跡 SD02 出土遺物 5

5) 篠原遺跡4地点の調査成果

篠原遺跡4地点では、竪穴建物跡が折り重なるように検出されている。特に、調査区の西半部分は複数軒が切り合っている。

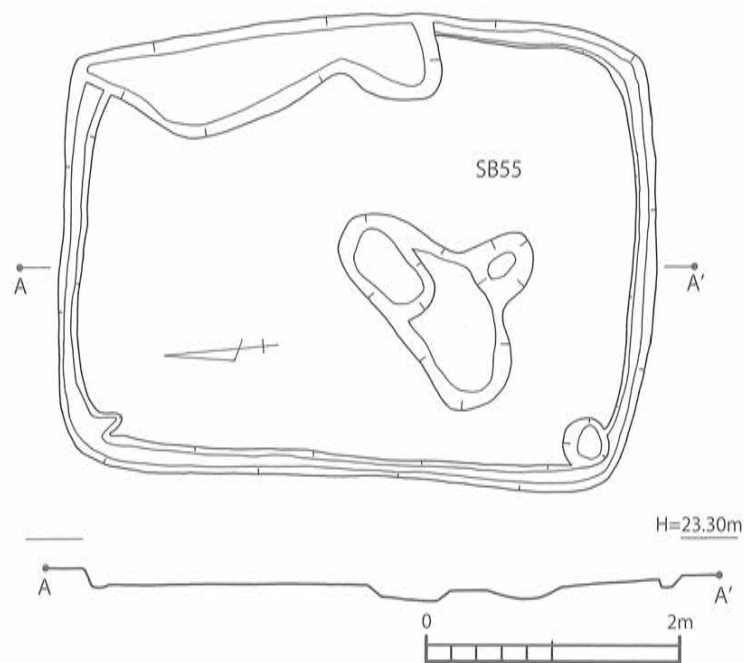
以下、本報告では、概報の調査担当者の見解を基本的に踏襲して報告するが、一部で調査時図面等でも建物の形状や切り合い関係がやや不明確なものも存在する。

概報および調査図面をもとに遺構配置および切り合い関係を示したものが第137



第137図 篠原遺跡4地点調査区全体図

図である。なお、SB66とSB80は、明らかに1軒の竪穴建物跡と判断されたため、本報告ではSB66を欠番とし、SB80に統一している。



第138図 篠原遺跡SB55実測図 (S=1/60)

また、竪穴建物跡以外には、溝状遺構2 (SD02・04)、周溝状遺構1 (SX05)、土坑4 (SK31～34)が検出されている。

以下に、個別遺構について報告する。

① 竪穴建物跡

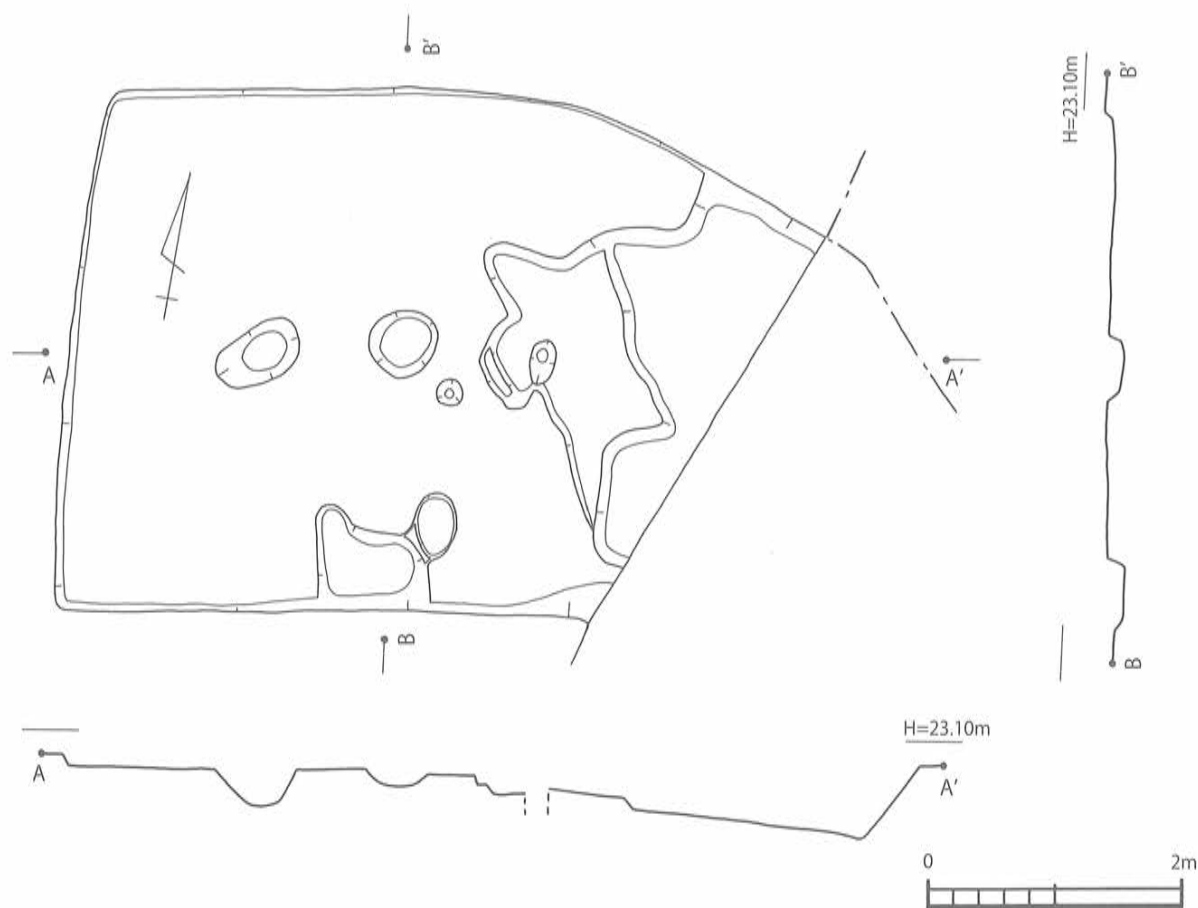
SB54 (第117・146図)

調査区南端で検出した竪穴建物跡である。長軸を東西方向にとり、長辺約6.2m、短辺約3.4mである。建物跡中央に炉跡の可能性ある掘り込みがあり、その両側に柱穴と思われるピットが存在していることから、2本主柱の住居跡であると考えられる。

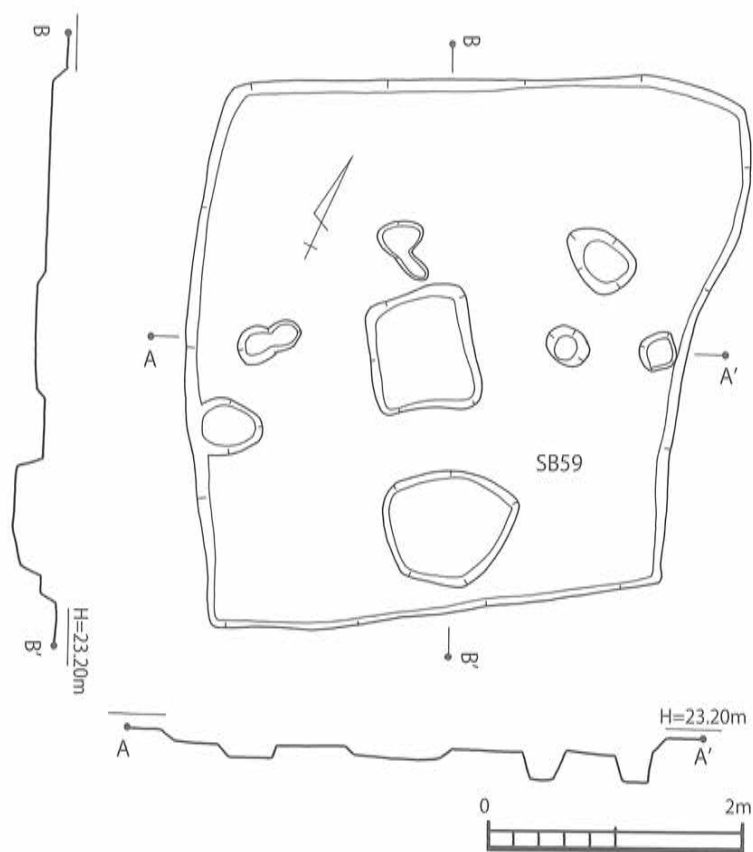
遺物は弥生時代後期の鉢と甕がある。

SB55 (第138図)

調査区南端で検出した竪穴建物跡である。長軸を南北方向にとり、長辺約4.7m、短辺約3.7mである。



第 139 図 篠原遺跡 SB58 実測図 (S=1/60)



第 140 図 篠原遺跡 SB59 実測図 (S=1/60)

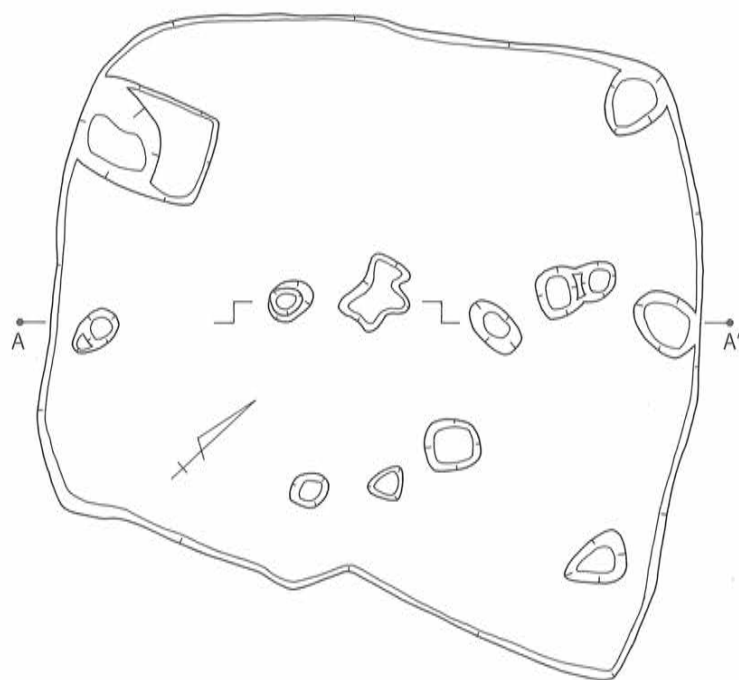
SB55 の遺物は甕や鉢があり (第 146 図 3 ~ 6)、いずれも弥生時代後期に属する。

SB58 (第 139・146 図)

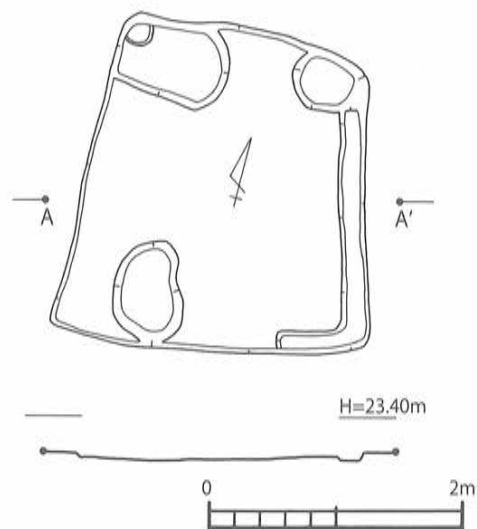
調査区東側で検出した竪穴建物跡であり、東側を SD02 に切られている。そのため長辺は不明であるが短辺は約 4.2 m の長方形の平面形である。建物中央に炉跡の可能性があり掘り込みがあり、その両側にピットが存在することより、2 本主柱であったものと思われる。遺物は壺が出土しており、弥生時代後期～終末期に属すると思われる。

SB59 (第 140・146 図)

調査区中央よりやや東側で検出した竪穴建物跡である。



第 141 図 篠原遺跡 SB60 実測図 (S=1/60)



第 142 図 篠原遺跡 SB63 実測図
(S=1/60)

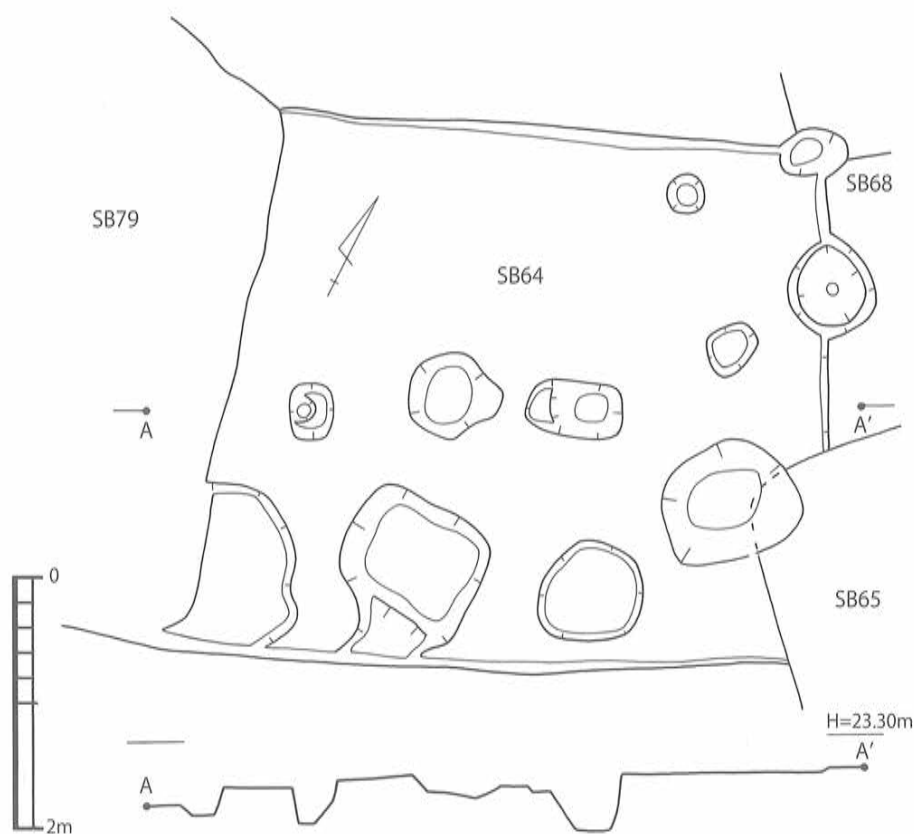
長軸を北西－南東方向にとり、長辺約 4.4 m、短辺約 4.0 m の正方形に近い平面形であり、2 本主柱である可能性が高いものと思われる。遺物は鉢や甕が出土しており、住居跡の時期は弥生時代後期～終末期と思われる。

SB60 (第 141 図)

調査区中央やや西側で検出され、長軸を北東－南西方向にとり、長辺約 5.2 m、短辺約 4.8 m で、残存状況が悪いためか、ややいびつな方形の平面プランである。遺物は確認されていない。

SB63 (第 142・146 図)

調査区東端中央付近で検出された竪穴建物である。かなり削平を受けており、残存状態が非常に悪く、建物跡南東付近のみの残存である。遺物は甕・壺・鉢・高坏の破片が出土しており、弥生時



第 143 図 篠原遺跡 SB64 実測図 (S=1/60)

代終末期～古墳時代初頭に位置づけられる。

SB64 (第 143・146 図)

調査区西側中央で検出された竪穴建物跡であるが、周辺は遺構が多く切り合っており、平面プランがやや不明瞭である。短辺は約 4.2 m で、長方形 2 本主柱の建物跡と思われる。遺物は甕の小片が出土している。

SB65 (第 144・146 図)

調査区中央やや北西で検出した竪穴建物跡である。切り合いのため形状にやや不明な点が残るが、短辺約 4.2 m の、2 本主柱で長方形の平面形が推測される。遺物は甕・壺・高坏・鉢等が出土しており、弥生時代後期に位置付けられる。

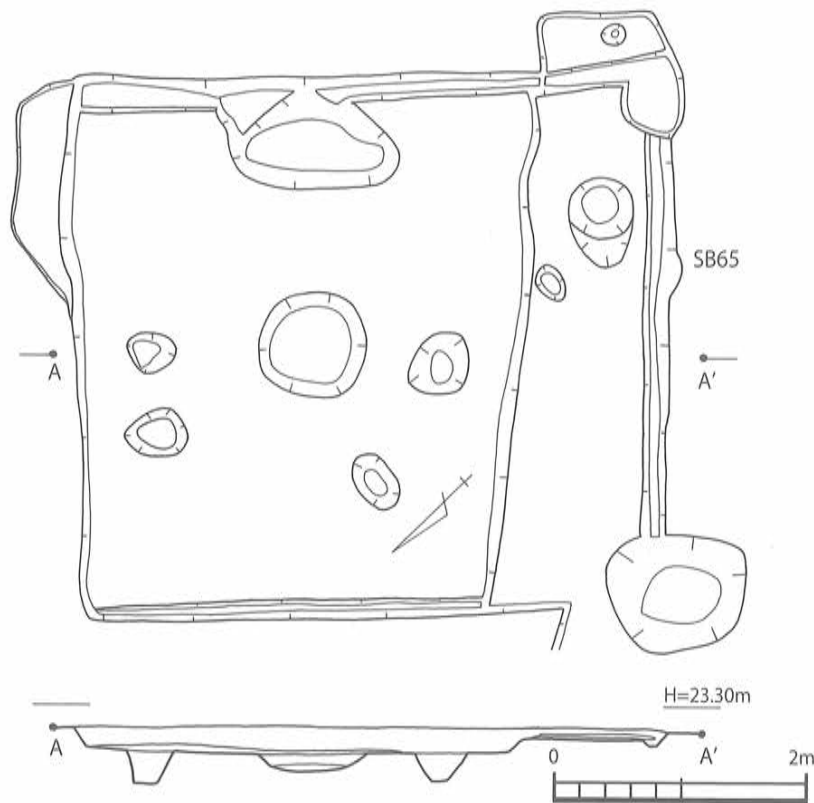
SB66 (SB80) 出土遺物 (第 147 図)

SB66 は、調査時に SB80 内のベッド状遺構部分以外の区画に付された遺構番号であるが、SB80 も含めて同一建物と判断した。

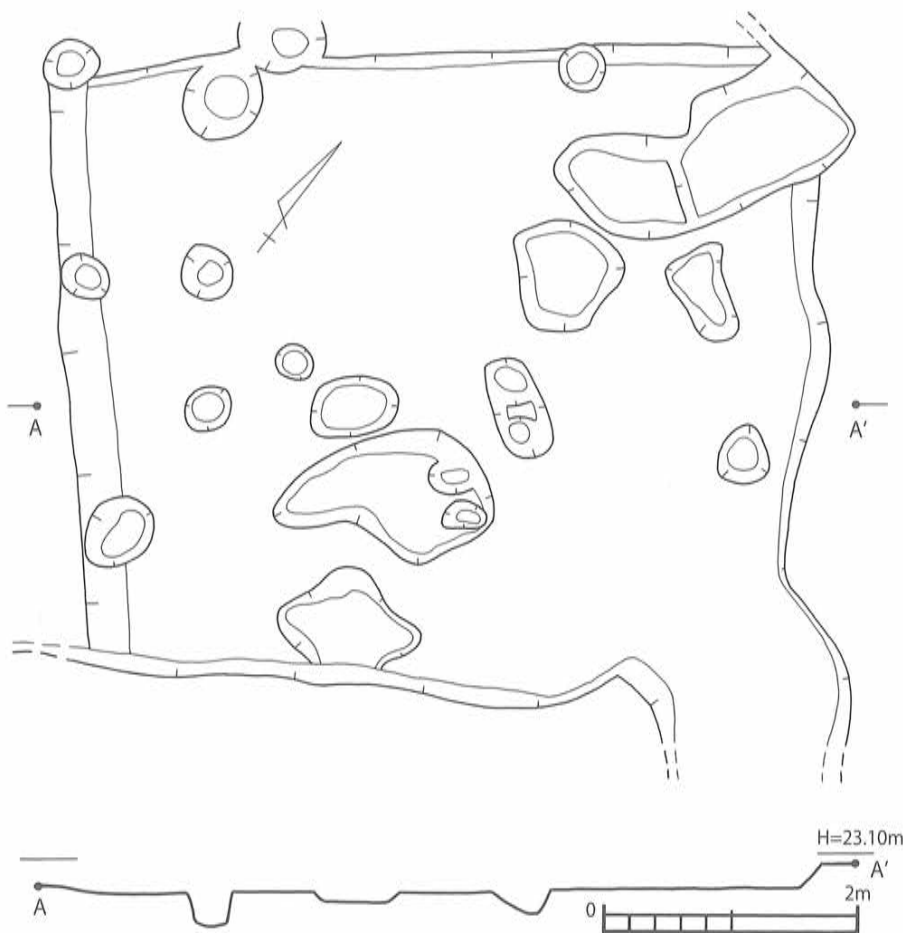
鉢・甕・高坏があり、弥生時代後期に属するものと思われる。

SB67 (第 137・147 図)

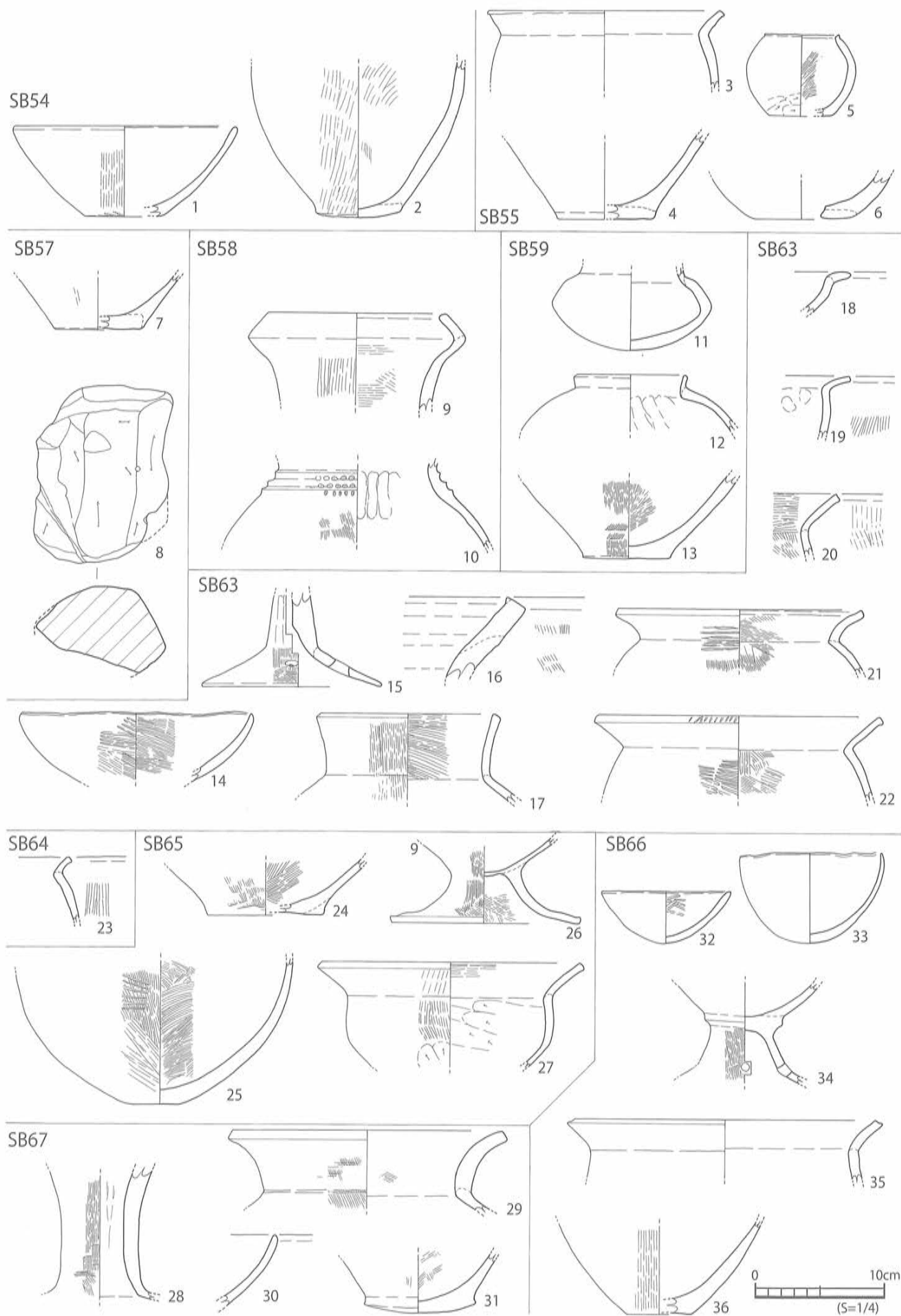
調査区北西で検出された竪穴建物跡である。北東－南西方向に軸をとり、長辺約 6.0 m、短辺約 5.0 m のほぼ正方形の平面形である。遺物は散在的に出土しており、



第 144 図 篠原遺跡 SB65 実測図 (S=1/60)

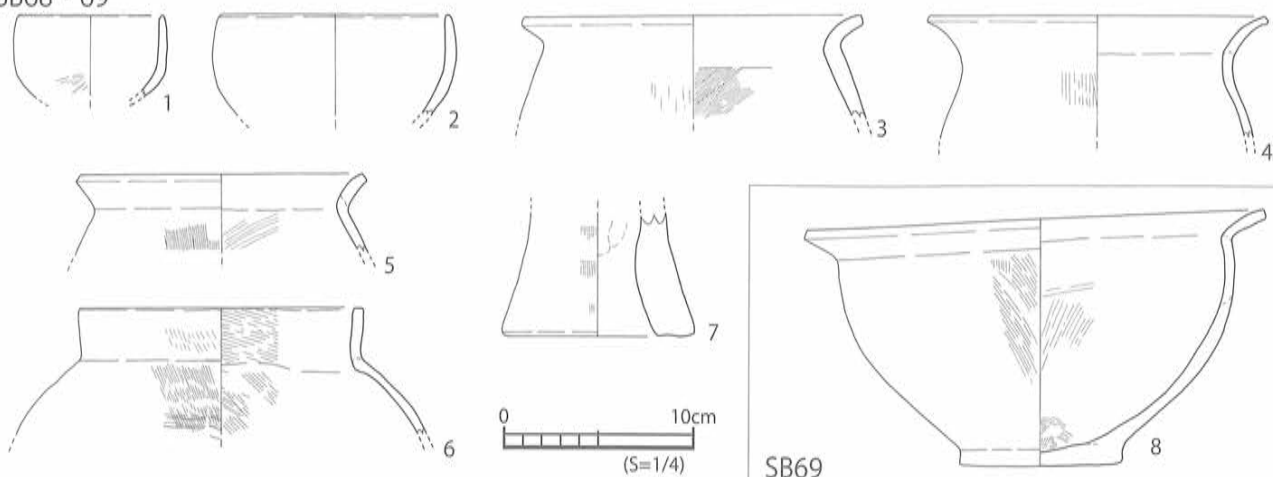


第 145 図 篠原遺跡 SB67 実測図 (S=1/60)

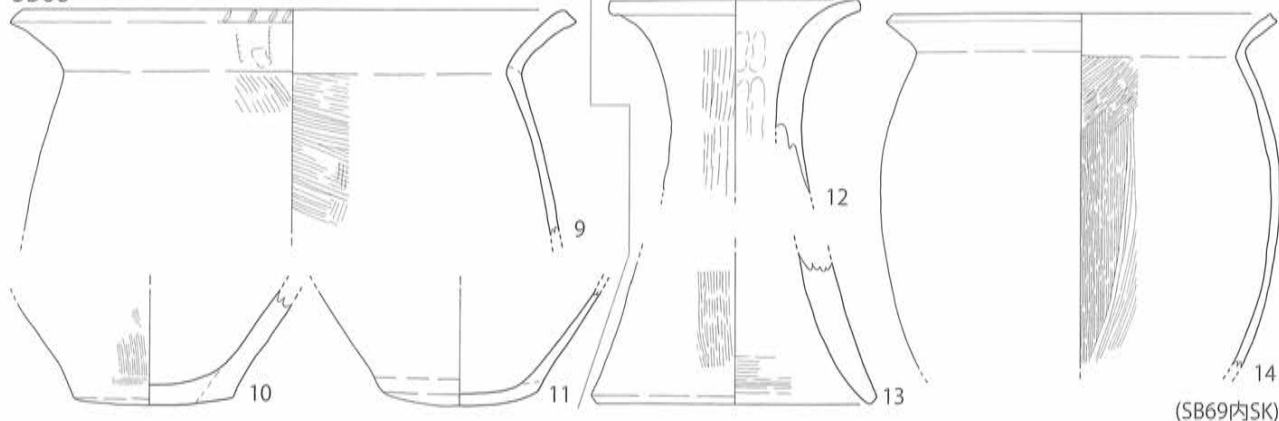


第 146 図 篠原遺跡 SB54 ~ 67 出土遺物

SB68・69



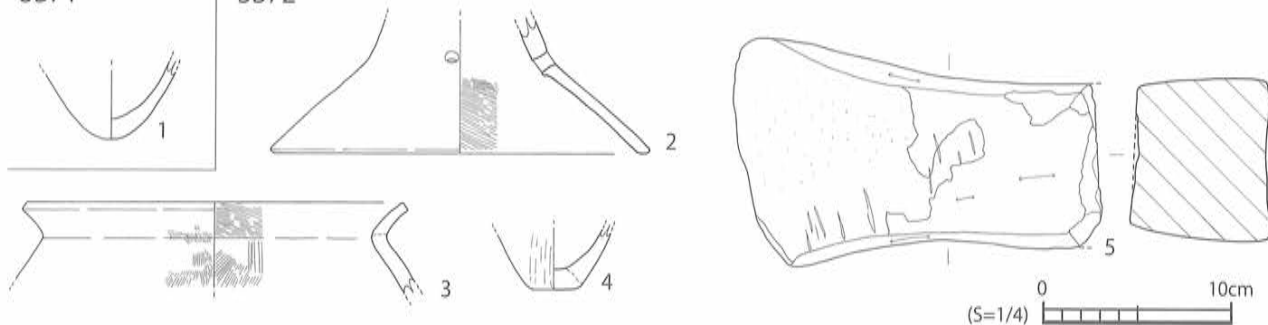
SB68



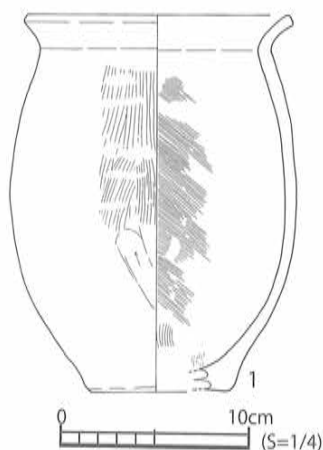
第 147 図 篠原遺跡 SB68・69 出土遺物

SB71

SB72



第 148 図 篠原遺跡 SB71・72 出土遺物



第 149 図 篠原遺跡 SB75 出土遺物

SB68・69 (第 137・147 図)

調査区北西側付近で検出されている竪穴建物群である。やや削平を受けており切合い関係、建物形状共に明確になっていない。

遺物は SB68 より甕と器台、SB69 より鉢が出土しており、弥生時代後期に位置付けられるものと思われる。

SB70・71・73～75 (第 137・148・149 図)

調査区南西端の竪穴建物群であるが、切り合いが激しい上に残存が悪く、住居跡の平面形もやや不明瞭な状況であ

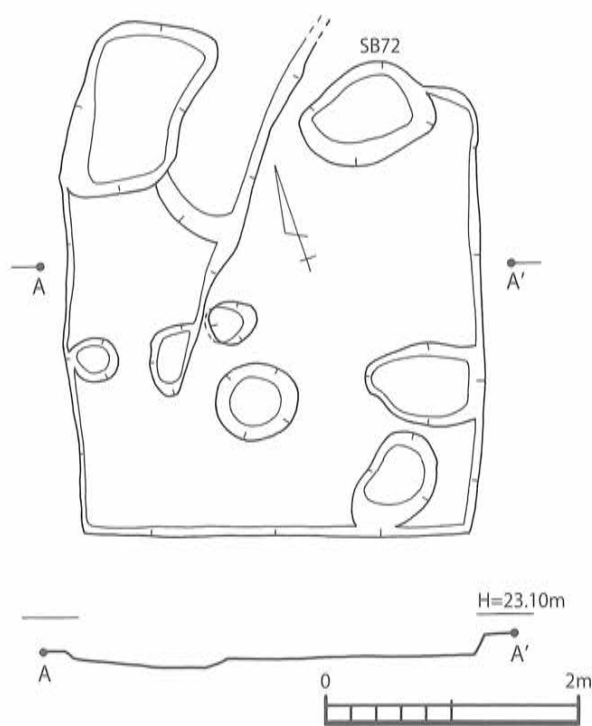
る。本報告では概報から、調査者が示した情報を 137 図に反映して示す。柱穴と思しきピット等の存在等を参考に、再考を要する建物跡群である。遺物は SB71・75 より甕が出土しており、いずれも弥生時代後期に属する。

SB72 (第 148・150 図)

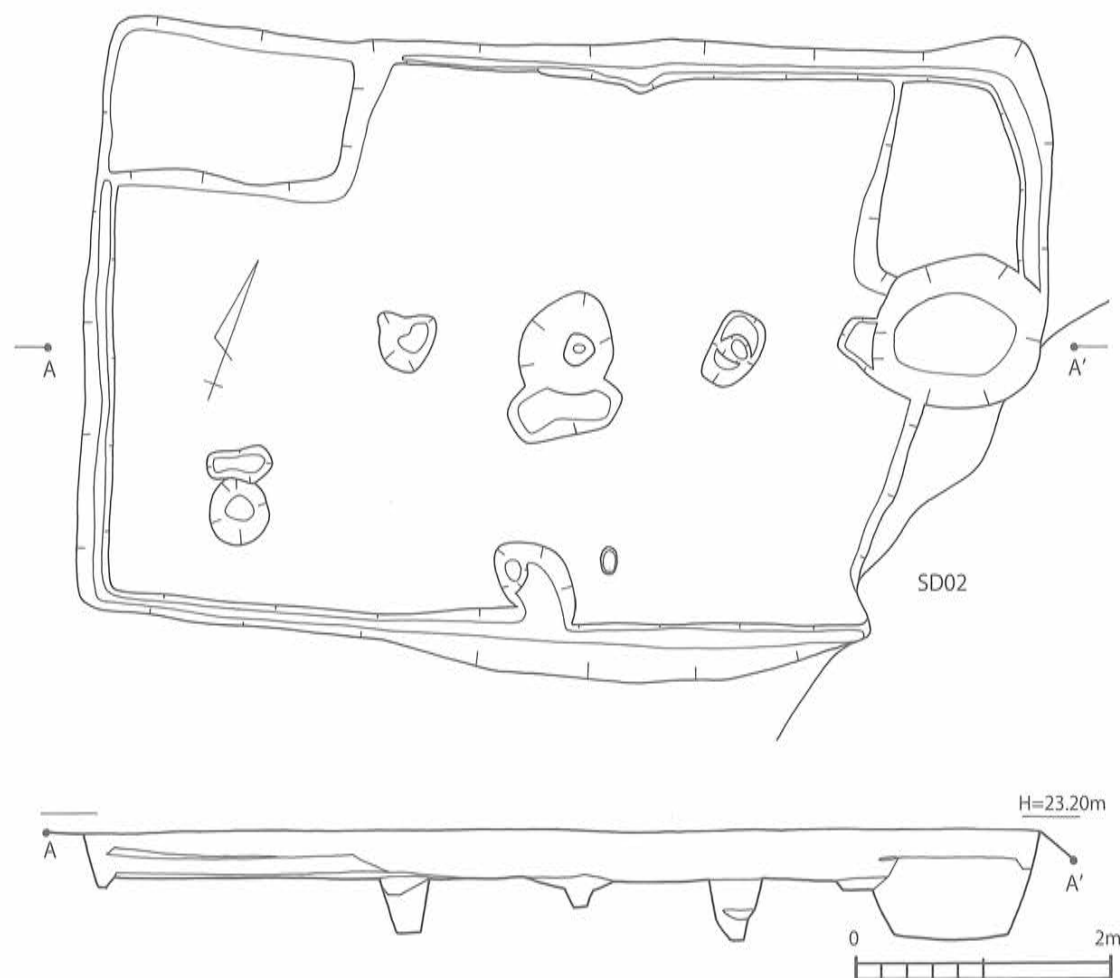
調査区南西端付近で検出された竪穴建物跡で、調査区外に伸びるうえに SB74・75 に寄り切られているため、形状は不明瞭である。遺物は甕・高坏・ミニチュア土器・砥石が出土しており、弥生時代後期～終末期に属するものと思われる。

SB78 (第 151・154 図)

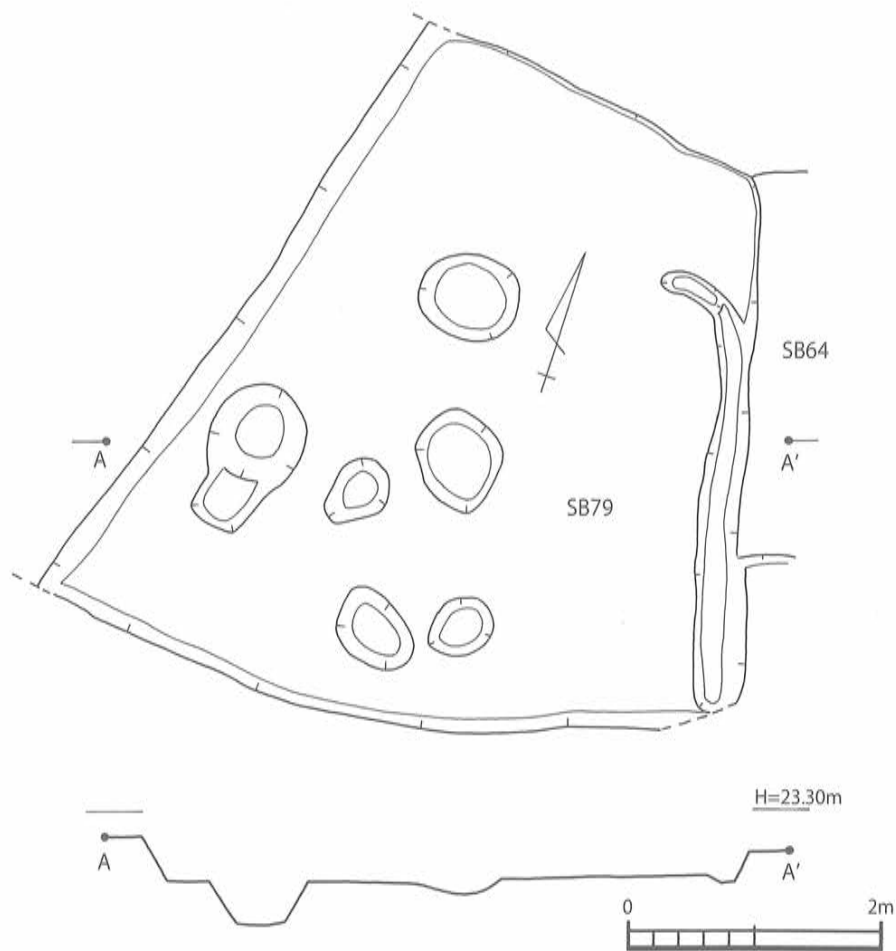
調査区南東で検出された竪穴建物跡であり、SD02 溝に寄り切られている。長軸を北東－南西方向にとり、長辺 7.6 m、



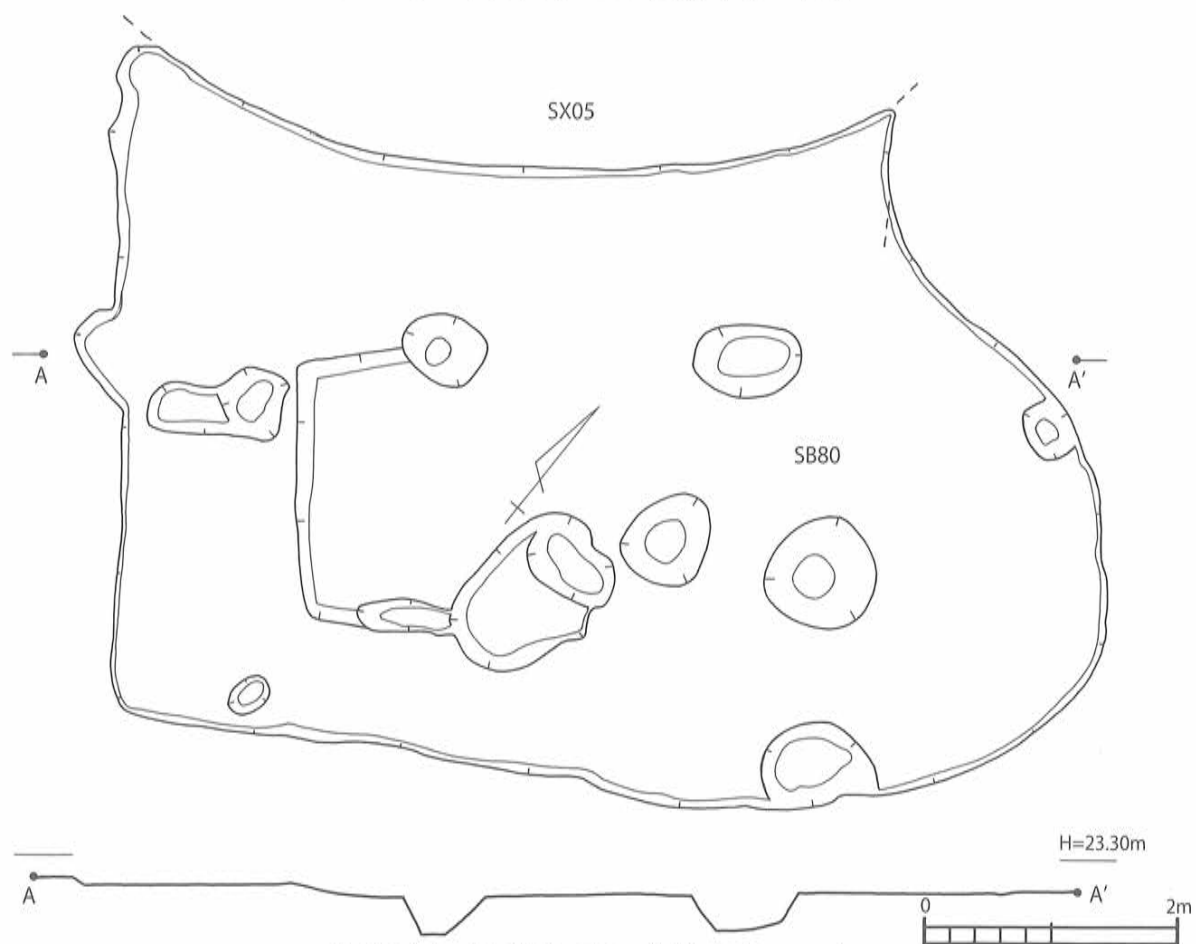
第 150 図 篠原遺跡 SB72 実測図 (S=1/60)



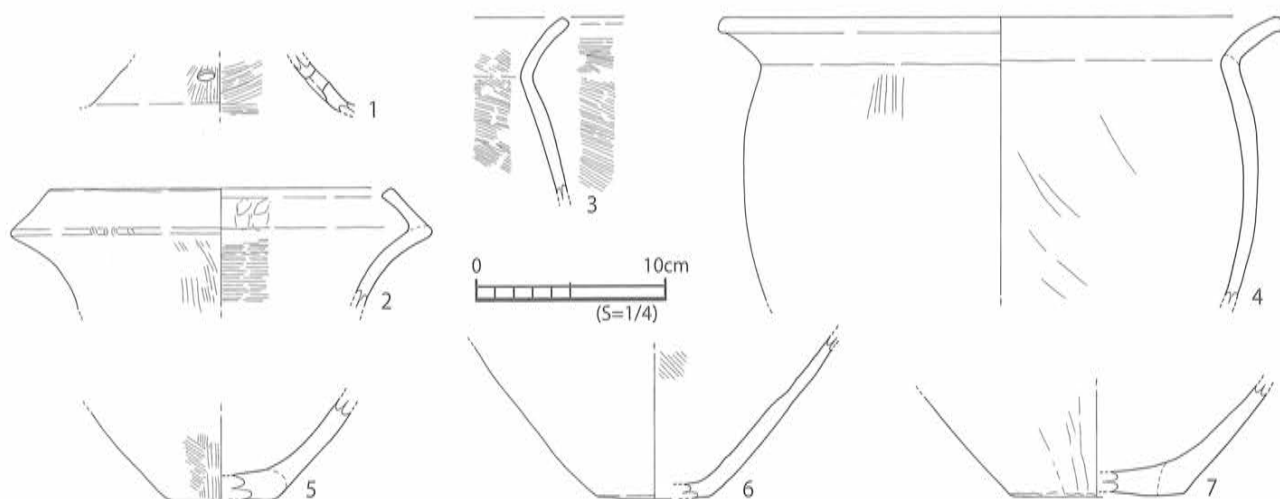
第 151 図 篠原遺跡 SB78 実測図 (S=1/60)



第 152 図 篠原遺跡 SB79 実測図 (S=1/60)



第 153 図 篠原遺跡 SB80 実測図 (S=1/60)



第 154 図 篠原遺跡 SB78 出土遺物

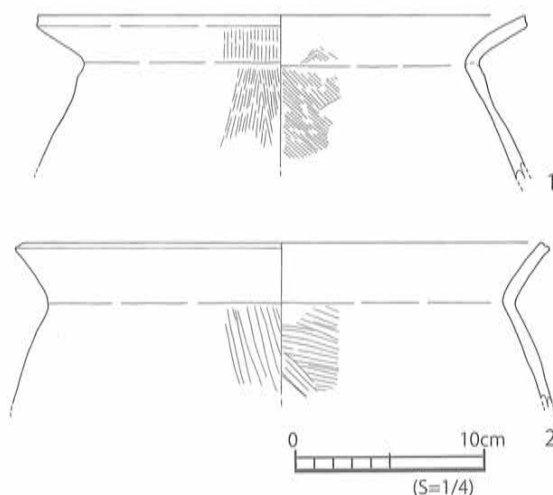
短辺 4.6 m の長方形の平面形である。建物跡中央に炉と思しき掘り込みがあり、その両側にピットが 2 期存在することから、2 本支柱の建物跡であると思われる。

遺物は SB78 内より散在的に出土しており、高坏（154 図 1）・壺（同 2）・甕（同 3～7）がある。出土遺物の時期は弥生時代後期と思われる。

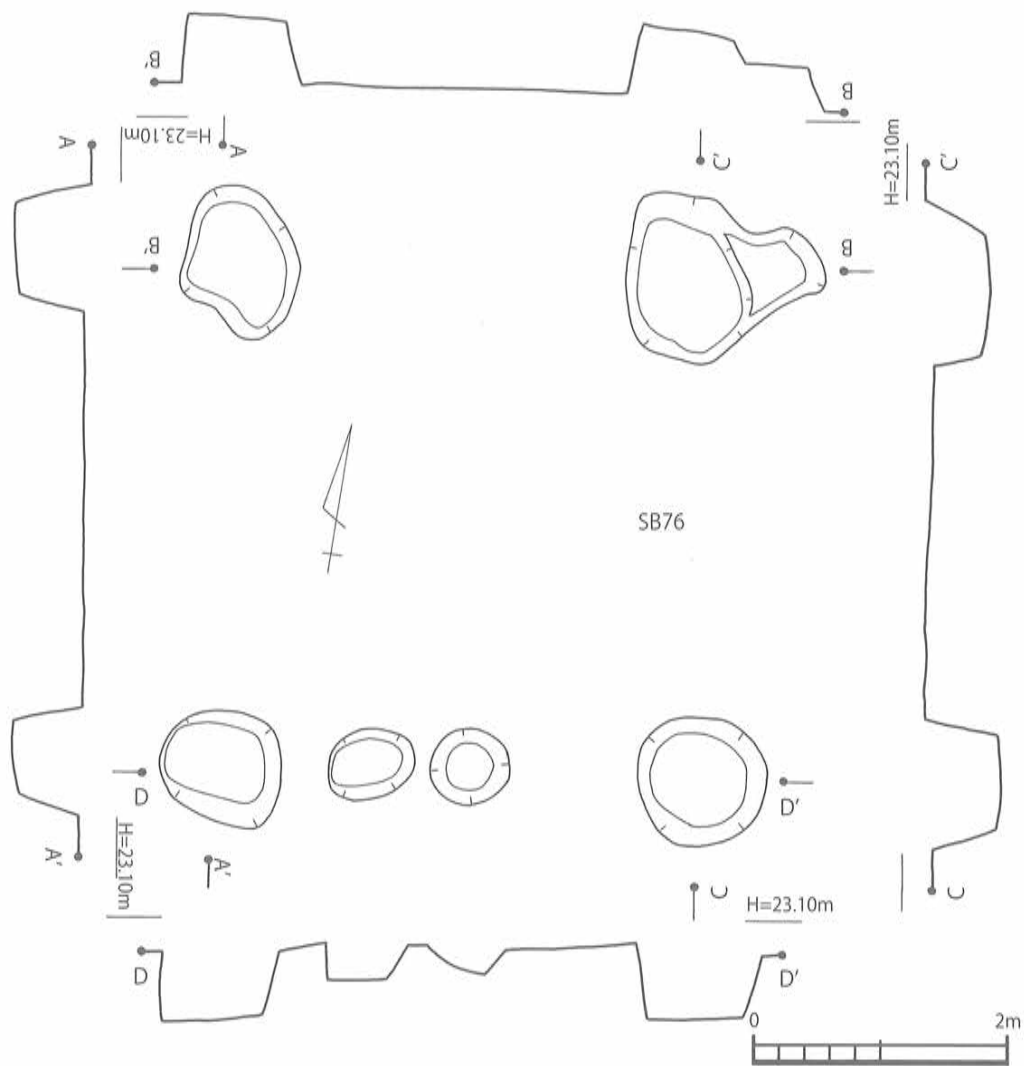
SB80（第 153・155 図）

調査区中央やや北側で検出された竪穴建物である。北側を SX05 に切られているが、1 辺 7.2 m 程度の正方形の平面形になるものと思われる。壁周辺には 4 隅に別途状遺構が確認される。支柱穴は不明瞭であるが 4 本か。

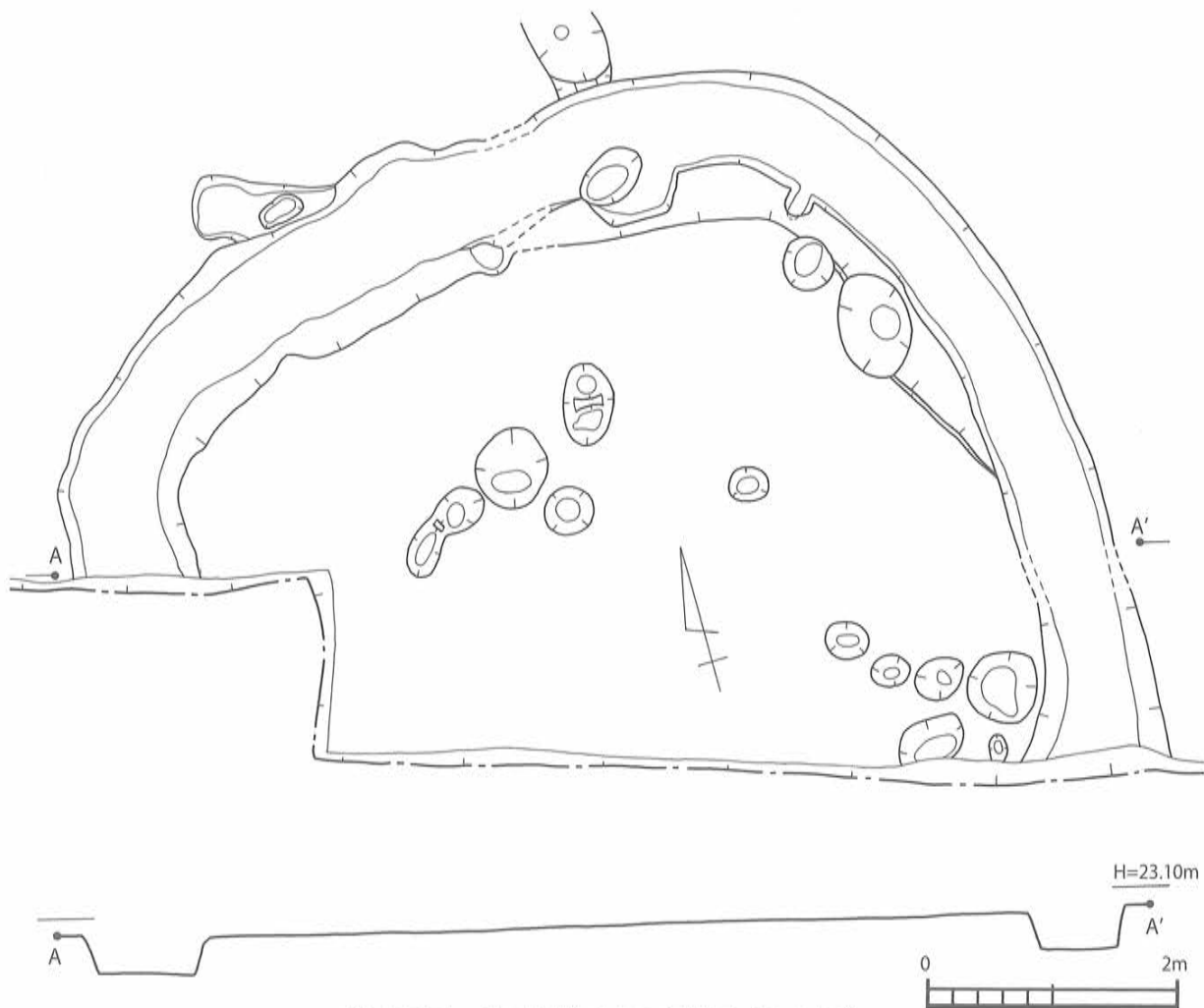
遺物は甕が出土しており、弥生後期に属する。なお、前述の通り、SB66 も SB80 と同一建物（SB80 のベッド状遺構以外中央部分が SB66 とされていたが、1 軒の建物と判断した）であり、遺物は第 147 図に示したが、時期的にも齟齬はないものと思われる。



第 155 図 篠原遺跡 SB80 出土遺物



第 156 図 篠原遺跡 SB76 実測図 (S=1/60)



第 157 図 篠原遺跡 SX04 実測図 (S=1/60)

② 掘立柱建物跡 (SB)

篠原遺跡 4 地点では、掘立柱建物跡は 1 軒検出されている。

SB76 (第 156 図)

調査区南西隅付近で検出された掘立柱建物跡である。軸を北東－南西方向にとり、長辺約 2.0 m、短辺約 1.95 m である。1 間 × 1 間の建物跡である。SB76 に明確に伴う遺物は出土していない。

③ 円形周溝遺構 (SX)

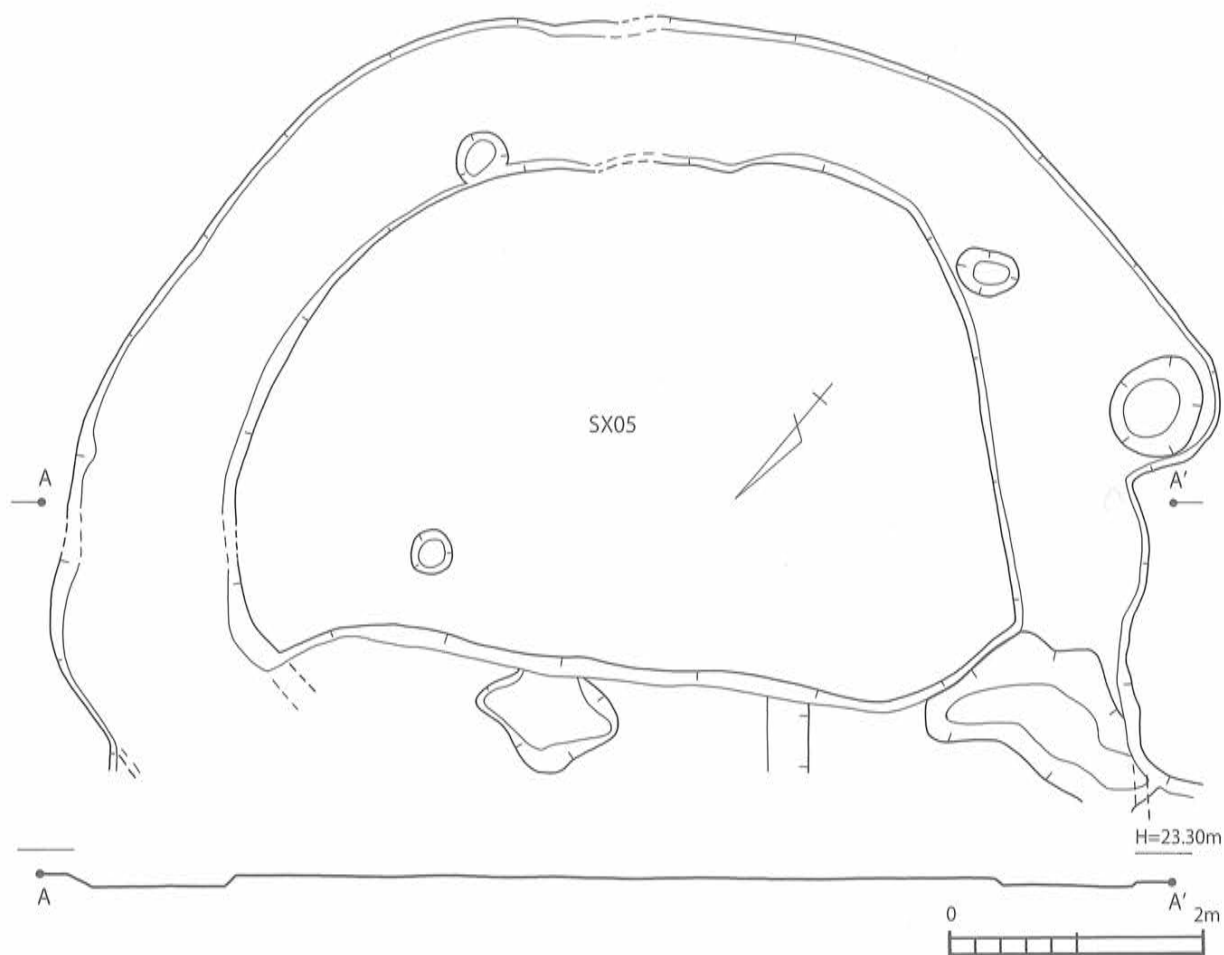
篠原遺跡 4 地点では、円形周溝遺構は 1 基検出されている (SX05)。3 地点で検出された SX01・SX02・SX04・と合わせて、篠原遺跡では 4 基の周溝状遺構が検出されている。調査者によれば、遺構の性格は不明であり、弥生時代に属すると思われる、とのことである。

SX05 (第 158・159 図)

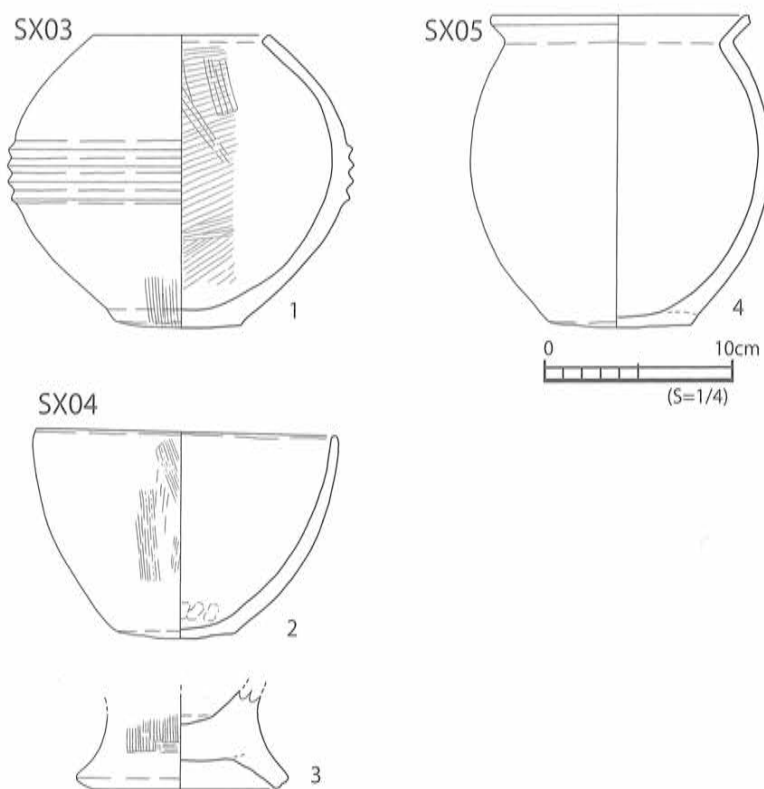
調査区北西側で検出された周溝状遺構であり、東側を SB67 竪穴建物跡に切られ、かなり後世の削平を受けており、一部は消失した状態での検出であった。また、南東側で SB80 竪穴建物跡と重なる。遺物は弥生時代後期の甕 1 がある。

なお、SX03～05 出土土器を第 159 図に示した。

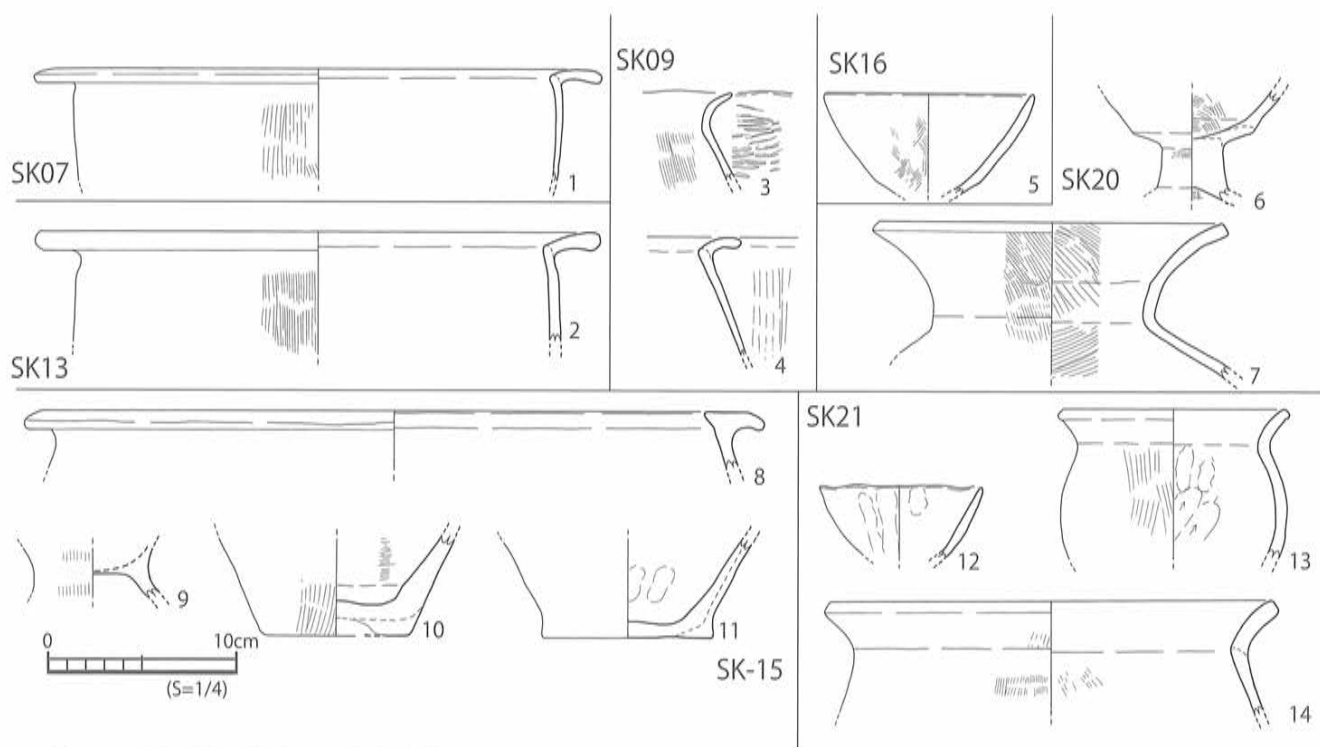
155 図 1 は、3 地点 SX03 不明遺構 (土坑?) より出土した鉢であり、胴部に 3 条の突帯を有する。2・



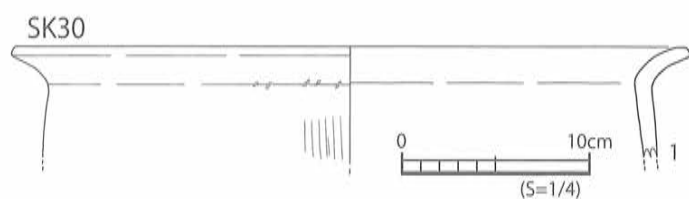
第 158 図 篠原遺跡 SX05 実測図 (S=1/60)



第 159 図 篠原遺跡 SX03・04・05 出土遺物



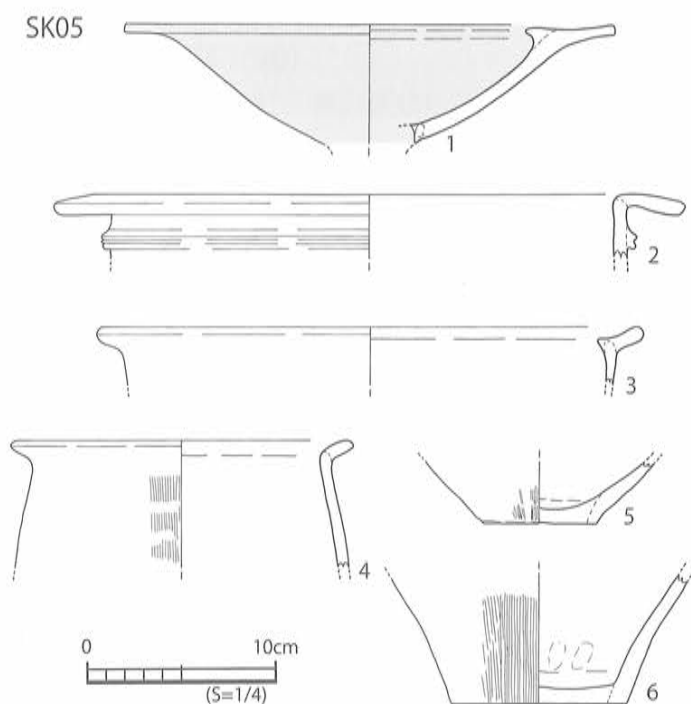
第 160 図 篠原遺跡 SK 出土遺物 1



第 161 図 篠原遺跡 SK 出土遺物 2



第 162 図
篠原遺跡 SK 出土遺物 3



第 163 図 篠原遺跡 SK 出土遺物 4

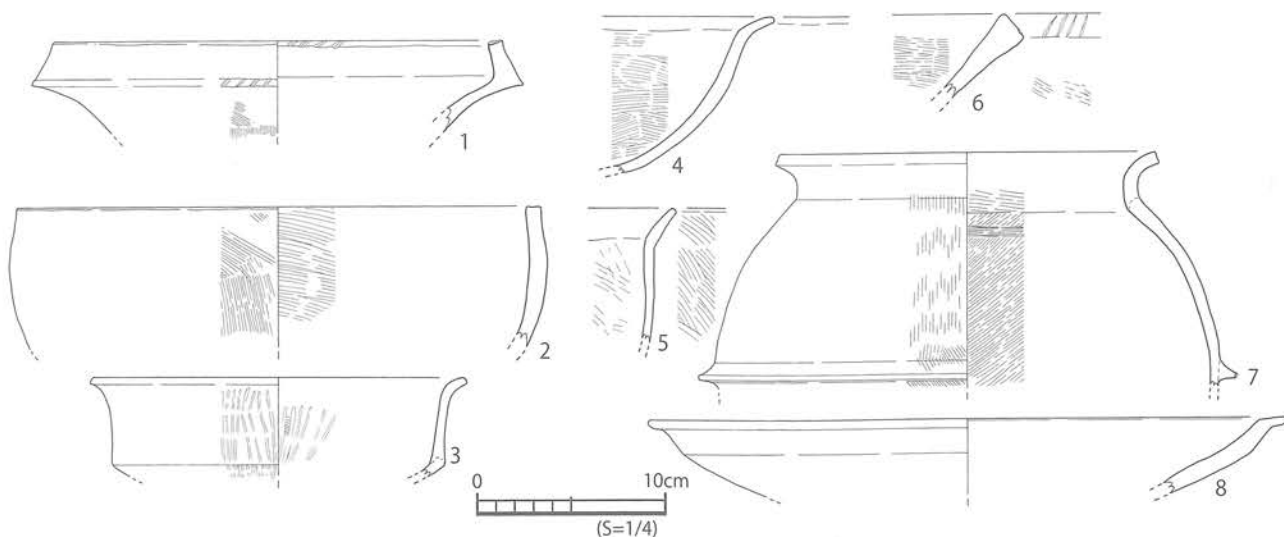
3は3地点SX04より出土した鉢と脚付甕の底部片である。4はSX05から出土した甕である。いずれも弥生時代後期に位置づけられるものと思われる。

6) 篠原遺跡の土坑・ピット

出土遺物 (第 161 ~ 165 図)

最後に、篠原遺跡 1 ~ 4 地点で検出した土坑 (SK) ・ピット (P) からの出土遺物について報告する。

なお、諸般の事情で土坑 (SK) に関しては個別図面を掲載していない。それに代えて、調査区全体図に土坑・ピットの位置関係を示している。1 地点は第 56 図、2 地点は第 59 図、3 地点は第



第 164 図 篠原遺跡ピット出土遺物

68 図、4 地点は第 137 図である。

第 160 図は SK07 (1)、SK13 (2)、SK09 (3・4)、SK15 (8～11)、SK16 (5)、SK20 (6・7)、SK21 (12～14) からの出土である。いずれも弥生時代後期～古墳時代前期に位置づけられると思われる。

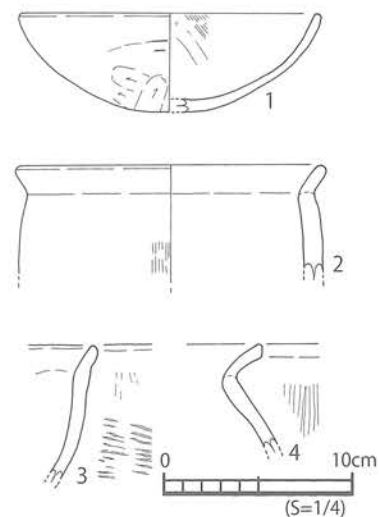
第 161 図は SK30 からの出土である。弥生時代後期の甕である。

第 162 図は SK02 より出土した土師器の坏底部片である。古代に属する。

第 163 図は SK05 より出土した土器である。丹塗の高坏と甕があり、弥生時代後期に属する。

164 図はピットから出土した土器である。今回報告した掘立柱建物跡に伴うものは見られないが、これらのピットも柱穴等になる可能性はあるため、掘立柱建物に関する考察の参考として掲載した。

165 図は遺構外出土遺物であるが、4 地点の西側黒土層出土という注記がなされている。恐らく、4 地点西側の竪穴建物跡が多く切り合っている場所での遺構検出時に出土したのではないかとわれ、明確ではないが、いずれかの竪穴建物跡に伴っていた土器であると思われる。



第 165 図
篠原遺跡遺構外出土遺物

7) 小結

以上、篠原遺跡 1 地点～4 地点に関して概要と調査報告を述べた。篠原遺跡では、主に弥生時代の遺構・遺物が多く出土しており、特に弥生時代後期の遺構・遺物が大半である。以下、調査成果について再度簡単にまとめておきたい。

篠原遺跡 1 地点～4 地点の調査区配置（第 3・4 図）と各地点の遺構配置（第 56・59・68・137 図）より、篠原遺跡では、遺構が多数切り合って存在している 4 地点の西側周辺を中心に、4 地点北側の 3 地点に向かって弥生時代後期～古墳時代初頭の集落域が広がっているものと思われる。また、4 地点東隣に位置する 1 地点では、甕棺墓 1 基のみの出土であり、南東方向に向かって遺構が希薄になる傾向がうかがえる。しかし、4 地点北東方向に 2 地点においても、遺構密度はやや希薄になるものの遺構・遺物は存在しており、東側に遺構がないという訳でもない。当該地は北側の山の井川と南側の花宗川にはさまれた、東西方向に伸びる微高地上に立地していることから、その微高地に沿って弥生時代集落が形成されているものと思われる。

篠原遺跡 1 地点では、ピット・土坑等と共に甕棺墓 1 基が確認された。弥生時代後期に属するものと思われるが、本報告に伴う整理作業では遺物そのものについて詳細な観察を実施できていないため、時期の詳細等が不明瞭なままである。今後、何らかの形で詳細を報告したい。篠原遺跡集落の墓域は、1 地点付近に所在する可能性が判明したことは、調査成果のひとつと言えよう。

篠原遺跡 2 地点では、遺構密度は 3 地点や 4 地点と比してやや希薄であるものの、弥生時代後期の建物跡など、弥生時代後期の集落域の様相の一部が明らかとなった。また、SD01 溝からは高台付坏などの古代（平安時代）の遺物も出土し（第 62 図）、SB04 からは中世の石鍋片（第 63 図）も出土していることから、篠原遺跡では古代・中世においても人々が生活をしていたことがうかがえる。

篠原遺跡 3 地点・4 地点では、数多くの建物跡等の遺構が発見され、その多くは弥生時代後期に属する。ただし、SB23（第 85・86 図）のように、弥生時代中期と思われる丹塗土器の出土がみられる遺構が一定量存在し、SB13（第 75・76 図）、SB19（第 81・82 図）や SB39（第 105・106 図）、および SD02 出土土器（131～136 図）の一部などには古墳時代初頭～前期の古式土師器も一定量存在している。このことから、篠原遺跡集落について現段階で確認されている状況からは、弥生時代中期後半頃より集落が形成され、弥生時代後期～古墳時代前期にかけて大集落が形成されていた状況が推測される。

なお、遺物で注目されるのは、篠原遺跡 3 地点 SB13 出土のやや特殊な器形の土器（第 76 図 10）である。他の出土遺物は古墳時代前期に属し、調整にもケズリ等古式土師器の技法が採用されていることから古墳時代前期に属する遺物と思われるが、器形が特殊である。上半部を欠くが、受口状の構造になっていることから、類例として手焙形土器が想起される。ただし、手焙形土器としてもやや形が特殊であり、煤の付着等使用痕跡も観られない。何より南筑後地域では手焙形土器は存在しないため、今後類例の発見等が期待される土器である。

第4表 篠原遺跡出土土器観察表

挿図番号	出土地点		器形	焼成	色調 (内面／外面)	胎土	成形・整形手法等	寸法 口径 (底径)	残存 高	備考(種類・残存等)	実測図 番 号
第58図1	1地点	K-1	甕	軟質	黄褐 ／黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にゆ、口縁部コナナ。	38.2	15.6	約1/6残存。	R1
第62図1	2地点	SB02	甕	軟質	淡橙 ／赤褐	砂礫含 (b)	外面ゆ、内面ナ。	32	7.2	外面ス付着。約1/6残存。底部は58図3の可能性大。	R3
第62図2	2地点	SB02	甕	軟質	暗赤褐 ／暗黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にゆ。	(10.5)	6.0	外面は被熱により赤化。底部のみ完形残存。	R14
第62図3	2地点	SB02	甕	軟質	橙 ／黄褐色	砂礫含 (a)	外面ゆ、内面ナ後ナ。	(8.0)	8.7	約1・5残存。口縁部は58図1の可能性大。	R12
第62図4	2地点	SB04	甕	軟質	黄橙 ／淡橙	砂礫少 (a)	外面ゆ、内面丁寧ナ。	32.2	8.3	約1/5残存。内外面ともにやや摩耗。	R4
第62図5	2地点	SB04	甕	軟質	橙 ／黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにゆ後丁寧ナ。	26.5	4.3	小片残存。	R5
第62図6	2地点	SB04	甕	軟質	黄褐 ／黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにゆ後丁寧ナ。	27.5	3.6	小片残存。	R6
第62図7	2地点	SB04	甕	軟質	黄褐 ／黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにゆ後ナ。	(7.4)	3.0	内面指圧痕有。	R15
第62図8	2地点	SB04	高台付 付環	軟質	灰 ／灰	精良	回転ナデ後高台添付。	8.0	2.7	焼きが甘い須恵器。約1/4残存。	R7
第62図9	2地点	SD01	環	軟質	灰 ／灰	精良	回転ナ。底部は未調整。	12.6 (8.2)	3.1	須恵器小片。	R8
第62図10	2地点	SD01	黒色土 器	軟質	黄褐 ／黒	精良	回転ナデ後高台添付。	—	2.4	高台接合部に沈線あり。底部のみ約1/2残存。	R9
第62図11	2地点	SD01	黒色土 器	軟質	淡橙 ／黒	精良	回転ナデ後高台添付。	—	2.6	底部は完形残存。	R10
第62図12	2地点	SD01	黒色土 器	軟質	黄褐色 ／黒	精良	回転ナデ後高台添付(工具痕有)。底部内面不定方向ナ。	(9.4)	3.3	底部のみ約1/2残存。	R11
第62図13	2地点	SB05	甕?	軟質	黄褐色 ／黒褐	砂礫多 (a)	内外面ともにゆ後ナ。	(7.6)	5.0	小片。底部に1か所内面からの焼成前穿孔有。	R376
第64図1	2地点	SB01	高環	軟質	黒褐 ／赤褐	砂礫少 (a)	内外面ともに丁寧ナ。	—	2.9	極小片。暗文状ミガキ有。	R16
第72図1	3地点	SB09	甕	軟質	黄褐 ／黄褐	砂礫含 (a)	外面ナゆ、内面丁寧ナ。	30.0	7.2	小片。口縁部丹塗?	R17
第72図2	3地点	SB10	甕	軟質	橙 ／橙	砂礫多 (a)	(摩耗のため調整不明)	34.2	7.5	小片。	R18
第72図3	3地点	SB12	甕	軟質	暗黄褐 ／黄褐	砂礫含 (d)	内外面ともに丁寧ナ。	34.0	2.9	小片。外面ス付着。	R19
第72図4	3地点	SB12	甕	軟質	淡赤褐 ／淡赤褐色	砂礫含 (a)	(摩耗のため調整不明)	38.0	3.3	小片。	R20
第72図5	3地点	SB12	甕	軟質	淡黄褐 ／淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にゆ後ナ。	38.0	7.7	小片。外面ス付着。	R21
第72図6	3地点	SB12	甕	軟質	黄褐 ／黄橙	砂礫含 (a)	外面ナゆ後口縁部コナナ・コナナ。内面丁寧ナ。	40.0	6.2	口縁部のみ約1/5残存。	R22
第72図7	3地点	SB12	甕	軟質	淡赤褐 ／淡赤褐	砂礫含 (d)	内外面ともにゆ後丁寧ナ。	—	11.0	胴部片。突帯2条貼付。	R25
第72図8	3地点	SB12	甕	軟質	黄褐 ／黄褐	砂礫含 (a)	外面ナゆ、内面丁寧ナ。	(8.4)	10.7	底部完形残存。指圧痕有。	R23
第72図9	3地点	SB12	甕	軟質	黄褐 ／黄褐	砂礫含 (a)	外面ナゆ、内面丁寧ナ。	(7.8)	6.4	底部約1/3残存。	R24
第76図1	3地点	SB13	高環	軟質	黄褐 ／黄褐	砂礫多 (a)	ゆ後ナ、外面に右上がり方向ミガキ。	—	4.6	坏部約1/4残存。76図3と同一個体の可能性大。	R29
第76図2	3地点	SB13	高環	軟質	淡橙 ／黄褐	砂礫含 (a)	外面はナデ後ミガキ、内面ナ。	—	4.0	脚部のみ残存。	R27
第76図3	3地点	SB13	高環	軟質	黄褐 ／淡橙	砂礫少 (a)	外面摩耗で調整不明、内面ナ。ナリ痕有。	—	8.0	76図1と同一個体の可能性大。穿孔は恐らく3箇所。	R31
第76図4	3地点	SB13	高環	軟質	淡橙 ／黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともにゆ。	(12.6)	5.9		R28
第76図5	3地点	SB13	甕	軟質	黒褐 ／黒褐	砂礫含 (a)	外面ナ、内面ゆ後ナ。	17.8	5.4	小片。	R33
第76図6	3地点	SB13	甕	軟質	黄褐 ／黄褐	砂礫含 (a)	外面右上ナ後ゆ、内面ゆ。	17.0	5.0	小片。外面ス付着。	R32
第76図7	3地点	SB13	甕	軟質	淡橙 ／暗赤褐	砂礫多 (a)	外面右上ナ後ゆ、内面ゆ。	17.0	6.6	上半部約2/3残存。外面ス付着。	R30
第76図8	3地点	SB13	甕	軟質	淡赤褐 ／淡橙	砂礫多 (a)	外面右上ナ後ゆ、内面ゆ。	19.6	8.5	上半部約1/3残存。外面ス付着。	R26
第76図9	3地点	SB13	甕	軟質	黒褐 ／黒褐	砂礫多 (d)	外面ゆ、内面ナ。	14.0	11.3	口縁部に沈線三角文有。	R65
第76図10	3地点	SB13	手焙形 土器?	軟質	黒褐 ／暗黄褐	砂礫多 (a)	内外面共にゆ後ナ、底部手持ちヘナナリ。	(13.8)	6.9	口縁部を欠く(受口状)。	R64
第78図1	3地点	SB17	鉢	軟質	暗赤褐 ／黄褐色	砂礫含 (a)	内外面ともに指押さえ、ナ。	6.6 (2.6)	4.0	ミナア土器、約1/2残存。	R35
第78図2	3地点	SB17	甕	軟質	暗赤褐 ／赤褐	砂礫少 (a)	外面ゆ、内面ゆ後ナ。	(4.2)	5.2	ミナア土器、約1/3残存。	R34
第78図3	3地点	SB17	鉢	軟質	暗黄褐 ／暗赤褐	砂礫含 (a)	外面ゆ、内面ゆ後ナ。	—	6.5	小片。	R37
第78図4	3地点	SB17	器台	軟質	黄橙 ／橙	砂礫含 (a)	内外面ともにゆ後ナ。	(13.4)	12.0	約1/3残存。	R36
第78図5	3地点	SB17	鉢	軟質	黄褐 ／黄褐	砂礫含 (a)	外面ゆ、内面ゆ後ナ。	20.2 (8.8)	13.5	約1/3残存。黒斑有。	R69
第78図6	3地点	SB17	甕	軟質	黄褐 ／淡橙	砂礫含 (d)	内外面ともにゆ後ナ。	—	19.5	胴部片突帯1条貼付。	R46
第78図7	3地点	SB17	壺 or 甕	軟質	黄褐 ／黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにゆ後ナ。	(8.7)	12.0	外面は被熱により赤化。底部約1/2残存。	R38
第78図8	3地点	SB17	甕	軟質	淡赤褐 ／暗黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにゆ後ナ。	(6.4)	8.0	ほぼ完形で残存。	R67
第79図1	3地点	SB18	甕	軟質	黄褐 ／暗黄褐	砂礫含 (a)	外面ナ後ゆ、内面ゆ後ナ。	14.0 (9.5)	18.4	ほぼ完形で残存。	R66
第82図1	3地点	SB18	高環	軟質	黄褐 ／黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにナ後ナ・ナ。	14.0 (9.5)	18.4	脚部のみ残存。	R39
第82図2	3地点	SB19	壺	軟質	黄褐 ／黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにゆ後ナ、底部手持ちヘナナリ。	—	5.5	胴部のみ約1/2残存。	R75
第82図3	3地点	SB19	壺	軟質	橙 ／橙	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ナ。	—	12.0	胴部のみ約2/3残存。	R77
第82図4	3地点	SB19	鉢	軟質	黄褐 ／黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ナ。	11.2	3.3	ほぼ完形残存。黒斑有。	R40
第82図5	3地点	SB19	鉢	軟質	淡赤褐 ／淡赤褐	砂礫含 (a)	外面ゆ、内面ナ。	—	5.4	約2/3残存。黒斑有。	R56

第4表 篠原遺跡出土土器観察表

押図番号	出土地点		器形	焼成	色調 (内面/外面)	胎土	成形・整形手法等	寸法 口径 (底径)	残存 高	備考 (種類・残存等)	実測図 番 号
第 82 図 6	3 地点	SB19	高 環	軟質	赤褐 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面ともにゆ後丁寧なナ。	10.6	5.5	約 1/4 残存。	R76
第 82 図 7	3 地点	SB19	高 環	軟質	赤褐 / 赤褐	砂礫含 (a)	外面は丁寧なナ、内面ゆ後ナ。	11.0	5.4	脚部のみ約 2/3 残存。	R78
第 82 図 8	3 地点	SB19	高 環	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫少	外面は丁寧なナ、坏部内面ナ後 ナ、脚部内面ゆ後ナ。	11.3 (10.1)	8.8	約 5/6 残存。坏部 / 脚部接合部に指 圧痕有。	R41 R55
第 82 図 9	3 地点	SB19	高 環	軟質	橙 / 橙	精良	内外面ともに丁寧なナ。	—	3.8	約 2/3 残存。脚部に穿孔 4 箇所。	R72
第 82 図 10	3 地点	SB19	高 環	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	(摩耗のため調整不明)	—	6.8	脚柱部のみ残存。	R73
第 82 図 11	3 地点	SB19	高 環	軟質	暗橙 / 暗橙	砂礫含 (a)	外面ナ後脚柱部ナ、内面ゆ後ナ。 。坏部内面ナ。	(15.8)	9.3	脚部 2/3 残存。	R79
第 82 図 12	3 地点	SB19	高 環	軟質	淡赤褐 / 淡赤褐	砂礫含 (a)	内外面ともにゆ後丁寧なナ。	16.7 (13.5)	12.5	坏部約 2/3 を欠く。被熱により赤色 化。	R98
第 82 図 13	3 地点	SB19	壺	軟質	黄褐色 / 黄褐色	砂礫含 (a)	外面ゆ、胴部内面ナリ、口縁部コ ナ。	12.1	7.6	小片。外面ヌ付着。	R74
第 82 図 14	3 地点	SB19	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	外面ゆ後ナ、内面ゆ。	(4.3)	2.8	底部のみ残存。	R71
第 82 図 15	3 地点	SB19	甕	軟質	橙 / 黄白	砂礫多 (a)	内外面ともに外面ゆ後ナ。	—	9.4	底部片。ほぼ丸底だが底部に平底部 分有。	R70
第 82 図 16	3 地点	SB19	甕	軟質	黄褐色 / 黄褐色	砂礫含 (a)	外面ゆ、内面ゆ後ナ・指押さえ	—	14.0	上部を欠く。外面からの焼成前穿孔 有。	R68
第 84 図 1	3 地点	SB21	甕	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	(摩耗のため調整不明)	—	3.3	小片。	R80
第 84 図 2	3 地点	SB22	甕	軟質	黄褐 / 暗黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともにゆ後口縁部コナ。	—	8.0	小片。黒斑有。	R82
第 84 図 3	3 地点	SB22	高台 付環	軟質	黄褐 / 黄褐	精良	回転ナ後丁寧なナ。高台添付。	(6.8)	1.1	土師器。	R81
第 86 図 1	3 地点	SB23	高 環	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共に丁寧なナ。	30.0	7.5	坏部のみ約 1/2 残存。丹塗有。	R89
第 86 図 2	3 地点	SB23	高 環	軟質	淡赤褐 / 淡赤褐	砂礫含 (d)	内外面共にゆ後丁寧なナ。	35.4	6.0	坏部のみ残存。丹塗有。	R90
第 86 図 3	3 地点	SB23	甕	軟質	橙 / 橙	精良	内外面共にナ・指押さえ	(2.1)	1.7	ミニチュア土器。底部のみ残存。	R84
第 86 図 4	3 地点	SB23	甕	軟質	赤褐 / 赤褐	砂礫多 (a)	内外面共に丁寧なナ。	(4.6)	3.3	黒斑有。底部約 2/3 残存。	R57
第 86 図 5	3 地点	SB23	高 環	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にゆ後ナ。	26.0	8.8	86 図 19 と同一個体。	R47
第 86 図 6	3 地点	SB23	器 台	軟質	黄橙 / 黄褐	砂礫多 (a)	内外面共にゆ後ナ。	(15.4)	11.0	下半部約 1/2 残存。	R63
第 86 図 7	3 地点	SB23	器 台	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共にゆ後ナ。	15.0	9.8	下半部約 1/3 残存。	R62
第 86 図 8	3 地点	SB23	鉢	軟質	黄橙 / 淡橙	砂礫含 (a)	外面ゆ後ナ。内面摩耗で調整不 明。	18.8	7.5	約 1/4 残存の小片。高環脚部の可能 性もある。	R61
第 86 図 9	3 地点	SB23	鉢	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面共にゆ後ナ。	21.0	6.5	約 1/6 残存。	R45
第 86 図 10	3 地点	SB23	甕	軟質	淡黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にゆ後ナ。	22.0	6.9	小片。	R49
第 86 図 11	3 地点	SB23	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共にゆ後ナ。	24.0	4.8	小片。やや磨滅している。	R51
第 86 図 12	3 地点	SB23	甕	軟質	暗赤褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にゆ後ナ。	32.0	6.3	小片。黒斑有。	R53
第 86 図 13	3 地点	SB23	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫多 (a)	外面磨滅により不明、内面ゆ後ナ。	20.0	7.6	小片。	R48
第 86 図 14	3 地点	SB23	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫多 (b)	内外面共にゆ後ナ。	34.0	3.5	小片。	R42
第 86 図 15	3 地点	SB23	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともにゆ後内面に丁寧なナ。	34.0	9.2	外面ヌ付着。口縁部約 1/3 残存。	R52
第 86 図 16	3 地点	SB23	甕	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面共にゆ後ナ。	—	4.0	小片。やや被熱による赤化。	R54
第 86 図 17	3 地点	SB23	甕	軟質	淡橙 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にゆ後ナ。	—	4.7	小片。口縁部ヌ付着。	R43
第 86 図 18	3 地点	SB23	甕	軟質	暗黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に丁寧なナ。	—	5.4	外面ヌ付着。	R50
第 86 図 19	3 地点	SB23	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にゆ後ナ。	—	5.9	86 図 5 と同一個体	R44
第 86 図 20	3 地点	SB23	甕	軟質	黄褐 / 淡橙	砂礫含 (b)	外面ゆ、内面ゆ後ナ。	(10.2)	8.6	底部完形残存。黒斑有。	R59
第 86 図 21	3 地点	SB23	甕	軟質	黄橙 / 橙	砂礫多 (d)	外面ゆ、内面ナ。	(9.6)	5.1	底部完形残存。内面指圧痕有。	R58
第 86 図 22	3 地点	SB23	甕	軟質	黄褐 / 淡橙	砂礫含 (a)	外面ゆ、内面ナ。	(6.6)	5.6	底部のみ完形残存。底部に黒斑有。	R60
第 86 図 23	3 地点	SB23	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧なナ。	(6.5)	11.7	下半部約 1/4 残存。	R83
第 86 図 24	3 地点	SB23	甕	軟質	暗黄褐 / 黒褐	砂礫多 (a)	内外面ともにゆ後ナ。	(7.0)	56.0	黒斑有。	R85
第 86 図 25	3 地点	SB23	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともにゆ後ナ。	(10.1)	14.0	底部ほぼ完形残存。レス状底。外面 ヌ付着。	R86
第 88 図 1	3 地点	SB24	鉢	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫多 (a)	内外面ともにゆ後ナ。	13.4	6.0	口縁部約 1/4 残存。	R95
第 88 図 2	3 地点	SB24	壺	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫多 (a)	内外面ともに丁寧なナ。	—	5.0	頸部約 1/4 残存。	R87
第 88 図 3	3 地点	SB24	鉢	軟質	橙 / 橙	砂礫多 (a)	内外面共にゆ後指押さえ・ナ。	11.8	7.0	小片。黒斑有。	R88
第 91 図 1	3 地点	SB29	鉢	軟質	黄白 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面ともにゆ後ナ。	16.0	8.0	小片。外面黒斑有。	R105
第 91 図 2	3 地点	SB29	甕	軟質	黒褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにゆ後ナ。	—	3.8	極小片。断面黒褐色。外面ヌ付着。	R106
第 91 図 3	3 地点	SB29	甕	軟質	黒褐 / 暗橙	砂礫含 (a)	内外面ともに指押さえ・ナ。	(32.7)	2.1	ミニチュア土器？底部完形残存。	R110
第 91 図 4	3 地点	SB29	器 台	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面ともにゆ後ナ。	11.2	12.2	上半部のみほぼ完形残存。	R92
第 91 図 5	3 地点	SB29	器 台	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにゆ後ナ。	13.2	12.6	約 1/3 残存。	R113
第 91 図 6	3 地点	SB29	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫多 (a)	内外面ともにゆ後ナ。	13.6	5.0	小片。	R103

第4表 篠原遺跡出土土器観察表

挿図番号	出土地点		器形	焼成	色調 (内面/外面)	胎土	成形・整形手法等	寸法 口径 (底径)	残存 高	備考 (種類・残存等)	実測図 番 号
第91図7	3地点	SB29	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	外面 η 、内面 π ・指押さへ。	16.0	7.2	口縁部約2/3残存。口縁部 Δ 付着。	R101
第91図8	3地点	SB29	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に η 後 π 。	28.6	5.6	小片。	R102
第91図9	3地点	SB29	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に η 後 π 。	15.4 (7.3)	12.0	約1/5残存。外面黒斑有。	R104
第91図10	3地点	SB29	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に η 後 π 。	(7.5)	11.5	脚付甕。外面被熱により Δ 付着、赤化。	R111
第91図11	3地点	SB29	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共に η 後 π 。	(7.3)	8.7	下半部残存。片岩粒が多い。	R107
第91図12	3地点	SB29	甕	軟質	黄白 / 黄白	砂礫含 (a)	内外面共に η 後 π 。	(7.6)	4.1	小片。	R108
第91図13	3地点	SB29	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共に η 後 π 。	(8.2)	3.8	底部1/4残存。内面指圧痕有。	R109
第91図14	3地点	SB29	甕 or 壺	軟質	黄褐色 / 暗黄褐	砂礫含 (a)	外面 Δ 後 η 、内面 π 。	(6.9)	16.3	下半部残存。黒斑有。	R112
第91図15	3地点	SB29	壺	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に η 後 π 。	14.2	7.5	口縁部のみ約1/4残存。断面灰色。	R91
第91図16	3地点	SB29	壺	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に η 後 π 。	—	18.2	胴部約1/6残存。外面丹塗? 胴部・頸部に Δ 付着。	R114
第94図1	3地点	SB32	鉢	軟質	淡黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	Δ 形成。内面は丁寧な π 。	10.7 (3.4)	5.6	小片。近畿第V様式変容系。	R96
第94図2	3地点	SB32	鉢	軟質	橙 / 黄褐	精良	外面 η 、内面丁寧な π 。	16.4 (9.5)	7.6	底部1/4残存。	R119
第94図3	3地点	SB32	鉢	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫少 (a)	外面工具 π 、内面 π 。	16.4 (7.0)	13.5	口縁部1/3を欠く。外面 Δ 付着。黒斑有。	R134
第94図4	3地点	SB32	器台	軟質	暗黄褐 / 暗黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に η 後 π 。	15.1	6.5	器台上半部の可能性あり。	R135
第94図5	3地点	SB32	壺	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外共に工具による π 。	—	9.8	下半部の可能性もある。	R97
第94図6	3地点	SB32	甕	軟質	黄褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに η 、口縁部 Δ 付着。	26.0	13.2	小片。外面 Δ 付着。	R121
第94図7	3地点	SB32	甕	軟質	暗橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面ともに η 、口縁部 Δ 付着。	24.0	16.5	約1/5残存。外面 Δ 付着。94図9・14と同一個体?	R93
第94図8	3地点	SB32	甕	軟質	暗黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに η 、口縁部 Δ 付着。	26.0	10.4	約1/6残存。外面 Δ 付着。	R124
第94図9	3地点	SB32	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面ともに η 、口縁部 Δ 付着。	29.8	16.5	約1/5残存。94図7・14と同一個体?	R122
第94図10	3地点	SB32	甕	軟質	淡赤褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に η 後 π 。	19.0	7.8	94図11と同一個体? 小片。	R125
第94図11	3地点	SB32	甕	軟質	淡赤褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に η 後 π 。	27.8	10.2	94図10と同一個体? 小片。	R123
第94図12	3地点	SB32	甕	軟質	黄褐 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面共に工具による π 。	—	8.4	脚付甕。	R120
第94図13	3地点	SB32	甕	軟質	暗赤褐 / 褐	砂礫含 (a)	内外面共に η 後 π 。	(7.7)	23.7	下半部残存。外面 Δ 付着。	R126
第94図14	3地点	SB32	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	外面 η 、内面 π 。	(8.4)	12.5	下半部残存。外面 Δ 付着。	R116
第94図15	3地点	SB32	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに工具による π 。	(8.2)	10.0	外面、底部に Δ 付着。	R118
第94図16	3地点	SB32	甕	軟質	赤褐 / 淡赤褐	砂礫少 (a)	内外面ともに η 後 π 。	(4.7)	6.5	小片。黒斑有。	R117
第94図17	3地点	SB32	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫少 (a)	内外面ともに η 後 π 。	(7.4)	11.2	下半部残存。底部 Δ 付着。	R115
第95図1	3地点	SB33	甕	軟質	橙 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに η 後 π 。	28.0	4.1	小片。外面 Δ 付着。	R100
第95図2	3地点	SB33	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧な π 。	—	2.1	小片。	R201
第95図3	3地点	SB33	甕	軟質	黄褐 / 淡赤褐	砂礫少 (b)	外面 η 、内面 π 。	(8.1)	7.4	底部片。黒斑有。	R99
第96図1	3地点	SB32・33	甕	軟質	淡橙 / 淡黄褐	砂礫含 (d)	内外面共に η 後 π 。			底部約1/2残存。丹塗有。	R93 R94
第99図1	3地点	SB34	高坏	軟質	黄白 / 黄白	砂礫含 (a)	内外面ともに η 後 π 。	11.0 (7.2)	6.3	脚部は手づくね風。黒斑有。	R132
第99図2	3地点	SB34	鉢	軟質	黄褐 / 黄褐	精良 (a)	外面 η 後 π 。内面丁寧な π 。	11.4	5.8	約1/3残存。内面やや摩耗。	R130
第99図3	3地点	SB34	鉢	軟質	黄褐 / 黄褐	精良 (a)	外面 Δ 後 η ・ π 。内面 η 後 π 。	14.4	4.5	外面 Δ 付着。	R129
第99図4	3地点	SB34	壺	軟質	淡黄褐 / 淡赤褐	砂礫多 (a)	内外面ともに Δ 付着。	16.8	2.8	口縁部に刻目有。	R133
第99図5	3地点	SB34	高坏	軟質	淡赤褐 / 淡赤褐	砂礫多 (a)	内外面共に η 後 π 。	18.4	3.4	小片。やや粗い作り。	R128
第99図6	3地点	SB34	甕	軟質	淡赤褐 / 黄褐	砂礫多 (a)	内外面共に η 後 π 。	18.8	6.7	小片。外面被熱により赤化。	R127
第99図7	3地点	SB34	甕	軟質	黄褐 / 黄橙	精良	外面 η 後 π 、内面 π 。	7.0	4.8	底部約1/4片。底部黒斑有。	R131
第99図8	3地点	SB35	甕	軟質	赤褐 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共に丁寧な π 。	—	1.5	小片。	R144
第99図9	3地点	SB35	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫少	内外面ともに丁寧な π 。	17.4	7.0	口縁部小片。外面 Δ 付着。	R143
第99図10	3地点	SB35	甕	軟質	黄褐 / 暗黄褐	砂礫含 (a)	外面 η 、内面 π 。	24.5	5.5	外面 Δ 付着	R136
第99図11	3地点	SB35	甕	軟質	淡黄橙 / 淡黄橙	砂礫含 (a)	外面 η 、内面 π 。	33.0	17.0	上半部ほぼ完形残存。黒斑有。	R146
第99図12	3地点	SB35	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	外面 η 、内面 π 。	26.0	3.5	口縁部小片。	R156
第99図13	3地点	SB35	甕	軟質	淡赤褐 / 淡赤褐	砂礫含 (d)	外面 η 、内面 π 。	6.8	2.6	底部小片。黒斑有。	R142
第99図14	3地点	SB35	甕	軟質	橙 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	外面 η 、内面 π 。	7.9	6.4	底部約1/2片。	R138
第99図15	3地点	SB35	甕	軟質	黄褐 / 黄橙	砂礫含 (a)	外面 η 、内面 π 。	10.2	3.5	底部完形残存。底部に黒斑有。	R140
第99図16	3地点	SB35	甕	軟質	黄橙 / 黒褐	砂礫含 (a)	外面 η 、内面 π 。	(7.9)	6.9	底部片。胴部外面被熱により赤化。	R137
第99図17	3地点	SB35	甕	軟質	黒褐 / 黄褐	砂礫多 (a)	外面 η 、内面 π 。	—	4.1	底部小片。外面 Δ 付着。	R145

第4表 篠原遺跡出土土器観察表

押図番号	出土地点		器形	焼成	色調 (内面/外面)	胎土	成形・整形手法等	寸法 口径 (底径)	残存 高	備考 (種類・残存等)	実測図 番 号
第 99 図 18	3 地点	SB35	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	外面ㇿ、内面ㇿ。	5.0	5.2	底部約 1/2 片。内面指圧痕有。	R139
第 99 図 19	3 地点	SB35	甕	軟質	黄白 / 黄白	砂礫含 (a)	内外面ともにㇿ後ㇿ。	4.5	4.5	底部小片。外面双付着。	R141
第 102 図 1	3 地点	SB36	鉢	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にㇿ後内面丁寧ㇿ。	16.0 (6.4)	7.6	約 2/3 残存。黒斑有。	R154
第 102 図 2	3 地点	SB36	甕	軟質	黄橙 / 黄褐色	砂礫少 (a)	内外面共にㇿ後ㇿ。	35.0	5.4	口縁部 1/5 残存。口縁部一部被熱。	R147
第 102 図 3	3 地点	SB36	甕	軟質	黄褐 / 黄褐色	砂礫少 (a)	内外面ともに丁寧ㇿ。	—	7.5	小片。頸部に突帯 1 条有。	R203
第 102 図 4	3 地点	SB36	甕	軟質	黄褐色 / 赤褐色	砂礫少	内外面ともに丁寧ㇿ。	36.4	7.8	小片。被熱痕有。	R204
第 102 図 5	3 地点	SB36	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	外面ㇿ、内面丁寧ㇿ。	—	18.5	小片。胴部に突帯 2 条有。大型。	R158
第 103 図 1	3 地点	SB37	鉢	軟質	淡橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面ともに指押さえ・ㇿ	11.9	5.1	ほぼ完形残存。指紋付着有。	R162
第 103 図 2	3 地点	SB37	鉢	軟質	橙 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にㇿ後ㇿ。	18.7 (8.3)	8.0	約 1/2 残存。	R155
第 103 図 3	3 地点	SB37	壺	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ㇿ。	12.5	6.4	小片残存。	R164
第 103 図 4	3 地点	SB37	甕	軟質	黄褐 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共にㇿ後ㇿ。	(5.2)	11.0	下半部小片。胴部に被熱による赤化有。	R159
第 103 図 5	3 地点	SB37	甕	軟質	黄褐色 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にㇿ後ㇿ。	11.3 (5.1)	13.0	上半部約 1/2 を欠く。外面被熱・双付着。	R202
第 103 図 6	3 地点	SB37	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共にㇿ後ㇿ。	12.2 (7.9)	20.0	外面被熱・双付着。	R157
第 103 図 7	3 地点	SB38	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫少 (a)	内外面共に指押さえ・ㇿ。	3.8	2.5	ミニチュア土器	R150
第 103 図 8	3 地点	SB38	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共に指押さえ・ㇿ。	(3.1)	2.1	ミニチュア土器	R148
第 103 図 9	3 地点	SB38	鉢	軟質	黒褐 / 黒褐	砂礫含 (a)	内外面共に丁寧ㇿ。	12.6	2.5	口縁部小片。	R149
第 103 図 10	3 地点	SB38	甕	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に丁寧ㇿ。	11.0	3.3	口縁部小片。	R151
第 103 図 11	3 地点	SB38	甕	軟質	淡黄褐 / 黄白	砂礫含 (a)	内外面共にㇿ後ㇿ。	(8.5)	4.7	底部小片。	R153
第 103 図 12	3 地点	SB38	甕	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面共にㇿ後ㇿ。	(6.2)	6.4	底部小片。	R152
第 106 図 1	3 地点	SB39	鉢	軟質	橙 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにㇿ後ㇿ。	8.6 (3.5)	3.5	約 1/6 残存。黒斑有。	R219
第 106 図 2	3 地点	SB39	鉢	軟質	黄褐 / 黒褐	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ㇿ。	8.4	5.0	ほぼ完形残存。やや摩耗。	R206
第 106 図 3	3 地点	SB39	高坏	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにㇿ後ㇿ。	103	5.7	坏部のみほぼ完形残存。	R207
第 106 図 4	3 地点	SB39	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに指押さえ・ㇿ。	6.9	5.7	上半部約 2/3 残存。手づくね土器。	R212
第 106 図 5	3 地点	SB39	甕	軟質	淡橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ㇿ。	(2.2)	4.3	底部のみ約 1/2 残存。底部黒斑有。	R224
第 106 図 6	3 地点	SB39	甕	軟質	黄褐 / 黄褐色	砂礫少	内外面ともに丁寧ㇿ。	6.1	1.6	口縁部極小片。	R222
第 106 図 7	3 地点	SB39	甕	軟質	暗橙 / 暗黄褐	砂礫少	内外面ともに丁寧ㇿ。	10.7	3.8	口縁部小片。	R221
第 106 図 8	3 地点	SB39	脚台	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに指押さえ・ㇿ。	(4.9)	2.5	底部完形残存。手づくね土器。	R214
第 106 図 9	3 地点	SB39	脚台	軟質	黄白 / 黄白	砂礫含 (a)	(摩耗のため詳細不明)	(7.4)	3.1	脚部のみ 3/4 残存。	R215
第 106 図 10	3 地点	SB39	器台	軟質	黄橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面ともにㇿ後丁寧ㇿ。	(12.8)	13.4	約 1/3 残存。内面ㇿ痕有。	R213
第 106 図 11	3 地点	SB39	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ㇿ。	14.3	4.6	小片。外面黒斑有。	R217
第 106 図 12	3 地点	SB39	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにㇿ後ㇿ。	20.4	4.5	口縁部小片。口縁部内外面に双付着。	R218
第 106 図 13	3 地点	SB39	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにㇿ後ㇿ。	22	8.0	小片。外面黒斑有。	R210
第 106 図 14	3 地点	SB39	高坏	軟質	赤褐 / 赤褐	精良	内外面ともにㇿ後ㇿ。	—	6.0	坏部約 1/2 残存。丹塗。	R318
第 106 図 15	3 地点	SB39	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにㇿ後ㇿ。	19.4	6.0	小片。外面・口縁部内面双付着。	R209
第 106 図 16	3 地点	SB39	甕	軟質	暗黄褐 / 暗黄褐	砂礫多 (a)	内外面共にㇿ後ㇿ。	22.2	4.8	口縁部小片。外面双付着。	R220
第 106 図 17	3 地点	SB39	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にㇿ後ㇿ。	31.6	5.4	口縁部小片。	R211
第 106 図 18	3 地点	SB39	甕 or 壺	軟質	橙 / 黒褐	砂礫少 (a)	内外面ともにㇿ。	9.6	3.0	底部約 1/4 片。底部に線刻有。	R223
第 106 図 19	3 地点	SB39	高坏	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫少 (a)	内外面共にㇿ後ㇿ・ミガキ	11.9	5.7	坏部のみ残存。	R205
第 106 図 20	3 地点	SB39	壺	軟質	黄白 / 黄白	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ㇿ。	20.6	3.2	口縁部約 1/4 片。口縁部に刻目。竹管文は 2 個ずつ 4 箇所に施文か。	R216
第 106 図 21	3 地点	SB39	壺	軟質	橙 / 橙	精良	(摩耗のため詳細不明)	16.0	4.5	口縁部小片。	R233
第 106 図 22	3 地点	SB39	高坏	軟質	淡赤褐 / 淡赤褐	砂礫含 (a)	内外面共にㇿ後丁寧ㇿ。	(15.8)	8.6	脚部約 1/3 残存。外面一部双付着。	R208
第 113 図 1	3 地点	SB42	鉢	軟質	橙 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ㇿ。	—	14.0	胴部約 1/5 残存。	R227
第 113 図 2	3 地点	SB42	高坏	軟質	黄褐 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ㇿ。	30.2	4.0	小片。黒斑有。	R228
第 113 図 3	3 地点	SB42	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共にㇿ後丁寧ㇿ。	28.0	7.3	小片。口縁部に双付着。113 図 4 と同一個体か。	R229
第 113 図 4	3 地点	SB42	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共にㇿ後丁寧ㇿ。	28.2	9.0	約 1/5 片。113 図 4 と同一個体か。	R230
第 113 図 5	3 地点	SB42	甕	軟質	暗橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共にㇿ後ㇿ。	26.6	16.5	口縁部約 1/5 残存。外面双付着。内面ㇿ。	R231
第 113 図 6	3 地点	SB46	鉢	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共にㇿ後ㇿ。	10.8 (4.2)	5.4	小片。	R312
第 113 図 7	3 地点	SB46	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にㇿ後ㇿ。	—	3.5	小片。口縁部に刻目有。	R313

第4表 篠原遺跡出土土器観察表

挿図番号	出土地点		器形	焼成	色調 (内面／外面)	胎土	成形・整形手法等	寸法 口径 (底径)	残存 高	備考 (種類・残存等)	実測図 番 号
第113図8	3地点	SB46	甕	軟質	褐 ／ 褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹後行 [*] 。内面竹 [*] 行 [*] 。	—	5.7	小片。古式土師器。	R311
第113図9	3地点	SB46	甕	軟質	淡赤褐 ／ 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹後行 [*] 。	—	11.0	脚部のみ残存。	R163
第113図10	3地点	SB46	甕	軟質	黄褐 ／ 黄褐	砂礫多 (a)	内外面共に竹後行 [*] 。	28.0	11.7	口縁部約1/3残存。外面双付着。	R314
第113図11	3地点	SB46	甕	軟質	黄褐 ／ 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹後行 [*] 。	30.0	21.8	口縁部約1/5残存。外面双付着。内面竹 [*] 行 [*] 。	R232
第113図12	3地点	SB46	壺	軟質	橙 ／ 橙	砂礫含 (a)	内外面共に竹後行 [*] 。	21.8	12.0	口縁部約1/3残存。頸部に2条突帯有。	R310
第113図13	3地点	SB46	壺	軟質	橙 ／ 橙	砂礫含 (a)	内外面共に竹後行 [*] 。	—	8.7	小片。頸部に1条突帯有。	R309
第113図14	3地点	SB47	鉢	軟質	黄褐 ／ 黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともに丁寧な竹 [*] 行 [*] 。	9.2 (3.9)	3.8	約3/4残存。底部に黒斑有。	R319
第113図15	3地点	SB47	甕	軟質	橙 ／ 橙	砂礫多 (a)	内外面ともに竹後行 [*] 。	38.0	5.8	約1/5残存。外面双付着。	R321
第113図16	3地点	SB47	甕	軟質	黄白 ／ 黄白	砂礫含 (d)	外面竹 [*] 、内面丁寧な竹 [*] 行 [*] 。	(8.3)	4.7	約1/2残存。	R239
第113図17	3地点	SB47	甕	軟質	橙 ／ 橙	砂礫多 (a)	内外面ともに竹後行 [*] 。	—	8.3	小片。外面双付着。	R320
第113図18	3地点	SB47	器台	軟質	黄白 ／ 黄白	砂礫含 (d)	外面竹 [*] 、内面丁寧な竹 [*] 行 [*] 。	13.5 (13.5)	18.2	約1/2残存。	R160
第113図19	3地点	SB47	器台	軟質	淡橙 ／ 淡橙	砂礫多 (a)	外面竹 [*] 、内面竹 [*] 行 [*] 。	14.0	13.5	上半残存。内面竹 [*] 行 [*] 痕有。	R161
第113図20	3地点	SB47	器台	軟質	淡橙 ／ 淡橙	砂礫多 (a)	外面竹 [*] 、内面竹 [*] 行 [*] 。	13.0	14.0	上半残存。内面指圧痕有。	R240
第115図1	3地点	SB48	鉢	軟質	橙 ／ 橙	砂礫多 (a)	内外面ともに竹後行 [*] 。	20.0 (5.6)	8.2	約1/4残存。黒斑有。	R322
第115図2	3地点	SB49	鉢	軟質	黄褐 ／ 暗黄白	砂礫多 (a)	内外面ともに丁寧な竹 [*] 行 [*] 。	11.4 (5.6)	5.6	小片。	R315
第115図3	3地点	SB49	鉢	軟質	黄褐 ／ 黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともに竹後行 [*] 。	21.6 (6.0)	12.4	底部にミガキ状調整有。	R316
第115図4	3地点	SB50	甕	軟質	黄褐 ／ 赤褐	砂礫含 (a)	内外面ともに竹後行 [*] 。	13.4	5.3	小片。黒斑有。	R324
第115図5	3地点	SB50	甕	軟質	暗赤褐 ／ 暗橙	砂礫含 (a)	内外面ともに竹後行 [*] 。	14.3	12.0	小片。外面双付着。	R325
第115図6	3地点	SB51	壺	軟質	黄褐 ／ 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに竹後行 [*] 。	19.0	8.0	口縁部約1/5残存。	R234
第115図7	3地点	SB50	甕	軟質	黄橙 ／ 黄橙	砂礫少 (a)	外面竹 [*] 、内面竹 [*] 行 [*] 。	36.0	9.5	口縁部約1/6残存。115図9と同一個体か。	R326
第115図8	3地点	SB50	甕	軟質	黄橙 ／ 黄橙	砂礫含 (a)	外面竹 [*] 、内面竹 [*] 行 [*] 。	8.7	7.6	底部残存。胴部に被熱痕有。外面丹塗？	R243
第115図9	3地点	SB50	甕	軟質	黄橙 ／ 黄橙	砂礫少 (a)	外面竹 [*] 、内面竹 [*] 行 [*] 。	9.3	9.5	底部のみ残存。底部全面に黒斑有。115図7と同一個体か。	R241
第115図10	3地点	SB50	高坏	軟質	暗黄褐 ／ 暗橙	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧な竹 [*] 行 [*] 。	28.2	8.7	坏部約1/2残存。	R235
第131図1	4地点	SD02 北上層	鉢	軟質	黄褐 ／ 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧な竹 [*] 行 [*] 。	10.1	5.3	ほぼ完形残存。底部に黒斑有。	R167
第131図2	4地点	SD02 北上層	器台	軟質	暗黄褐 ／ 暗黄褐色	砂礫含 (d)	外面丁寧な竹 [*] 行 [*] 、内面竹 [*] 行 [*] 。	16.0	4.0	口縁部約1/5片。口縁部双付着。	R 276
第131図3	4地点	SD02 北上層	器台	軟質	淡橙 ／ 淡橙	砂礫含 (a)	竹後行 [*] ・竹 [*] 行 [*] 。	6.4	6.7	約1/2残存。杵形器台。	R356
第131図4	4地点	SD02 北上層	器台	軟質	黄褐 ／ 黒褐色	砂礫含 (a)	内外面共に竹 [*] 行 [*] 。	12.8	11.0	小片。外面双付着。	R357
第131図5	4地点	SD02 北上層	器台	軟質	暗黄褐 ／ 暗橙	砂礫含 (a)	内外面共に竹 [*] 行 [*] 。	(15.4)	9.0	小片。	R358
第131図6	4地点	SD02 北上層	器台	軟質	黄褐 ／ 黄褐	砂礫含 (a)	外面竹後行 [*] 、内面指押さえ。	—	14.5	外面双付着。	R359
第131図7	4地点	SD02 北上層	甕	軟質	黄褐 ／ 暗黄褐	砂礫含 (d)	外面竹後行 [*] 。内面竹後行 [*] 。	18.2	8.0	小片。外面双付着。	R281
第131図8	4地点	SD02 北上層	甕	軟質	黄褐 ／ 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧な竹 [*] 行 [*] 。	24.2	4.0	小片。	R286
第131図9	4地点	SD02 北上層	甕	軟質	黄白 ／ 黄白	砂礫含 (a)	内外面共に竹後丁寧な竹 [*] 行 [*] 。	17.9	7.3	口縁部約1/8片。外面双付着。	R277
第131図10	4地点	SD02 北上層	甕	軟質	淡黄褐 ／ 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹後行 [*] 。	28.0	6.0	口縁部小片。	R283 R288
第131図11	4地点	SD02 北上層	甕	軟質	黄褐 ／ 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹後行 [*] 。	26.0	7.4	口縁部小片。黒斑有。口縁部内面双付着。	R285
第131図12	4地点	SD02 北上層	甕	軟質	黄褐 ／ 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹後行 [*] 。	23.1	10.3	小片・頸部に1条突帯有。	R352
第131図13	4地点	SD02 北上層	甕	軟質	黄白 ／ 黄白	砂礫含 (a)	内外面共に竹後丁寧な竹 [*] 行 [*] 。	22.9	8.2	小片。黒斑有。	R280
第131図14	4地点	SD02 北上層	甕	軟質	暗橙 ／ 淡黄褐	砂礫少 (a)	内外面ともに丁寧な竹 [*] 行 [*] 。	24.0	4.3	口縁部小片。口縁部刻目有。	R287
第131図15	4地点	SD02 北上層	甕	軟質	褐 ／ 黄白	砂礫含 (d)	内外面共に竹後行 [*] 。	23.8	13.0	口縁部約1/6片。外面双付着。	R284
第131図16	4地点	SD02 北上層	甕	軟質	褐 ／ 黄褐	砂礫少 (a)	内外面共に竹後行 [*] 。	25.9	7.4	小片。外面双付着。頸部の列点文有。	R278
第131図17	4地点	SD02 北上層	甕	軟質	橙 ／ 黄白	砂礫含 (d)	内外面共に竹後丁寧な竹 [*] 行 [*] 。	(5.3)	6.1	底部片。外面双付着。	R353
第131図18	4地点	SD02 北上層	甕	軟質	黄褐 ／ 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹後丁寧な竹 [*] 行 [*] 。	(6.0)	6.6	底部片。内面竹 [*] 付着。	R354
第131図19	4地点	SD02 北上層	甕	軟質	橙 ／ 黄白	砂礫含 (a)	外面丁寧な竹 [*] 行 [*] （磨滅している）、内面竹後行 [*] 。	(5.5)	9.0	底部片。	R355
第131図20	4地点	SD02 北上層	甕	軟質	橙 ／ 淡黄橙	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧な竹 [*] 行 [*] 。	12.2	5.6	口縁部小片。	R282
第131図21	4地点	SD02 北上層	壺	軟質	黄橙 ／ 黄橙	砂礫含 (a)	内外面共に竹後行 [*] 。	41.0	8.0	口縁部約1/8片。被熱？	R289
第131図22	4地点	SD02 北下層	高坏	軟質	黄白 ／ 黄白	砂礫少	内外面ともに丁寧な竹 [*] 行 [*] 。	21.6	3.8	小片。鉢の可能性もある。	R254
第131図23	4地点	SD02 北下層	高坏	軟質	暗橙 ／ 暗橙	砂礫含 (d)	内外面ともに竹後丁寧な竹 [*] 行 [*] 。	—	8.2	脚部のみ2/3残存。	R255
第131図24	4地点	SD02 北下層	甕	軟質	暗黄褐 ／ 暗黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹後行 [*] 。	26.0	8.2	小片。口縁部に双付着。	R253
第131図25	4地点	SD02 北下層	甕	軟質	黄白 ／ 黄白	砂礫含 (a)	内外面ともに竹後行 [*] 。	25.5	10.7	口縁部片。	R252 R279

第4表 篠原遺跡出土土器観察表

押図番号	出土地点		器形	焼成	色調 (内面/外面)	胎土	成形・整形手法等	寸法 口径 (底径)	残存 高	備考(種類・残存等)	実測図 番 号
第132図1	4地点	SD02 中央上層	器台	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに竹後ナ	11.3	11.8	上半部のみ残存。胴部に不規則多数の穿孔有。	R165
第132図2	4地点	SD02 中央上層	器台	軟質	橙 / 橙	砂礫多 (a)	外面竹後ナ、内面ナ	14.0	9.0	上半部約1/2残存。	R268
第132図3	4地点	SD02 中央上層	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹後ナ	27.8	5.2	頸部に列点文有。	R266
第132図4	4地点	SD02 中央上層	甕	軟質	暗黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹後ナ	24.0	6.5	口縁部約1/4片。口縁部刻目、頸部刻目突帯有。	R272
第132図5	4地点	SD02 中央上層	壺	軟質	褐 / 褐	砂礫少 (a)	竹後内外面ともに丁寧ナ	19.8	8.8	口縁部約1/5片。内面指押さえ痕有。	R267
第132図6	4地点	SD02 中央上層	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	ナ竹後・ナ	23.9	8.0	口縁部小片。外面双付着。	R275
第132図7	4地点	SD02 中央上層	甕	軟質	黒褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	ナ竹後	25.8	12.6	口縁部約1/5片。外面双付着。	R264
第132図8	4地点	SD02 中央上層	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫多 (d)	内外面共に竹後ナ	48.6	9.0	口縁部約1/6片。口縁部刻目有。	R269
第132図9	4地点	SD02 中央上層	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにナ	(11.2)	3.6	脚部のみ残存。やや粗い作り。	R273
第132図10	4地点	SD02 中央上層	甕	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫含 (a)	竹後内外面ともに丁寧ナ	(4.2)	4.0	底部約3/4残存。黒斑有。	R271
第132図11	4地点	SD02 中央上層	甕	軟質	暗黄褐 / 淡灰	砂礫含 (d)	内外面ともに竹後丁寧ナ	(9.0)	6.0	底部約1/2残存。	R270
第132図12	4地点	SD02 中央下層	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹、口縁部ナ	22.0	8.0	口縁部約1/6片。外面双付着。	R265
第132図13	4地点	SD02 中央下層	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹後ナ	15.0	6.0	口縁部約1/3片。頸部に刻目突帯、口縁部刻目有。	R262
第132図14	4地点	SD02 中央下層	甕	軟質	黒褐 / 暗黄褐	砂礫含 (a)	内外面竹後口縁部ナ	29.2	9.5	小片。外面双付着。	R263
第132図15	4地点	SD02	高坏	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	丁寧ナ(表面磨滅で詳細不明)	—	14.8	口縁部・脚端部を欠く。	R339
第132図16	4地点	SD02 中央上層	壺	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹後ナ	18.3	7.7	口縁部小片。口縁部外面に刻目有。	R274
第132図17	4地点	SD02 NO.2	器台 or 壺	軟質	赤褐 / 赤褐	砂礫多 (d)	内外面ともに竹後ナ	15.0	6.9	器台か半部の可能性有。	R338
第132図18	4地点	SD02 北	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫少 (a)	内外面ともに丁寧ナ	—	5.5	小片。外面双付着。	R307
第132図19	4地点	SD02 NO.2	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ナ	(5.7)	4.2	底部ほぼ残存。	R337
第132図20	4地点	SD02 No.1	甕	軟質	暗橙 / 暗黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともに竹後ナ	—	14.8	下半部残存。底部に黒斑有。	R340
第133図1	4地点	SD02 南上層	器台	軟質	暗橙 / 橙	砂礫含 (a)	外面竹後ナ、内面ナ	8.7	6.5	上半部のみ残存。	R343
第133図2	4地点	SD02 南上層	器台	軟質	黄橙 / 淡赤褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹後ナ	11.8	11.2	上半部の小片。	R345
第133図3	4地点	SD02 南上層	高坏	軟質	黄橙 / 黄橙	砂礫含 (a)	内外面ともに竹後丁寧ナ	32.0	4.5	坏部小片。	R261
第133図4	4地点	SD02 南上層	高坏	軟質	黄白 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ナ	12.0	8.0	脚部のみ完形残存。	R341
第133図5	4地点	SD02 南上層	高坏	軟質	黄橙 / 黄橙	砂礫含 (a)	内外面共に竹後ナ	—	14.0	脚部のみ残存。穿孔3箇所。	R350
第133図6	4地点	SD02 南上層	壺	軟質	黄白 / 黄白	砂礫多 (a)	内外面共に竹後ナ	—	8.5	頸部に刻目突帯有。	R308
第133図7	4地点	SD02 南上層	壺	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	竹後内外面ともに丁寧ナ	21.0	5.5	口縁部小片。	R256
第133図8	4地点	SD02 南上層	鉢	軟質	黄白 / 黄白	砂礫含 (a)	内外面竹後ナ	14.3	7.0	小片。	R260
第133図9	4地点	SD02 南上層	鉢	軟質	黄白 / 黄白	砂礫少	内外面ともに丁寧ナ	16.5	7.7	外面双・黒斑有。	R349
第133図10	4地点	SD02 南上層	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹後ナ	24.0	7.3	口縁部小片。外面双付着。	R257
第133図11	4地点	SD02 南上層	甕	軟質	赤褐 / 暗黄褐	砂礫少	外面竹、内面丁寧ナ	27.4	9.7	口縁部小片。	R344 R368
第133図12	4地点	SD02 南上層	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともに竹、口縁部ナ	27.0	15.3	口縁部約1/5残存。	R259
第133図13	4地点	SD02 南上層	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫多 (a)	ナ竹後ナ	28.0	8.6	口縁部約1/8片。口縁部刻目有。	R258
第133図14	4地点	SD02 南上層	甕	軟質	黄褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに竹後丁寧ナ	(8.6)	4.0	黒斑有。	R346
第133図15	4地点	SD02 南上層	甕	軟質	暗橙 / 橙	砂礫多 (a)	内外面ともに竹後ナ	(11.1)	9.7	脚部片。外面双付着。	R342
第133図16	4地点	SD02 南上層	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	竹後内外面ともに丁寧ナ	—	4.2	底部片。外面に双付着。	R347
第133図17	4地点	SD02 南上層	甕	軟質	暗黄褐 / 黒褐	砂礫多 (a)	外面竹、胴部内面ナリ、口縁部ナ ナ工具ナ、内面竹後ナ	—	6.7	底部片。外面に双付着。	R348
第133図18	4地点	SD02 南下層	甕	軟質	橙 / 黄橙	砂礫含 (a)	ナ竹後・ナ。内面は摩耗。	—	8.9	底部片。外面に双付着。	R292
第134図1	4地点	SD02 南下層	高坏	軟質	黄白 / 黄白	砂礫含 (d)	内外面ともに丁寧ナ	30.0	3.6	坏部約1/5片。134図2と同一個体か。	R361
第134図2	4地点	SD02 南下層	高坏	軟質	黄白 / 黄白	砂礫含 (d)	内外面ともに丁寧ナ	—	11.0	脚柱部片。134図1と同一個体か。	R370
第134図3	4地点	SD02 南下層	鉢	軟質	淡赤褐 / 淡赤褐	砂礫少 (a)	内外面共に竹後ナ	13.8	5.5	小片。外面やや摩耗。	R363
第134図4	4地点	SD02 南下層	鉢	軟質	黄褐 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ナ	—	4.0	口縁部小片。	R369
第134図5	4地点	SD02 南下層	鉢	軟質	暗黄褐 / 黒褐	砂礫含 (a)	内外面ともにナ	17.6	6.3	口縁部小片。外面双付着。	R362
第134図6	4地点	SD02 南下層	器台	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面竹後ナ	15.0	5.7	下半部約1/3残存。	R374
第134図7	4地点	SD02 南下層	器台	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	外面竹後ナ、内面ナ	(13.5)	7.5	下半部約1/3残存。	R375
第134図8	4地点	SD02 南下層	器台	軟質	黄橙 / 暗黄褐	砂礫含 (a)	竹後丁寧ナ	(9.8)	7.1	ほぼ完形残存。香形器台で1箇所突起部分有。	R373
第134図9	4地点	SD02 南下層	壺	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫少	内外面ともに丁寧ナ	17.8	3.3	口縁部小片。	R367
第134図10	4地点	SD02 南下層	壺	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に竹後ナ	16.0	7.8	口縁部小片。やや作り粗い。	R290

第4表 篠原遺跡出土土器観察表

押図番号	出土地点		器形	焼成	色調 (内面/外面)	胎土	成形・整形手法等	寸法 口径 (底径)	残存 高	備考 (種類・残存等)	実測図 番 号
第 134 図 11	4 地点	SD02 南下層	壺	軟質	黄白 / 黄白	砂礫含	内外面共にワ後ナナ。	17.8	7.0	口縁部小片。	R366
第 134 図 12	4 地点	SD02 南下層	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面ともにワ後ナナ。	35.2	7.0	口縁部約 1/4 残存。	R372
第 134 図 13	4 地点	SD02 南下層	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共にワ後ナナ。	30.0	6.0	口縁部小片。	R293
第 134 図 14	4 地点	SD02 南下層	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫少 (a)	内外面共にワ後ナナ。	—	7.0	口縁部小片。	R291
第 134 図 15	4 地点	SD02 南下層	甕	軟質	橙 / 淡橙	砂礫少 (a)	(摩耗のため調整の詳細不明。)	—	5.0	口縁部小片。	R364
第 134 図 16	4 地点	SD02 南下層	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫少	内外面ともに丁寧なナナ。	—	7.3	口縁部小片。	R365
第 134 図 17	4 地点	SD02 南下層	甕	軟質	赤褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にワ後ナナ。	(5.2)	11.0	底部約 1/3 片。外面被熱により赤化。	R360
第 134 図 18	4 地点	SD02 南下層	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧なナナ。	44.9	8.0	口縁部 1/6 片。頸部に突帯 1 条。	R371
第 135 図 1	3 地点	SD03	器台	軟質	暗黄褐 / 暗黄褐	砂礫多 (a)	内外面ともに丁寧なナナ。	12.6	13.6	上半部残存。	R236
第 136 図 1	4 地点	SD02	甕	軟質	黄橙 / 黄橙	砂礫多 (a)	ワ後ワナ・ナナ。	61.4	22.6	口縁部片。頸部に突帯 1 条貼付。	R166
第 136 図 2	4 地点	SD02	甕	軟質	黄橙 / 黄褐	砂礫多 (a)	ワ後ワナ・ナナ。	—	16.7	胴部片。突帯 1 条貼付。	R351
第 136 図 3	4 地点	SD02	甕	軟質	黄橙 / 黄橙	砂礫多 (a)	ワ後ワナ・ナナ。	—	30.0	胴部片。頸部に突帯 1 条貼付。	R351
第 146 図 1	4 地点	SB54	鉢	軟質	黒褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にワ後ナナ。	17.2 (5.8)	6.9	底部小片。外面に付着。内面丹塗か。	R379
第 146 図 2	4 地点	SB54	甕	軟質	暗黄褐 / 淡橙	砂礫多 (a)	外面ワ、内面ナナ。	(6.6)	12.0	下半部残存。	R420
第 146 図 3	4 地点	SB55	甕	軟質	橙 / 暗橙	砂礫含 (a)	内外面共にワ後丁寧なナナ。	17.6	5.7	小片。内面コナ付着。	R380
第 146 図 4	4 地点	SB55	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にワ後ナナ。	7.0	6.4	底部約 1/2 残存。ス・コナ付着。	R383
第 146 図 5	4 地点	SB55	鉢	軟質	黄褐 / 黒褐	砂礫含 (a)	内外面共にワ後丁寧なナナ。	5.8 (4.8)	6.0	下半部約 1/2 残存。	R382
第 146 図 6	4 地点	SB55	甕 (帳?)	軟質	橙 / 橙	砂礫多 (a)	内外面共にワ後丁寧なナナ。	(7.8)	3.2	底部約 1/3 残存。底部に焼成後穿孔有。	R384
第 146 図 7	4 地点	SB57	甕	軟質	淡赤褐 / 淡赤褐	砂礫多 (a)	内外面共にワ後ナナ。	7.0	4.2	底部約 1/4 片。内面コナ付着。被熱による赤化著しい。	R381
第 146 図 9	4 地点	SB58	壺	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に丁寧なナナ。	13.8	7.2	口縁部小片。二重口縁壺。	R386
第 146 図 10	4 地点	SB58	壺	軟質	淡橙 / 暗黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にワ後丁寧なナナ。	—	6.2	胴部小片。頸部に突帯 3 条と竹管文あり。	R385
第 146 図 11	4 地点	SB59	鉢	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に丁寧なナナ。	—	6.3	下半部約 1/2 残存。	R389
第 146 図 12	4 地点	SB59	鉢	軟質	橙 / 淡黄褐	砂礫少 (a)	内外面共に丁寧なナナ。	8.2	4.3	小片。外面わずかに付着。	R387
第 146 図 13	4 地点	SB59	甕	軟質	淡赤褐 / 黒褐	砂礫多 (a)	内外面共にワ後ナナ。	6.7	6.4	外面ス、被熱による赤化著しい。	R388
第 146 図 14	4 地点	SB63	鉢	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にワ後ナナ。	17.8	5.4	底部小片。黒斑有。	R397
第 146 図 15	4 地点	SB63	高坏	軟質	黄白 / 黄白	砂礫含 (a)	内外面共にワ後丁寧なナナ。	13.8	7/0	脚部約 1/4 残存。坏—脚接合部に軸心痕有。底部穿孔 4 箇所。	R398
第 146 図 16	4 地点	SB63	壺	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にワ後ナナ。	—	6.2	口縁部小片。	R396
第 146 図 17	4 地点	SB63	壺	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面共にワ後ナナ。	13.0	6.7	口縁部約 1/4 残存。	R390
第 146 図 18	4 地点	SB63	高坏	軟質	淡黄橙 / 淡橙	砂礫少 (a)	内外面共に丁寧なナナ。	—	3.0	小片。	R395
第 146 図 19	4 地点	SB63	甕	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面共にワ後丁寧なナナ。	—	4.4	小片。鉢の可能性もある。	R394
第 146 図 20	4 地点	SB63	甕	軟質	暗黄褐 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面共にワ後コナナ。	—	4.6	口縁部小片。	R392
第 146 図 21	4 地点	SB63	甕	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	ワ後ワナ・ナナ。内面ワ。	18.8	4.7	口縁部約 1/4 残存。	R391
第 146 図 22	4 地点	SB63	甕	軟質	淡1黄褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	ワ後ワナ・ナナ。	21.6	6.0	小片。口縁部刻目有。	R393
第 146 図 23	4 地点	SB64	甕	軟質	淡黄褐 / 黄白	砂礫含 (a)	内外面共にワ後ナナ。	—	4.8	小片。	R399
第 146 図 24	4 地点	SB65	甕	軟質	褐 / 暗橙	砂礫含 (a)	内外面共にワ後ナナ。	(9.0)	4.4	底部約 1/4 片。	R401
第 146 図 25	4 地点	SB65	壺	軟質	黄褐 / 暗黄褐	砂礫多 (a)	外面ワ後ワナ。	(3.5)	11.0	わずかに平底。	R421
第 146 図 26	4 地点	SB65	高坏	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにワ後ナナ。	14.5	6.6	脚部約 1/3 残存。	R402
第 146 図 27	4 地点	SB65	鉢	軟質	黄褐 / 淡黄橙	砂礫含 (a)	外面ワ、内面ナナ。口縁部コナナ。	19.8	8.0	約 1/4 片。	R400
第 146 図 28	4 地点	SB67	高坏?	軟質	橙 / 橙	砂礫少	内外面共にワ後丁寧なナナ。	—	9.8	約 1/2 残存。	R411
第 146 図 29	4 地点	SB67	壺	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面共にワ後丁寧なナナ。	20.8	6.0	口縁部約 1/3 残存。。	R410
第 146 図 30	4 地点	SB67	鉢	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共にワ後丁寧なナナ。	—	5.5	小片。	R408
第 146 図 31	4 地点	SB67	甕	軟質	淡黄褐 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共にワ後ナナ。	8.6	4.6	底部ほぼ完形残存。胴部外面に薄くス付着。	R409
第 146 図 32	4 地点	SB66	鉢	軟質	淡黄褐 / 淡黄橙	砂礫少 (a)	内外面共に丁寧なナナ。	10.0	4.0	約 1/2 残存。	R405
第 146 図 33	4 地点	SB66	鉢	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にワ後丁寧なナナ。	10.9	7.0	ほぼ完形残存。	R406
第 146 図 34	4 地点	SB66	高坏	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫少 (a)	内外面共にワ後丁寧なナナ。	—	7.7	脚部 4 箇所穿孔。坏—脚接合部に突帯有。黒斑有。	R407
第 146 図 35	4 地点	SB66	甕	軟質	淡黄橙 / 黄白	砂礫含 (a)	内外面共にワ後ナナ。	23.0	4.5	底部約 1/5 残存。	R404
第 146 図 36	4 地点	SB66	甕	軟質	暗橙 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面共にワ後ナナ。	5.0	7.2	小片。口縁部内面にス付着。	R403
第 147 図 1	4 地点	SB68・69	鉢	軟質	黄橙 / 黄橙	砂礫含 (a)	内外面ともにワ後ナナ。	7.6	4.3	小片。	R429

第4表 篠原遺跡出土土器観察表

押図番号	出土地点		器形	焼成	色調 (内面/外面)	胎土	成形・整形手法等	寸法 口径 (底径)	残存 高	備考 (種類・残存等)	実測図 番 号
第147図2	4地点	SB68・69	鉢	軟質	黄褐 / 黒褐	砂礫含 (a)	内外面ともにナナ	12.0	5.3	小片。	R434
第147図3	4地点	SB68・69	甕	軟質	黒褐 / 黒褐	砂礫多 (d)	内外面共にナ後ナ。口縁部コナナ	17.8	5.5	小片。外面にナ付着。	R432
第147図4	4地点	SB68・69	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にナ後ナ。口縁部コナナ	17.8	6.5	小片。	R433
第147図5	4地点	SB68・69	甕	軟質	暗黄褐 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共にナ後ナ。口縁部コナナ	14.8	4.2	小片。外面にナ付着。	R428
第147図6	4地点	SB68・69	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	ナナ後ナ・ナナ	15.0	6.7	口縁部約 1/5 残存。	R431
第147図7	4地点	SB68・69	器台	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	ナ後ナ丁寧ナナ	10.2	6.5	下半部約 1/2 残存。	R435
第147図8	4地点	SB69	鉢	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫多 (a)	内外面共にナ後ナ。口縁部コナナ	24.3 (8.6)	13.0	約 2/3 残存。	R436
第147図9	4地点	SB68	甕	軟質	黄白 / 黄白	砂礫含 (a)	内外面ともにナ後ナ	24.0	12.0	小片。外面にナ付着。	R422
第147図10	4地点	SB68	甕	軟質	淡黄橙 / 淡黄橙	砂礫多 (a)	内外面共にナ後ナ	8.4	6.1	底部約 4/5 残存。底部外面にナ、内面にコナナ付着。	R412
第147図11	4地点	SB68	甕	軟質	黄褐 / 黒褐	砂礫多 (a)	内外面ともにナ後ナ	8.3	6.2	底部はほぼ完形残存。外面全面にナ付着。	R430
第147図12	4地点	SB69内 SK	器台	軟質	暗黄褐 / 淡黄褐色	砂礫多 (a)	内外面ともにナ後ナ	11.6	10.0	上半部小片。外面にナ付着。	R437
第147図13	4地点	SB69内 SK	器台	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともにナ	(14.4)	8.0	下部約 1/2 残存。外面一部にナ付着。	R438
第147図14	4地点	SB69内 SK	甕	軟質	暗黄褐 / 淡黒褐	砂礫含 (a)	内外面共にナ。口縁部コナナ	20.0	18.5	約 1/5 残存。外面にナ多量付着。	R439
第148図1	4地点	SB71	鉢	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫少 (a)	内外面ともに丁寧ナナ	—	4.0	口縁部を欠く。	R423
第148図2	4地点	SB72	高坏	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面ともにナ後ナ	(20.2)	7.0	脚部小片。穿孔有。	R426
第148図3	4地点	SB72	甕	軟質	暗橙 / 暗橙	砂礫少 (a)	内外面ともにナ後ナ	19.8	4.9	極小片。	R425
第148図4	4地点	SB72	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面ともにナ後ナ	(2.6)	3.0	ミニチュア土器。下半部約 1/2 残存。	R424
第149図1	4地点	SB75	甕	軟質	赤褐 / 黒褐	砂礫多 (a)	内外面ナ後底部外面工具ナ	13.8 (7.8)	19.8	底部約 2/3 を欠く。	R427
第154図1	4地点	SB78	高坏	軟質	淡赤褐 / 黒褐	砂礫含 (a)	内外面共にナ	—	2.6	小片。内面からの庄瀬以前穿孔有。	R417
第154図2	4地点	SB78	壺	軟質	黄白 / 黄白	砂礫含 (a)	内外面共にナ後ナ	18.0	6.4	小片。二重口縁壺。	R415
第154図3	4地点	SB78	甕	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にナ後ナ	—	9.2	小片。外面にナ付着。	R414
第154図4	4地点	SB78	甕	軟質	淡橙 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にナ後ナ	29.4	14.9	約 1/5 残存。外面被熱により赤化。	R416
第154図5	4地点	SB78	甕	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にナ後ナ	(5.6)	5.4	底部約 1/2 残存。	R377
第154図6	4地点	SB78	甕	軟質	赤褐 / 淡赤褐	砂礫多 (a)	内外面共にナ後丁寧ナナ	(5.8)	8.6	底部小片。被熱痕有。	R378
第154図7	4地点	SB78	甕	軟質	淡黄褐 / 黄白	砂礫含 (a)	内外面共にナ後ナ	(9.4)	5.8	底部約 1/2 片。外面にナ付着。	R413
第155図1	4地点	SB80	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にナ後ナ	25.8	8.7	小片。外面にナ付着。	R418
第155図2	4地点	SB80	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫多 (a)	内外面共にナ後ナ	27.4	8.6	小片。外面にナ付着。	R419
第159図1	4地点	SX03	鉢	軟質	黄褐 / 黒褐	砂礫多 (a)	外面ナ後ナ、内面ナ後ナ 内面ナ	9.2 (6.7)	15.4	約 1/2 残存。胴部に突帯 4 条。	R238
第159図2	4地点	SX04	鉢	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にナ後ナ	16.0 (5.9)	10.9	約 1/4 残存。黒斑有。	R317
第159図3	4地点	SX04	甕	軟質	黄褐色 / 黄褐色	砂礫多 (a)	内外面共にナ後ナ	(11.3)	5.2	底部片。	R237
第159図4	4地点	SX05	甕	軟質	淡黄褐 / 淡黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ナナ	13.6	16.5	約 4/5 残存。	R451
第160図1	3地点	SK07	甕	軟質	黄褐 / 黄褐色	砂礫含 (a)	ナ後丁寧ナナ	30.2	5.8	小片。	R302
第160図2	3地点	SK13	甕	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ナナ	30.0	5.8	小片。	R247
第160図3	3地点	SK09	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	ナ後ナ	—	6.1	小片。	R333
第160図4	3地点	SK09	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	ナナ後ナ・ナナ	—	4.6	小片。	R334
第160図5	3地点	SK16	甕	軟質	黄白 / 黄白	砂礫少 (a)	内外面ともにナ後ナ	11.0	5.2	約 1/2 残存。	R331
第160図6	3地点	SK20	高坏	軟質	淡橙 / 淡橙	精良	ナ後丁寧ナナ	—	5.8	坏部下半～脚部僅半残存。	R250
第160図7	3地点	SK20	壺	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にナ後ナ	18.1	8.3	口縁部ほぼ完形で残存。	R251
第160図8	3地点	SK15	甕	軟質	橙 / 黄橙	砂礫含 (a)	外面ナ、内面ナ	39.2	3.0	小片。	R249
第160図9	3地点	SK15	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	外面ナ、内面ナ	—	2.4	小片。	R304
第160図10	3地点	SK15	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共にナ後ナ	(7.6)	5.4	底部約 1/2 残存。	R303
第160図11	3地点	SK15	甕	軟質	淡赤褐 / 黒褐	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ナナ	(9.0)	5.3	底部約 1/2 残存。外面被熱により赤化。	R305
第160図12	4地点	SK21	鉢	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ナナ	8.5	4.8	上半残存。壺口縁部の可能性もある。	R332
第160図13	3地点	SK21	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にナ後ナ。内面ナナ	11.7	7.9	約 1/6 残存。	R246
第160図14	3地点	SK21	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共にナ後ナ	23.4	6.1	小片。	R306
第161図1	2地点	SK02	甕	軟質	橙 / 橙	精良	回転ナ 後回転ナ切り	27.1	5.7	底部約 1/2 残存。	R248
第162図1	2地点	SK30	坏	軟質	橙 / 橙	精良	回転ナ 後底部回転ナ切り、ナナ	(7.8)	1.3	底部のみ約 1/2 片。	R13
第163図1	3地点	SK05	高坏	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共に丁寧ナナ	25.8	6.3	坏部のみ約 5/6 残存。丹塗り。	R335

第4表 篠原遺跡出土土器観察表

挿図番号	出土地点		器形	焼成	色調 (内面/外面)	胎土	成形・整形手法等	寸法 口径 (底径)	残存 高	備考 (種類・残存等)	実測図 番 号
第163図2	3地点	SK05	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に叩後ナゲ。	33.4	3.4	小片。胴部に突帯有。丹塗り。	R245
第163図3	3地点	SK05	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共に叩後ナゲ。	29.0	3.1	小片。黒斑有。	R225
第163図4	3地点	SK05	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共に叩後ナゲ。	18.2	6.7	口縁部約1/5残存。	R244
第163図5	3地点	SK05	甕	軟質	黒褐 / 橙	砂礫含 (a)	内外面共に叩後丁寧ナゲ。	(6・0)	3.3	底部約3/4残存。	R301
第163図6	3地点	SK05	甕	軟質	橙 / 暗黄白	砂礫含 (a)	外面ナゲ、内面ナゲ。	(9.4)	6.9	底部約1/2残存。外面双付着。	R226
第164図1	3地点	P4	壺	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに叩後ナゲ。	23.8	4.8	小片。口縁端部と二重口縁部に刻目有。	R327
第164図2	4地点	P32	鉢	軟質	黒褐 / 暗黄褐	砂礫含 (a)	内外面共に叩。	27.8	7.4	小片。外面黒斑有。	R446
第164図3	4地点	P26	高坏	軟質	橙 / 橙	精良	丁寧ナゲ後ミギ。	19.0	5.2	坏部小片。	R441
第164図4	4地点	P28	鉢	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	内外面ともに叩。外面摩耗。	—	8.2	小片。	R444
第164図5	4地点	P32	甕	軟質	黄褐 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに粗い叩後ナゲ。	—	7.1	小片。外面双付着。	R443
第164図6	4地点	P30	甕	軟質	灰白 / 灰白	砂礫含 (a)	内外面共に叩後ナゲ。	—	4.4	小片。	R445
第164図7	4地点	P30	甕	軟質	橙 / 黒褐	砂礫含 (a)	内外面共に叩後ナゲ。	19.8	12.3	約1/6残存。胴部に突帯1条有。	R442
第164図8	4地点	P25	高坏	軟質	黄白 / 黄褐	砂礫含 (a)	内外面ともに丁寧ナゲ。	33.8	4.0	坏部小片。	R440
第165図1	4地点	西側 黒土	鉢	軟質	淡橙 / 淡橙	砂礫含 (a)	叩後丁寧ナゲ。底部外面は工具 によるケズリ状調整。	15.8	5.2	小片。	R450
第165図2	4地点	西側 黒土	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	叩後丁寧ナゲ。	—	7.1	小片。	R449
第165図3	4地点	西側 黒土	鉢?	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	叩後丁寧ナゲ。	—	5.5	小片。	R448
第165図4	4地点	西側 黒土	甕	軟質	橙 / 橙	砂礫含 (a)	叩後丁寧ナゲ。	15.8	5.7	小片。	R447

※ 胎土欄の記号は、含まれる砂礫の一部に着目したものであり、下記の通りである。

- a：片岩+白濁礫の礫（矢部川流域に特徴的な胎土） b：角閃石+石英多数（片岩が確認できないもの）
c：角閃石+長石が多く入る砂礫構成、d：角閃石+スコリア状白色砂粒（凝灰岩?）が多く入る砂礫構成。

第5図 篠原遺跡出土石器・石製品観察表

挿図番号	出土地点	種類	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	残存度	備 考	実測図 番 号
第63図 1	1地点 SB04	石鍋	8.9	6.8	1.5	小片	滑石製石鍋片。	H26- 1
第79図 2	3地点 SB17	砥石	25.6	12.9	9.9	破片	表面は使用によりつつるしている。	R3
第146図 8	4地点 SB57	砥石	14.2	10.1	6.8	小片	表面は使用によりつつるしており、破損も著しい。	R1
第148図 5	4地点 SB72	砥石	18.8	12	6.8	破片	表面は使用によりつつるしており、図側面はかなり摩耗している。	R2

D まとめ

本報告では、八女南部地区圃場整備事業に伴い実施された発掘調査のうち、大坪遺跡2次調査と篠原遺跡（1地点～4地点）の調査に関し報告した。

大坪遺跡2次調査では、弥生時代の集落跡・墓域、平安時代の集落跡が発見された他、縄文時代早期の集石遺構や大量の押型文土器等の遺物が発見された。大坪遺跡2次調査の中で特筆される点は、何よりこの押型文土器の大量出土である。縄文時代早期の遺構・遺物については一部の調査のみで様相はいまだ不明な点も多いが、未調査のまま現地保存されている内容も考慮すると、かなり大規模なキャンプ・サイトである可能性が非常に高い。概報の通り、未調査部分まで含めると埋蔵されている土器片だけでも数千点は存在するのではないかとと思われる。恐らく、農耕開始前の狩猟・採集に生業基盤を置く人々が、越冬準備等のために定期的に戻ってくる場所のひとつが、この大坪遺跡周辺であろう、ということが判明した調査成果であると思う。今後の調査により八女市の縄文時代早期の様相がより明らかになることが期待されるとともに、今後当該地での開発等に際しては、これら保存されている遺構・遺物に対し十分な注意が必要である。

大坪遺跡周辺は、現在は農地が広がるのどかな地区であるが、縄文時代や弥生時代には相当な人々が集い生活する、八女市でも有数の集落が形成されていた景観が想起される。

篠原遺跡では、弥生時代後期を中心として、弥生時代中期後半～古墳時代前期の期間の集落跡に伴う遺構・遺物が多数発見され、当該期における主要集落のひとつであると考えられる。中には南筑後地域では見られない形の土器等も存在し、弥生時代の八女地域と他地域との交流の様相を考えるうえでも重要な発見であると思われる。また、古代や中世の遺物も発見されており、篠原遺跡調査地点では断続的ではあるが継続的に人々が生活していた場所である状況も確認された。

本報告では可能な限り遺構等の調査成果を掲載し、遺物に関しても可能な限り掲載をした。今後、八女南部地区圃場整備事業関連発掘調査に関して整理作業を行い、報告書を刊行していく予定であるが、本報告以外の遺跡でも、特に弥生時代・古墳時代・古代に関しては多くの遺構・遺物が相当数発見されており、その概略は既刊の概報からも窺えるが、現段階では詳細が不明瞭である。今後、整理作業をすすめ、これら調査成果を公表し総括することにより、旧八女市南西部の各時代の様相がかなり明らかとなることが期待される。作業に当たっては、上記のことを念頭に整理作業をすすめ、調査成果の公表とともに、八女地域の歴史の復元に一歩でも貢献できるよう、作業を進めていきたい。

図 版

PLATES

PL 1 (大坪 2 次)



1. 大坪 2 次調査区遠景 (東より)



2. 大坪 2 次調査区全体 (上空より)



3. 大坪 2 次調査区東半部 (上空より)



4. 大坪 2 次調査区西半部 (上空より)



5. 大坪 2 次 SB37 (東より)



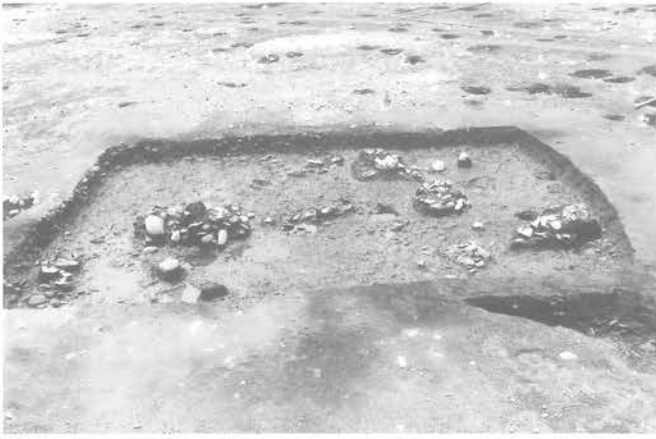
6. 大坪 2 次 SB41・42 (南より)



7. 大坪 2 次 SB41 (北東より)



8. 大坪 2 次 SB42 (南東より)



9. 大坪 2 次 SB43 (西より)



10. 大坪 2 次 SB43 (南西より)



11. 大坪 2 次 SB44 (北西より)



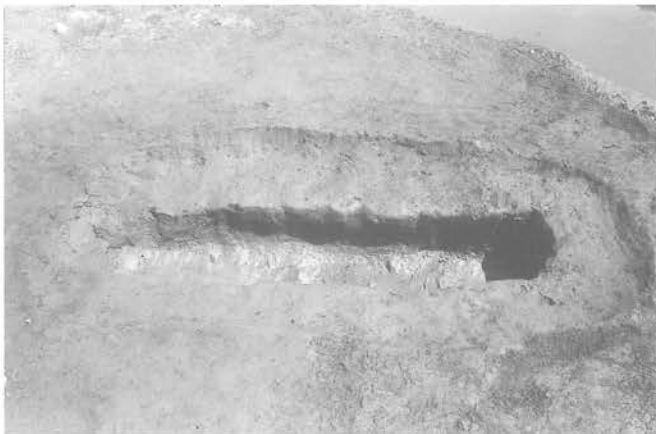
12. 大坪 2 次 SB45・46 (南東より)



13. 大坪 2 次 SB49 (南より)



14. 大坪 2 次 SX04 (西より)



15. 大坪 2 次 SX06 (北より)



16. 大坪 2 次 SX07 (西より)

PL 3 (大坪 2 次)



17. 大坪 2 次 SD17・18 (南西より)



18. 大坪 2 次 SD26 ()



19. 大坪 2 次 SB50 (南より)



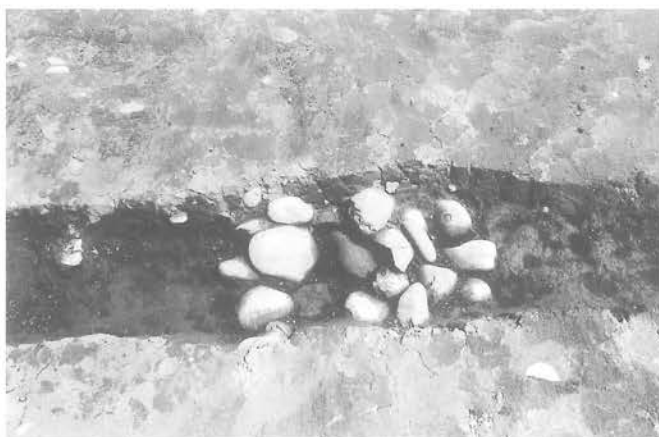
20. 大坪 2 次 SB51 (南より)



21. 大坪 2 次縄文掘下部 (下が北)



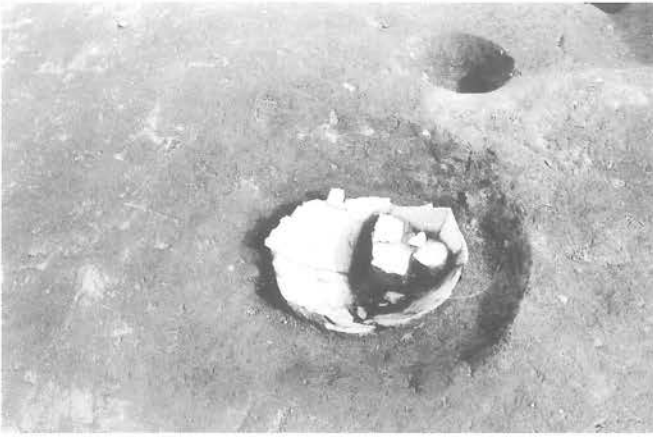
22. 大坪 2 次縄文集石遺構



23. 大坪 2 次縄文集石遺構



24. 大坪 2 次 SE01



25. 篠原 1 地点 K-1 (東より)



26. 篠原 2 地点遠景 (西より)



27. 篠原 2 地点 SD01 (東より)



28. 篠原 2 地点 SB02 (北より)



29. 篠原 3 地点全景 (東より)



30. 篠原 3 地点東側遠景 (西より)



31. 篠原 3 地点 SD02 (南より)



32. 篠原 3 地点 SD02 (北東より)

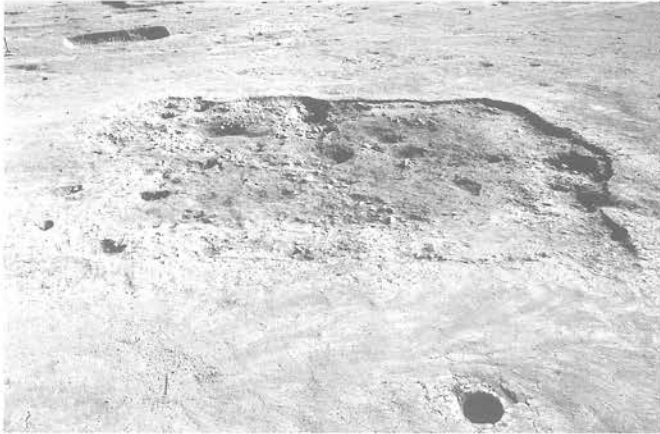
PL 5 (篠原)



33. 篠原 3 地点 SB08 (南西より)



34. 篠原 3 地点遠景 (西より)



35. 篠原 3 地点 SB09 (北より)



36. 篠原 3 地点 SB12 (北より)



37. 篠原 3 地点 SB13 (北より)



38. 篠原 3 地点 SB17 (北より)



39. 篠原 3 地点 SB19 (東より)



40. 篠原 3 地点 SB23 付近 (西より)



41. 篠原 3 地点 SB24 付近 (東より)



42. 篠原 3 地点 SB29 (北東より)



43. 篠原 3 地点 SB32・33・51 (北より)



44. 篠原 3 地点 SB35 (北より)



45. 篠原 3 地点 SB35 (東より)



46. 篠原 3 地点 SB35・36 (南東より)

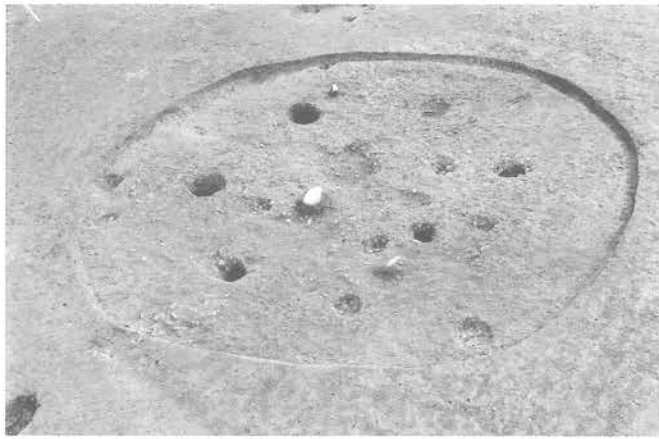


47. 篠原 3 地点 SB36・SK21 (西より)

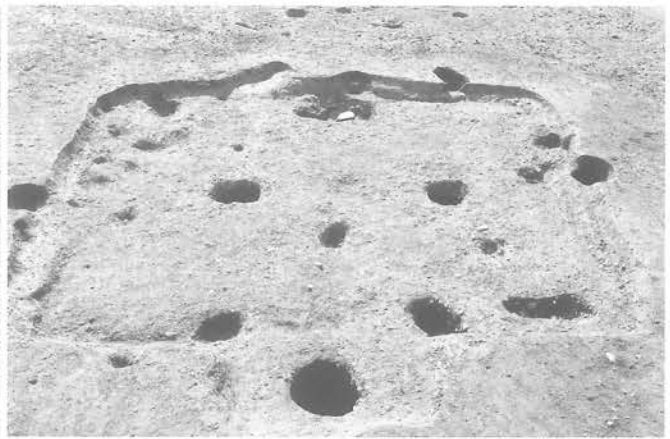


48. 篠原 3 地点 SB37 (南より)

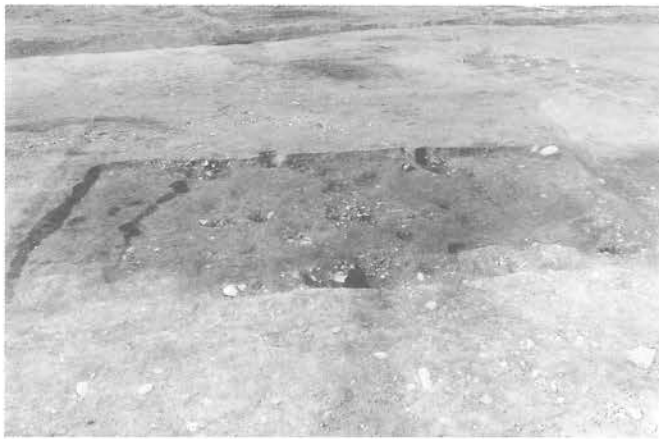
PL 7 (篠原)



49. 篠原 3 地点 SB39 (北より)



50. 篠原 3 地点 SB38 (北東より)



51. 篠原 3 地点 SB46 (南東より)



52. 篠原 3 地点 SB49 付近 (南より)



53. 篠原 3 地点 SB50 付近 (西より)



54. 篠原 3 地点 SB47 付近 (南東より)



55. 篠原 3 地点 SX01・SK05 (西より)



56. 篠原 3 地点 SX02・SB14・15 (南西より)



57. 篠原 3 地点 SX04 (北より)



58. 篠原 4 地点全景 (北より)



59. 篠原 4 地点全景 (北より)



60. 篠原 4 地点全景 (南より)



61. 篠原 4 地点 SB78 ・ SD02 (北より)



62. 篠原 4 地点 SD02 土層 (南より)

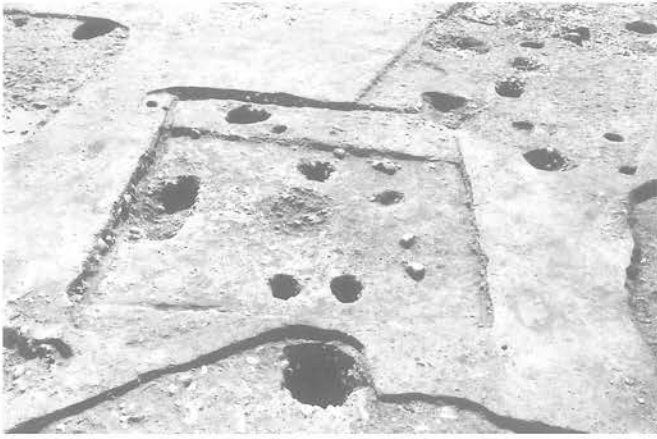


63. 篠原 4 地点 SB54 ・ 55 (北より)



64. 篠原 4 地点 SB54 ・ 55 (西より)

PL 9 (篠原)



65. 篠原 4 地点 SB65 (南西より)



66. 篠原 4 地点遠景 (東より)



67. 篠原 4 地点 SB70 ~ 76 付近 (北西より)



68. 篠原 4 地点 SB78 (東より)



69. 篠原 4 地点 SB80・SX05 (南東より)



70. 篠原 4 地点 SX05 (北西より)

報 告 書 抄 録

ふ り が な	やめしないいせきぐん6							
書 名	八女市内遺跡群6							
副 書 名	福岡県八女市国武所在遺跡の発掘調査報告書（大坪遺跡2次調査・篠原遺跡）							
巻 次								
シ リ ー ズ 名	八女市文化財調査報告書							
シ リ ー ズ 号	第109集							
編 著 者 名	檀 佳克（だん よしかつ）							
編 集 機 関	八女市教育委員会							
所 在 地	〒834-8585 福岡県八女市本町6 4 7 TEL. 0943-23-1982 FAX. 0943-24-4331							
発 行 年 月 日	西暦 2015年3月31日							
ふ り が な 所 収 遺 跡 名	ふ り が な 所 在 地	コード		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
大坪遺跡2次調査 篠原遺跡1地点 篠原遺跡2地点 篠原遺跡3地点 篠原遺跡4地点	ふくおかけん や め し 福岡県八女市	402109	7003	33° 11'56"	130° 32'34"	20050214 ～	(大坪2次) 約6,000㎡	圃場整備 事業
	くにたけ あざ おおつぼ 国武字大坪		7001-1	33° 12'11"	130° 32'30"	20050610	(篠原遺跡)	
	くにたけ あざ しのほら 国武字篠原		7001-2	33° 12'14"	130° 32'30"		10,600㎡	
			7001-3	33° 12'13"	130° 32'26"			
			7001-4	33° 12'11"	130° 32'29"			
所収遺跡	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
大坪遺跡2次調査	集 落 跡	縄文時代早期・ 弥生時代 奈良・平安時代		集石遺構・ 竪穴建物・掘立柱建物 溝・井戸・土坑 等		押型文土器・弥生式 土器・土師器・須恵 器・鉄器・砥石 等		
篠原遺跡 (1・2・3・4地点)	集 落 跡	弥生時代 ・平安時代 ・中世		竪穴建物・掘立柱建物 甕棺・円形周溝・土坑 等		弥生式土器・土師器・ 須恵器・石器 等		
要 約	八女南部地区圃場整備事業に伴い発掘調査された遺跡のうち、大坪遺跡2次調査と篠原遺跡1地点～4地点に関する報告である。 大坪遺跡2次調査では、弥生時代後期および古代（平安時代）の集落跡、中世の井戸等が検出された他、縄文時代早期の集石遺構・押型文土器が大量に発見された。縄文時代早期については一部の調査にとどめ現地保存されている。 篠原遺跡では、弥生時代後期の集落跡を中心に、弥生時代中期～古墳時代前期・古代（平安時代）・中世（鎌倉時代）の遺構・遺物が多数発見されている。特に弥生時代後期の集落跡は八女市でも有数の規模のものであると思われる。							

※座標は世界測地系による。国土地理院ホームページの地図検索システムより得たものであり、基準点測量によって得た値ではない。

八女市内遺跡群6
八女市文化財調査報告書
第109集

平成27年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647
印刷 (株) 東兄弟
八女市祈祷院563

『八女市内遺跡群6』八女市文化財調査報告書第109集 正誤表

下記のとおり、訂正します。

頁	行	誤	正
8	6行目	SB43は前述の・・・	SB42は前述の・・・
20	下から2行目	SK42・43・44	SK40・42・43
20	下から1行目	SK42～44	SK40・42・43
21	1行目	SK42は、・・・	SK40は、・・・
21	3行目	SK43は、・・・	SK42は、・・・
21	6行目	SK44は、・・・	SK43は、・・・
25	下から2行目	SK53は、・・・	SK50は、・・・
26	4行目	SB56は平安時代・・・	SK53は平安時代・・・
28	2行目	調査区東側で検出・・・	調査区南西側で検出・・・
28	第4 1 図	大坪2次SB53出土遺物	大坪2次SK53出土遺物
32	第4 5 図下	(写植) SB52	SB54
53	下から5行目	・・・ているが、図化できる遺物は確認できなかった。	・・・ている。(一部、文章を削除)
69	2行目	調査区南西端・・・	調査区南東端・・・
100	24行目	(第147図)	(第146図)
100	下から8行目	SB67 (第137・147図)	SB67 (第145・146図)
100	下から1行目	遺物は散在的に出土しており、	遺物は散在的に出土している。
105	7行目	別途状遺構	ベッド状遺構
105	下から1行目	147図に示したが、・・・	146図に示したが、・・・
107	下から1行目	155図 1 は・・・	159図 1 は・・・
109	5・6行目	篠原遺跡の土坑・ピット出土遺物	篠原遺跡の土坑・ピット出土遺物 (第160～165図)